
春日井市障がい者総合福祉計画
改定に係るアンケート調査
結果報告書

令和5年3月
春日井市

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	2
2.	調査の概要	2
3.	報告書の見方	4
II	調査結果	5
1.	障がいのある人とその家族について	6
2.	日常生活について	17
3.	障がい福祉サービスについて	38
4.	相談について	54
5.	保健・医療について	62
6.	余暇活動について	65
7.	仕事や働くこと等について	71
8.	生活環境について	78
9.	情報の入手手段について	83
10.	災害など緊急事態の対応について	88
11.	障がい者の人権について	100
12.	サポートブックの利用状況について	115
13.	障がい者施策について	120
14.	障がいのある人の家族について	126
15.	共生社会について	138
III	自由意見	147
1.	障がいのある人等及びその家族	148
2.	障がいのない人	162

I 調査概要

1. 調査の目的

障がい者総合福祉計画の改定にあたり、障がい者の日常生活、社会生活、障がい福祉サービスの利用状況及び今後の意向等について実態調査を行うとともに、障がいのない人に対して、障がい者への理解や意識等の調査を実施し、計画策定の基礎資料を得ることを目的とします。

2. 調査の概要

(1) 障がい者のくらし・社会参加に関するアンケート調査

■調査に関する事項（各調査共通）

区分	内容
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収 ※障がいのない人は、WEBによる回答を併用。
調査基準日	令和4年10月1日現在
調査期間	令和4年11月14日～令和4年11月28日

■対象者の抽出

(障がい者手帳所持者・福祉応援券受給者)

令和4年10月1日現在

種類	年齢			合計
	17歳以下	18～64歳	65歳以上	
身体障がい	159	2,435	6,947	9,541
知的障がい	802	1,675	99	2,576
精神障がい	156	2,556	675	3,387
難病患者	77	647	599	1,323
障がい福祉サービス利用者（手帳なし・児）	757	-	-	757
合計	1,951	7,313	8,320	17,584



対象者の抽出

(アンケート送付者)

区分	人数
身体障がい・介助者	700
知的障がい・介助者	450
精神障がい・介助者	450
障がい児	400
難病患者・介助者	300
小計（障がい）	2,300
障がいのない人	700
合計	3,000

■回収率

	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	家族	障がいのない人
配布数	700件	450件	450件	400件	300件	1,900件	700件
有効回収数	339件	208件	191件	222件	150件	888件	215件
紙面回答	339件	208件	191件	222件	150件	888件	146件
WEB回答							69件
有効回収率	48.4%	46.2%	42.4%	55.5%	50.0%	46.7%	30.7%

(2) 障がい福祉サービス利用者へのアンケート調査

■調査に関する事項（各調査共通）

区分	内容
調査票の配布・回収	郵送配布・郵送回収
調査基準日	令和4年6月27日現在
調査期間	令和4年8月8日～令和4年8月26日

■対象者の抽出

日中・居宅サービス利用者、グループホーム利用者、施設入所者に調査票を配布、回収して実施

■回収率

	日中・居宅サービス利用者	グループホーム利用者	施設入所者
配布数	600件	165件	114件
有効回収数	285件	101件	78件
有効回収率	47.5%	61.2%	68.4%

3. 報告書の見方

- 図表中の「n 数 (number of case)」は集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を示しています。
- グラフ中の「%」は、小数第2位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても合計が 100.0%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（いくつでも○をつけるものなど）は「n」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。
- 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外のクロス集計の表は、「その他」「不明・無回答」を除いて高い割合の第1位と第2位のものに網掛けをしています。（第1位：**濃い網掛けに白数字**、第2位：**薄い網掛けに黒数字**）
- 各設問の調査結果に、調査票の問番号を記載しています。表記は以下のとおりとなっています。

- 身体** …身体障がいのある人（18歳以上の身体障がい者手帳所持者）への調査
- 知的** …知的障がいのある人（18歳以上の療育手帳所持者）への調査
- 精神** …精神障がいのある人（18歳以上の精神障がい者保健福祉手帳所持者）への調査
- 児童** …障がいのある児童等（18歳未満の各手帳所持者、障がい福祉サービス利用者）への調査
- 難病** …難病患者（福祉応援券受給者）への調査
- 家族** …上記対象者の家族への調査（**児童**を除く）
- 一般** …上記以外の人への調査

- 居宅** …日中・居宅サービス利用者への調査
- グループホーム** …グループホーム利用者への調査
- 施設** …施設入所者への調査

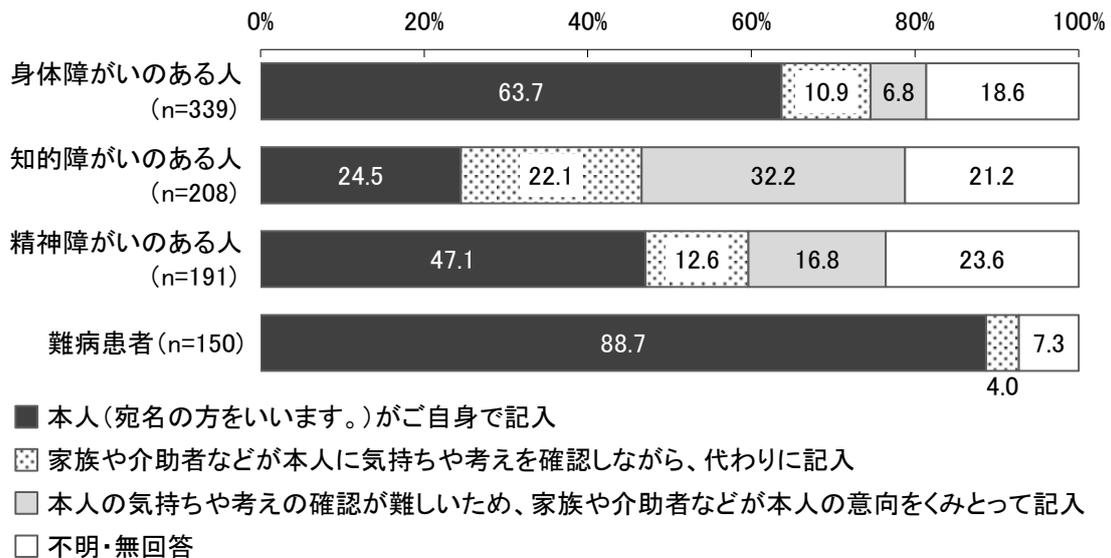
II 調査結果

1. 障がいのある人とその家族について

(1) この調査の記入方法について

身体問 1、知的問 1、精神問 1、難病問 1

知的障がいのある人で「本人の気持ちや考えの確認が難しいため、家族や介助者などが本人の意向をくみとって記入」が約3割となっています。

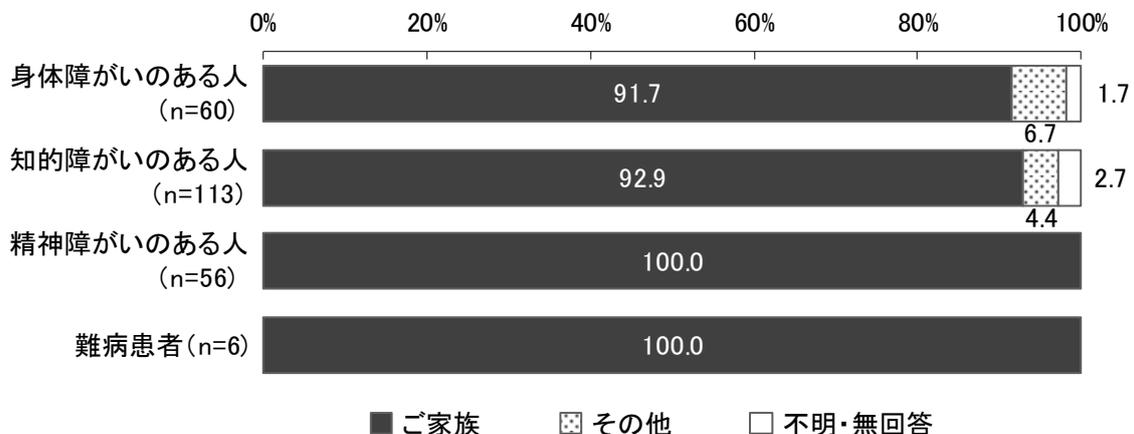


(2) 記入した方とご本人の関係にあてはまるものはどれですか。

※(1)で「家族や介助者などが本人に気持ちや考えを確認しながら、代わりに記入」「本人の気持ちや考えの確認が難しいため、家族や介助者などが本人の意向をくみとって記入」と答えた方に聞きました

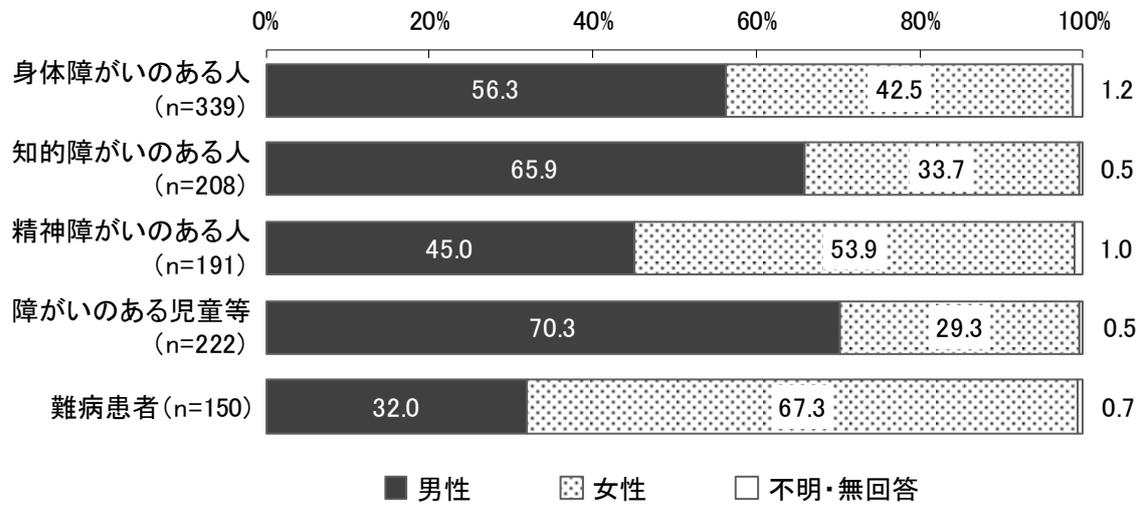
身体問 2、知的問 2、精神問 2、難病問 2

いずれの障がいのある人も「ご家族」がそれぞれ9割を超えています。



(3) 性別について

身体問3、知的問3、精神問3、児童問1、難病問3

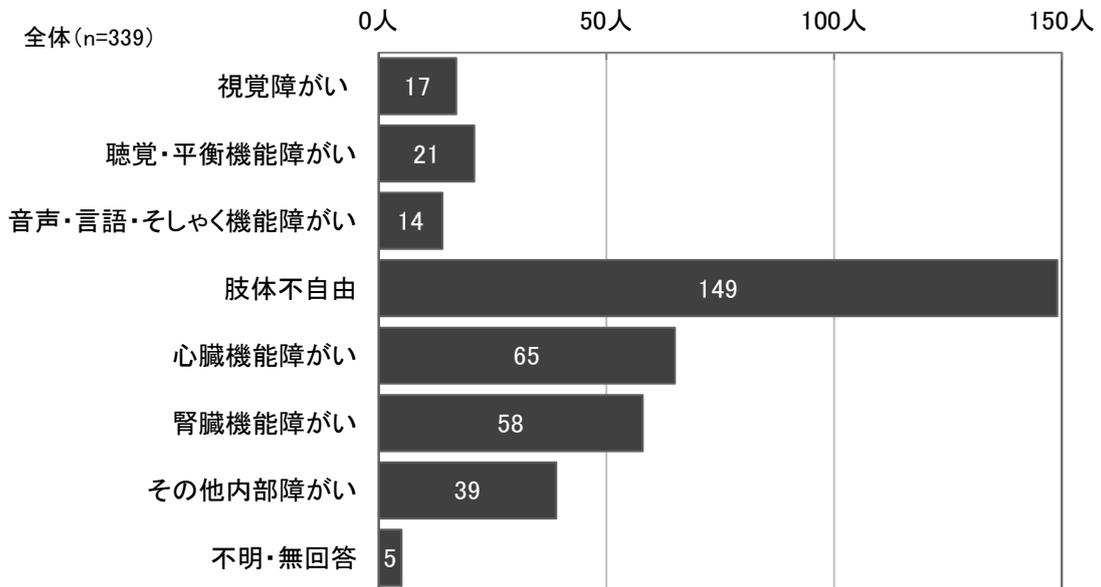


(4) 障がい者手帳の種別・等級について

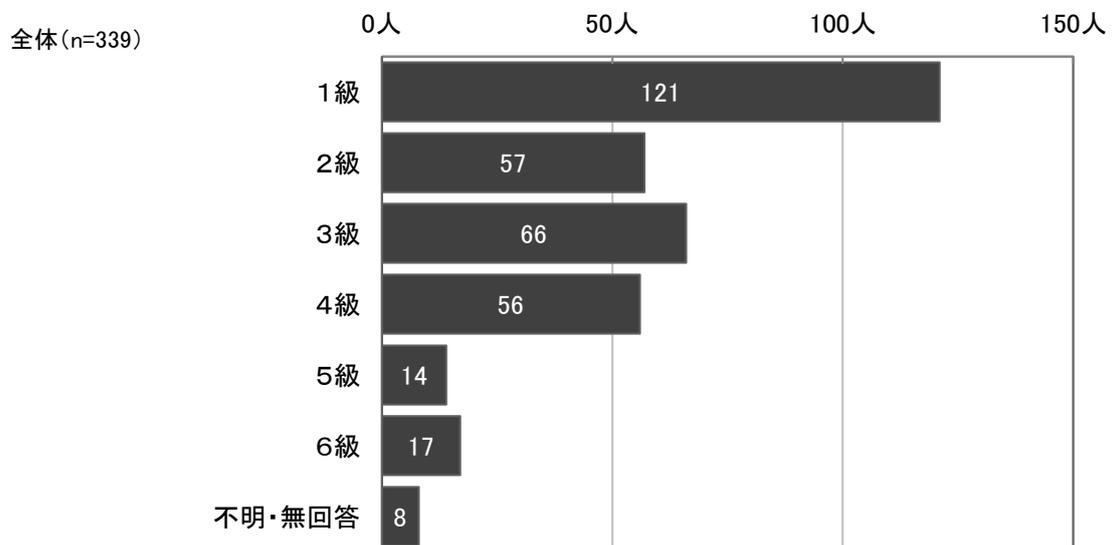
身体問5・6、知的問5、精神問5、児童問4・5・7・9

ア 身体障がいのある人の障がい種類・等級人数

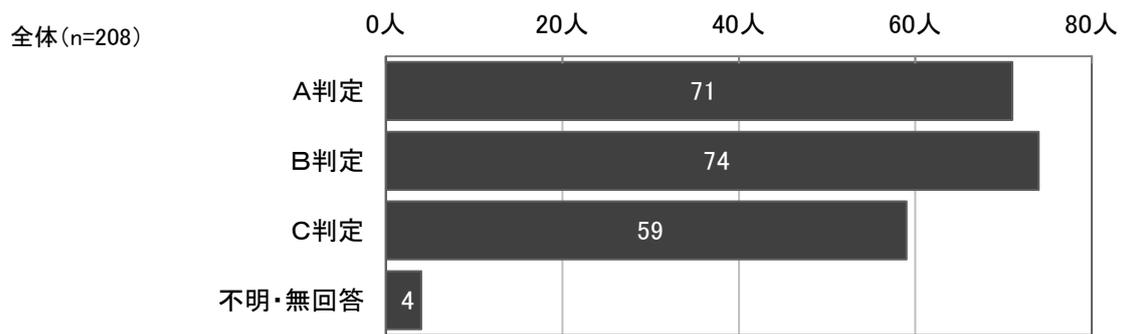
■障がい種類別人数



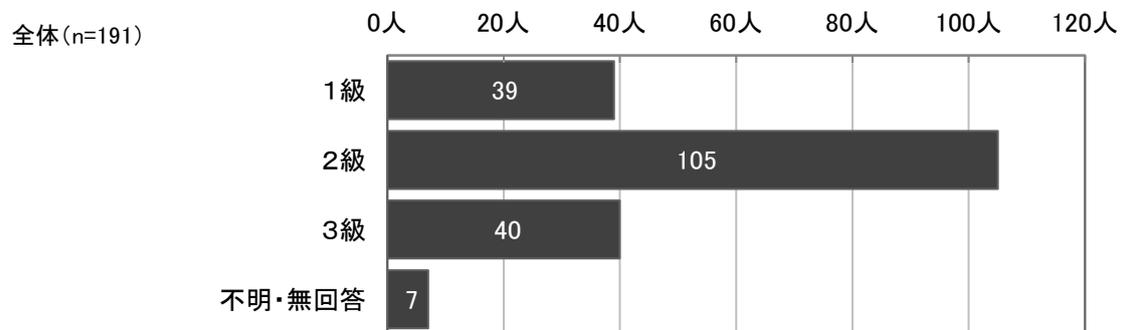
■等級別人数



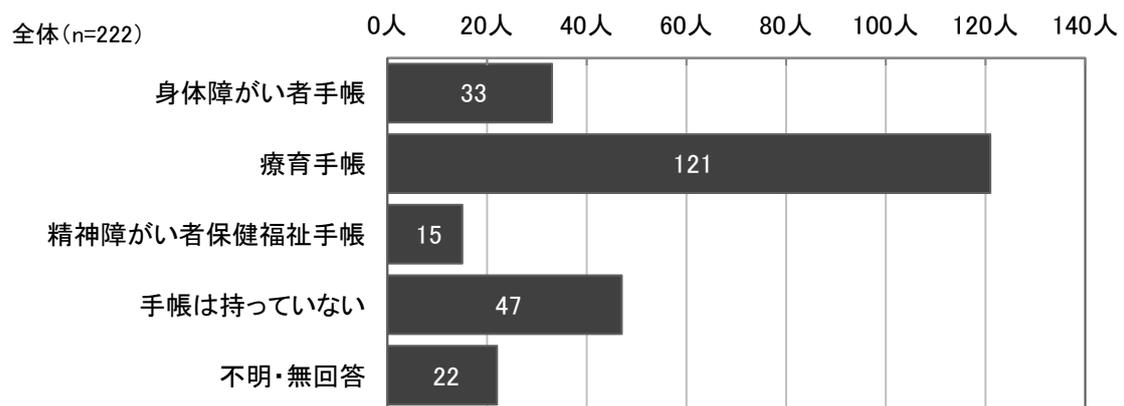
イ 知的障がいのある人の等級人数



ウ 精神障がいのある人の等級人数



エ 障がいのある児童等の手帳所持人数



※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者 12 名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者 1 名をそれぞれ含みます。

(5) 医療助成の対象となっている疾病は何ですか。(記述式回答)

難病問5

「潰瘍性大腸炎」が37件と最も多く、次いで「クローン病」「パーキンソン病」となっています。

n=148

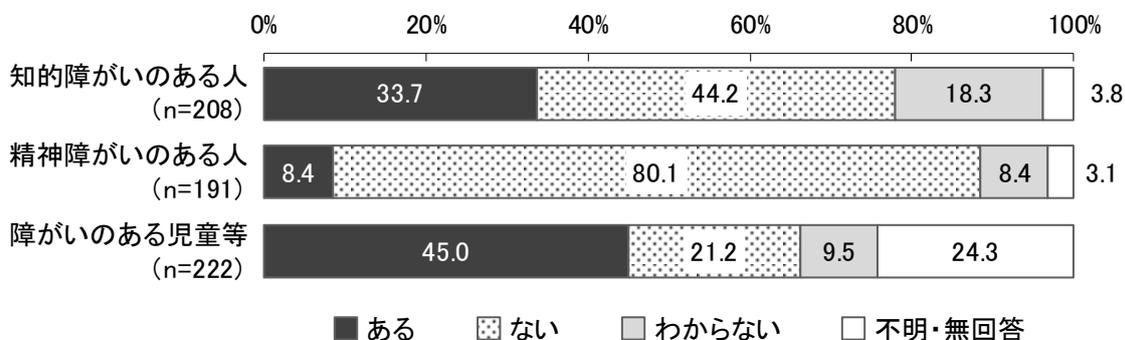
医療助成対象の疾病	件数	医療助成対象の疾病	件数
潰瘍性大腸炎	37	下垂体性 ADH 分泌異常症	1
クローン病	12	下垂体前葉機能低下症	1
パーキンソン病	10	間質性肺炎	1
全身性エリテマトーデス(SLE)	8	黄色後縦靭帯骨化症	1
重症筋無力症	5	強直性脊椎炎	1
多発性硬化症	5	胸椎黄色靭帯骨化症	1
後縦靭帯骨化症	3	強皮症	1
IgA 腎症	3	血小板減少性紫斑症	1
サルコイドーシス	3	血友病	1
ベーチェット病	3	高安動脈炎	1
ネフローゼ症候群	3	高原病	1
多発性嚢胞腎	3	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1
網膜色素変性症	3	混合性結合組織症	1
下垂体機能低下症	2	自己免疫性肝炎	1
下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	2	スチル病	1
オスラー病	2	成人スチル病	1
再生不良性貧血	2	脊髄サルコイドーシス	1
顕微鏡的多発血管炎	2	脊髄小脳変性症	1
シェーグレン症候群	2	先天性甲状腺機能低下症	1
突発性間質性肺炎	2	躁うつ病、うつ病	1
皮膚筋炎	2	多発性筋炎	1
SBMA	1	多発性硬化症、視神経脊髄炎	1
SLE、IgG4	1	特発性間質性肺炎、顕微鏡的多発血管炎	1
悪性リウマチ	1	特発性血小板減少性紫斑病	1
一次性ネフローゼ症候群	1	膿疱性乾癬	1
魚友病	1	膜性腎症、限局性強皮症	1
うつ病(膠原病からのパニック症によるもの)	1	横縦靭帯骨化症	1
下垂体腫瘍	1		

※病名は回答者の記載のとおり表記しています。

(6) これまで発達障がいとして診断されたことはありますか。

知的問 8、精神問 8、児童問 11

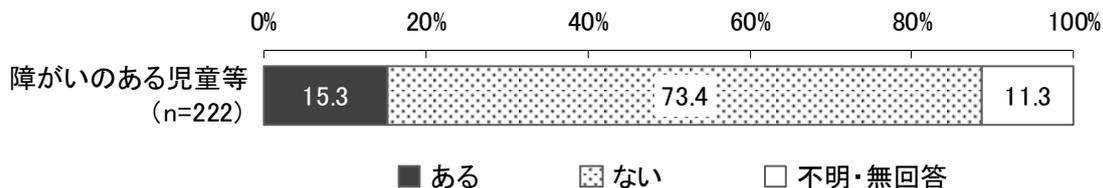
発達障がいとして診断されたことが「ある」は、知的障がいのある人で約3割、精神障がいのある人で約1割、障がいのある児童等で約5割となっています。



(7) お子さんには、強度行動障がいがありますか。

児童問 12

障がいのある児童等全体で、強度行動障がい「ある」は約2割となっています。



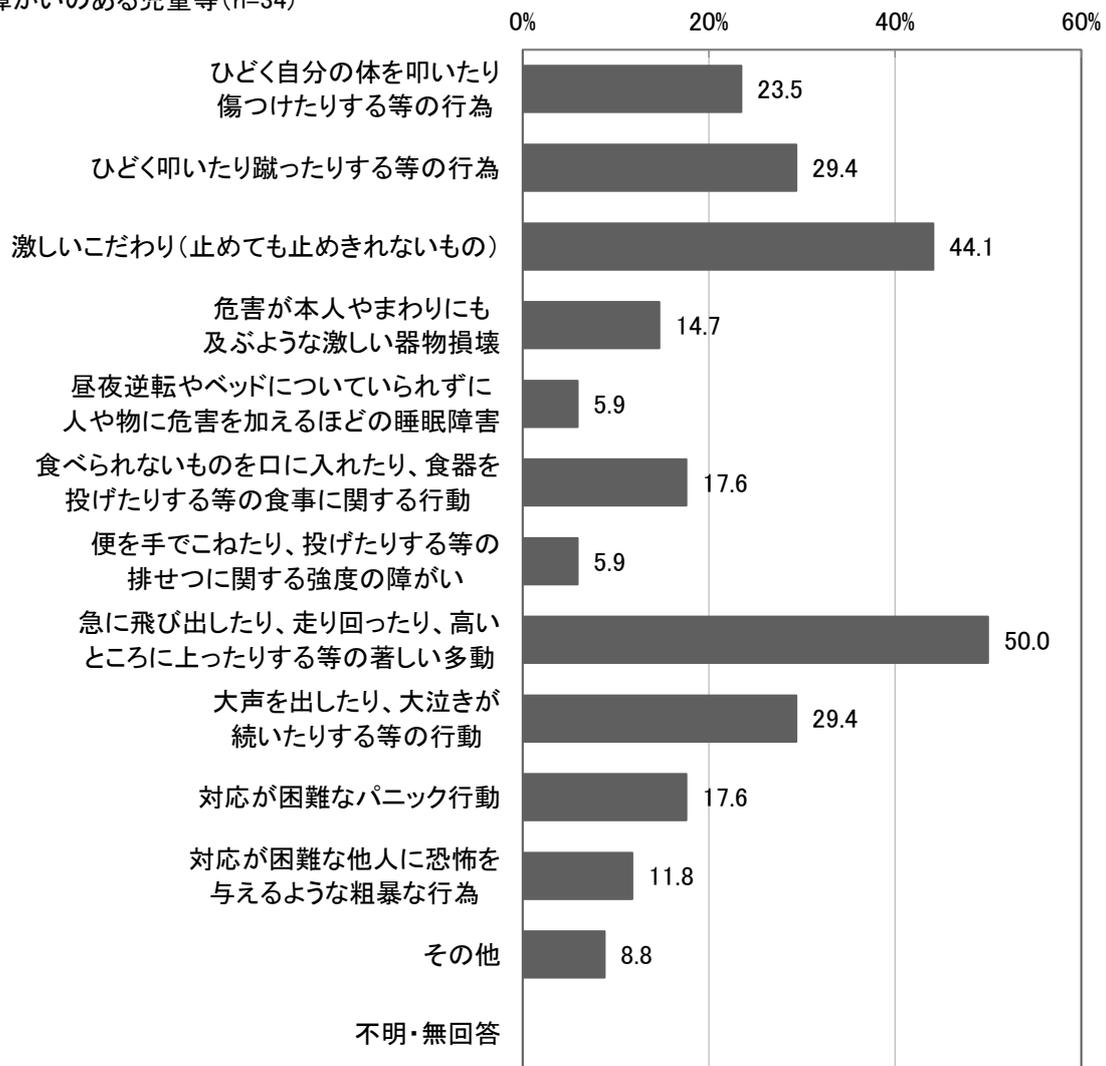
(8) お子さんに見受けられる強度行動障がいは何ですか。(複数回答)

※(7)で「ある」と答えた方に聞きました

児童問 13

「急に飛び出したり、走り回ったり、高いところに上ったりする等の著しい多動」が5割と最も高く、次いで「激しいこだわり(止めても止めきれないもの)」となっています。

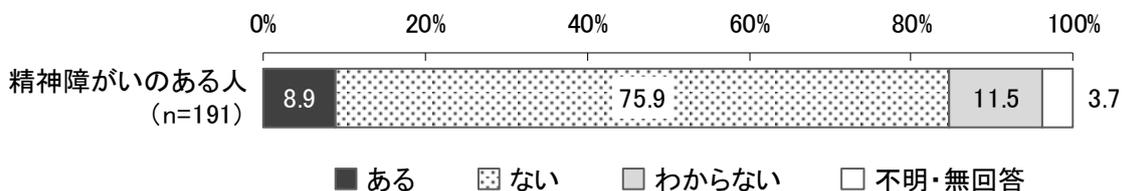
障がいのある児童等(n=34)



(9) これまで高次脳機能障がいとして診断されたことはありますか。

精神問 9

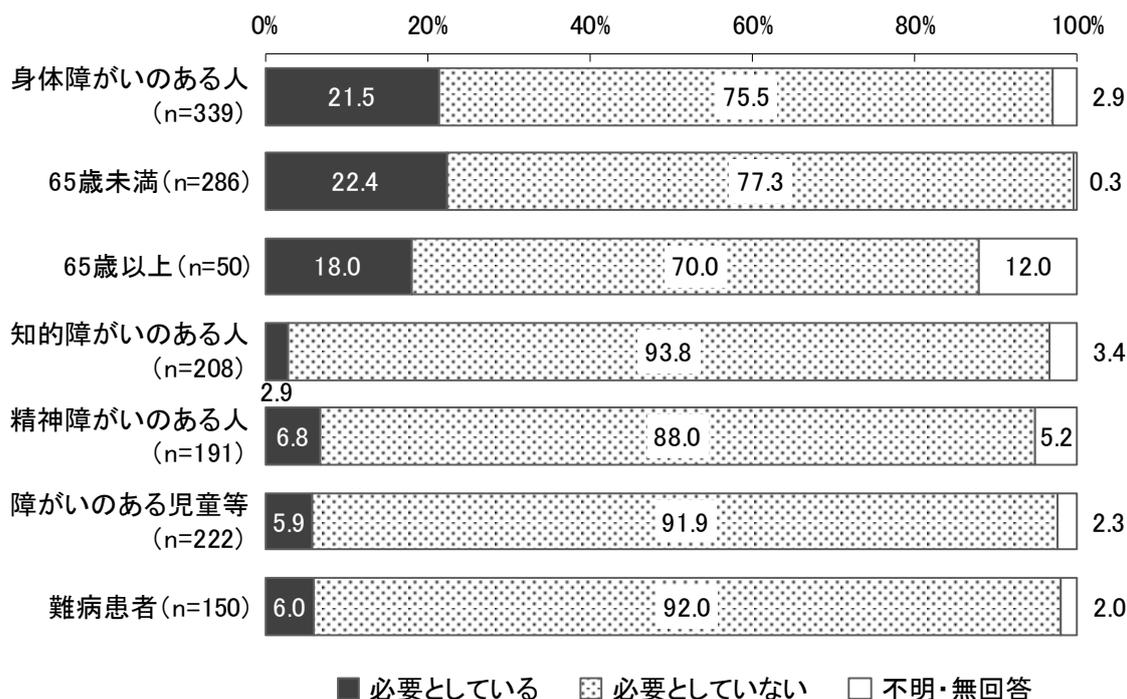
精神障がいのある人全体で、高次脳機能障がい「ある」は約1割となっています。



(10) あなた(お子さん)は、現在、医療的ケアを必要としていますか。

身体問 10、知的問 10、精神問 11、児童問 14、難病問 6

医療的ケアを「必要としている」は、身体障がいのある人全体で約2割となっています。



(11) あなた(お子さん)が現在必要としている医療的ケアは何ですか。(複数回答)

※(10)で「必要としている」と答えた方に聞きました

身体問 11、知的問 11、精神問 12、児童問 15、難病問 7

身体障がいのある人全体で「透析」が約4割で、特に65歳未満の方で高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	鼻腔、 たん吸引(口腔、 ニユーレ)	たん吸引(気管カ ニユーレ)	経管栄養(経鼻、 胃ろう、腸ろう)	中心静脈栄養	導尿	在宅酸素療法(在 酸素補充療法)	イ 経鼻咽頭エアウエ	気管切開部の管理	人工呼吸器の使 用、管理
身体障がいのある人	73	12.3	5.5	15.1	-	8.2	4.1	1.4	5.5	12.3
65歳未満	64	14.1	6.3	17.2	-	7.8	4.7	1.6	6.3	10.9
65歳以上	9	-	-	-	-	11.1	-	-	-	22.2
知的障がいのある人	6	50.0	-	16.7	-	16.7	50.0	16.7	-	16.7
精神障がいのある人	13	15.4	7.7	23.1	15.4	7.7	-	-	-	-
障がいのある児童等	13	69.2	38.5	76.9	-	23.1	38.5	-	38.5	46.2
難病患者	9	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1

区分	n=	インスリン注射	透析	ストマ管理(人工 肛門、人工膀胱)	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	73	16.4	35.6	11.0	12.3	6.8
65歳未満	64	17.2	37.5	12.5	9.4	7.8
65歳以上	9	11.1	22.2	-	33.3	-
知的障がいのある人	6	33.3	-	16.7	-	-
精神障がいのある人	13	-	-	-	38.5	15.4
障がいのある児童等	13	-	-	-	7.7	-
難病患者	9	22.2	-	-	22.2	44.4

(12) 日常生活を送るうえで、困っていることや不安に思っていることはありますか。(複数回答)

※ (10) で「必要としている」と答えた方に聞きました

身体問 12、知的問 12、精神問 13、児童問 16、難病問 8

難病患者を除いたいずれの障がいがある人・児童等も、「避難所での生活が不安」「災害が起きた時に避難できるか不安」が上位となっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人		知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	
	65歳未満	65歳以上					
n=	73	64	9	6	13	13	9
1位	避難所での生活が不安 (45.2)	避難所での生活が不安 (46.9)	避難所での生活が不安 介護者の負担が大きい (各 33.3)	介護者が不在になった場合に対応ができない 介護者が、私以外の家族の世話を十分にできない	災害が起きた時に避難できるか不安 (46.2)	災害が起きた時に避難できるか不安 避難所での生活が不安 (各 76.9)	困っていることや不安に思っていることはない (44.4)
2位	災害が起きた時に避難できるか不安 (42.5)	災害が起きた時に避難できるか不安 (45.3)	災害が起きた時に避難できるか不安	自由に外出できない	避難所での生活が不安 (38.5)	自由に外出できない (69.2)	避難所での生活が不安 (33.3)
3位	介護者の負担が大きい (26.0)	必要な情報が不足している (26.6)	困っていることや不安に思っていることはない (各 22.2)	災害が起きた時に避難できない 避難所での生活が不安 (各 33.3)	介護者が不在になった場合に対応ができない 自由に外出できない (各 30.8)	介護者の負担が大きい (61.5)	利用できるサービスの量(支給量)が少ない 他3項目 (各 11.1)
4位	必要な情報が不足している 介護者が不在になった場合に対応ができない (各 23.3)	介護者の負担が大きい 介護者が不在になった場合に対応ができない (各 25.0)			必要な情報が不足している その他 (各 23.1)	介護者が不在になった場合に対応ができない (53.8)	
5位	自由に外出できない (20.5)	自由に外出できない (21.9)			介護者の負担が大きい 他5項目 (各 15.4)	介護者の就労が制限される (46.2)	

(13) 障がい福祉サービスの障がい支援区分の認定を受けていますか。

身体問9、知的問9、精神問10

知的障がいのある人の約4割の人が、身体障がいのある人及び精神障がいのある人のそれぞれ約1割が、区分認定を受けています。

(単位：%)

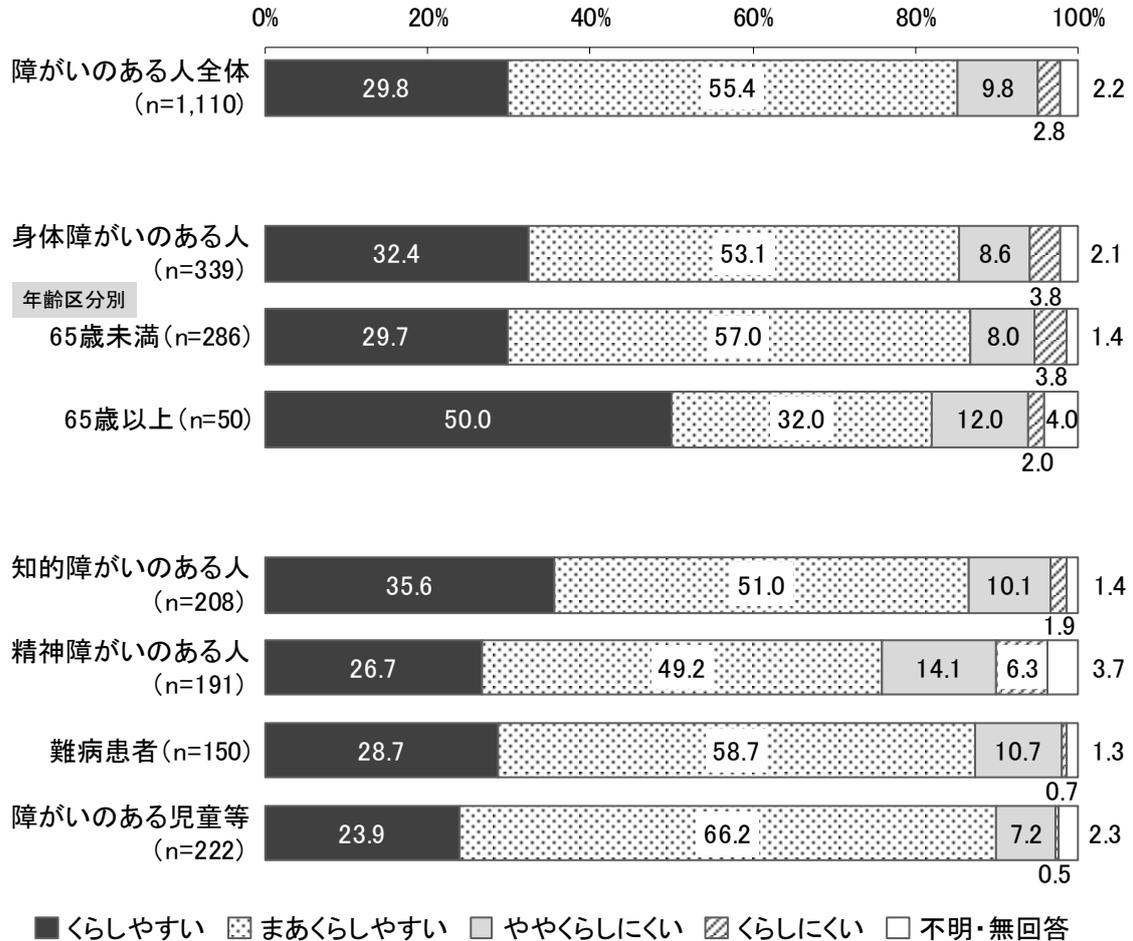
区分	n=	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	わからない	不明・無回答
身体障がいのある人	339	0.6	0.6	1.2	0.3	1.2	3.2	47.5	38.9	6.5
知的障がいのある人	208	0.5	9.1	5.8	7.7	6.7	10.1	29.8	26.0	4.3
精神障がいのある人	191	-	3.1	2.6	-	-	0.5	38.7	46.1	8.9

2. 日常生活について

(14) 春日井市をくらしやすいまちだと思いますか。

身体問 13、知的問 13、精神問 14、児童問 17、難病問 9

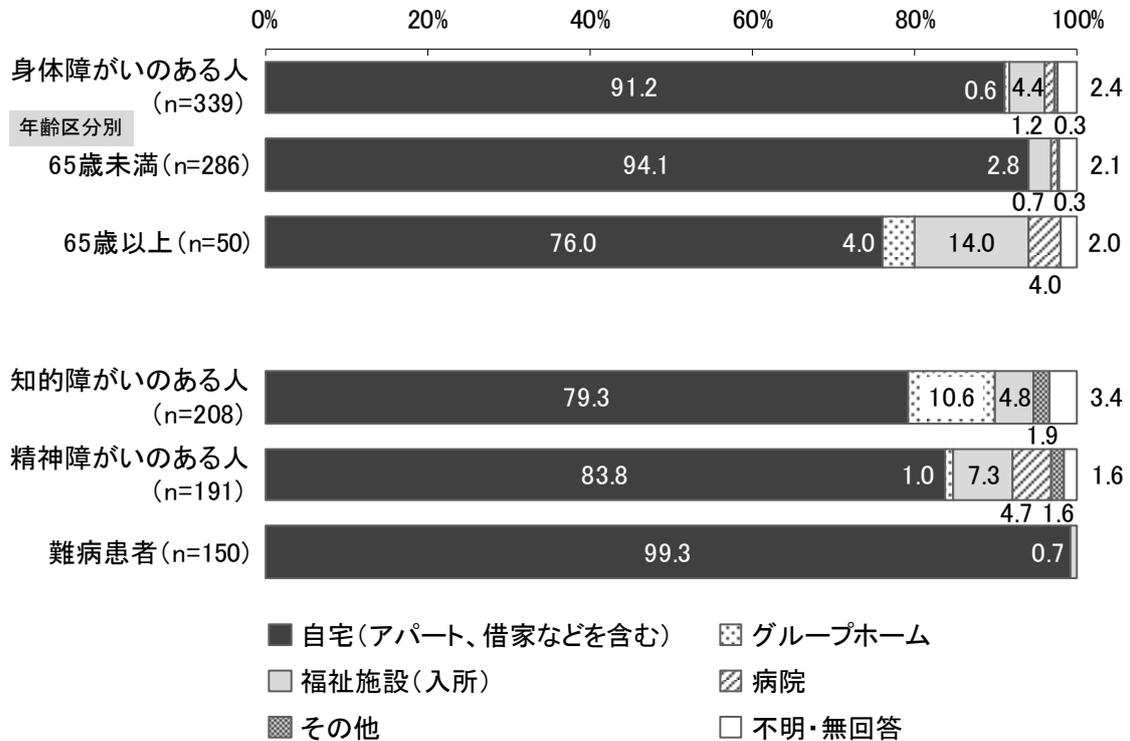
障がいのある人全体で「くらしやすい」「まあくらしやすい」の合計が8割を超えています。



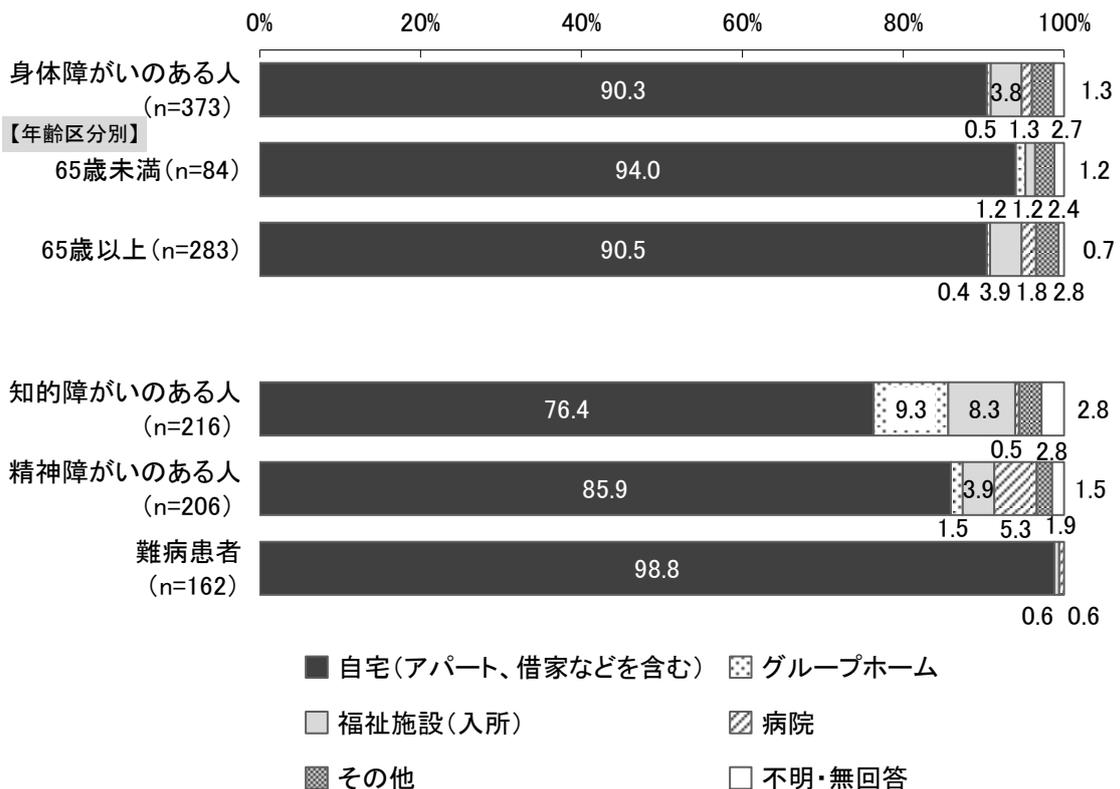
(15) 今、どこでくらしていますか。

身体問 14、知的問 14、精神問 15、難病問 10

障がいのある人全体で「自宅（アパート、借家などを含む）」が約9割と最も高くなっています。なお、知的障がいのある人で「グループホーム」、精神障がいのある人で「福祉施設（入所）」が、他の障がい等に比べて高くなっています。



参考：令和元年度調査結果

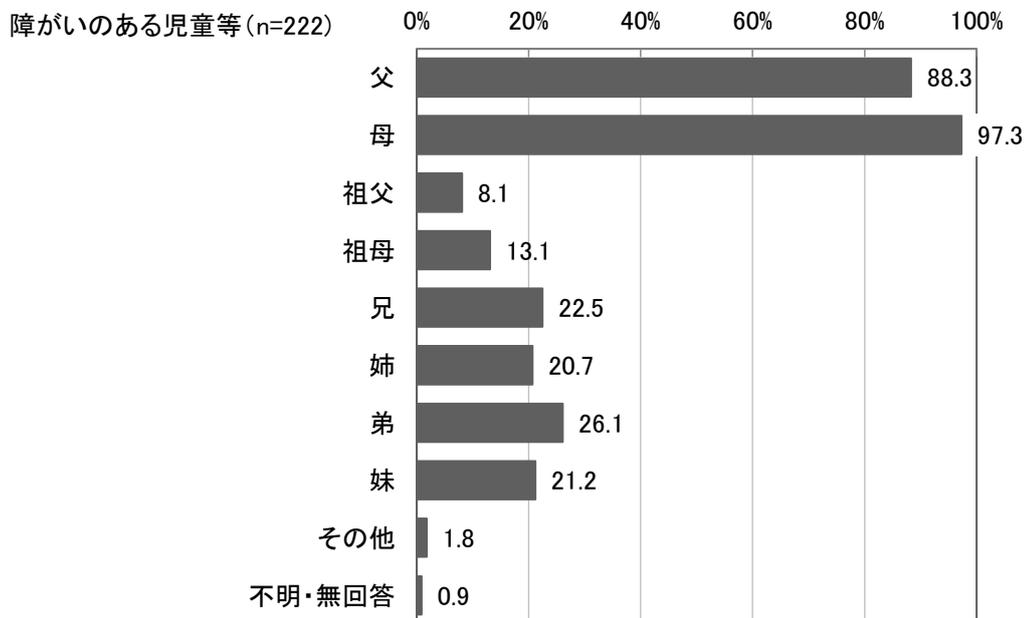
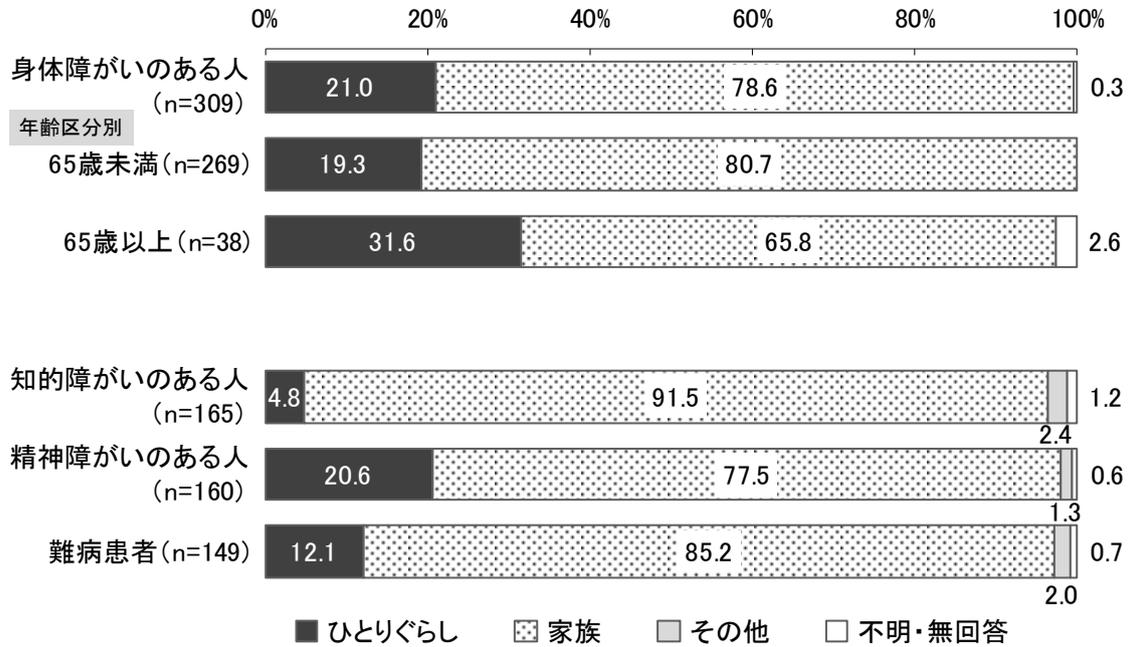


(16) 今、だれと一緒にくらしていますか。(障がいのある児童等のみ複数回答)

※ (15) で「自宅（アパート、借家などを含む）」と答えた方に聞きました

身体問 15、知的問 15、精神問 16、児童問 18、難病問 11

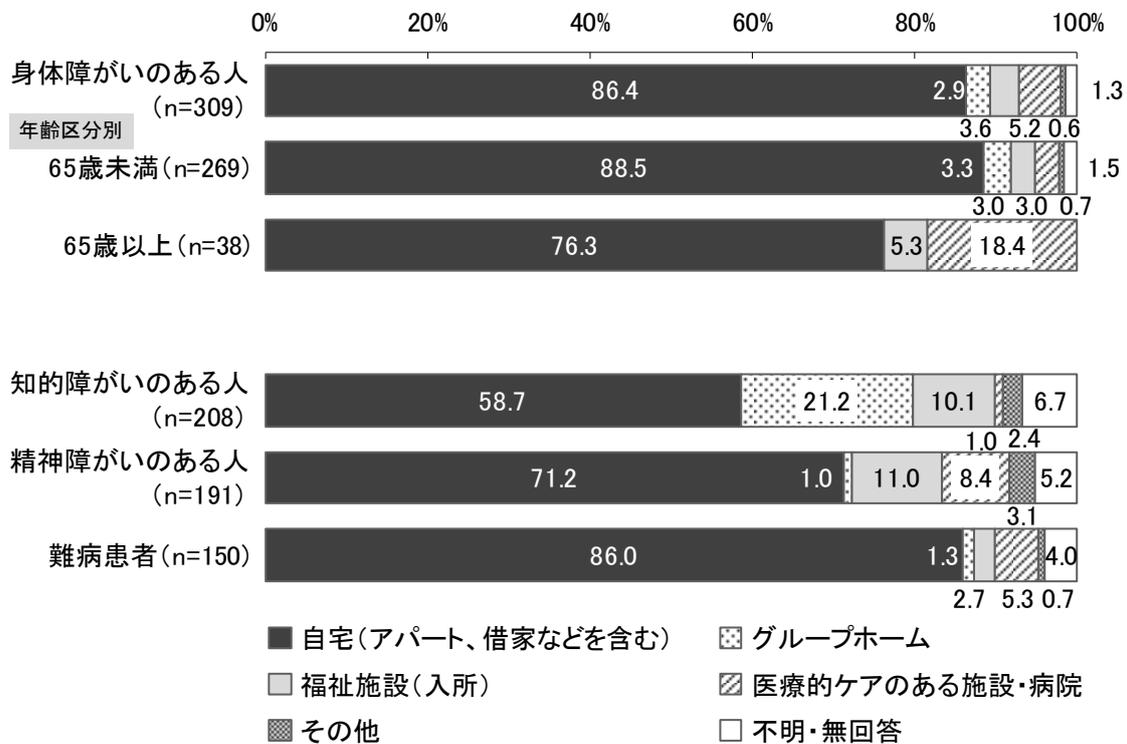
障がいのある人全体で、「家族」が約8割と最も高く、「ひとりぐらし」は約2割となっています。



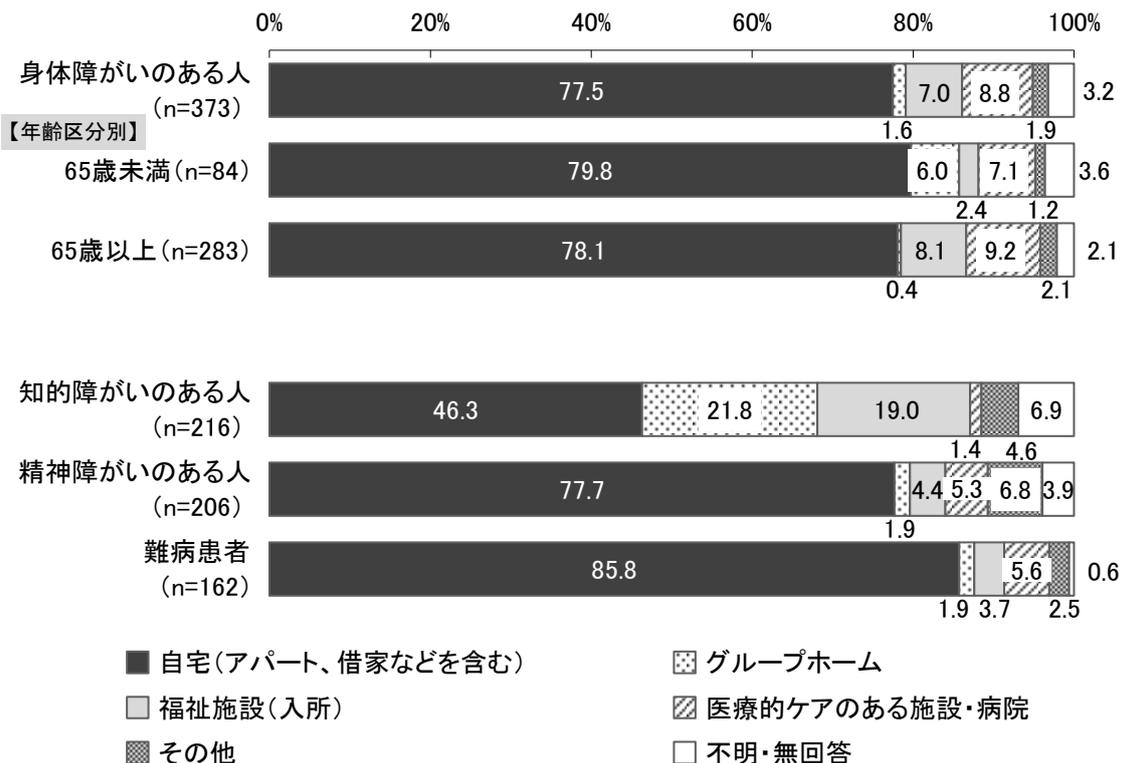
(17) 将来どこで暮らしたいですか。

身体問 16、知的問 16、精神問 17、難病問 12

障がいのある人全体で、「自宅（アパート、借家などを含む）」が最も高くなっています。なお、知的障がいのある人で「グループホーム」が約2割、精神障がいのある人で「医療的ケアのある施設・病院」が約1割と、他の障がい等に比べて高くなっています。



参考：令和元年度調査結果

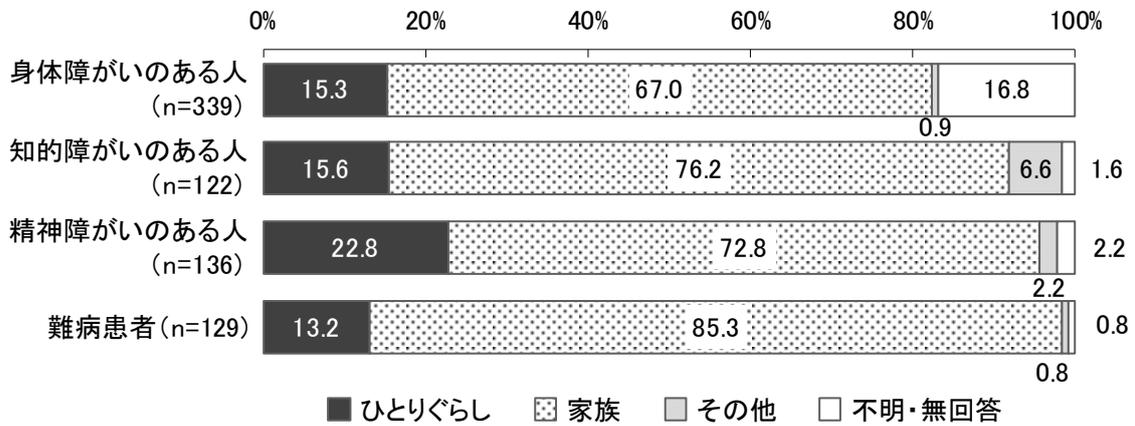


(18) 将来だれと一緒に住みたいですか。

※ (17) で「自宅（アパート、借家などを含む）」と答えた方に聞きました

身体問 17、知的問 17、精神問 18、難病問 13

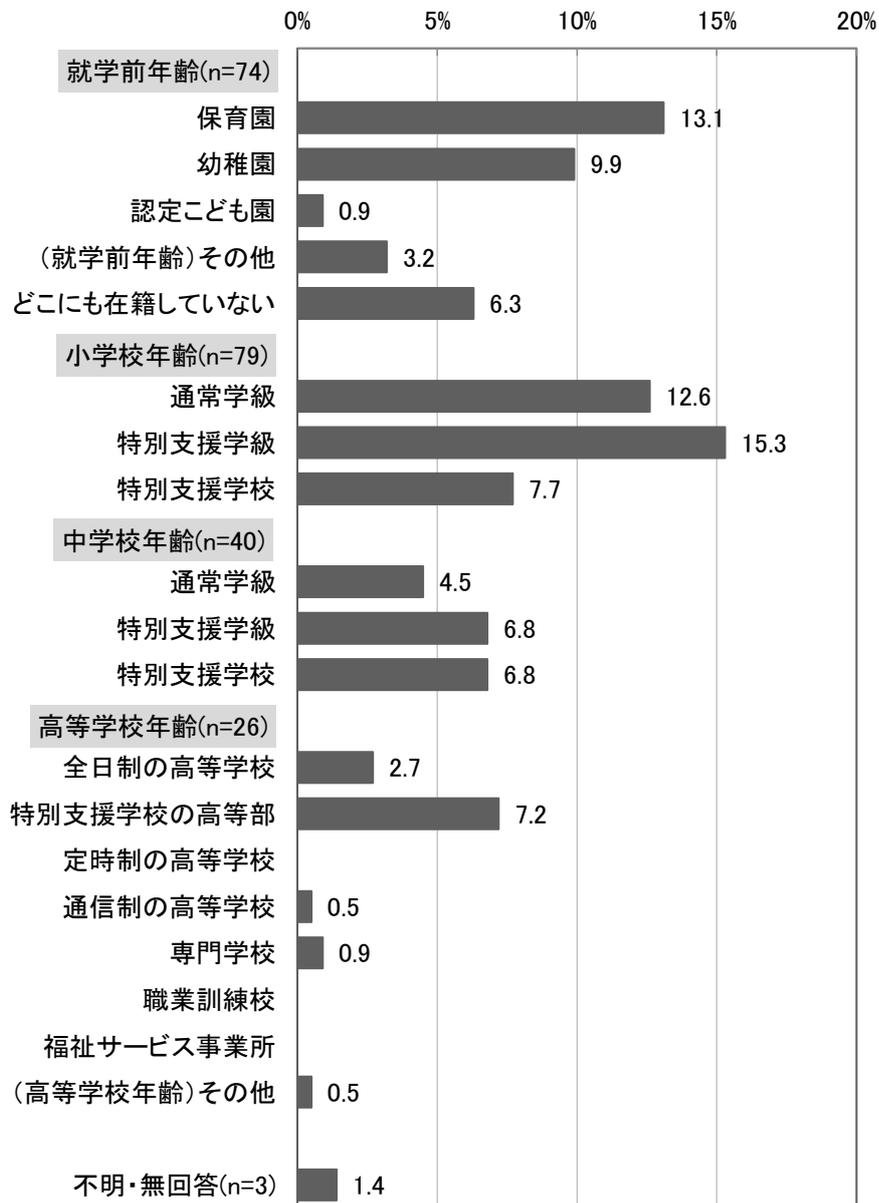
障がい等のある人は、いずれも「家族」がそれぞれ最も高くなっています。なお、精神障がいのある人は「ひとりぐらし」が約2割と、他の障がい等に比べて高くなっています。



(19) 次のうち、現在はどこに在籍していますか。

就学前年齢で「保育園」、小学校年齢で「特別支援学級」、中学校年齢で「特別支援学級」「特別支援学校」、高等学校年齢で「特別支援学校の高等部」が、それぞれ最も高くなっています。

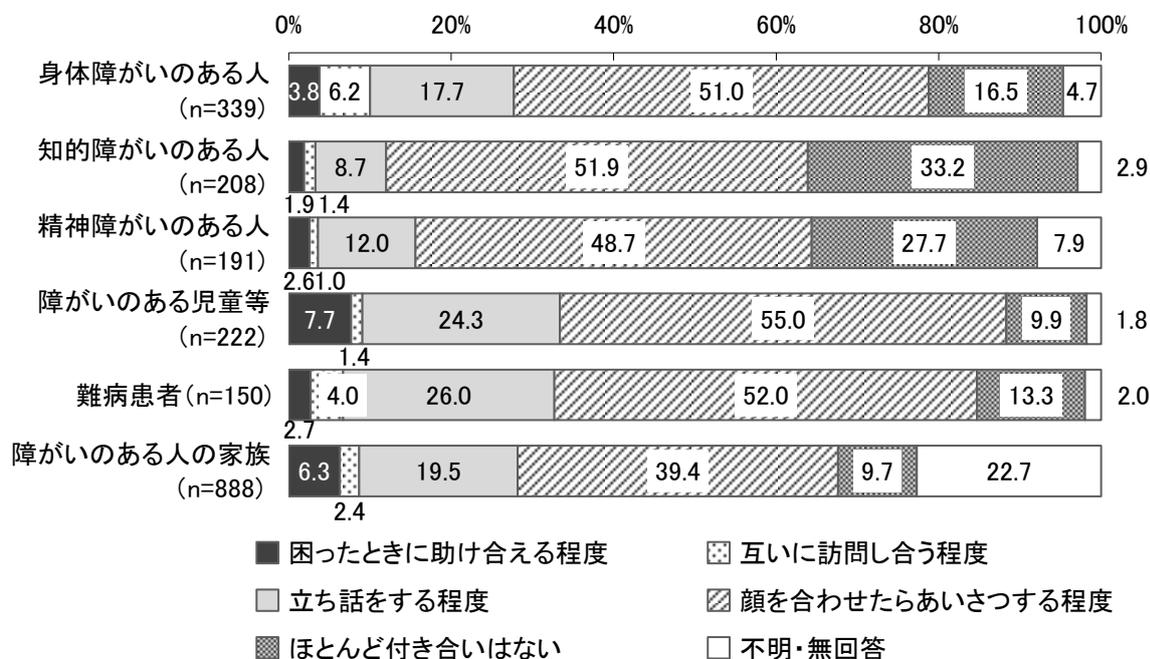
障がいのある児童等 (n=222)



(20) あなたは、ご近所の方とはどのようなお付き合いをされていますか。

身体問 18、知的問 18、精神問 19、児童問 20、難病問 14、家族問 11

障がい等のある人は、いずれも「顔を合わせたらあいさつする程度」がそれぞれ5割前後と最も高くなっています。なお、知的障がいのある人及び精神障がいのある人で「ほとんど付き合いはない」がそれぞれ3割前後と、他の障がい等に比べて高くなっています。



■主な「困ったときに助け合える程度」の内容

	「困った時に助け合える程度」の具体的な内容
身体障がいのある人	心配事や不安の相談。体調の悪い時、救急車を呼んでもらう。 急の場合、病院に連れて行ってもらう。食事を作ってもらう。買い物に行ってもらう。
知的障がいのある人	施設へ送ってもらえる。話を聞いてもらえる。
精神障がいのある人	移動に車を出してくれる。
難病患者	急にパニック症が出た時、ゴミを捨ててもらった。買い物を頼める。 いつでも行き来ができる。

(21) あなたがコロナ禍で困ったことは何ですか。(複数回答)

身体問 19、知的問 19、精神問 20、児童問 21、難病問 15

障がい等のある人及び障がいのある児童等すべてで、「感染予防・対策が負担だった（マスクの着用や消毒等）」が、最も高くなっています。なお、障がいのある児童等及び難病患者で「医療機関の受診ができなかった・できにくかった」がそれぞれ約2割、障がいのある児童等で「サービス利用ができなかった・できにくかった」が約3割と、他の障がい等に比べて高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	感染予防・対策が負担だった(マスクの着用や消毒等)	医療機関の受診ができなかった・できにくかった	外出を自粛したため、ストレスがたまった	体力が低下するなど、健康維持ができにくかった	収入が減った	サービス利用ができなかった・できにくかった	人との交流が減り、気持ちが落ち込んだ	困りごとの相談ができなかった	その他	特に困ったことはなかった	不明・無回答
身体障がいのある人	339	40.7	16.8	33.6	20.6	9.4	5.3	25.4	4.7	3.8	25.4	2.7
65歳未満	286	42.3	17.1	36.7	21.7	10.5	4.9	25.9	4.5	4.5	24.8	1.4
65歳以上	50	30.0	16.0	16.0	16.0	2.0	8.0	24.0	4.0	-	30.0	8.0
知的障がいのある人	208	46.6	12.5	44.7	10.1	8.7	16.8	15.9	4.3	4.8	21.6	3.4
精神障がいのある人	191	39.3	13.6	25.7	23.0	5.8	7.3	22.5	8.4	8.4	26.7	4.7
障がいのある児童等	222	53.2	24.3	47.7	21.6	22.1	33.8	15.3	6.8	10.4	8.1	1.8
難病患者	150	47.3	24.7	42.7	18.7	18.7	4.0	23.3	2.7	2.7	12.0	2.0

(22) 現在、生活をしていく上で支援がなくて困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

身体問 20、知的問 20、精神問 21、難病問 16

「特にない」を除き、いずれの障がい等がある人も「急に体調が悪くなったときの対応」が上位となっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	65歳未満	65歳以上				
n=	339	286	50	208	191	150
1位	特にない (53.7)	特にない (55.6)	特にない (44.0)	特にない (47.1)	特にない (41.4)	特にない (65.3)
2位	急に体調が悪くなったときの対応 (18.0)	急に体調が悪くなったときの対応 (17.8)	入浴 (20.0)	急に体調が悪くなったときの対応 (16.8)	急に体調が悪くなったときの対応 (20.4)	急に体調が悪くなったときの対応 (14.7)
3位	電車・バスなど交通機関の利用 (12.4)	電車・バスなど交通機関の利用 (12.2)	急に体調が悪くなったときの対応 (18.0)	銀行や郵便局・市役所の利用 (16.3)	話し相手・相談する相手 (17.3)	電車・バスなど交通機関の利用 (7.3)
4位	入浴 (9.7)	買い物 (8.4)	食事の準備や調理 衣類の洗濯 (各 16.0)	現金や預金通帳などの管理 (15.4)	食事の準備や調理 (14.7)	部屋の掃除・整理整頓 買い物 (各 6.7)
5位	買い物 (9.4)	入浴 (7.7)	電車・バスなど交通機関の利用 (14.0)	電車・バスなど交通機関の利用 話し相手・相談する相手 (各 13.9)	買い物 (12.6)	話し相手・相談する相手 (5.3)

(単位：%)

区分	身体障がいのある人		知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者	
	65歳未満	65歳以上				
n=	373	84	283	216	206	162
1位	特にな (54.2)	特にな (64.3)	特にな (51.9)	特にな (41.7)	特にな (36.9)	特にな (58.0)
2位	急に体調が悪くなったときの対応 (17.4)	急に体調が悪くなったときの対応 (17.9)	急に体調が悪くなったときの対応 (17.3)	銀行や郵便局・役所の利用 (23.6)	部屋の掃除・整理整頓 (24.8)	電車・バスなど交通機関の利用 (16.0)
3位	電車・バスなど交通機関の利用 (16.1)	電車・バスなど交通機関の利用 (11.9)	電車・バスなど交通機関の利用 (17.3)	現金や預金通帳などの管理 (20.8)	急に体調が悪くなったときの対応 (23.8)	急に体調が悪くなったときの対応 (11.7)
4位	買い物 (13.4)	買い物 銀行や郵便局・役所の利用 (各 8.3)	買い物 (15.2)	急に体調が悪くなったときの対応 (20.8)	話し相手・相談する相手 (17.5)	部屋の掃除・整理整頓 買い物 日常の健康管理
5位	銀行や郵便局・役所の利用 (11.8)		銀行や郵便局・役所の利用 (12.4)	部屋の掃除・整理整頓 (17.1)	電車・バスなど交通機関の利用 (17.0)	銀行や郵便局・役所の利用 (各 6.2)

(23) 日常の生活費はどうしていますか。(複数回答)

身体問 21、知的問 21、精神問 22、難病問 17

身体障がいのある人及び知的障害のある人は「賃金・給料など」「年金」が、精神障がいのある人は「年金」「家族の収入」が、難病患者は「賃金・給料など」「家族の収入」が、それぞれ上位となっています。

(単位：%)

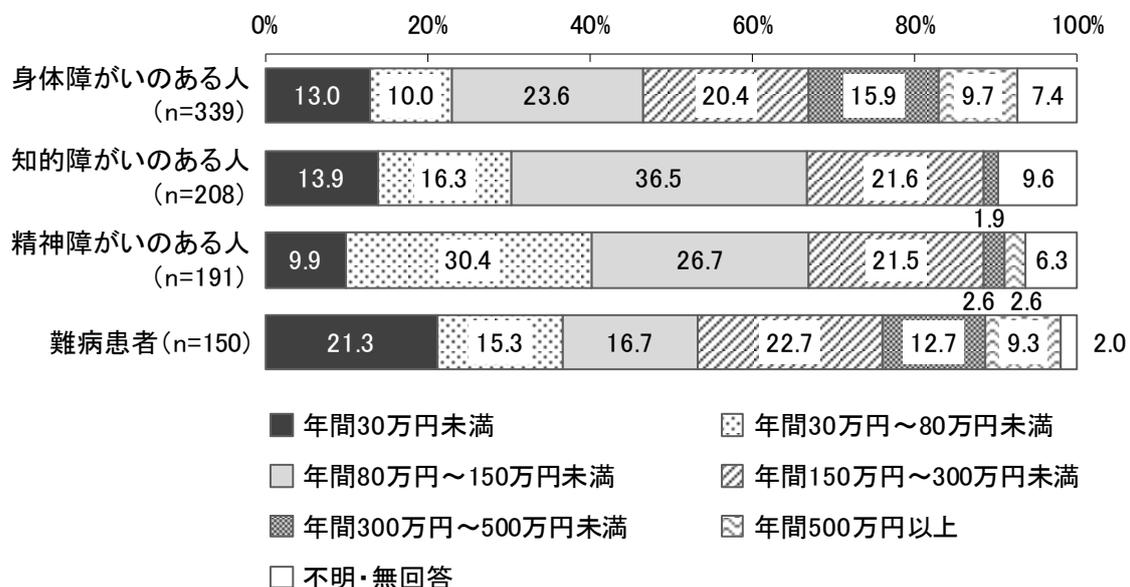
区分	n=	賃金・給料など	年金	家族の収入	預金	生活保護費	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	339	40.1	49.6	34.2	25.7	3.2	1.5	0.9
65歳未満	286	46.5	43.0	38.1	23.1	3.5	1.4	0.3
65歳以上	50	2.0	90.0	14.0	42.0	-	2.0	2.0
知的障がいのある人	208	51.0	50.5	39.9	8.2	2.9	3.4	2.4
精神障がいのある人	191	16.2	79.6	34.0	22.5	6.8	7.9	1.0
難病患者	150	50.7	26.0	44.0	14.7	-	0.7	0.7

(24) 今のあなたの収入※(税込みの総収入)は、1年にどのくらいありますか。

※収入には工賃・年金を含みます

身体問 22、知的問 22、精神問 23、難病問 18

精神障がいのある人及び難病患者で『年間80万円未満』(「年間30万円未満」「年間30万円～80万円未満」の合計)がそれぞれ4割前後と他の障がい等に比べて高くなっています。

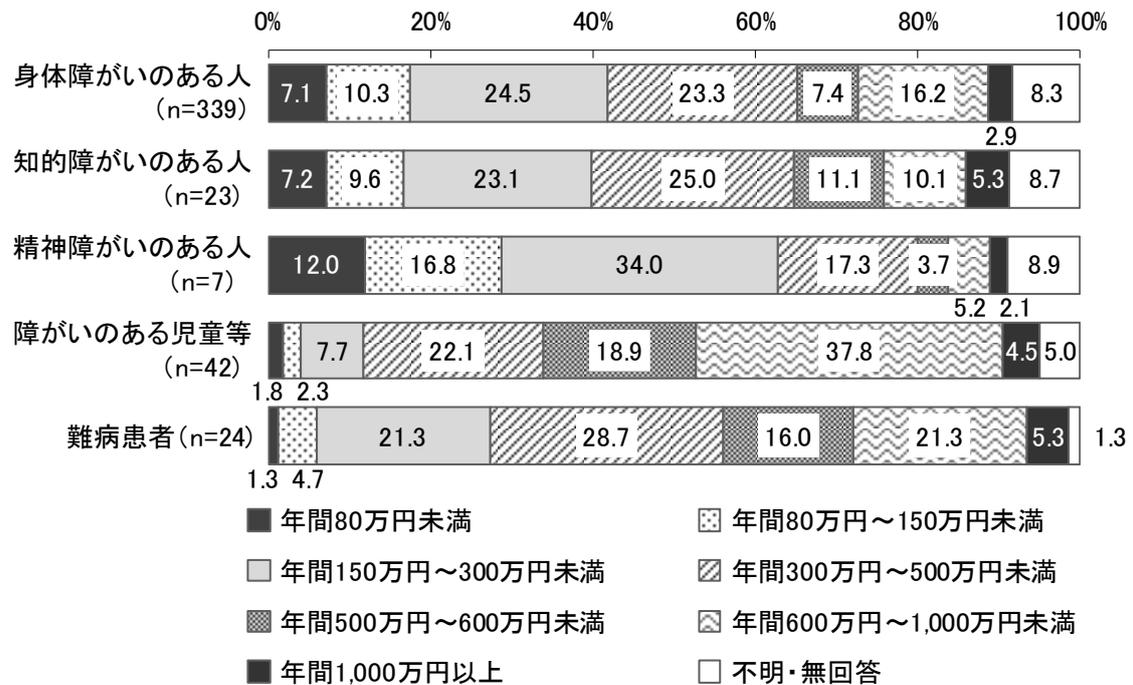


(25) 今のあなたの世帯収入*(税込みの総収入)は、1年にどのくらいありますか。なお、世帯には、食費や光熱水費、家賃などの生活費をともにしている人を含めてください。

※収入には工賃・年金を含みます

身体問 23、知的問 23、精神問 24、児童問 22、難病問 19

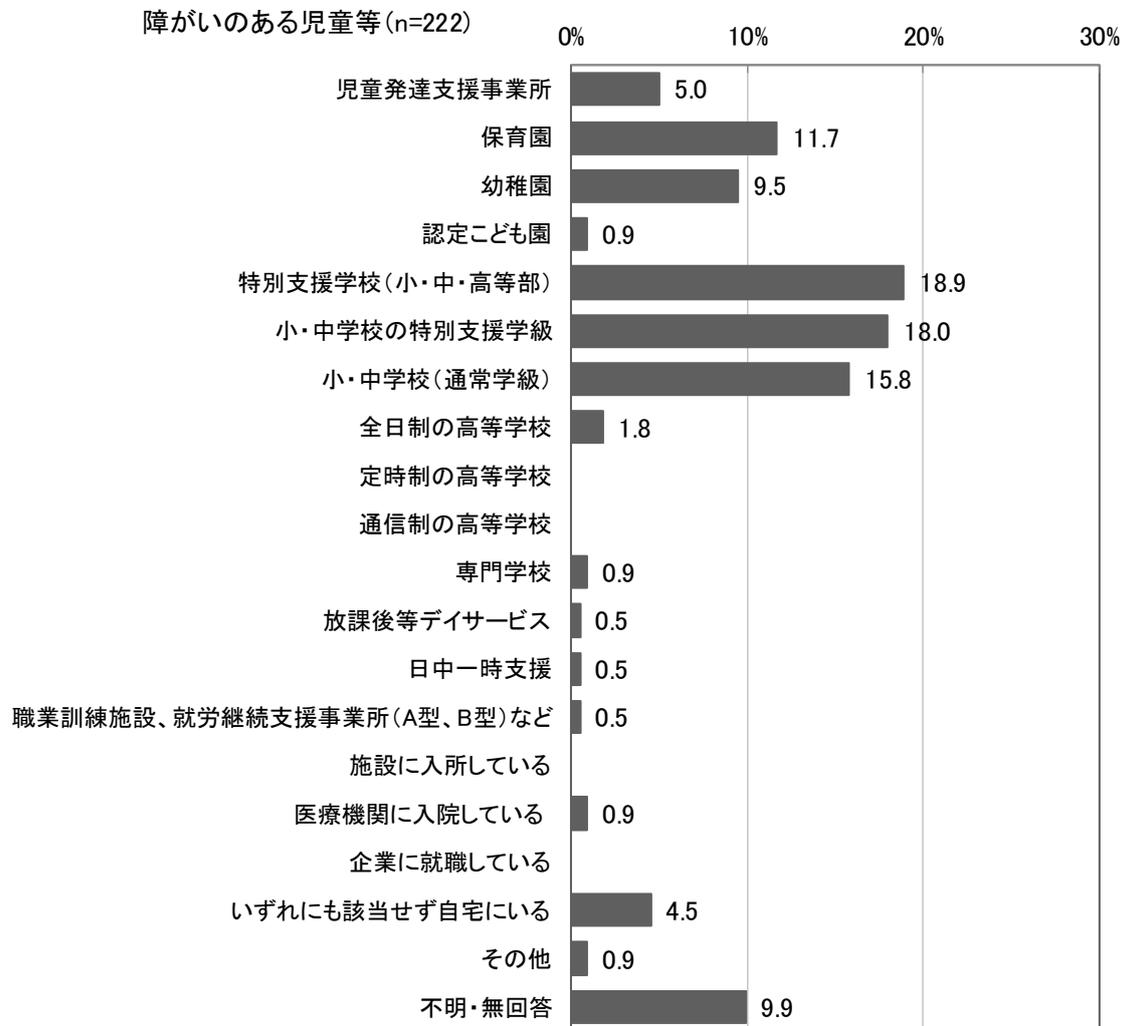
精神障がいのある人で『年間 150 万円未満』（「年間 80 万円未満」と「年間 80 万円～150 万円未満」の合計）が約 3 割と高くなっています。



(26) 現在のお子さんの主な日中の居場所について

児童問 26

障がいのある児童等全体で、「特別支援学校（小・中・高等部）」が約2割と最も高く、次いで「小・中学校の特別支援学級」となっています。



■障がいのある児童等・手帳別クロス

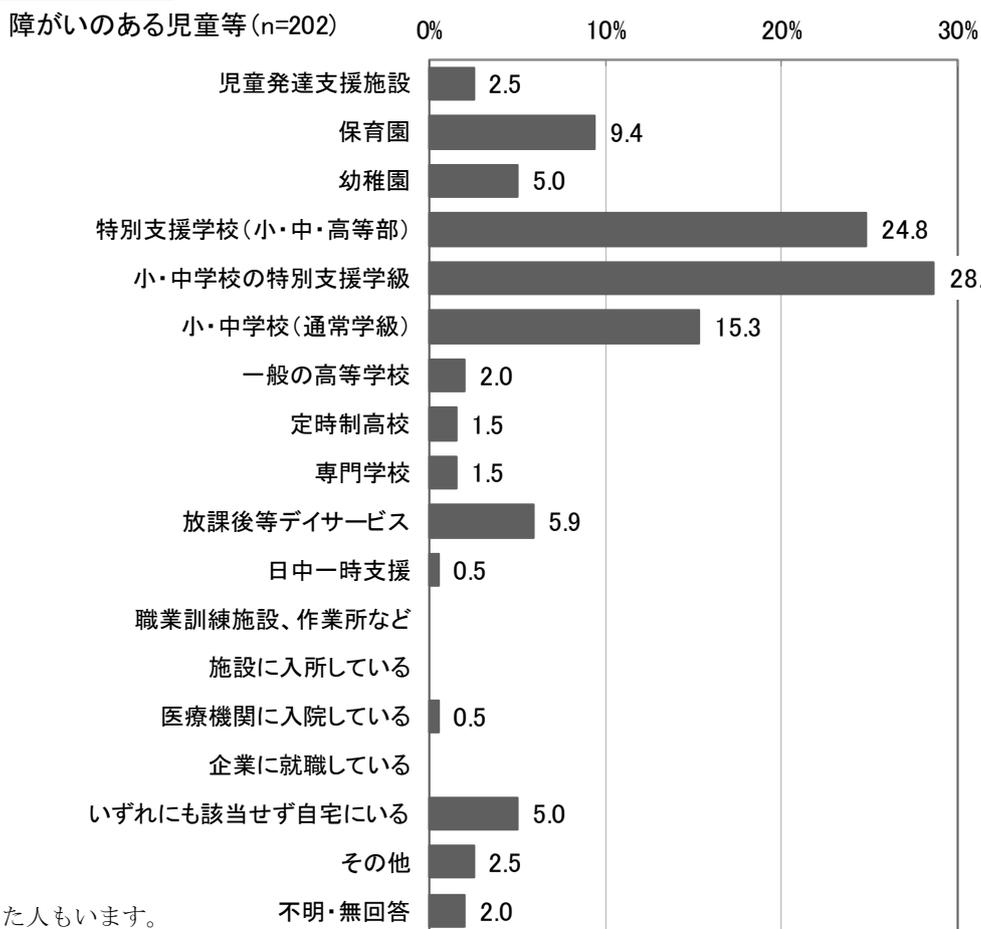
(単位：%)

区分	n=	児童発達支援事業所	保育園	幼稚園	認定こども園	特別支援学校(小・中・高等部)	小・中学校の特別支援学級	小・中学校(通常学級)	全日制の高等学校	定時制の高等学校	通信制の高等学校
身体障がい者手帳	33	6.1	-	-	-	24.2	9.1	12.1	9.1	-	-
療育手帳	121	5.0	11.6	5.8	0.8	32.2	21.5	3.3	-	-	-
精神障がい者保健福祉手帳	15	-	6.7	-	-	6.7	26.7	13.3	6.7	-	-
手帳は持っていない	47	6.4	8.5	25.5	2.1	-	10.6	36.2	-	-	-

区分	n=	専門学校	放課後等デイサービス	日中一時支援	職業訓練施設、就労継続支援事業所(A型、B型)など	施設に入所している	医療機関に入院している	企業に就職している	いずれにも該当せず自宅にいる	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳	33	-	-	3.0	-	-	6.1	-	12.1	-	18.2
療育手帳	121	0.8	-	0.8	0.8	-	0.8	-	4.1	0.8	11.6
精神障がい者保健福祉手帳	15	6.7	6.7	-	-	-	-	-	6.7	-	20.0
手帳は持っていない	47	-	-	-	-	-	-	-	4.3	-	6.4

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者12名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者1名をそれぞれ含みます。

参考：令和元年度調査結果



※複数回答した人もいます。

■障がいのある児童等・手帳別クロス

(単位：%)

区分	n=	設 児童 発達 支援 施設	保 育 園	幼 稚 園	特 別 支 援 学 校 (小・中・高等部)	小・中 学校 の 特 別 支 援 学 級	小・中 学校 (通 常 学 級)	一 般 の 高 等 学 校	定 時 制 高 校	専 門 学 校	放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス
身体障がい者手帳	59	3.4	6.8	3.4	27.1	10.2	25.4	1.7	3.4	-	5.1
療育手帳	133	3.8	11.3	4.5	32.3	30.8	3.8	0.8	-	0.8	6.0
精神障がい者保健 福祉手帳	25	-	-	4.0	-	32.0	44.0	-	-	8.0	12.0
手帳は持っていない	5	-	-	-	-	40.0	20.0	40.0	-	-	20.0

区分	n=	日 中 一 時 支 援	職 業 訓 練 施 設 、 作 業 所 な ど	施 設 に 入 所 し て い る	医 療 機 関 に 入 院 し て い る	企 業 に 就 職 し て い る	い ず れ に も 該 当 せ ず 自 宅 に い る	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
身体障がい者手帳	59	1.7	-	-	1.7	-	8.5	3.4	5.1
療育手帳	133	0.8	-	-	0.8	-	6.0	3.0	2.3
精神障がい者保健 福祉手帳	25	-	-	-	-	-	4.0	8.0	-
手帳は持っていない	5	-	-	-	-	-	-	-	-

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者 26 名、「療育手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者 4 名をそれぞれ含みます。

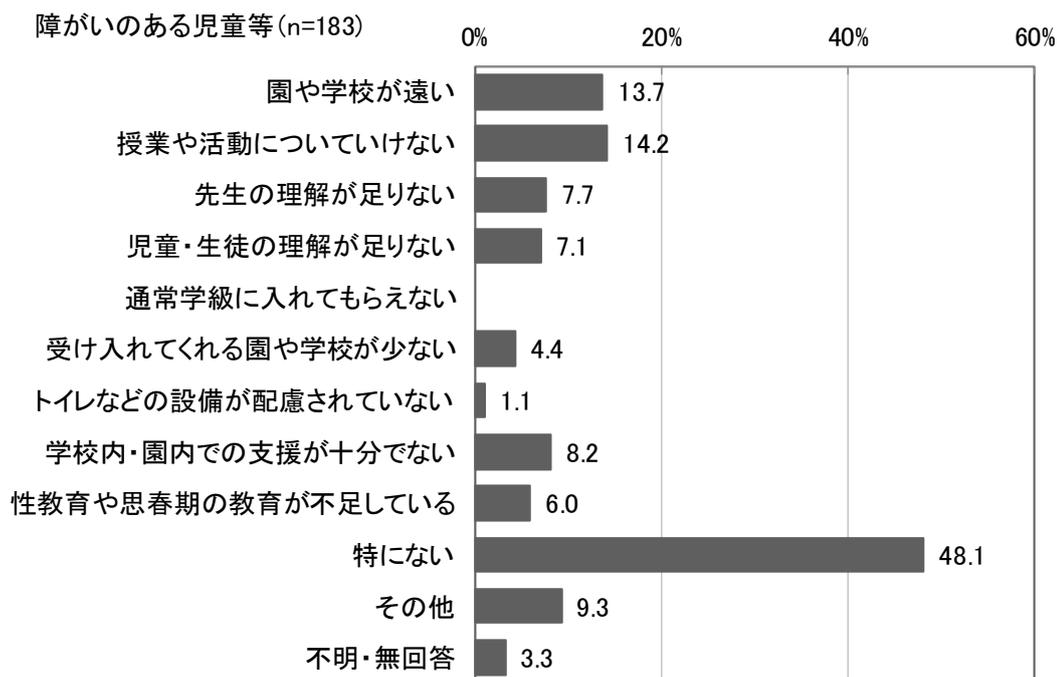
(27) お子さんが困っていることは何かありますか。(複数回答)

※ (26) で「通所・通園・通学している」と答えた方に聞きました

児童問 27

障がいのある児童等全体で、「特にない」を除き、「授業や活動についていけない」が最も高く、次いで「園や学校が遠い」となっています。

手帳別では、「特にない」を除き、身体障がい者手帳及び療育手帳を持っている児童等で「園や学校が遠い」が、精神障がい者保健福祉手帳を持っている児童等で「授業や活動についていけない」が、それぞれ高くなっています。



■障がいのある児童等・手帳別クロス

(単位：%)

区分	n=	園や学校が遠い	授業や活動についていけない	先生の理解が足りない	児童・生徒の理解が足りない	通常学級に入れてもらえない	受け入れてくれる園や学校が少ない	トイレなどの設備が配慮されていない	学校内・園内での支援が十分でない	性教育や思春期の教育が不足している	特にない	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳	20	30.0	10.0	15.0	15.0	-	-	-	10.0	5.0	30.0	10.0	10.0
療育手帳	98	19.4	8.2	3.1	4.1	-	3.1	1.0	6.1	9.2	51.0	10.2	1.0
精神障がい者保健福祉手帳	10	10.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-	20.0	10.0	60.0	10.0	-
手帳は持っていない	42	4.8	21.4	14.3	4.8	-	4.8	2.4	7.1	-	50.0	7.1	4.8

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者 12 名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者 1 名をそれぞれ含みます。

■主な「その他」の内容

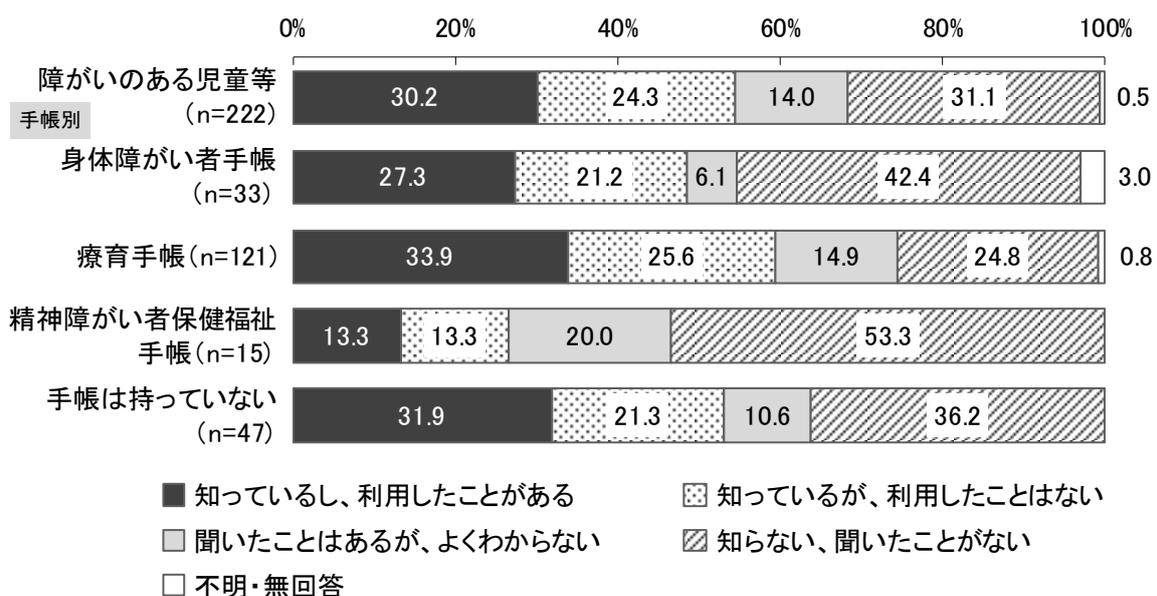
「その他」回答
自主通学させているが、駅までのバスが無いので、送るしかない。
親の体調が悪いと送迎できず、学校に行けない。
自転車通学が認められていないため、遠回りして通学している。
学校の先生間の連携不足。
学校での支援員不足、困った時に高学年でも支援員がいてほしい。
公立の幼稚園が無い。
高等部の入試の倍率が高い。
就職をするにあたって、学校が会社を決めてきて実習に行く事に納得していない場合がある。
通常学級の子と一緒に活動する時等（体育発表会や交流授業等）に周囲と同じように行動できないため、学校や交流授業に行きたがらない。
時々学校で孤立してしまう。
なかなか自分を上手く出せないため、困っている事を上手く言えない。
小学校より不登校気味で、現在も昼から登校している。
年齢に合った関り方、主体的に活動できる環境設定。
同じ疾患の子を見た事がある保育士がいない。
スケジュール管理、整理整頓等が難しく提出物など困る事が多い。

(28) あなたは、児童発達支援センター(てくてく・春日井こども学園・第一希望の家)について知っていますか。また、利用したことがありますか。

児童問 28

障がいのある児童等全体で、「知っているし、利用したことがある」は約3割となっている一方で、「知らない、聞いたことがない」も約3割となっています。

手帳別では、精神障がい者保健福祉手帳を持っている児童等で「知らない、聞いたことがない」が約5割と、他の障がい等に比べて高くなっています。

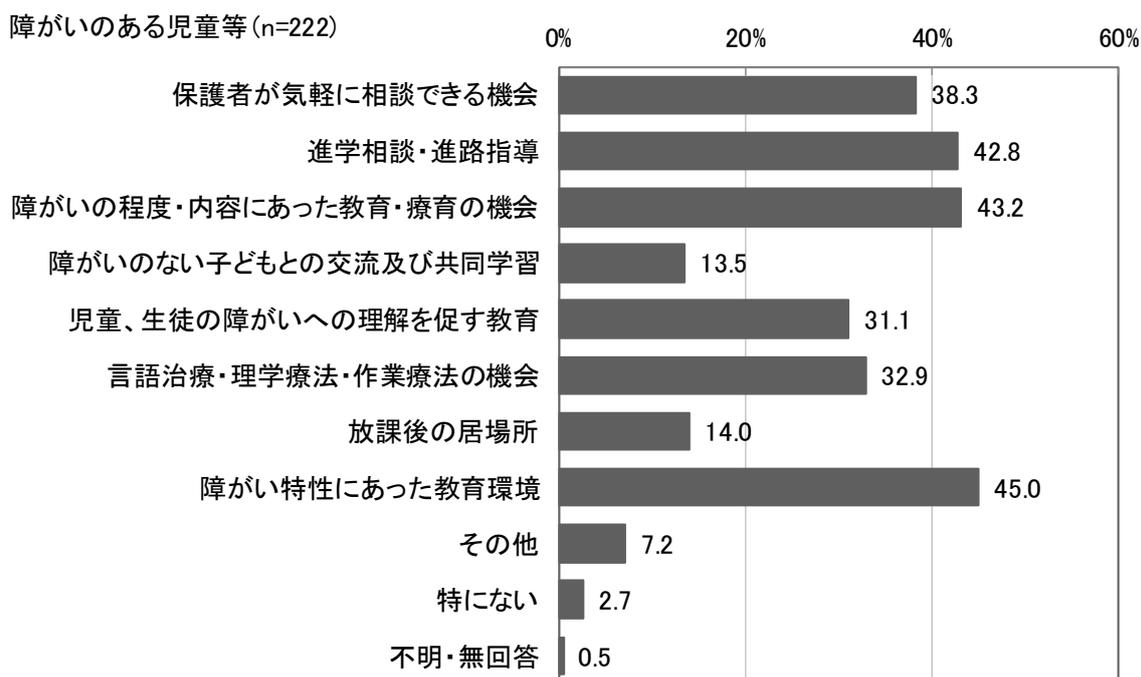


(29) 今後、障がいのある子どもの支援について、充実させてほしいものは何ですか。(複数回答)

児童問 29

障がいのある児童等全体で、「障がい特性にあった教育環境」が約5割と最も高く、次いで「障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会」となっています。

手帳別では、身体障がい者手帳及び精神障がい者保健福祉手帳を持っている児童等で「障がい特性にあった教育環境」が、療育手帳を持っている児童等で「障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会」が、手帳を持っていない児童等で「保護者が気軽に相談できる機会」「進学相談・進路指導」が、それぞれ高くなっています。



■障がいのある児童等・手帳別クロス

(単位：%)

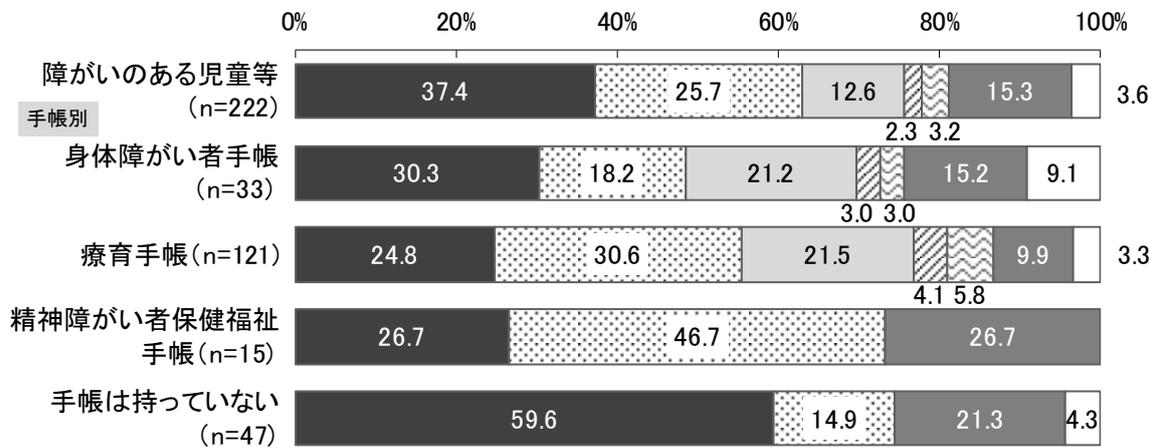
区分	n=	保護者が気軽に相談できる機会	進学相談・進路指導	障がいの程度・内容にあった教育・療育の機会	障がいのない子どもとの交流及び共同学習	児童、生徒の障がいへの理解を促す教育	言語治療・理学療法・作業療法の機会	放課後の居場所	障がい特性にあった教育環境	その他	特になし	不明・無回答
身体障がい者手帳	33	33.3	39.4	36.4	6.1	27.3	33.3	12.1	42.4	6.1	6.1	3.0
療育手帳	121	33.9	43.0	43.8	18.2	31.4	34.7	14.9	40.5	9.9	3.3	0.8
精神障がい者保健福祉手帳	15	40.0	40.0	60.0	6.7	33.3	6.7	13.3	73.3	6.7	-	-
手帳は持っていない	47	44.7	44.7	34.0	8.5	38.3	38.3	17.0	42.6	2.1	-	-

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者12名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者1名をそれぞれ含みます。

(30) お子さんが18歳になったときのことについて、本人の気持ちになってお書きください。

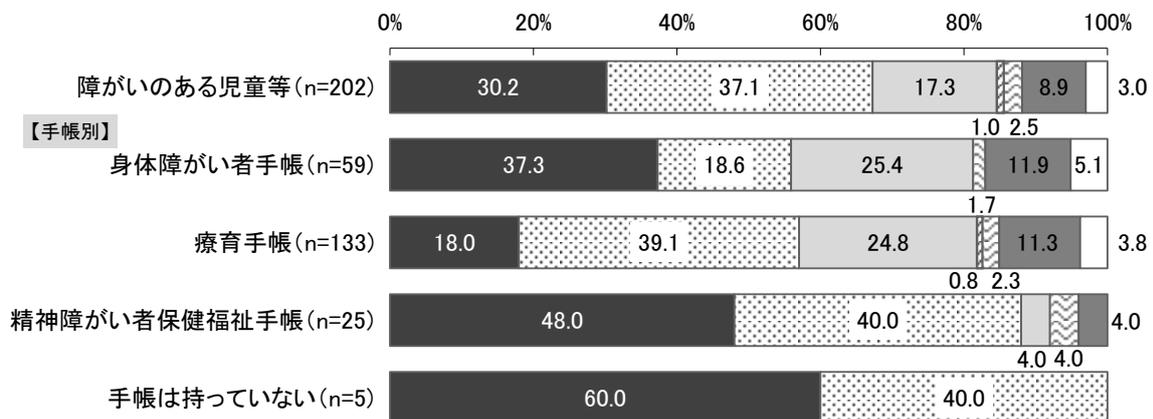
児童問 30

障がいのある児童等全体で、「学校・大学・専門学校などに進学したい、している」が約4割と最も高く、次いで「就職したい、している」となっています。



- 学校・大学・専門学校などに進学したい、している
- 就職したい、している
- 福祉施設に通所したい、している
- 福祉施設に入所したい、している
- 結婚したい
- その他
- 特に考えていない
- 不明・無回答

参考：令和元年度調査結果

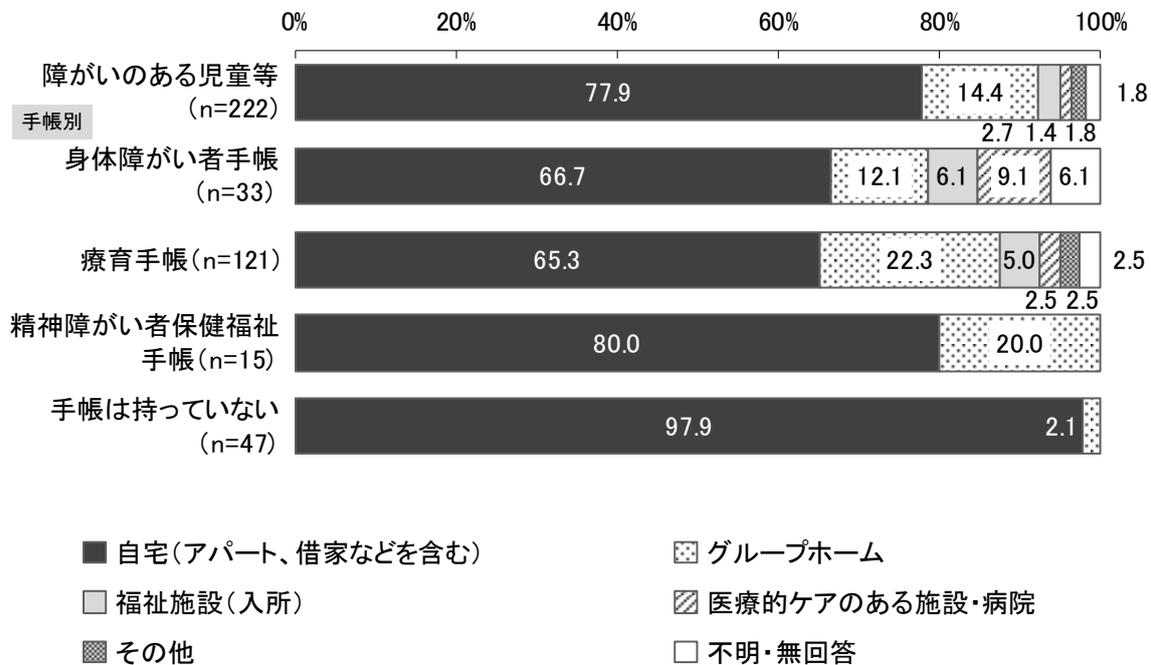


- 学校・大学・専門学校などに進学したい、している
- 就職したい、している
- 福祉施設に通所したい、している
- 福祉施設に入所したい、している
- 結婚したい
- その他
- 特に考えていない
- 不明・無回答

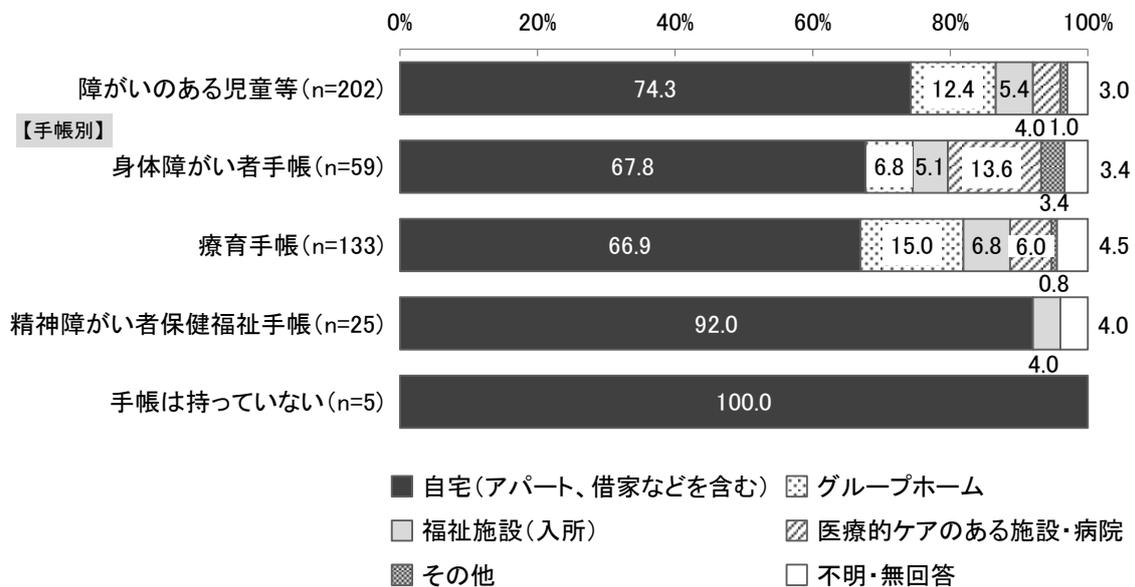
(31) お子さんが大人になったらどこでくらしてもらいたいですか。

児童問 31

障がいのある児童等全体で、「自宅（アパート、借家などを含む）」が約8割と最も高く、次いで「グループホーム」となっています。



参考：令和元年度調査結果

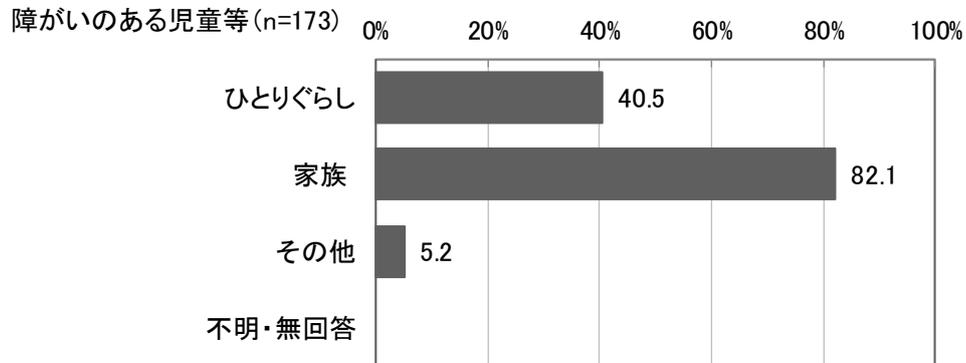


(32) 大人になったらだれと一緒にくらしてもらいたいですか。(複数回答)

※ (31) で「自宅（アパート、借家などを含む）」と答えた方に聞きました

児童問 32

障がいのある児童等全体で、「家族」が約8割と最も高くなっています。



■障がいのある児童等・手帳別クロス

(単位：%)

区分	n=	ひとりぐらし	家族	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳	22	40.9	77.3	9.1	-
療育手帳	79	25.3	84.8	3.8	-
精神障がい者保健福祉手帳	12	41.7	75.0	8.3	-
手帳は持っていない	46	50.0	91.3	6.5	-

※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者 12 名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者 1 名をそれぞれ含みます。

3. 障がい福祉サービスについて

(33) 現在、次にあげる障がい福祉サービスを利用していますか。

身体問 24①、知的問 24①、精神問 25①、児童問 23①、難病問 20①

身体障がいのある人全体、精神障がいのある人及び難病患者で「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」が、知的障がいのある人で「就労移行支援・就労継続支援A・B」が、障がいのある児童等で「放課後等デイサービス」が、それぞれ最も高くなっています。

■「利用している」と回答した方

(単位：%)

区分	n=	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援助・同行支援	短期入所	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	就労定着支援	自立生活援助
身体障がいのある人	339	5.0	2.9	4.1	9.4	12.7	2.7	0.6	0.6	0.6
65歳未満	286	5.6	3.1	3.8	8.4	10.8	2.4	0.7	0.7	0.7
65歳以上	50	2.0	2.0	6.0	16.0	24.0	4.0	-	-	-
知的障がいのある人	208	6.7	15.9	7.7	21.6	4.3	17.3	22.1	11.5	1.0
精神障がいのある人	191	5.2	2.1	3.7	9.4	10.5	7.3	9.9	3.7	3.1
障がいのある児童等	222	2.7	2.3	2.7	-	4.5	0.5	0.5		
難病患者	150	0.7	-	0.7	1.3	3.3		0.7	0.7	-

区分	n=	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	日中一時支援	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援
身体障がいのある人	339	0.6	0.9	1.5	2.7				
65歳未満	286	-	1.0	1.7	3.1				
65歳以上	50	4.0	-	-	-				
知的障がいのある人	208	14.9	1.0	0.5	6.3				
精神障がいのある人	191	3.1	0.5	2.6	0.5				
障がいのある児童等	222		0.9	0.9	4.1	33.8	0.9	48.6	9.9
難病患者	150	-							

■「利用している」と回答した方

(単位：%)

区分	n=	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援助・同行援助	短期入所	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	就労定着支援	自立生活援助
身体障がいのある人	373	9.1	5.1	4.3	9.7	16.6	5.6	1.9	1.3	0.5
65歳未満	84	4.8	3.6	6.0	10.7	10.7	7.1	6.0	1.2	1.2
65歳以上	283	10.2	5.7	3.9	9.5	18.4	5.3	0.7	1.4	0.4
知的障がいのある人	216	8.3	22.2	19.0	29.6	9.3	26.4	27.3	7.9	1.9
精神障がいのある人	206	7.8	2.9	3.4	5.8	9.7	5.3	12.6	5.3	1.0
障がいのある児童等	202	4.5	4.0	6.9	2.0	5.4	0.5	0.5		
難病患者	162	1.2	-	2.5	1.9	4.9		0.6	-	-

区分	n=	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	日中一時支援
身体障がいのある人	373	1.6	1.3	1.6					2.7
65歳未満	84	2.4	-	1.2					2.4
65歳以上	283	1.4	1.4	1.8					2.5
知的障がいのある人	216	13.0	-	2.3					7.9
精神障がいのある人	206	1.9	-	0.5					1.5
障がいのある児童等	202		-	1.5	18.8	0.5	42.6	2.0	7.4
難病患者	162	-							

(34) 次にあげる障がい福祉サービスを今後利用したいですか。

身体問 24②、知的問 24②、精神問 25②、児童問 23②、難病問 20②

身体障がいのある人全体で「短期入所」「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」「移動支援・行動援護・同行援護」が、知的障がいのある人で「移動支援・行動援護・同行援護」「グループホーム」が、精神障がいのある人で「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」「短期入所」が、障がいのある児童等で「放課後等デイサービス」「児童発達支援」が、難病患者で「短期入所」「生活介護」が、それぞれ利用意向の上位となっています。

■ 「利用したい」と回答した方

(単位：%)

区分	n=	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援護・同行援護	短期入所	生活介護	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	就労定着支援	自立生活援助
身体障がいのある人	339	25.1	28.0	30.1	26.5	30.1	18.3	15.3	15.3	20.1
65歳未満	286	24.8	28.0	28.3	25.2	28.7	18.9	17.5	17.1	19.9
65歳以上	50	28.0	30.0	42.0	36.0	40.0	16.0	2.0	4.0	22.0
知的障がいのある人	208	29.8	43.3	38.9	31.7	23.6	33.7	29.3	26.4	17.8
精神障がいのある人	191	29.3	27.7	31.4	30.9	33.0	23.0	17.8	16.2	20.4
障がいのある児童等	222	14.4	26.6	27.0	15.8	32.4	34.2	42.8		
難病患者	150	19.3	20.0	22.0	20.7	20.0		12.0	12.0	16.0

区分	n=	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	日中一時支援	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援
身体障がいのある人	339	14.5	7.1	18.6	21.5				
65歳未満	286	14.3	7.3	18.2	22.0				
65歳以上	50	14.0	6.0	22.0	20.0				
知的障がいのある人	208	41.3	4.3	8.2	28.4				
精神障がいのある人	191	20.4	4.2	15.2	22.5				
障がいのある児童等	222		4.5	7.2	26.6	44.6	6.3	73.4	28.8
難病患者	150	12.0							

■ 「利用したい」と回答した方

(単位：%)

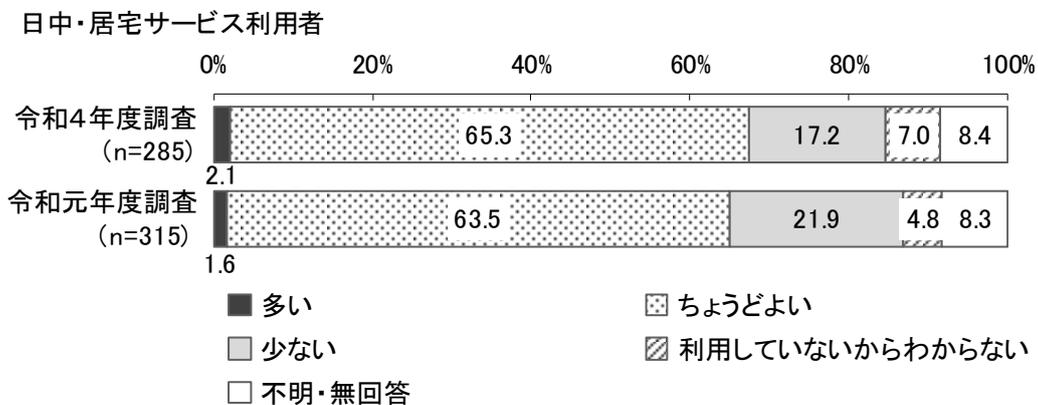
区分	n=	居宅介護・重度訪問介護	移動支援・行動援助・同行援助	短期入所	生活介護	自立訓練(機能訓練・生活訓練)	地域活動支援センター	就労移行支援・就労継続支援A・B	就労定着支援	自立生活援助
身体障がいのある人	373	33.0	33.8	42.6	34.3	40.2	26.0	11.3	10.5	24.1
65歳未満	84	23.8	27.4	32.1	23.8	32.1	26.2	20.2	19.0	21.4
65歳以上	283	35.7	35.7	45.9	37.8	42.8	26.1	8.5	8.1	24.7
知的障がいのある人	216	29.6	38.4	42.6	42.6	30.1	45.8	31.5	23.1	15.3
精神障がいのある人	206	22.3	21.8	28.6	20.4	27.7	24.8	32.0	29.6	21.8
障がいのある児童等	202	13.9	41.1	35.6	26.7	37.1	42.6	52.5		
難病患者	162	37.7	35.2	38.9	38.3	35.8		14.8	14.2	22.8

区分	n=	グループホーム	意思疎通支援	訪問入浴	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	日中一時支援
身体障がいのある人	373	18.2	8.3	19.0					25.2
65歳未満	84	16.7	6.0	13.1					15.5
65歳以上	283	18.4	8.8	20.5					28.3
知的障がいのある人	216	40.7	3.2	8.8					30.6
精神障がいのある人	206	13.1	4.4	11.7					21.4
障がいのある児童等	202		3.0	9.9	36.6	8.9	66.3	12.4	41.1
難病患者	162	14.8							

(35) 市が支給決定をしている時間数又は日数は、いかがですか。

居宅問 1

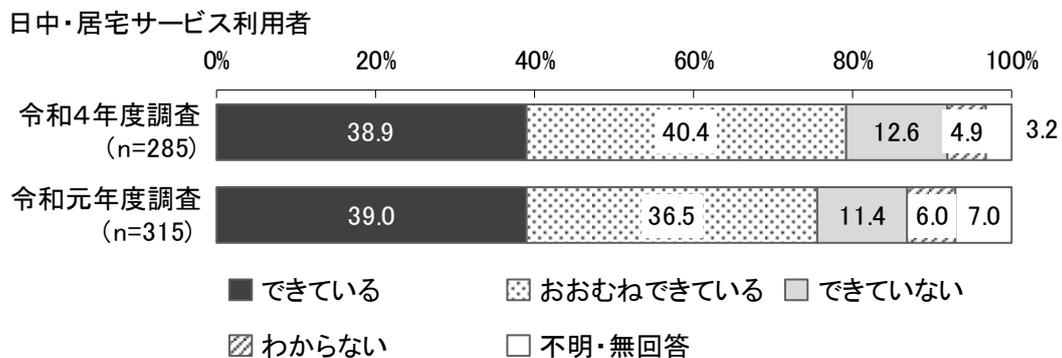
日中・居宅サービス利用者全体で、「ちょうどよい」が約7割と最も高く、次いで「少ない」となっています。



(36) 利用したい曜日、時間にサービスを利用できていますか。

居宅問 4

日中・居宅サービス利用者全体で、『できている』（「できている」「おおむねできている」の合計）が約8割となっています。

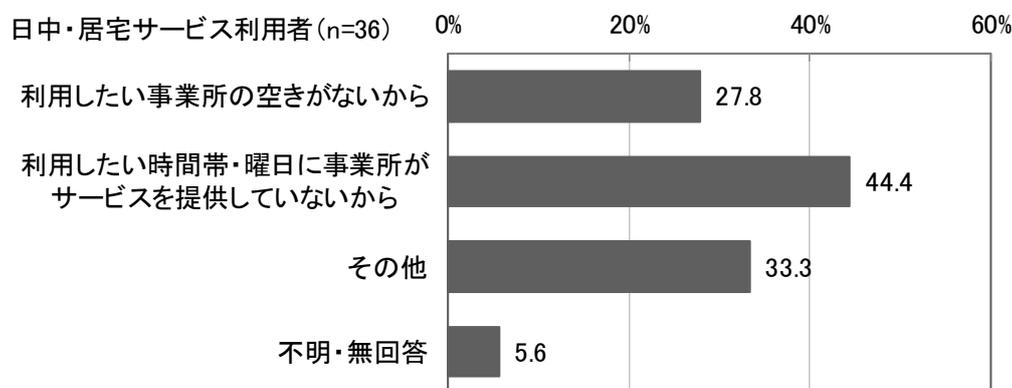


(37) 利用できていない理由について

※ (36) で「できていない」と答えた方に聞きました

居宅問 4-2

日中・居宅サービス利用者全体で、「利用したい時間帯・曜日に事業所がサービスを提供していないから」が約4割と最も高くなっています。

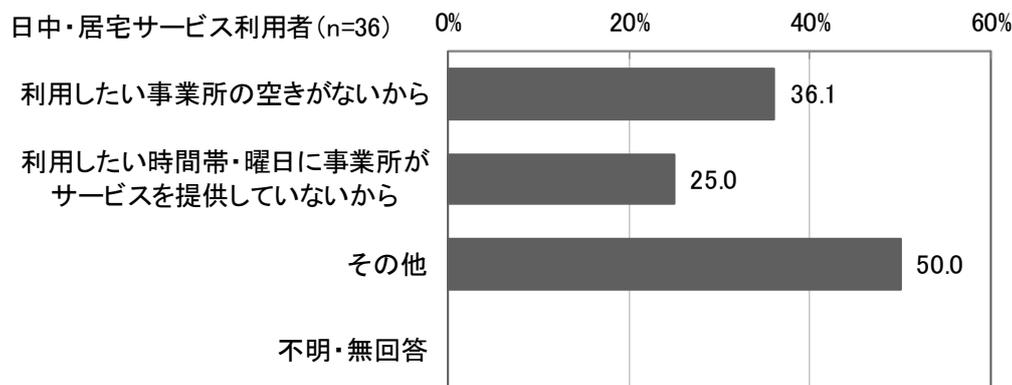


※複数回答した人もいます。

■主な「その他」の内容

「その他」回答
体調が不安定。本人が行けなくなった(行きたがらない)。
送迎が無い。
支給決定された時間が少ない。夜間の支援が少ない。日数が足りない。通院の時間数が足りない。
利用日数などの制限で、利用希望日数が満たせてないから。
利用の仕方、利用できるサービスがわからない。
ショートステイの日数が支給された最大数だけでは少ないため、仕事がなかなか長く働けないので困っている。また、将来にグループホームへの移行も考えているので、宿泊自立できる練習の場としてショートステイが必要でもう少し長く連泊できるように、支給日数を増やしてもらえるとありがたい。
土、日の事業所が少ない。土曜日に利用している日中一時の施設の利用者が多く、毎週入れない事が多い。
利用できるサービスそのものがないから。
今は、失業中だから。
コロナウイルス。

参考：令和元年度調査結果

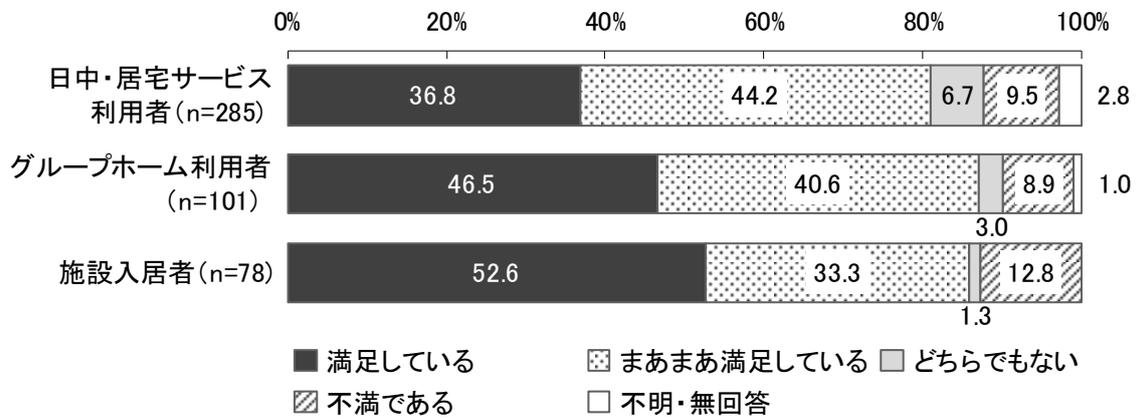


※複数回答した人もいます。

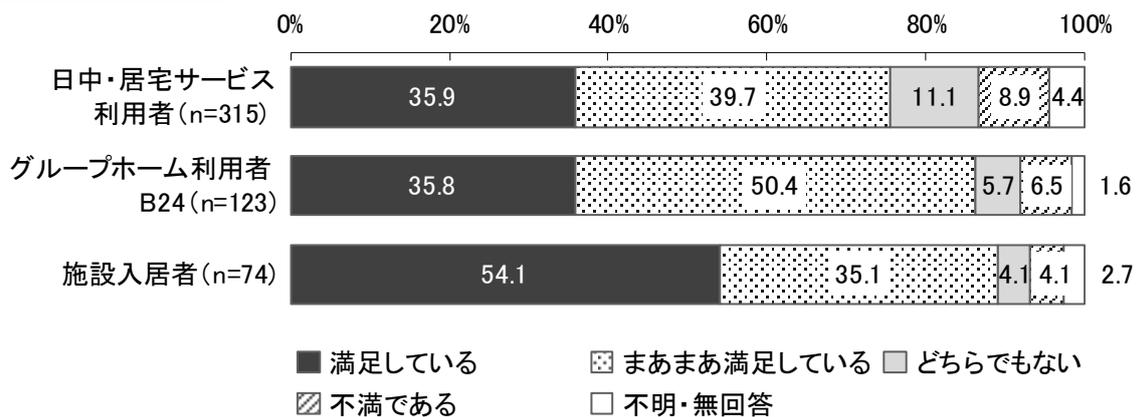
(38) 現在、利用している日中・居宅サービス、グループホーム、施設に満足していますか。

居宅問5、グループホーム問1、施設問1

『満足している』（「満足している」「まあまあ満足している」の合計）は、いずれのサービスも8割を超えています。



参考：令和元年度調査結果



(39) どのような点に不満を感じますか。(複数回答)

※ (38) で「不満である」と答えた方に聞きました

居宅問5-2、グループホーム問1-2、施設問1-2

「その他」を除くと日中・居宅サービス利用者で「支援者（スタッフ）の態度」が、グループホーム利用者で「他の利用者との人間関係」が、施設入所者で「施設の設備」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	施設の設備	支援者(スタッフ)の態度	支援者(スタッフ)の技術	送迎の時間	他の利用者との人間関係	家賃、利用料金	その他	不明・無回答
日中・居宅サービス利用者	27	11.1	25.9	18.5	18.5			59.3	-
グループホーム利用者	9	-	22.2	11.1		55.6	33.3	33.3	-
施設入所者	10	50.0	10.0	10.0		10.0		40.0	-

※「送迎の時間」は日中・居宅サービス利用者のみ、「他の利用者との人間関係」はグループホーム利用者、施設入所者のみ、「家賃、利用料金」はグループホーム利用者からのみ選択肢です。

参考：令和元年度調査結果

(単位：%)

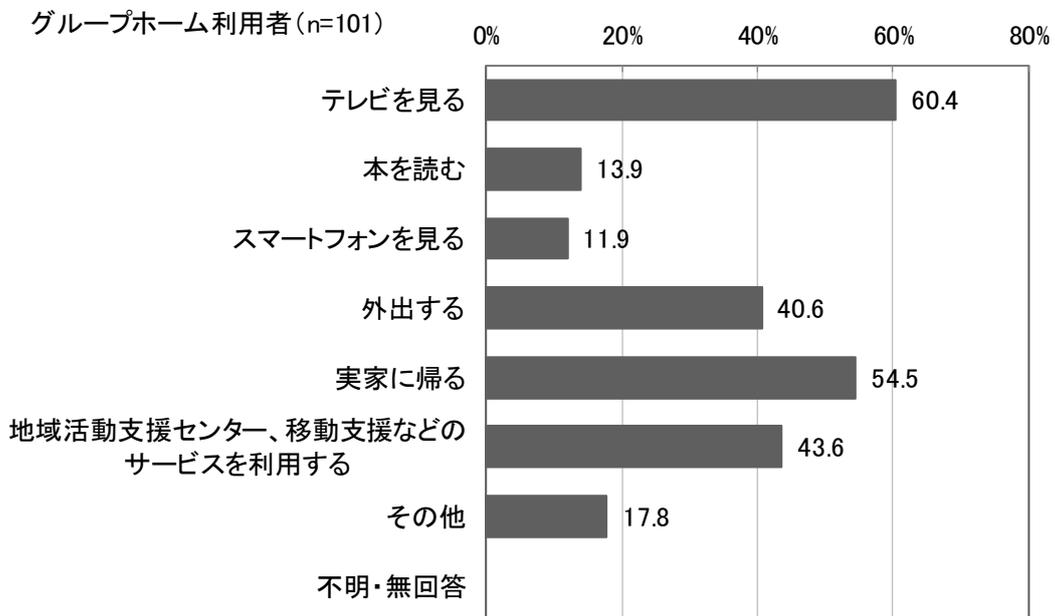
区分	n=	施設の設備	ヘルパー(支援員)の態度	ヘルパー(支援員)の技術	送迎の時間	他の利用者との人間関係	家賃、利用料金	その他	不明・無回答
日中・居宅サービス利用者	28	28.6	10.7	7.1	21.4			60.7	7.1
グループホーム利用者	8	37.5	50.0	37.5		12.5	37.5	37.5	-
施設入所者	3	33.3	-	33.3		66.7		33.3	-

※「送迎の時間」は日中・居宅サービス利用者のみ、「他の利用者との人間関係」はグループホーム利用者、施設入所者のみ、「家賃、利用料金」はグループホーム利用者からのみ選択肢です。

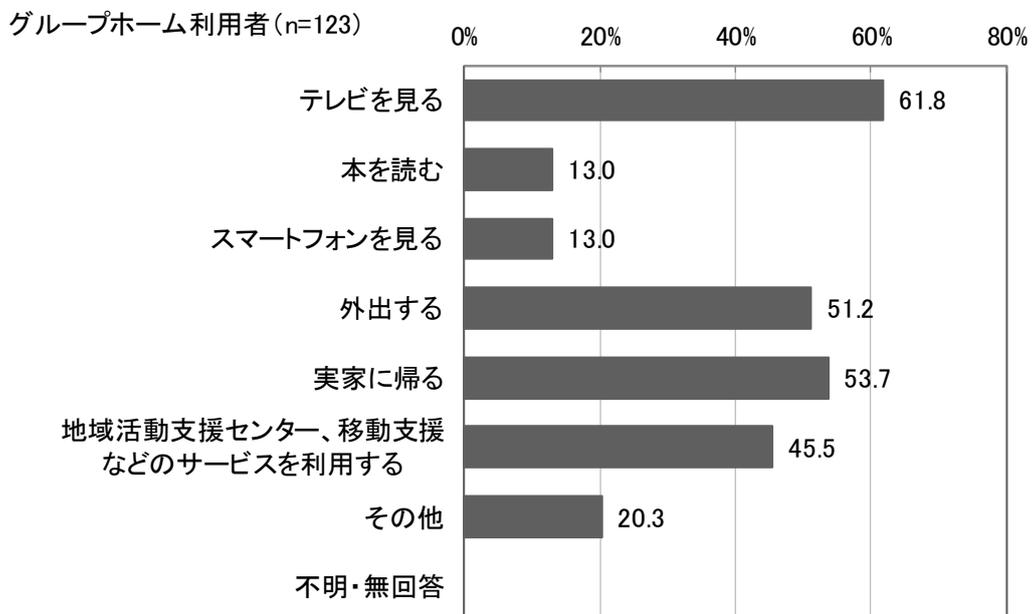
(40) 土曜日、日曜日など、施設に通所しない日は、何をして過ごしますか。(複数回答)

グループホーム 問 2

「テレビを見る」が最も高く、次いで「実家に帰る」となっています。なお、令和元年度調査と比べて、「外出する」が10ポイント以上低くなっています。



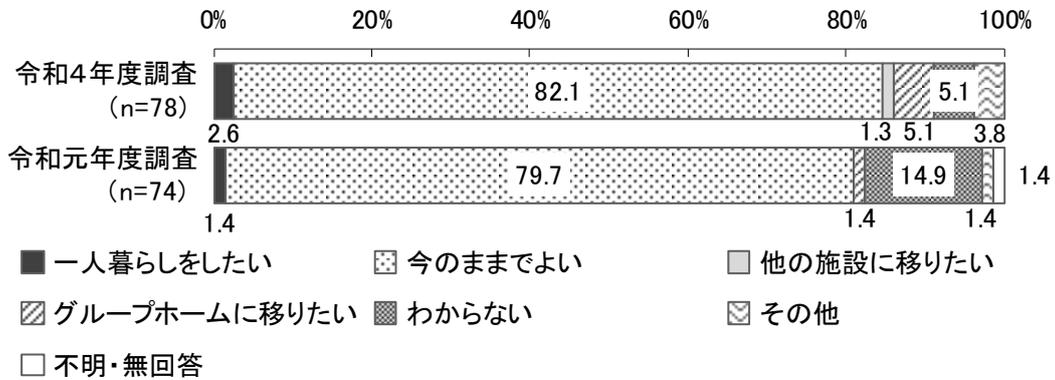
参考：令和元年度調査結果



(41) 今後、施設を退所し、地域で自立して生活したいですか。

施設問 2

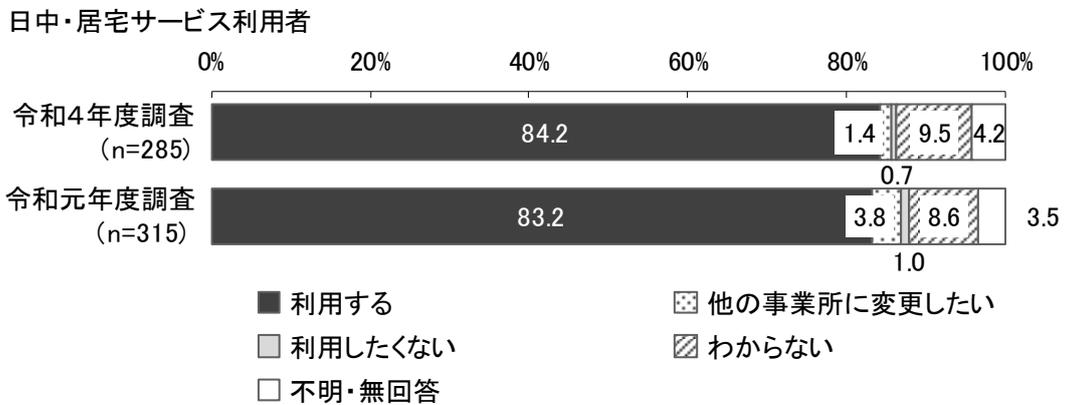
「今のままでよい」が8割強と、最も高くなっています。



(42) 現在、利用しているサービスを今後も利用しますか。

居宅問 6

「利用する」が8割強と、最も高くなっています。



(43) 今後、新たに利用したいサービスは何ですか。(複数回答)

居宅問7、グループホーム問3

日中・居宅サービス利用者で「短期入所」が、グループホーム利用者で「行動援護」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	支援 重度障がい者等包括	生活介護	自立訓練 (機能訓練)	自立訓練 (生活訓練)	宿泊型自立訓練	就労移行支援	就労継続支援 (A型)	就労継続支援 (B型)
日中・居宅サービス利用者	285	5.3	4.9	3.9	12.3	3.5	6.7	5.3	8.1	6.7	6.0	6.7	8.1
グループホーム利用者	101	1.0	-	2.0	22.8	2.0	5.9	2.0	4.0	-	4.0	5.9	6.9

区分	n=	自立生活援助	療養介護	短期入所	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	就労定着支援	わからない	不明・無回答
日中・居宅サービス利用者	285	8.4	4.6	20.4	13.0	7.0	10.9	2.5	7.4	9.1	16.1	21.4
グループホーム利用者	101	7.9	3.0	5.0		4.0	9.9	4.0	2.0	1.0	19.8	35.6

参考：令和元年度調査結果

(単位：%)

区分	n=	居宅介護	重度訪問介護	同行援護	行動援護	支援 重度障がい者等包括	生活介護	自立訓練 (機能訓練)	自立訓練 (生活訓練)	自立生活援助	就労移行支援	就労継続支援 (A型)	就労継続支援 (B型)
日中・居宅サービス利用者	315	6.0	1.9	2.5	10.8	2.2	4.1	6.7	9.8	8.9	13.0	17.1	10.5
グループホーム利用者	123	3.3	1.6	2.4	15.4	4.9	8.9	4.9	5.7	5.7	3.3	4.9	8.1

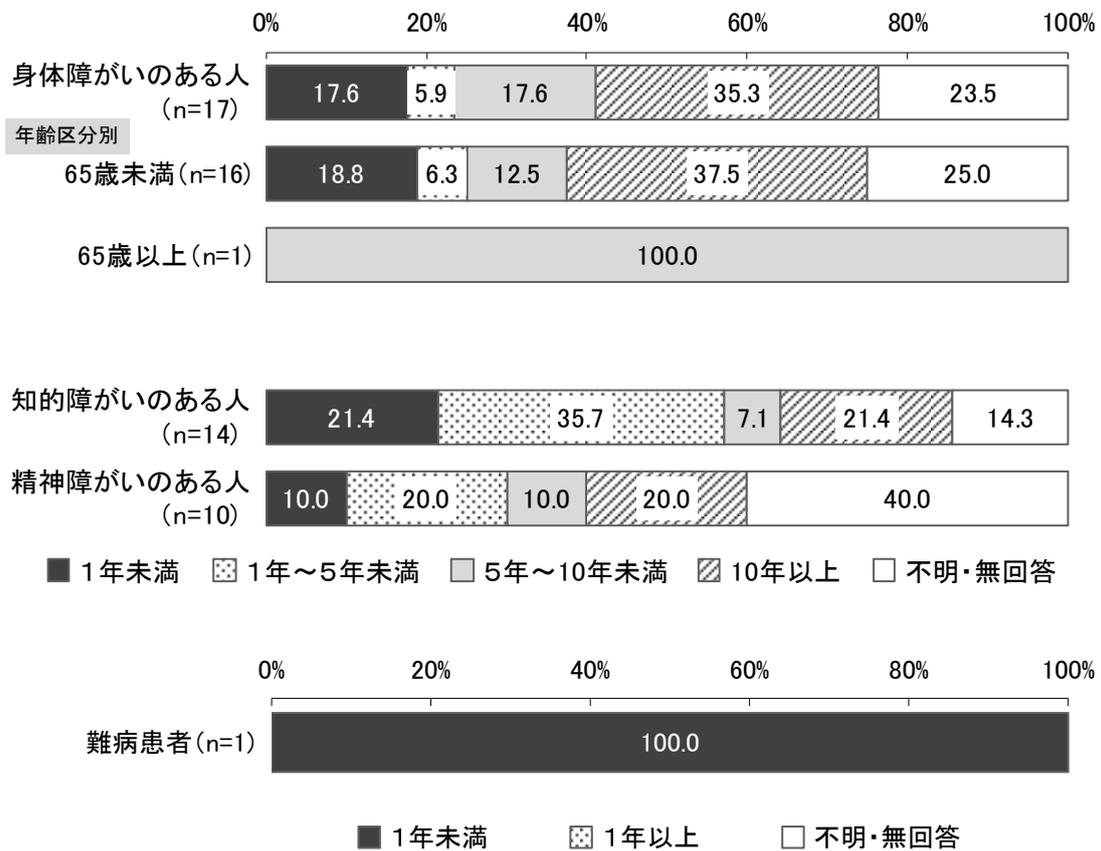
区分	n=	療養介護	短期入所	共同生活援助 (グループホーム)	施設入所支援	計画相談支援	地域移行支援	地域定着支援	就労定着支援	わからない	不明・無回答
日中・居宅サービス利用者	315	2.2	13.3	17.5	5.4	15.9	3.2	7.9	12.1	14.6	20.3
グループホーム利用者	123	4.9	6.5		5.7	14.6	5.7	1.6	6.5	26.0	30.1

(44) 居宅介護・重度訪問介護をどのくらいの期間、サービスを利用していますか。およその期間を数字で記入してください。

※ (33) で居宅介護・重度訪問介護を「利用している」と答えた方に聞きました

身体問 25、知的問 25、精神問 26、難病問 21

「10年以上」のサービス利用者は、身体障がいのある人で約4割となっています。

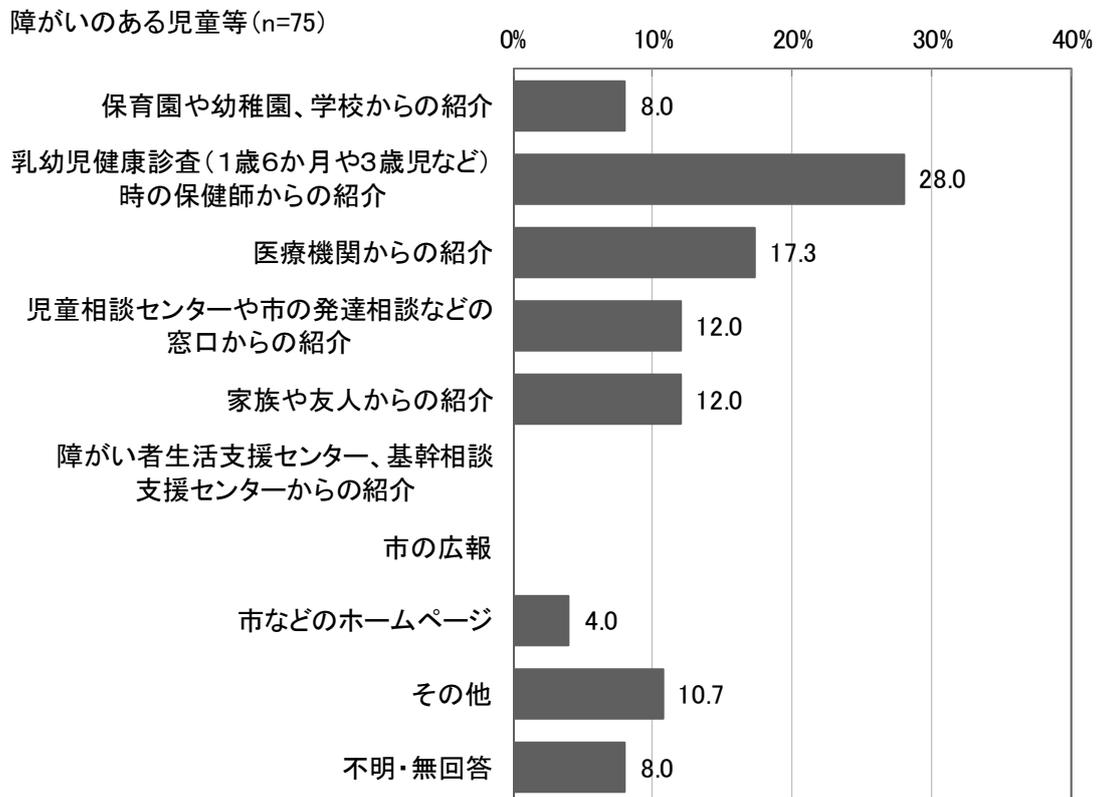


(45) 児童発達支援を利用するきっかけは何でしたか。

※ (33) で児童発達支援を「利用している」と答えた方に聞きました

児童問 24

障がいのある児童等全体で、「乳幼児健康診査（1歳6か月や3歳児など）時の保健師からの紹介」が最も高く、次いで「医療機関からの紹介」となっています。

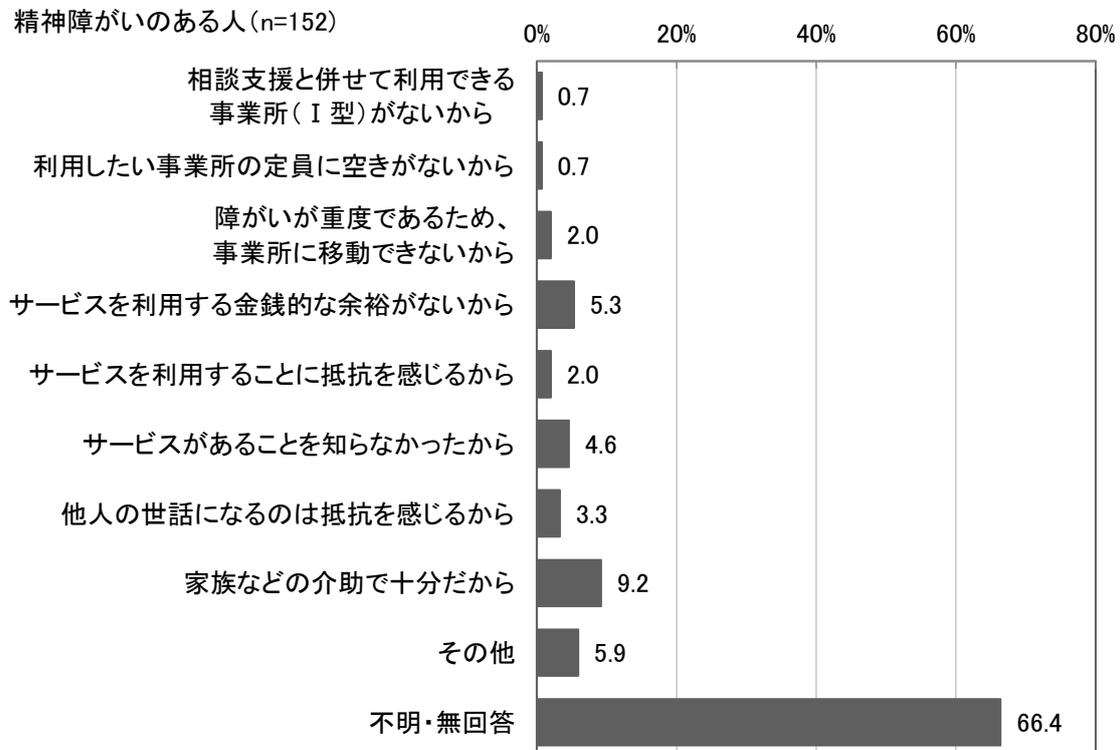


(46) 地域活動支援センターを利用していない、また、今後も利用しない理由は何ですか。

※ (33) (34) で地域活動支援センターを「利用していない」「利用したくない」と答えた方に聞きました

精神問 27

精神障がいのある人全体で、「家族などの介助で十分だから」が約1割と、最も高くなっています。



(47) 現在、福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(複数回答)

※ (33) ですべて「利用していない」と答えた方に聞きました (現在サービスを利用していない方)

身体問 26、知的問 26、精神問 28、児童問 25、難病問 22

障がい等のある人及び障がいのある児童等すべてで、「家族などの介助で十分だから」が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	福祉サービスを利用する金銭的な余裕がないから	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから
身体障がいのある人	234	61.1	1.3	6.8	9.0	7.7	3.4	-
65歳未満	212	61.8	1.4	7.1	9.9	8.0	3.8	-
65歳以上	21	57.1	-	4.8	-	4.8	-	-
知的障がいのある人	83	67.5	2.4	13.3	13.3	10.8	7.2	1.2
精神障がいのある人	99	48.5	6.1	16.2	22.2	21.2	7.1	1.0
障がいのある児童等	45	60.0	13.3	2.2	2.2	6.7	-	4.4
難病患者	136	55.1	1.5	3.7	8.8	7.4	2.2	-

区分	n=	障がい重度であるため、サービスを提供する施設に移動できないから	医療的ケアを提供できる事業所がないから	福祉サービスを利用する方法がわからないから	福祉サービスがあることを知らなかったから	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	234	-	1.7	6.0	4.3	19.2	13.2
65歳未満	212	-	1.4	5.7	4.7	19.8	11.3
65歳以上	21	-	4.8	9.5	-	9.5	33.3
知的障がいのある人	83	2.4	2.4	18.1	16.9	6.0	14.5
精神障がいのある人	99	3.0	5.1	9.1	9.1	9.1	16.2
障がいのある児童等	45	-	-	11.1	6.7	13.3	8.9
難病患者	136	-	0.7	4.4	5.1	22.8	13.2

(単位：%)

区分	n=	家族などの介助で十分だから	困っていることを解消するサービスがないから	福祉サービスを利用する金銭的な余裕がないから	他人の世話になるのは抵抗を感じるから	他人に家庭に入ってきてほしくないから	福祉サービスを利用することに抵抗を感じるから	利用したいサービスを提供している事業所の定員に空きがないから
身体障がいのある人	223	56.5	3.1	6.7	9.9	7.6	3.6	0.4
65歳未満	63	58.7	3.2	7.9	9.5	4.8	3.2	-
65歳以上	158	56.3	3.2	6.3	10.1	8.9	3.8	0.6
知的障がいのある人	63	73.0	6.3	12.7	12.7	9.5	6.3	3.2
精神障がいのある人	121	51.2	7.4	13.2	22.3	20.7	10.7	1.7
障がいのある児童等	76	56.6	7.9	6.6	6.6	7.9	1.3	1.3
難病患者	138	55.8	1.4	5.1	5.8	3.6	4.3	-

区分	n=	障がい(疾病)が重度であるため、サービスを提供する施設に移動できないから	医療的ケアを提供できる事業所がないから	福祉サービスを利用する方法がわからないから	福祉サービスがあることを知らなかったから	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	223	0.4	0.9	4.9	2.7	24.7	12.1
65歳未満	63	-	-	4.8	3.2	23.8	4.8
65歳以上	158	0.6	1.3	5.1	2.5	24.7	14.6
知的障がいのある人	63	3.2	4.8	15.9	7.9	7.9	11.1
精神障がいのある人	121	0.8	2.5	18.2	5.8	12.4	9.1
障がいのある児童等	76	1.3	-	10.5	6.6	18.4	13.2
難病患者	138	-	0.7	5.8	1.4	21.7	15.9

4. 相談について

(48) 悩みや困ったことを相談する相手はだれですか。(複数回答)

※障がいのある人の家族では、日常生活において家族の方などの「支援が必要」と答えた方に聞きました

身体問 27、知的問 27、精神問 29、児童問 33、難病問 23、家族問 9

障がい等のある人すべてで、「家族」がそれぞれ最も高くなっています。なお、障がいのある人の家族で「いない」が約1割と、他の障がい等のある人等と比べて高くなっています。

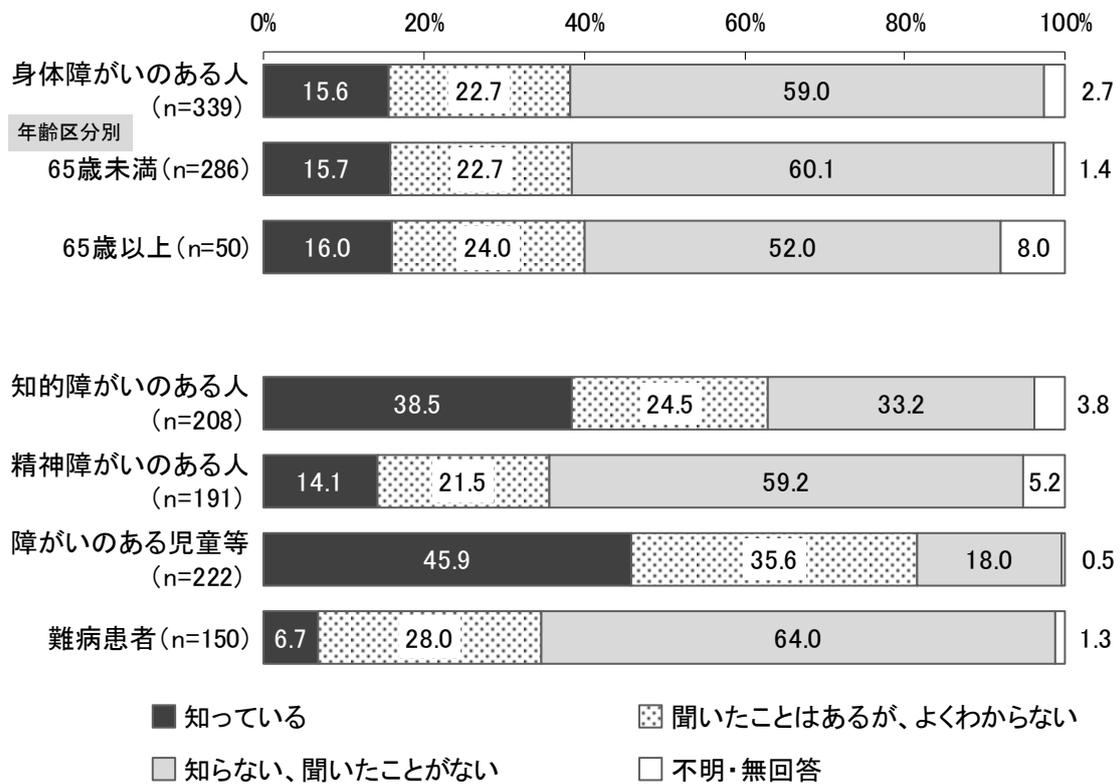
(単位：%)

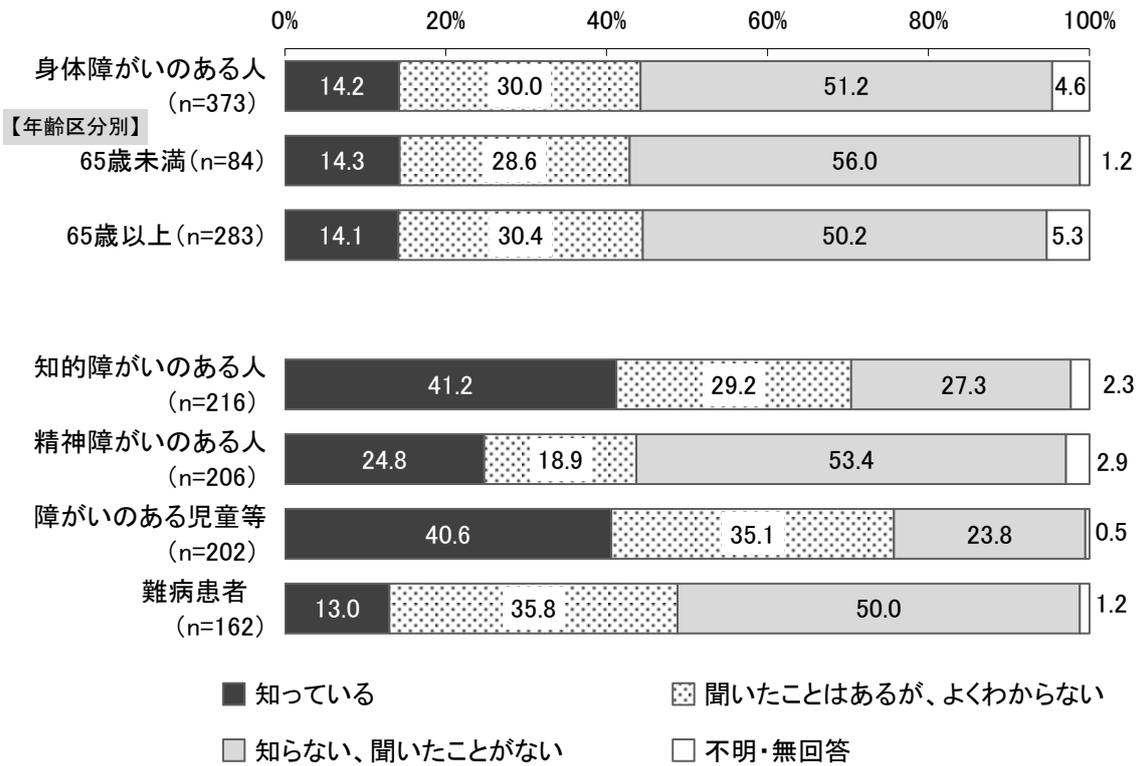
区分	n=	家族	同じ障がいがある友人・知人	2以外の友人・知人	病院などの医療機関	施設や事業所の職員	市役所の窓口	相談支援センター	障がい特性にあつた教育環境	いない	困っていることはない	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	339	78.2	7.4	20.6	21.5	12.4	6.8	4.4		5.3	3.5	2.7	2.9
65歳未満	286	78.3	8.0	23.4	23.8	11.5	6.6	3.8		5.2	3.5	2.8	1.7
65歳以上	50	82.0	4.0	6.0	10.0	18.0	8.0	8.0		2.0	4.0	2.0	8.0
知的障がいのある人	208	78.4	16.3	7.2	14.9	33.2	10.1	23.6		2.4	1.9	5.8	1.4
精神障がいのある人	191	62.8	7.9	14.1	34.0	18.8	5.8	7.9		6.3	2.6	6.3	5.8
障がいのある児童等	222	80.6	51.4	17.1	45.5	47.7	4.1	13.1	3.6	2.3	-	10.4	0.5
難病患者	150	78.0	6.0	32.7	32.7	1.3	1.3	0.7		7.3	2.0	0.7	1.3
障がいのある人の家族	380	52.6	15.3	7.4	16.6	28.4	9.5	14.2		12.1	6.1	5.0	1.6

(49) 障がい者生活支援センター(春日苑、かすがい、JHNまある、あつとわん)、基幹相談支援センター(しゃきょう)について知っていますか。

身体問 28、知的問 28、精神問 30、児童問 34、難病問 24

「知っている」が、障がいのある児童等及び知的障がいのある人で、それぞれ4割前後と高くなっています。

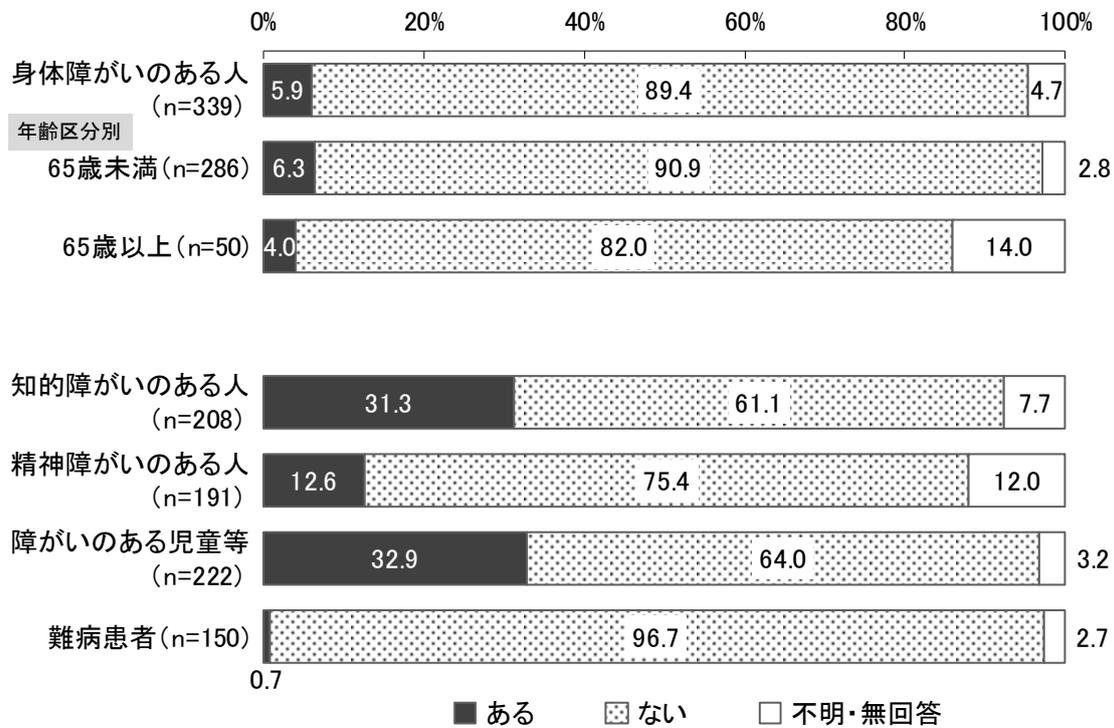




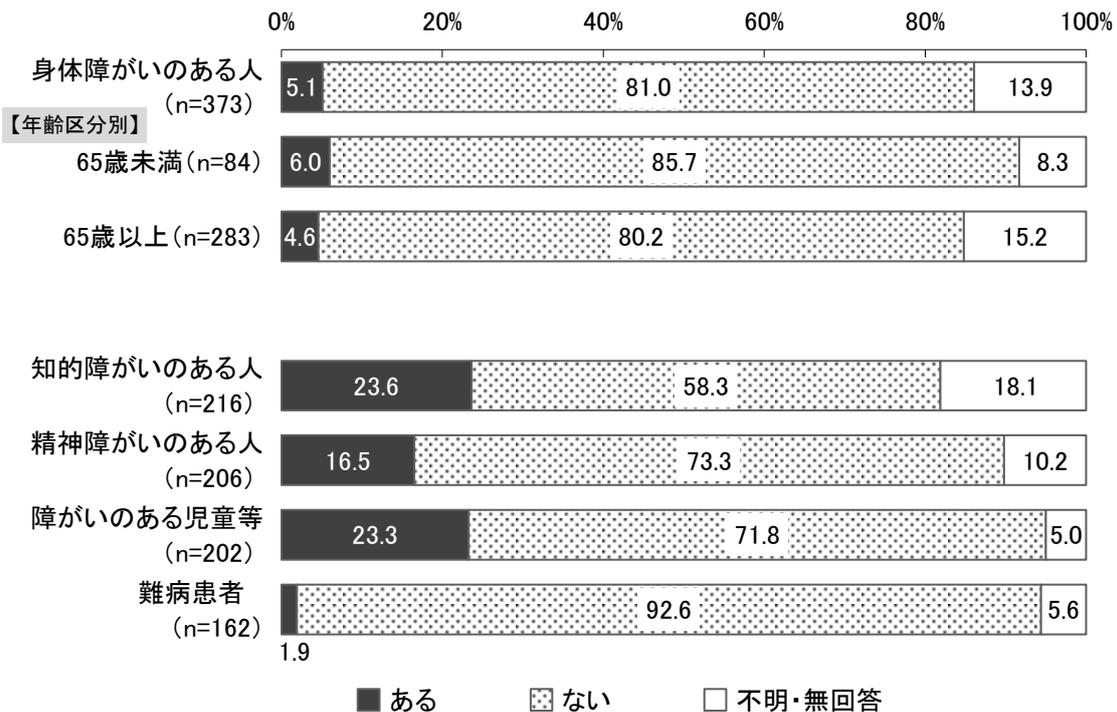
(50) 障がい者生活支援センターもしくは基幹相談支援センターに相談をしたことがありますか。

身体問 29、知的問 29、精神問 31、児童問 35、難病問 25

「ある」が、障がいのある児童等及び知的障がいのある人で、それぞれ3割強と、他の障がい等に比べて高くなっています。



参考：令和元年度調査結果

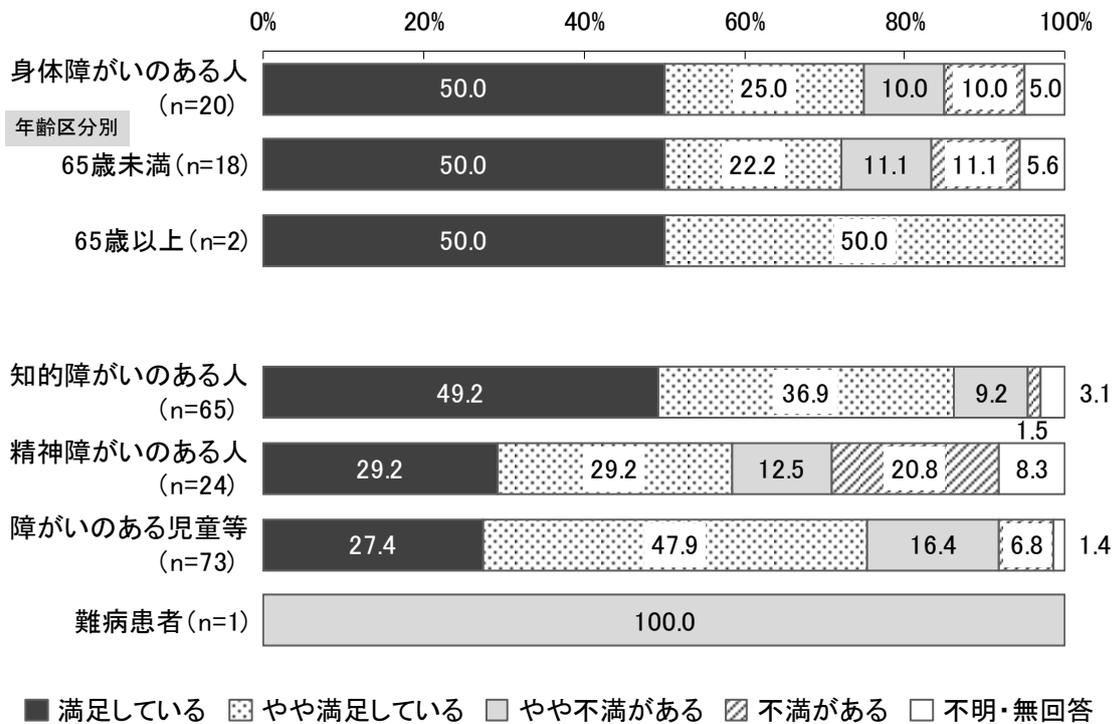


(51) 障がい者生活支援センター、基幹相談支援センターについて満足していますか。

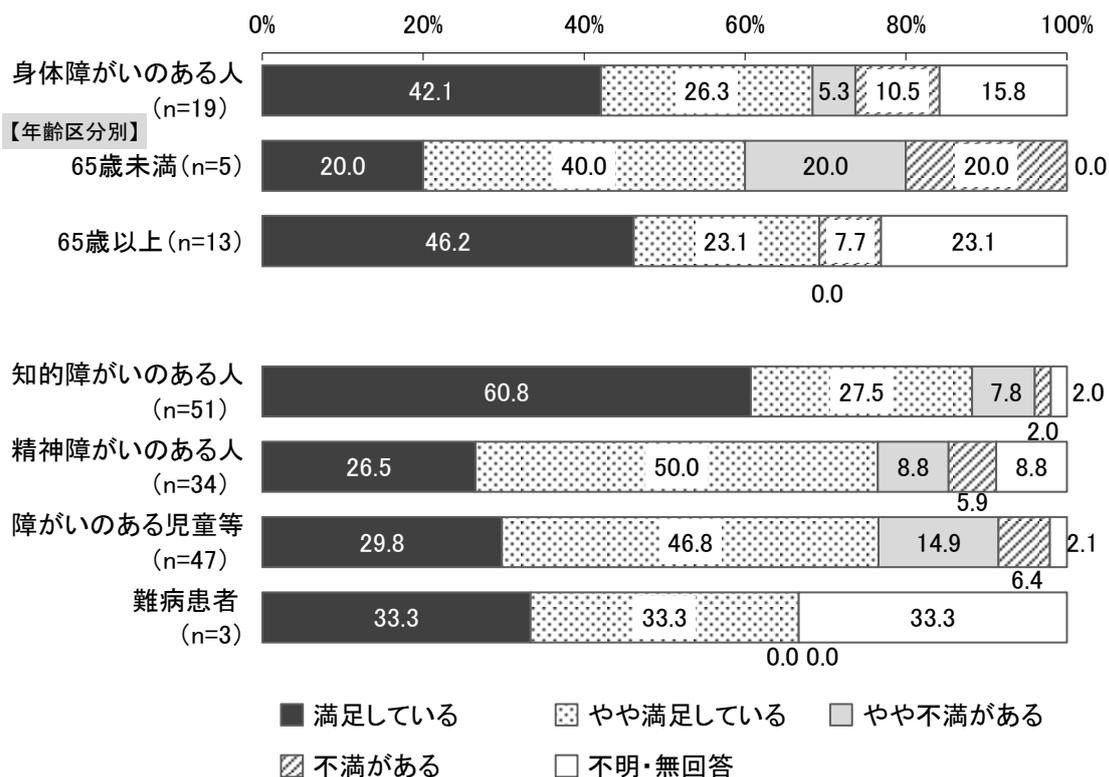
※ (50) で「ある」と答えた方に聞きました

身体問 30、知的問 30、精神問 32、児童問 36、難病問 26

『満足している』（「満足している」「やや満足している」の合計）が、身体障がいのある人、知的障がいのある人及び障がいのある児童等でそれぞれ7割を超えています。



参考：令和元年度調査結果

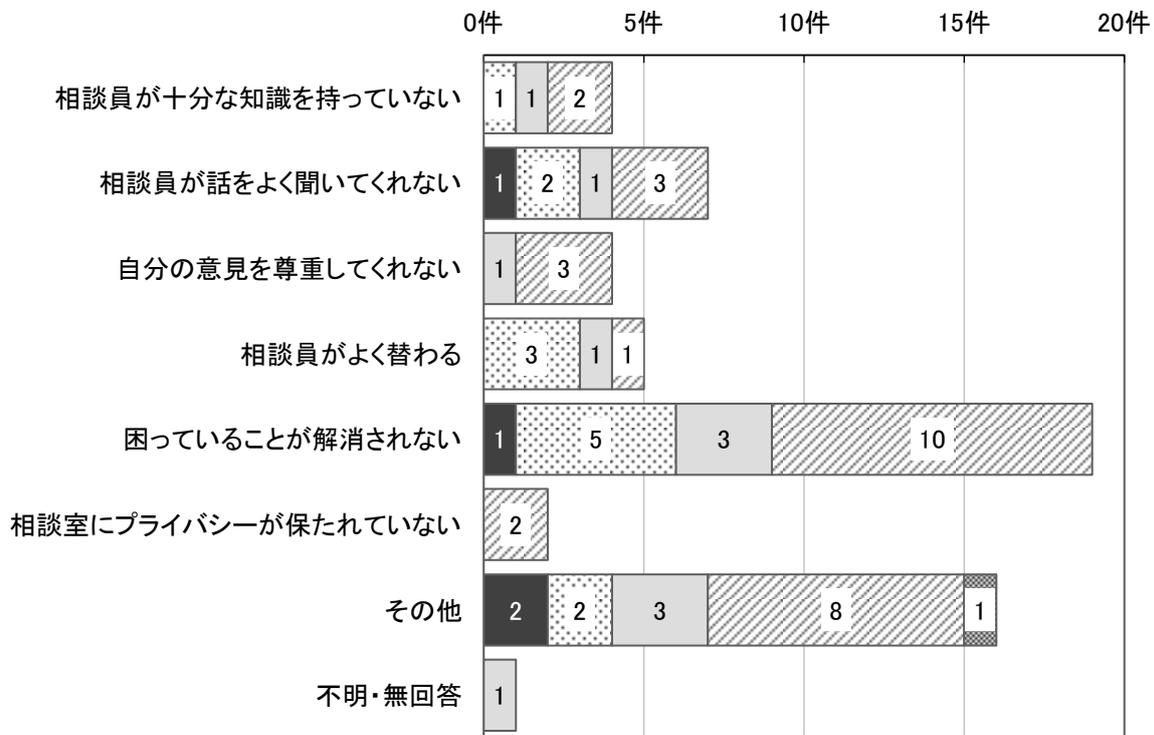


(52) どのような点に不満を感じましたか。(複数回答)

※ (51) で「やや不満がある」「不満がある」と答えた方に聞きました

身体問 31、知的問 31、精神問 33、児童問 37、難病問 27

「困っていることが解消されない」の件数が最も多くなっています。



■ 身体障がいのある人 (n=4) ▨ 知的障がいのある人 (n=7) □ 精神障がいのある人 (n=8)

▩ 障がいのある児童等 (n=17) ▤ 難病患者 (n=1)

(53) 障がい者生活支援センター、基幹相談支援センターで相談していること、相談したいと思うことは何ですか。(複数回答)

身体問 32、知的問 32、精神問 34、児童問 38、難病問 28

「特にない」を除き、身体障がいのある人全体、知的障がいのある人、精神障がいのある人及び難病患者で「日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること」が、障がいのある児童等で「なんとなく不安に思うこと」が、それぞれ最も高くなっています。

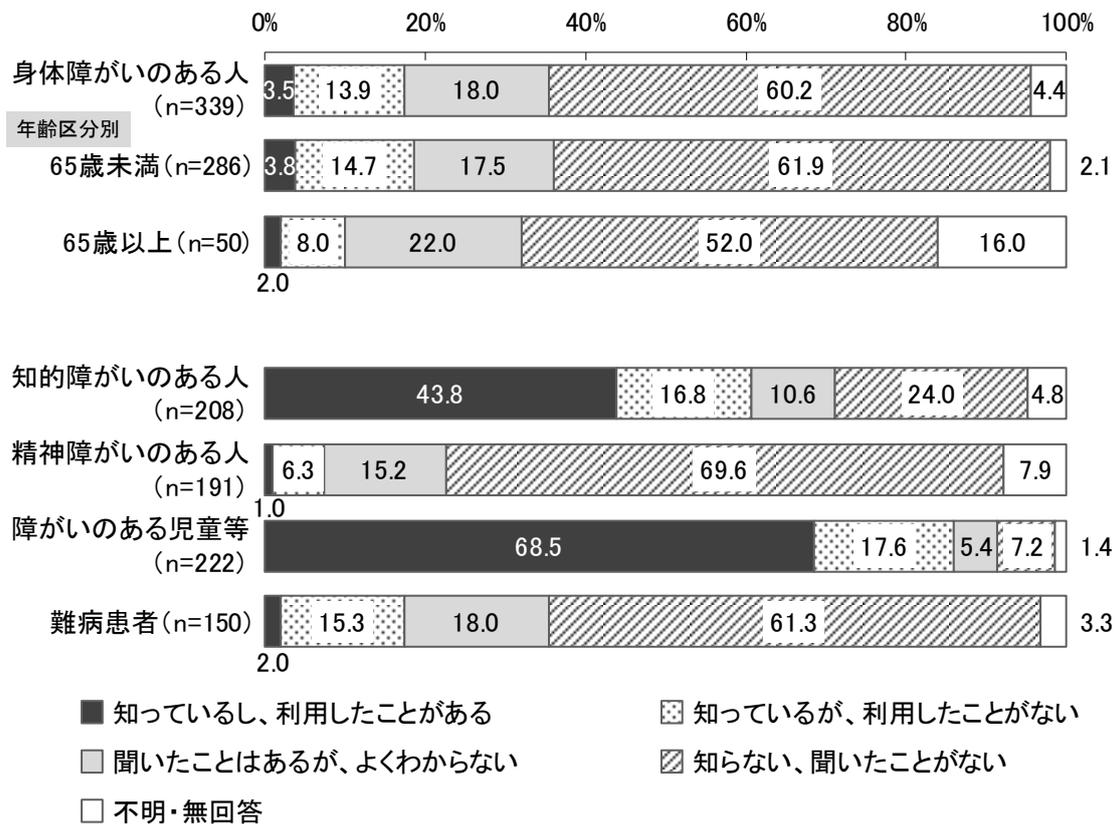
(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
	65歳未満	65歳以上					
n=	339	286	50	208	191	222	150
1位	特にない (55.5)	特にない (55.2)	特にない (60.0)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (29.8)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (34.0)	なんとなく不安に思うこと (45.0)	特にない (56.7)
2位	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (18.9)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (20.3)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (20.0)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (29.3)	特にない (30.9)	園や学校での対応のこと (36.9)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (20.0)
3位	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (17.1)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (16.4)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (10.0)	特にない (28.4)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (22.5)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (32.4)	なんとなく不安に思うこと (16.0)
4位	なんとなく不安に思うこと (14.2)	なんとなく不安に思うこと (15.4)	なんとなく不安に思うこと (8.0)	成年後見制度や虐待など権利擁護に関すること (25.0)	なんとなく不安に思うこと (20.9)	（子どもの）仕事に関すること (30.6)	仕事に関すること (13.3)
5位	仕事に関すること (10.3)	仕事に関すること (11.5)	成年後見制度や虐待など権利擁護に関すること (2.0)	仕事に関すること (19.2)	仕事に関すること (12.6)	日常生活（お金や生活の悩みなど）に関すること (27.9)	障がい福祉サービス（ヘルパーや施設）の利用に関すること (11.3)

(54) あなたは、愛知県医療療育総合センターについて知っていますか。また、相談や受診をしたことがありますか。

身体問 33、知的問 33、精神問 35、児童問 39、難病問 29

「知っているし、利用したことがある」が、障がいのある児童等及び知的障がいのある人で高くなっています。一方、「知らないし、聞いたことがない」が精神障がいのある人、難病患者及び身体障がいのある人でそれぞれ6割を超えて高くなっています。

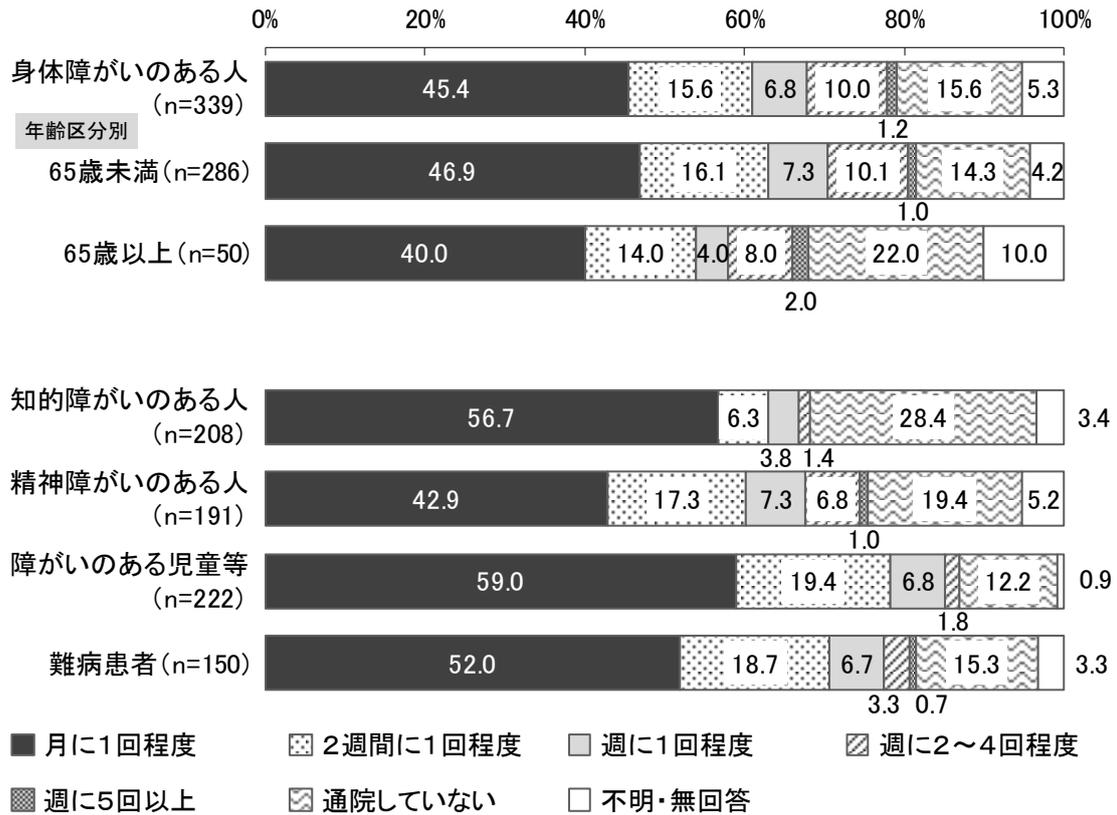


5. 保健・医療について

(55) 風邪、歯の治療などすべての医療について、最近3か月で、病院にどれくらい通院しましたか。

身体問 34、知的問 34、精神問 36、児童問 40、難病問 30

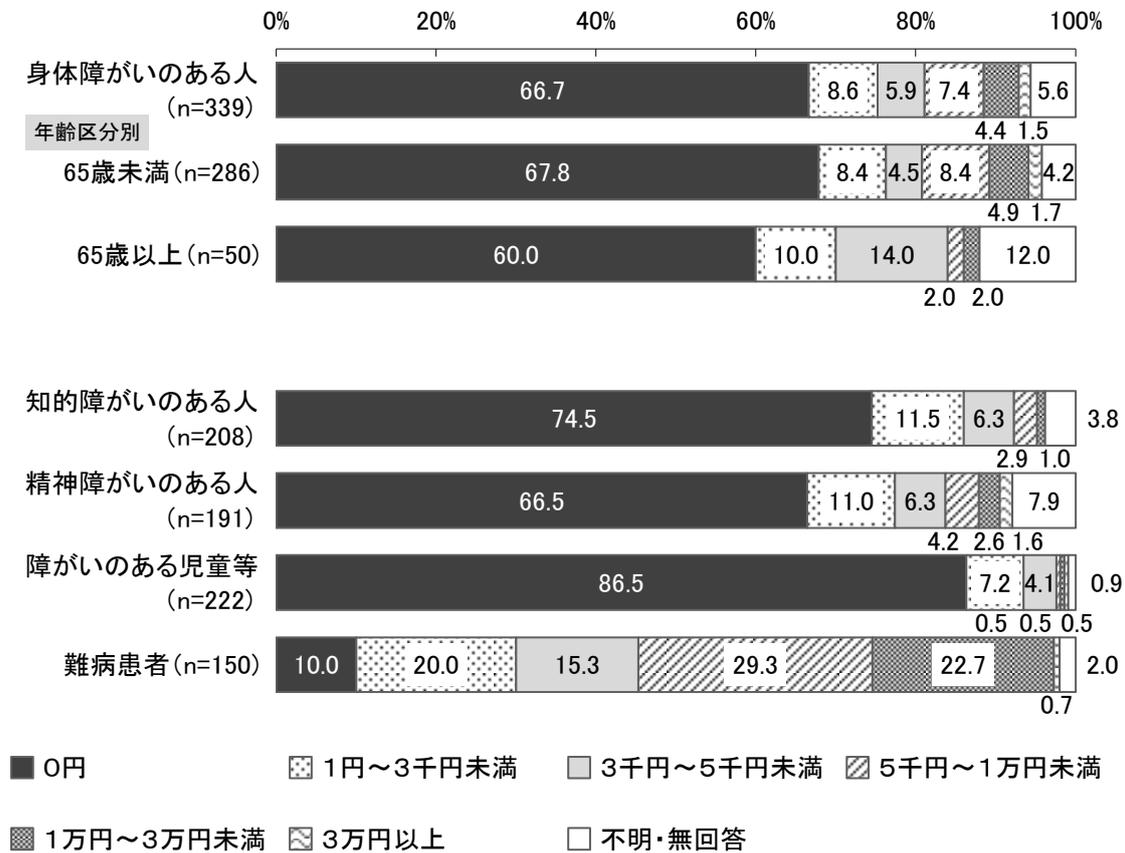
障がいのある人等すべてで「月に1回程度」が最も高くなっています。なお、「通院していない」が知的障がいのある人で約3割と、他の障がい等に比べて高くなっています。



(56) 風邪、歯の治療などすべての医療費は、1か月あたりいくら負担していますか。

身体問 35、知的問 35、精神問 37、児童問 41、難病問 31

難病患者で「5千円～1万円未満」が、その他の障がいのある人等で「0円」が、それぞれ最も高くなっています。



(57) 医療について、困ったことや不便に思ったことがありますか。(複数回答)

身体問 36、知的問 36、精神問 38、児童問 42、難病問 32

「特に困ったことはない」を除き、身体障がいのある人全体、知的障がいのある人、精神障がいのある人及び障がいのある児童等で「障がいに配慮してもらえない」「障がい(疾病)のため症状を正確に伝えられない」が、難病患者で「医療費の負担が大きい・できない」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

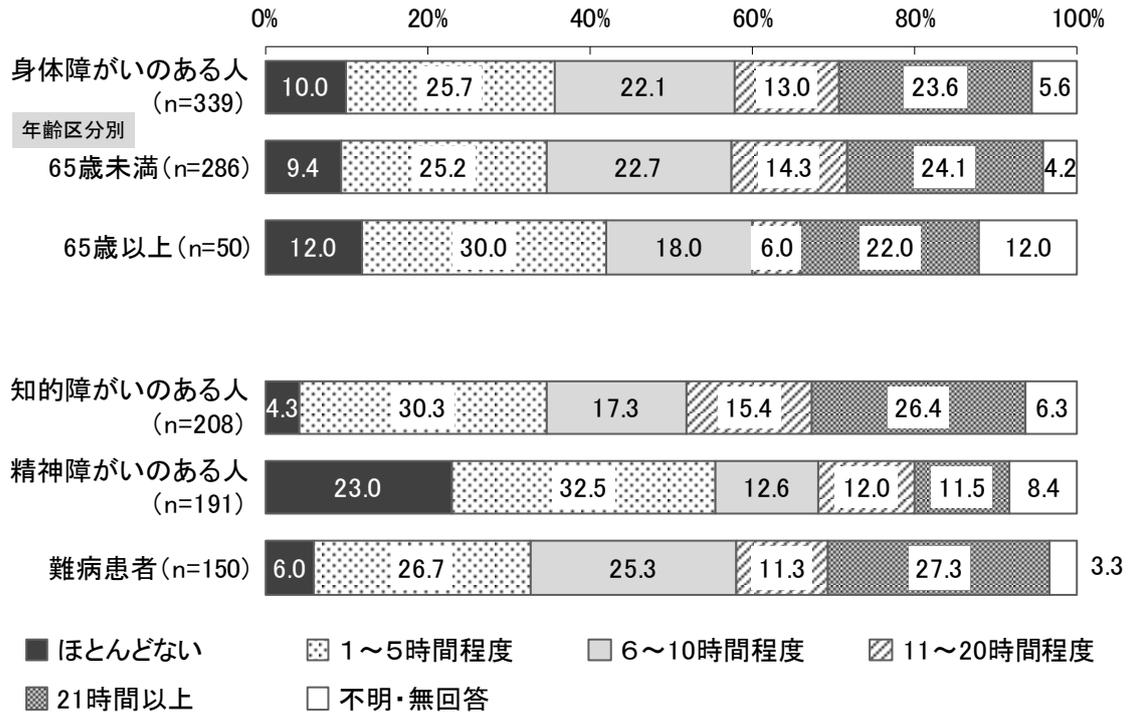
区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
	65歳未満	65歳以上					
n=	339	286	50	208	191	222	150
1位	特に困ったことはない (68.1)	特に困ったことはない (69.9)	特に困ったことはない (60.0)	特に困ったことはない (46.6)	特に困ったことはない (47.1)	特に困ったことはない (54.5)	特に困ったことはない (48.7)
2位	障がいのため症状を正確に伝えられない (6.8)	障がいに配慮してもらえない 障がいのため症状を正確に伝えられない (各6.3)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない 障がいのため症状を正確に伝えられない (各10.0)	障がいのため症状を正確に伝えられない (33.7)	障がいのため症状を正確に伝えられない (15.2)	障がいに配慮してもらえない 障がいのため症状を正確に伝えられない (各16.2)	医療費の負担が大きい・できない (37.3)
3位	障がいに配慮してもらえない (6.5)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない 気軽に往診を頼める医師がいない (各5.2)	障がいに配慮してもらえない (8.0)	障がいに配慮してもらえない (10.1)	その他 (10.5)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない その他 (各12.2)	障がいに配慮してもらえない (10.0)
4位	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない (6.2)	医療費の負担が大きい・できない (4.5)	気軽に往診を頼める医師がいない その他 (各6.0)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない (9.6)	障がいに配慮してもらえない 気軽に往診を頼める医師がいない (各9.4)	気軽に往診を頼める医師がいない (5.0)	その他 (6.7)
5位	気軽に往診を頼める医師がいない (5.3)	その他 (3.5)	医療費の負担が大きい・できない (2.0)	障がいが重度でいつも介護を必要とするため、入院できない (6.7)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない (8.9)	医療費の負担が大きい・できない (0.9)	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない 気軽に往診を頼める医師がいない 障がいのため症状を正確に伝えられない (各3.3)

6. 余暇活動について

(58) 1週間のうちに自分の楽しみに使う時間はどれくらいありますか。

身体問 37、知的問 37、精神問 39、難病問 33

難病患者では「21時間以上」が、その他障がいのある人等は「1～5時間程度」が、それぞれ最も高くなっています。



(59) 自分の楽しみに使う時間をどのように過ごしていますか。(複数回答)

身体問 38、知的問 38、精神問 40、難病問 34

障がいのある人すべてで「テレビを見る」が最も高く、次いで難病患者は「スマートフォンを見る」、その他の障がいのある人等は「買い物に行く」となっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	65歳未満	65歳以上				
n=	339	286	50	208	191	150
1位	テレビを見る (61.4)	テレビを見る (61.9)	テレビを見る (60.0)	テレビを見る (55.3)	テレビを見る (43.5)	テレビを見る (61.3)
2位	買い物に行く (35.1)	買い物に行く (37.4)	買い物に行く (24.0)	買い物に行く (37.5)	買い物に行く (29.3)	スマートフォンを見る (38.0)
3位	スマートフォンを見る (26.0)	スマートフォンを見る (29.4)	読書をする (22.0)	音楽を聴く (29.8)	スマートフォンを見る (20.9)	買い物に行く (37.3)
4位	音楽を聴く (18.9)	音楽を聴く (20.6)	散歩をする (18.0)	ゲームをする (28.8)	散歩をする (17.8)	友人と会う (26.7)
5位	散歩をする (18.0)	散歩をする (18.2)	その他 (12.0)	スマートフォンを見る (26.4)	その他 (16.8)	ゲームをする (16.0)

(60) 自分の楽しみに使う時間を、今後どのように過ごしたいですか。(複数回答)

身体問 39、知的問 39、精神問 41、難病問 35

全体的には、「テレビを見る」「旅行をする」「買い物に行く」「友人と会う」が上位となっています。

(単位：%)

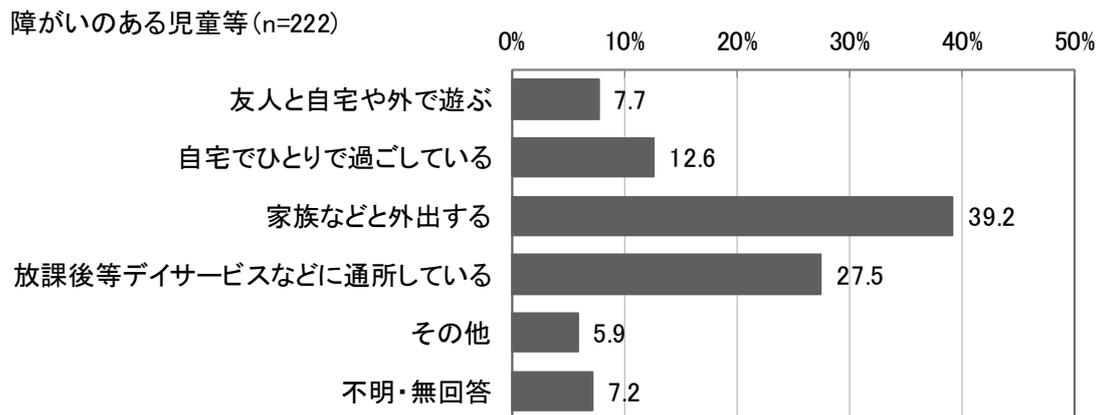
区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者
	65歳未満	65歳以上				
n=	339	286	50	208	191	150
1位	旅行をする (38.1)	旅行をする (42.7)	テレビを見る (48.0)	テレビを見る (44.7)	テレビを見る (31.4)	旅行をする (45.3)
2位	テレビを見る (32.7)	買い物に行く (31.8)	散歩をする (28.0)	買い物に行く (38.9)	買い物に行く (30.4)	友人と会う (44.0)
3位	買い物に行く (30.4)	友人と会う (30.8)	買い物に行く (24.0)	旅行をする (30.3)	友人と会う (20.4)	買い物に行く (34.0)
4位	友人と会う (28.0)	テレビを見る (30.1)	レストラン、喫茶店に行く (18.0)	音楽を聴く (25.0)	散歩をする (19.9)	テレビを見る (22.7)
5位	散歩をする (23.6)	散歩をする (23.1)	その他 (16.0)	散歩をする ゲームをする (各 20.7)	運動をする (16.8)	運動をする (22.0)

(61) お子さんは、放課後や休日など自由な時間をどのように過ごしていますか。

児童問 43

障がいのある児童等全体で、「家族などと外出する」が最も高く、次いで「放課後等デイサービスなどに通所している」となっています。

手帳別では、精神障がい者保健福祉手帳所持者で「自宅でひとりで過ごしている」が、その他の手帳所持者及び手帳は持っていない人で「家族などと外出する」が、それぞれ最も高くなっています。



■障がいのある児童等・手帳別クロス

(単位：%)

区分	n=	友人と自宅や外で遊ぶ	自宅でひとりで過ごしている	家族などと外出する	放課後等デイサービスなどに通所している	その他	不明・無回答
身体障がい者手帳	33	3.0	21.2	39.4	21.2	6.1	9.1
療育手帳	121	3.3	14.0	38.0	34.7	5.0	5.0
精神障がい者保健福祉手帳	15	13.3	33.3	20.0	-	20.0	13.3
手帳は持っていない	47	19.1	4.3	42.6	23.4	2.1	8.5

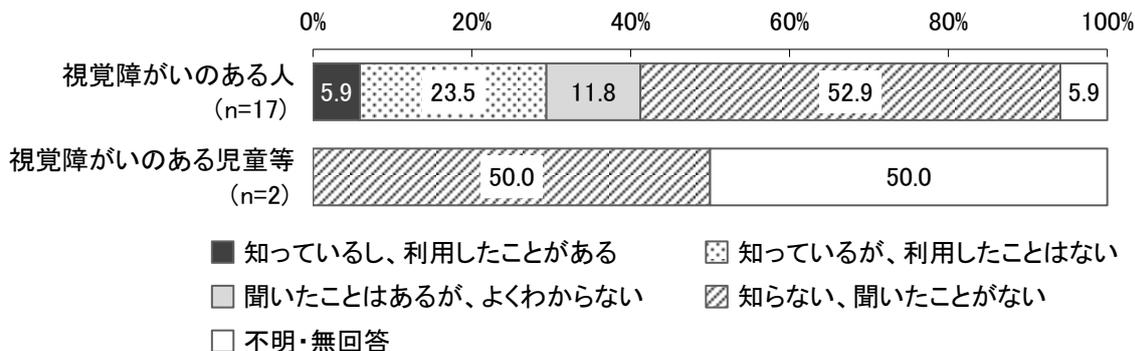
※障がい別には、「身体障がい者手帳」と「療育手帳」の重複者12名、「身体障がい者手帳」と「精神障がい者保健福祉手帳」の重複者1名をそれぞれ含みます。

(62) 市の図書館に、点字図書やDAISY(デージー)図書のほかに、大活字図書があるのを知っていますか。

※視覚障がいのある方と視覚障がいのある児童等に聞きました

身体問 40、児童問 44

視覚障がいのある人で「知っているし、利用したことがある」は1割未満であり、「知らない、聞いたことがない」が約5割となっています。

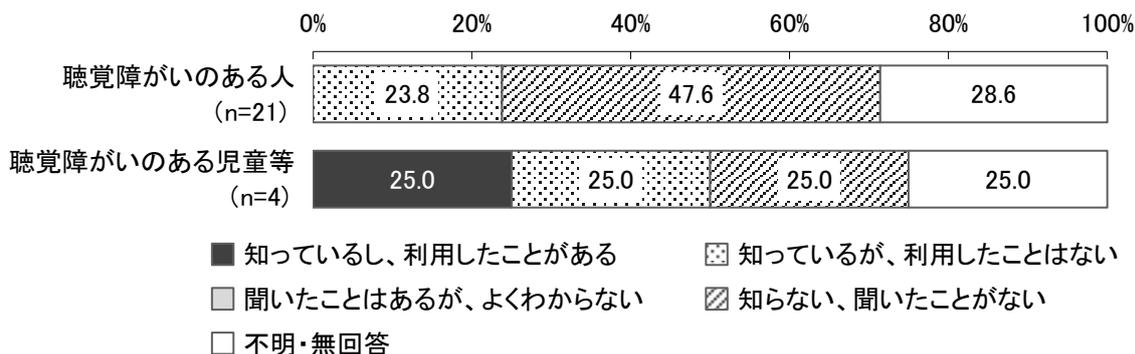


(63) 補聴システム(磁気誘導ループシステム、赤外線補聴システム、FM補聴システムなど)を知っていますか。

※聴覚障がいのある方と聴覚障がいのある児童等に聞きました

身体問 41、児童問 45

聴覚障がいのある人で「知っているし、利用したことがある」は0%であり、「知らない、聞いたことがない」が約5割となっています。

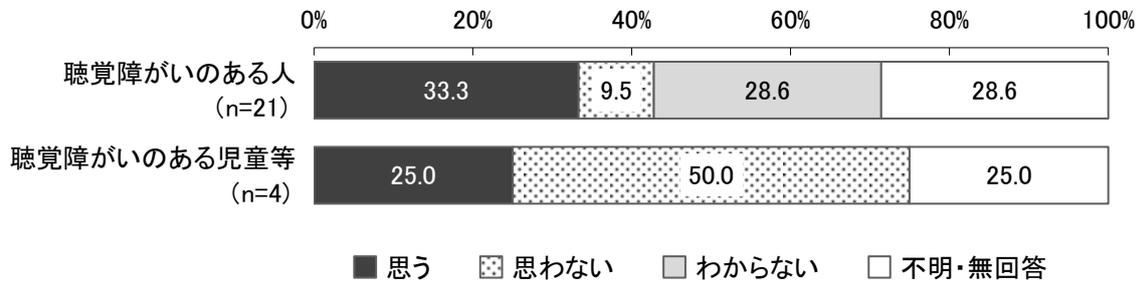


(64) 講演会などで音声の聞きとりを良くするために、補聴システムを利用したいと思いますか。

※聴覚障がいのある方と聴覚障がいのある児童等に聞きました

身体問 42、児童問 46

聴覚障がいのある人で「思う」は約3割となっています。



7. 仕事や働くこと等について

(65) 現在の仕事などの状況について

身体問 43、知的問 40、精神問 42、難病問 36

身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「働いていない」が、知的障がいのある人及び難病患者で「フルタイムで働いている」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	フルタイムで働いている	パート・アルバイト等で短時間の仕事をしている	自営業で働いている	職業の訓練施設に通っている、または就労移行支援事業所を利用している	就労継続支援A型事業所を利用している	就労継続支援B型事業所を利用している	生活介護や地域活動支援センターで生産活動を行っている	自宅の家事をしている(主婦、主夫、家事の手伝い)	その他	働いていない	不明・無回答
身体障がいのある人	339	24.8	12.1	5.0	0.3	-	0.3	-	9.4	0.6	37.2	10.3
65歳未満	286	29.0	13.6	5.9	0.3	-	0.3	-	10.5	0.7	34.3	5.2
65歳以上	50	-	4.0	-	-	-	-	-	4.0	-	56.0	36.0
知的障がいのある人	208	25.5	11.5	-	2.4	4.8	14.4	11.5	3.8	0.5	12.5	13.0
精神障がいのある人	191	6.8	4.2	1.6	1.0	1.6	4.2	1.0	16.2	-	49.2	14.1
難病患者	150	32.7	20.0	8.0	-	-	0.7	-	14.7	0.7	20.0	3.3

参考：令和元年度調査結果

(単位：%)

区分	n=	正社員として働いている	パート・アルバイトで短時間の仕事をしている	自営業で働いている	職業の訓練施設に通っている、または就労移行支援事業所を利用している	就労継続支援A型事業所を利用している	就労継続支援B型事業所を利用している	生活介護や地域活動支援センターで生産活動を行っている	自宅の家事をしている(主婦、主夫、家事の手伝い)	その他	働いていない	不明・無回答
身体障がいのある人	373	8.0	4.6	4.3	-	0.3	0.8	0.5	15.5	1.3	49.3	15.3
65歳未満	84	31.0	11.9	3.6	-	1.2	1.2	2.4	9.5	2.4	29.8	7.1
65歳以上	283	1.4	2.5	4.6	-	-	0.7	-	17.0	1.1	55.8	17.0
知的障がいのある人	216	13.0	15.3	0.5	1.9	1.9	17.1	16.2	1.4	1.4	19.4	12.0
精神障がいのある人	206	9.7	16.5	1.9	2.9	2.4	5.3	0.5	11.7	0.5	36.4	12.1
難病患者	162	17.3	16.0	3.1	-	0.6	-	-	17.3	-	41.4	4.3

(66) 以前は働いていましたか。(複数回答)

※ (65) で「働いていない」と答えた方に聞きました

身体問 44、知的問 41、精神問 43、難病問 37

知的障がいのある人で「働いたことはない」が、その他の障がい等のある人で「フルタイムで働いていた」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

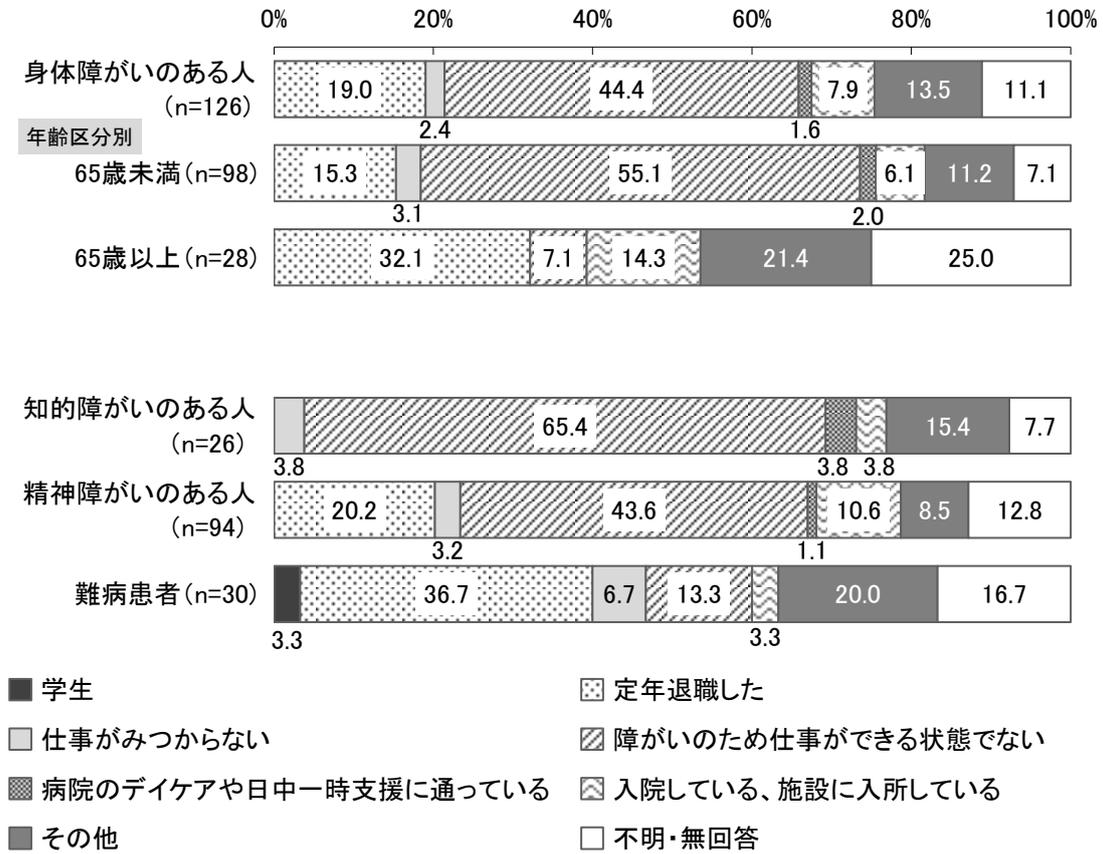
区分	n=	フルタイムで働いていた	パート・アルバイト等で短時間働いていた	自営業で働いていた	職業の訓練施設に通っていた、または就労移行支援事業所を利用していた	就労継続支援A型事業所を利用していた	就労継続支援B型事業所を利用していた	就労定着支援を利用していた	その他	働いたことはない	不明・無回答
身体障がいのある人	126	57.1	23.0	9.5	-	-	0.8	-	2.4	13.5	5.6
65歳未満	98	61.2	24.5	8.2	-	-	1.0	-	1.0	13.3	3.1
65歳以上	28	42.9	17.9	14.3	-	-	-	-	7.1	14.3	14.3
知的障がいのある人	26	19.2	11.5	-	3.8	-	-	-	3.8	65.4	-
精神障がいのある人	94	46.8	35.1	7.4	-	-	-	-	3.2	11.7	5.3
難病患者	30	50.0	36.7	3.3	-	-	-	-	6.7	13.3	-

(67) 現在、働いていない理由は何ですか。

※ (65) で「働いていない」と答えた方に聞きました

身体問 45、知的問 42、精神問 44、難病問 38

難病患者で「定年退職した」が、その他の障がいのある人で「障がいのため仕事ができる状態でない」が、それぞれ最も高くなっています。

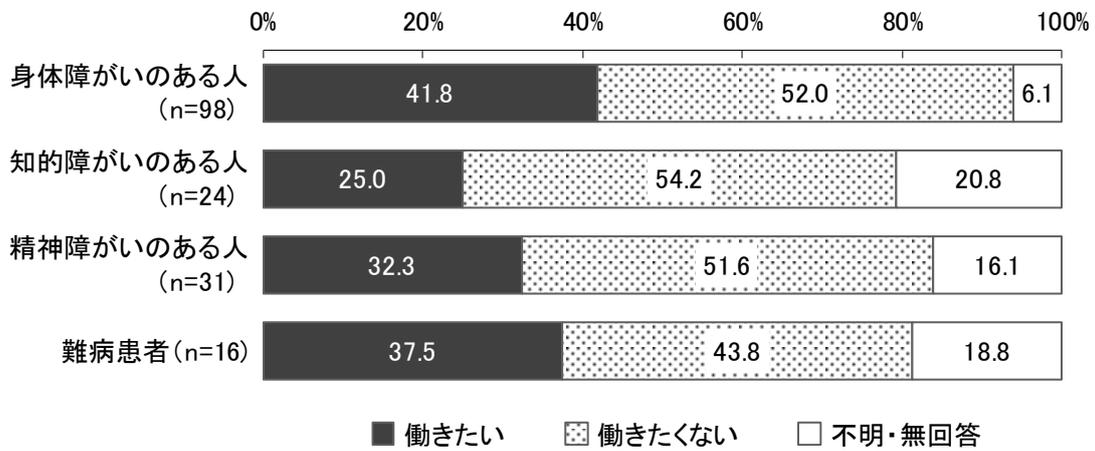


(68) 今後働きたいと思いますか。

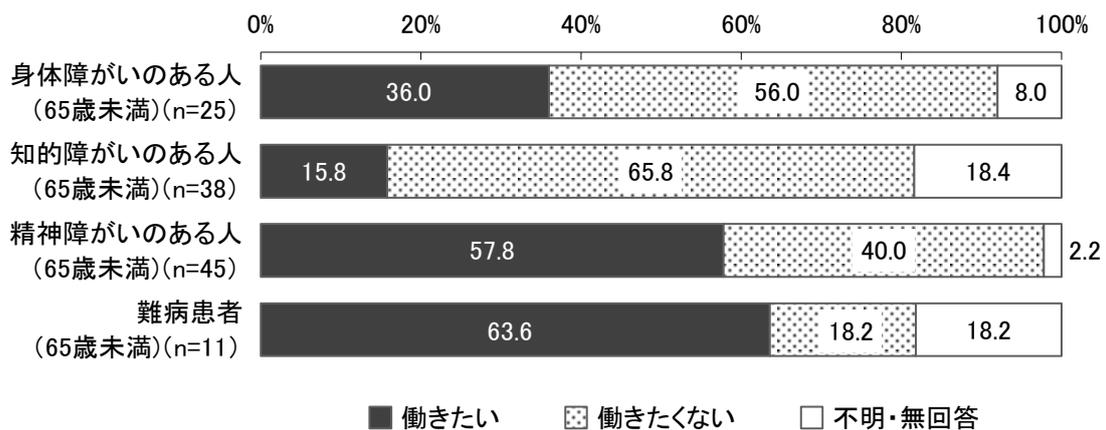
※ (65) で「働いていない」と答えた方で、年齢が 65 歳未満の方に聞きました

身体問 46、知的問 43、精神問 45、難病問 39

「働きたい」が、身体障がいのある人及び難病患者でそれぞれ約 4 割となっています。



参考：令和元年度調査結果



(69) どのような支援や配慮があったら働けると思いますか。(複数回答)

※ (65) で「働いていない」と答えた方で、年齢が 65 歳未満の方に聞きました

身体問 47、知的問 44、精神問 46、難病問 40

「特に必要ない」を除き、身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「障がいに応じて短時間の就労などができること」が、知的障がいのある人で「職場の人たちが障がいのことを理解すること」が、難病患者で「障がいに応じて短時間の就労などができること」「職場の人たちが障がいのことを理解すること」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	会社などで働くための指導や訓練	障がいに応じて短時間の就労などができること	職場に障がいに応じた設備があること	職場の人たちが障がいのことを理解すること	職場内で相談をする人がいること	通勤する方法や通勤の手助け(介助等)があること	仕事や職場に慣れるまで、助けてくれる人がいること	仕事の悩みを相談できる専門的な施設や人がいること	仕事以外の悩み(生活リズムや体調の管理、給料の使い方)について相談できること	その他	特に必要ない	不明・無回答
身体障がいのある人	98	5.1	39.8	20.4	25.5	7.1	13.3	10.2	3.1	4.1	8.2	25.5	13.3
知的障がいのある人	24	-	20.8	16.7	33.3	16.7	12.5	20.8	16.7	8.3	12.5	33.3	8.3
精神障がいのある人	31	6.5	35.5	3.2	29.0	12.9	9.7	19.4	9.7	3.2	16.1	22.6	12.9
難病患者	16	12.5	37.5	6.3	37.5	18.8	-	6.3	12.5	6.3	-	18.8	18.8

(70) 現在の仕事について不安や不満はありますか。(複数回答)

※ (65) で「フルタイム、パート・アルバイト等、自営業として働いている」と答えた方に聞きました

身体問 48、知的問 45、精神問 47、難病問 41

「特にない」を除き、知的障がいのある人で「職場まで通うのが大変」「収入・手当が少ない」が、その他の障がい等のある人で「収入・手当が少ない」が、それぞれ最も高くなっています。

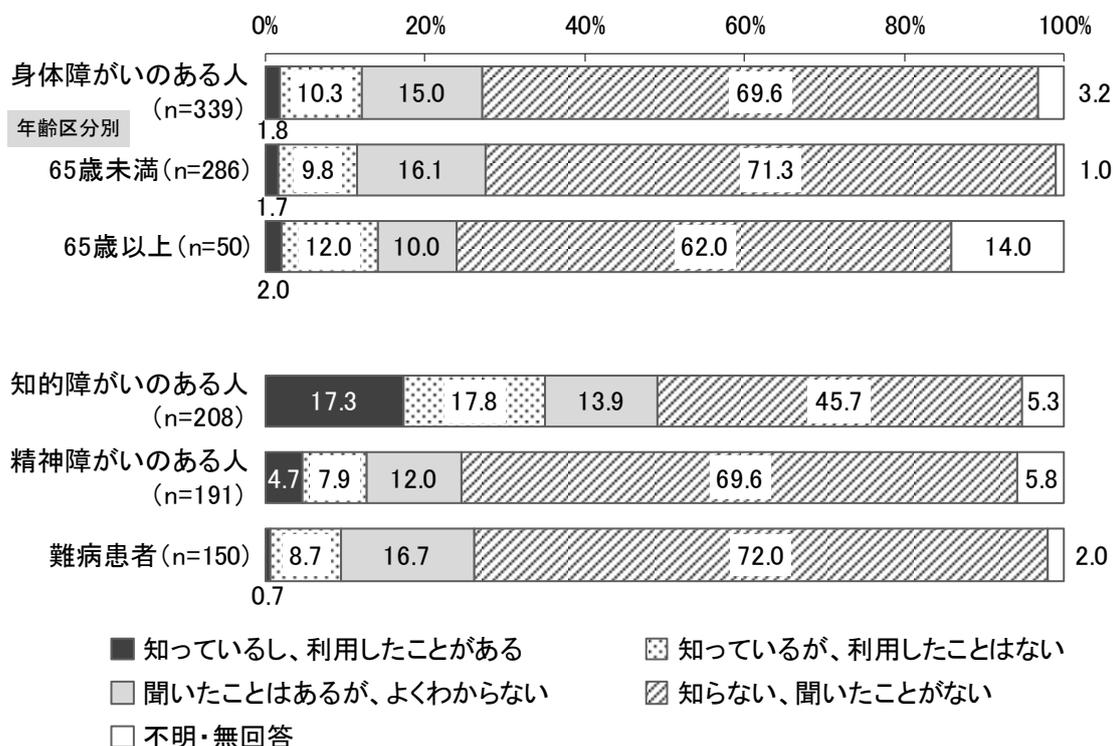
(単位：%)

区分	身体障がいのある人		知的障がいのある人	精神障がいのある人	難病患者	
	65歳未満	65歳以上				
n=	142	139	2	77	24	91
1位	特にない (43.0)	特にない (42.4)	職場まで通うのが大変 特にない (各 50.0)	特にない (39.0)	特にない (41.7)	特にない (41.8)
2位	収入・手当が少ない (21.8)	収入・手当が少ない (22.3)	職場まで通うのが大変 収入・手当が少ない (各 20.8)	収入・手当が少ない (25.0)	収入・手当が少ない (26.4)	収入・手当が少ない (26.4)
3位	職場まで通うのが大変 (19.0)	職場まで通うのが大変 (18.7)	いつ職場をやめさせられるか不安である (14.3)	職場まで通うのが大変 仕事が自分にとって難しい (各 20.8)	勤務時間が長い (15.4)	
4位	職場で障がいに対する理解が進んでいない (11.3)	職場で障がいに対する理解が進んでいない (11.5)	職場に言葉の暴力やいじめがある (11.7)	職場で障がいに対する理解が進んでいない (16.7)	いつ職場をやめさせられるか不安である (12.1)	
5位	いつ職場をやめさせられるか不安である (10.6)	いつ職場をやめさせられるか不安である (10.8)	職場の人と仲良くできない 職場に相談する人がいない 勤務時間が長い (各 10.4)	いつ職場をやめさせられるか不安である 職場に相談する人がいない 仕事以外の悩み(生活リズムや体調の管理、給料の使い方)が生じている (各 12.5)	仕事以外の悩み(生活リズムや体調の管理、給料の使い方)が生じている 職場で障がいに対する理解が進んでいない (各 7.7)	

(71) 就業・生活支援センター(尾張北部障害者就業・生活支援センターようわ)について知っていますか。また、利用したことはありますか。

身体問 49、知的問 46、精神問 48、難病問 42

「知っているし、利用したことがある」が、知的障がいのある人で約2割と、その他の障がい等のある人と比べて高くなっているものの、「知らない、聞いたことがない」が、障がい等のあるすべての人で最も高くなっています。

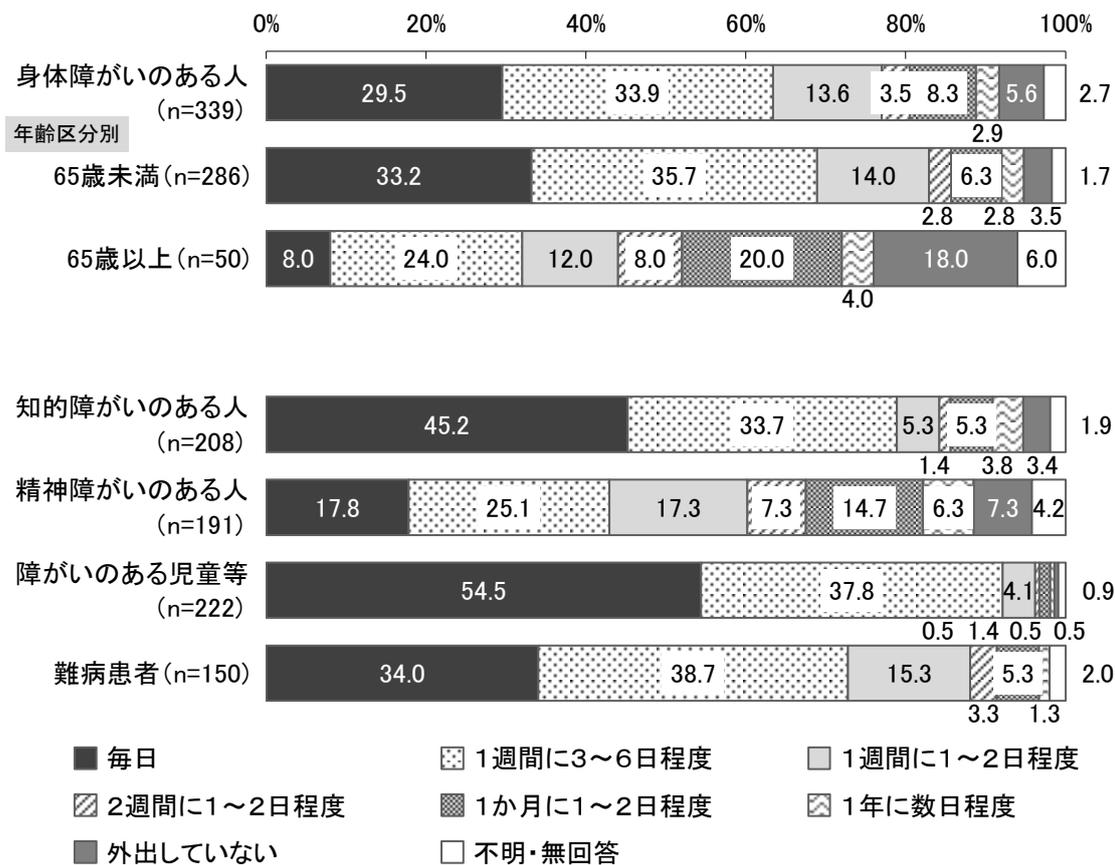


8. 生活環境について

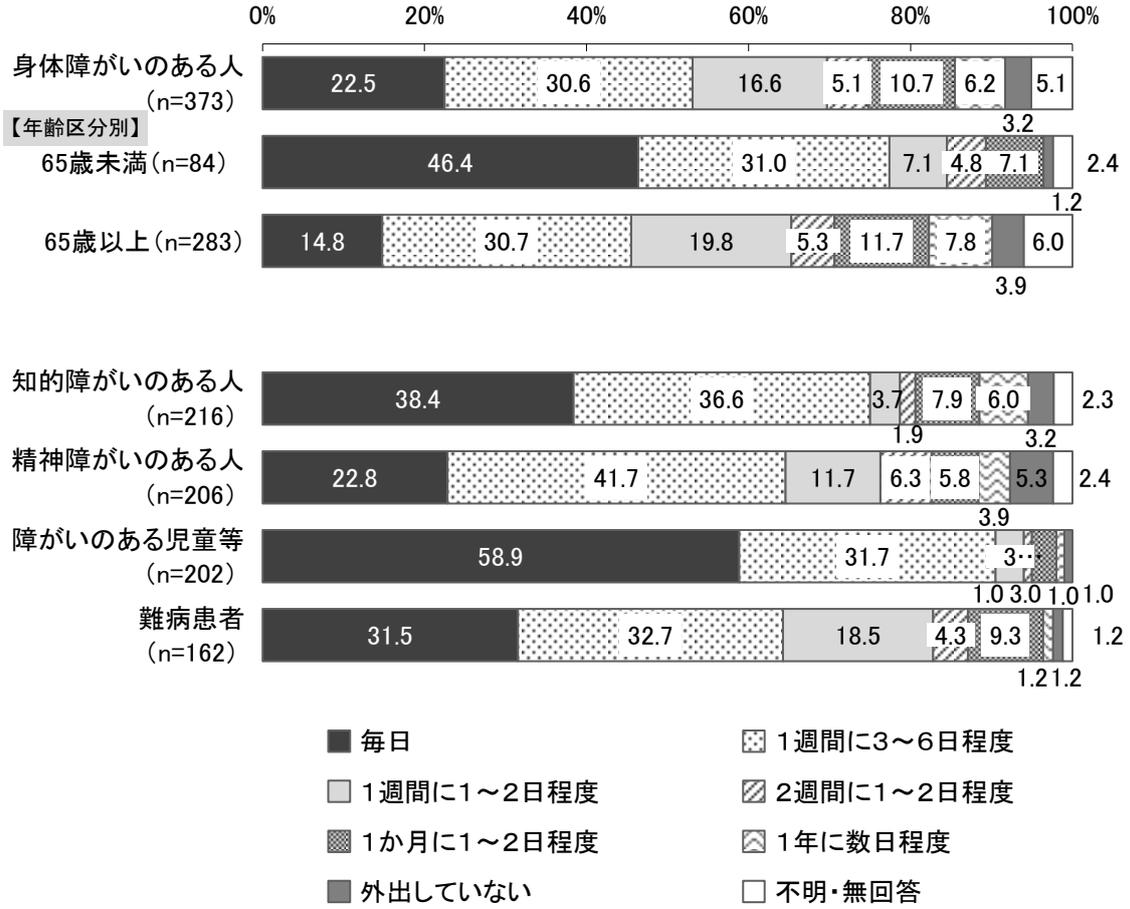
(72) この1年(令和3年 10月1日～令和4年9月 30日)のあいだにどの程度外出(通勤・通学・通院を含む)しましたか。

身体問 50、知的問 47、精神問 49、児童問 47、難病問 43

精神障がいのある人を除き、「毎日」「1週間に3～6日程度」の合計が6割を超えています。



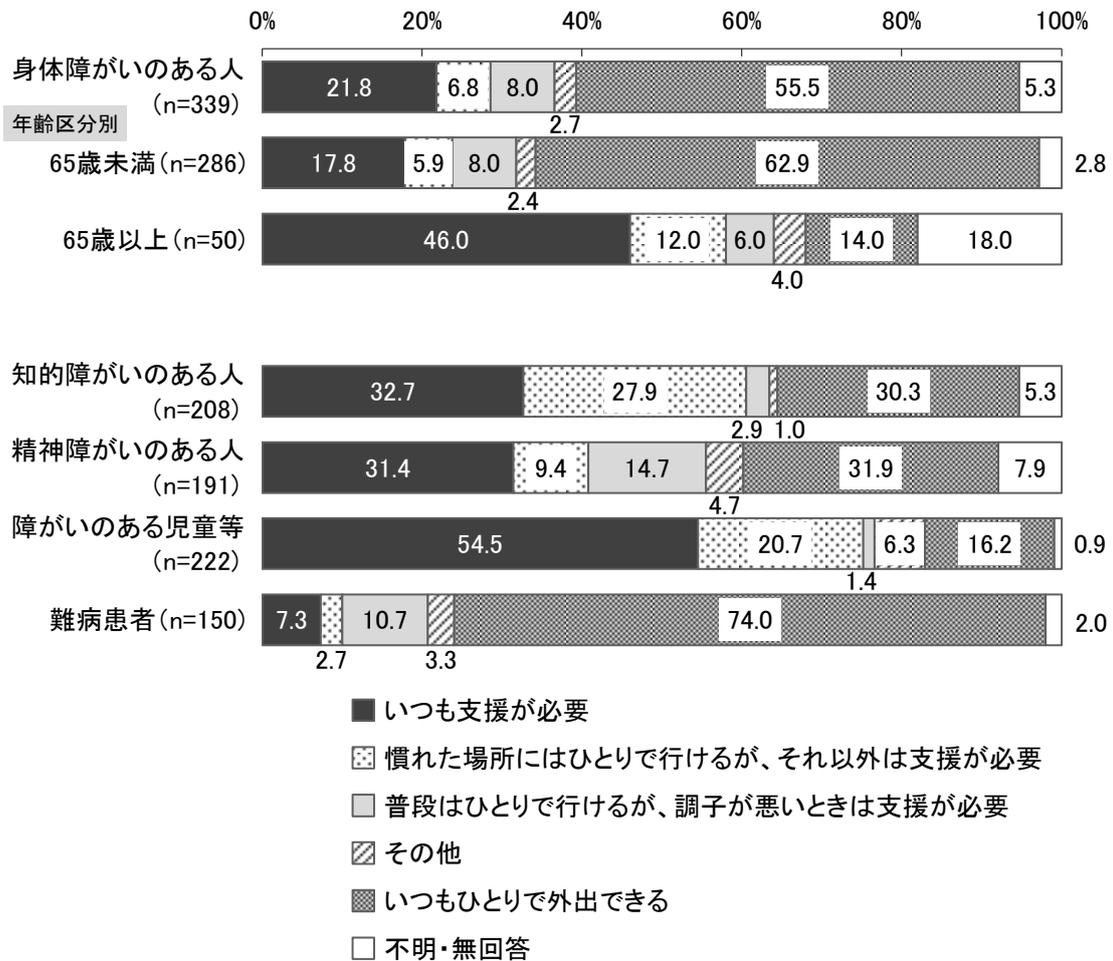
参考：令和元年度調査結果



(73) 外出をするときに支援は必要ですか。

身体問 51、知的問 48、精神問 50、児童問 48、難病問 44

身体障がいのある人の 65 歳以上及び障がいのある児童等で「いつも支援が必要」が 5 割前後と、その他の障がい等に比べて高くなっています。



(74) ひとりで外出できない場合、どのように外出していますか。(複数回答)

※ (73) で「いつもひとりで外出できる」と答えた方以外に聞きました

身体問 52、知的問 49、精神問 51、児童問 49、難病問 45

精神障がいのある人を除き、「家族に付き添ってもらっている」がそれぞれ7割を超えて高くなっています。なお、知的障がいのある人で「福祉サービス（移動支援、行動援護、同行援護、重度訪問介護など）を利用している」が約2割と、他の障がい等のある人と比べて高くなっています。

(単位：%)

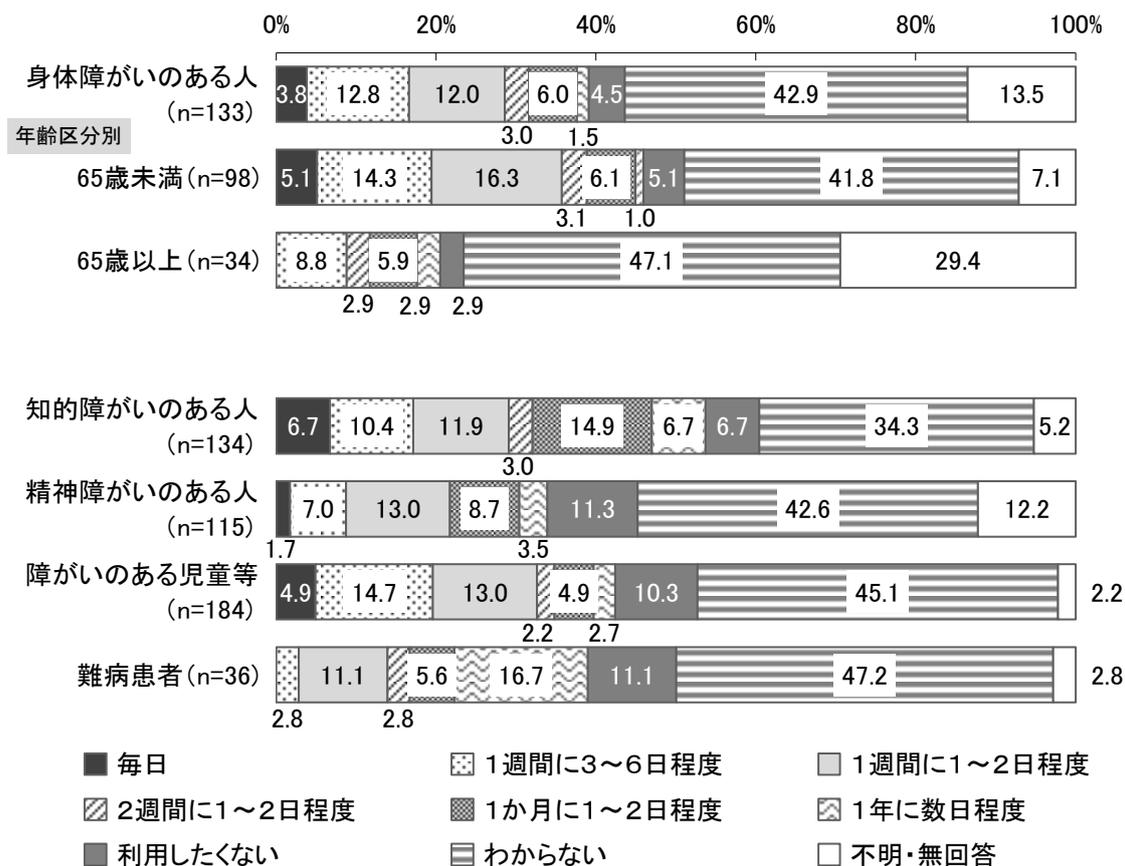
区分	n=	福祉サービス（移動支援、行動援護、同行援護、重度訪問介護など）を利用している	有料サービス（福祉タクシー、介護タクシー、有償運送など）を利用している	事業所などの送迎を利用している	家族に付き添ってもらっている	友人や知人、ボランティア等に付き添ってもらっている	その他	外出していない	不明・無回答
身体障がいのある人	133	7.5	14.3	18.0	76.7	3.8	3.0	6.8	3.0
知的障がいのある人	134	23.9	3.7	26.9	80.6	3.0	-	3.0	3.0
精神障がいのある人	115	5.2	9.6	9.6	68.7	1.7	5.2	13.0	4.3
障がいのある児童等	184	2.2	1.1	26.1	91.3	4.3	2.2	3.8	2.2
難病患者	36	-	13.9	5.6	72.2	8.3	5.6	8.3	-

(75) 通勤・通学以外で外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか。

※ (73) で「いつもひとりで外出できる」と答えた方以外に聞きました

身体問 53、知的問 50、精神問 52、児童問 50、難病問 46

「わからない」を除き、身体障がいのある人、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で『週1日以上』（「毎日」「1週間に3～6日程度」「1週間に1～2日程度」の合計）が、他の障がい等に比べて高くなっています。



9. 情報の入手手段について

(76) 福祉などの情報(県や市が行う福祉サービスやイベント、法律・制度のことなど)を得る手段は何ですか。(複数回答)

身体問 54、知的問 51、精神問 53、児童問 51、難病問 47、一般問 28※

身体障がいのある人全体及び障がいのある児童等では「携帯電話・スマートフォン」が、知的障がいのある人では「施設や事業所」が、精神障がいのある人及び難病患者では「市の広報」が、それぞれ最も高くなっています。なお、障がいのない人では「市の広報」が約5割と、最も高くなっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人※
	65歳未満	65歳以上						
n=	339	286	50	208	191	222	150	215
1位	携帯電話・スマートフォン (35.7)	携帯電話・スマートフォン (41.6)	家族 (38.0)	施設や事業所 (30.3)	市の広報 (27.7)	携帯電話・スマートフォン (52.3)	市の広報 (47.3)	市の広報 (52.6)
2位	市の広報 (27.7)	市の広報 (29.4)	新聞・雑誌・一般図書 (24.0)	市の広報 家族 (各 29.8)	テレビ(一般放送) (23.0)	施設や事業所 (41.9)	携帯電話・スマートフォン (41.3)	テレビ (38.6)
3位	新聞・雑誌・一般図書 (24.8)	新聞・雑誌・一般図書 (25.2)	市の広報 (20.0)	携帯電話・スマートフォン (14.9)	新聞・雑誌・一般図書 家族 (各 21.5)	市の広報 (29.7)	新聞・雑誌・一般図書 (24.0)	SNSなどのソーシャルメディア (30.7)
4位	家族 (17.4)	パソコン (16.8)	施設や事業所 特にな (各 16.0)	テレビ(一般放送) (13.9)	特にな (15.7)	同じサービスを利用している仲間 (23.0)	パソコン (22.0)	ホームページ (27.9)
5位	パソコン (14.7)	家族 (14.0)	テレビ(一般放送) テレビ(手話放送・字幕放送) (各 14.0)	新聞・雑誌・一般図書 (13.0)	携帯電話・スマートフォン (15.2)	市・県の福祉サービスガイド (15.8)	家族 (13.3)	新聞・雑誌・一般図書 (24.2)

※障がいのない人は、選択肢が異なります。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人			知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいの ある児童等	難病患者	障がいの ない人
	65歳未満	65歳以上						
n=	373	84	283	216	206	202	162	262
1位	市の広報 (44.2)	市の広報 (41.7)	市の広報 (45.2)	施設や事業 所 (39.8)	市の広報 (23.8)	市の広報 (41.1)	市の広報 (53.7)	市の広報 (59.5)
2位	新聞・雑誌・ 一般図書 35.4	新聞・雑誌・ 一般図書 (28.6)	新聞・雑誌・ 一般図書 (37.5)	家族・友人 (32.4)	携帯電話・ スマートフ ォン (22.8)	携帯電話・ スマートフ ォン (35.6)	新聞・雑誌・ 一般図書 (33.3)	テレビ (46.9)
3位	テレビ（一 般放送） (22.0)	パソコン (27.4)	テレビ（一 般放送） (23.0)	市の広報 (31.9)	家族・友人 (19.9)	施設や事業 所 (27.2)	携帯電話・ スマートフ ォン (19.8)	区・町内 会・自治会 の回覧板 (29.0)
4位	区・町内会・ 自治会の回 覧板 (15.8)	携帯電話・ スマートフ ォン (20.2)	区・町内会・ 自治会の回 覧板 (17.3)	新聞・雑誌・ 一般図書 (15.7)	新聞・雑誌・ 一般図書 (18.4)	パソコン (20.8)	テレビ（一 般放送） (19.8)	ホームペ ージ (27.9)
5位	特にな い (12.1)	テレビ（一 般放送） (17.9)	家族・友人 (12.4)	同じサー ビスを利用 している仲 間 (15.3)	特にな い (18.4)	家族・友人 (20.8)	パソコン 区・町内会・ 自治会の回 覧板 (各 19.1)	新聞・雑 誌・一般図 書 (26.7)

※障がいのない人は、選択肢が異なります。

■身体障がいのある人・障がい種別クロス

(単位：%)

区分	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	心臓機能障がい	腎臓機能障がい	その他内部障がい
n=	17	21	14	149	65	58	39
1位	家族 (47.1)	携帯電話・スマートフォン (33.3)	市の広報 (35.7)	携帯電話・スマートフォン (36.9)	新聞・雑誌・一般図書 市の広報 (各 29.2)	携帯電話・スマートフォン (44.8)	携帯電話・スマートフォン (41.0)
2位	市の広報 (23.5)	市の広報 (28.6)	新聞・雑誌・一般図書 (28.6)	市の広報 (28.2)	携帯電話・スマートフォン (27.7)	市の広報 (27.6)	市の広報 (28.2)
3位	テレビ(一般放送) テレビ(手話放送・字幕放送) ラジオ 施設や事業所 (各 17.6)	新聞・雑誌・一般図書 (23.8)	家族 (21.4)	新聞・雑誌・一般図書 (24.2)	パソコン (20.0)	パソコン (24.1)	新聞・雑誌・一般図書 (25.6)
4位	新聞・雑誌・一般図書 携帯電話・スマートフォン (各 11.8)	テレビ(手話放送・字幕放送) (19.0)	テレビ(一般放送) 市・県の福祉サービスガイド 特にな (各 14.3)	家族 (21.5)	家族 (16.9)	テレビ(一般放送) (17.2)	テレビ(一般放送) 特にな (各 17.9)
5位	録音・点字図書 区・町内会・自治会の回覧板 他 3 項目 (各 5.9)	パソコン 特にな (各 14.3)	携帯電話・スマートフォン 区・町内会・自治会の回覧板 他 2 項目 (各 14.8)	パソコン (11.4)	テレビ(一般放送) 特にな (各 13.8)	特にな (12.1)	パソコン 市・県の福祉サービスガイド (各 12.8)

参考：令和元年度調査結果

(単位：%)

区分	視覚障がい	聴覚・平衡機能障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由	心臓機能障がい	腎臓機能障がい	その他内部障がい
n=	16	36	16	163	69	38	54
1位	市の広報 (43.8)	新聞・雑誌・一般図書 (38.9)	新聞・雑誌・一般図書 (37.5)	市の広報 (45.4)	市の広報 (47.8)	市の広報 (39.5)	市の広報 (55.6)
2位	区・町内会・自治会の回覧板 (25.0)	市の広報 (30.6)	市の広報 (37.5)	新聞・雑誌・一般図書 (36.2)	新聞・雑誌・一般図書 (36.2)	新聞・雑誌・一般図書 (34.2)	新聞・雑誌・一般図書 (31.5)
3位	家族・友人 (18.8)	市・県の福祉サービスガイド (16.7)	施設や事業所 (31.3)	テレビ(一般放送) (25.8)	テレビ(一般放送) (23.2)	テレビ(一般放送) (21.1)	テレビ(一般放送) (25.9)
4位	ラジオ (18.8)	テレビ(手話放送・字幕放送) (13.9)	市・県の福祉サービスガイド (18.8)	区・町内会・自治会の回覧板 (16.0)	区・町内会・自治会の回覧板 (20.3)	特にな (18.4)	特にな (14.8)
5位	テレビ(一般放送) 施設や事業所 (各 12.5)	家族・友人 (13.9)	家族・友人 (18.8)	家族・友人 (13.5)	家族・友人 (14.5)	パソコン (15.8)	パソコン 区・町内会・自治会の回覧板 (各 11.1)

(77) あなたは、障がいのある人が生活を送る上で必要な情報を入手するためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

身体問 55、知的問 52、精神問 54、児童問 52、難病問 48

身体障がいのある人及び精神障がいのある人で「特になし」が、知的障がいのある人及び障がいのある児童等で「わかりやすい表現やひらがなによる広報の作成」が、難病患者で「地域のバリアフリーマップ（多機能トイレや安心して通行できる場所を示した地図）の作成」が、それぞれ最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	点字による広報の充実	音声による広報の充実	現やひらがなによる広報の作成	わかりやすい表現やひらがなによる広報の作成	筆談や手話による対応の充実	市役所窓口での筆談や手話による対応の充実	手話通訳者派遣の拡充	要約筆記者派遣の拡充	情報意思疎通支援用具の給付・貸与の拡充
身体障がいのある人	339	10.9	13.6	23.3	13.9	5.9	4.1	12.1		
視覚障がい	17	-	17.6	5.9	11.8	5.9	-	5.9		
聴覚・平衡機能障がい	21	4.8	-	14.3	38.1	9.5	-	14.3		
音声・言語・そしゃく機能障がい	14	7.1	7.1	28.6	7.1	7.1	-	7.1		
肢体不自由	149	11.4	13.4	24.8	12.8	5.4	4.7	14.8		
心臓機能障がい	65	7.7	9.2	21.5	10.8	4.6	3.1	6.2		
腎臓機能障がい	58	10.3	15.5	20.7	8.6	5.2	5.2	10.3		
その他内部障がい	39	23.1	23.1	33.3	17.9	7.7	5.1	17.9		
知的障がいのある人	208	7.7	11.5	35.6	7.7	4.8	3.4	7.2		
精神障がいのある人	191	5.8	9.4	18.8	10.5	4.7	3.7	4.2		
障がいのある児童等	222	17.6	21.2	51.4	25.2	14.0	12.2	18.0		
難病患者	150	11.3	14.7	24.7	16.0	6.0	6.7	14.0		

区分	n=	公共施設や店舗、レストランでのコミュニケーションボードの活用推進	公共施設内のわかりやすい案内(音声・点字・絵など)の充実	まちなかでの案内サイン(音声・点字・絵など)の充実	地域のバリアフリーマップ(多機能トイレや安心して通行できる場所を示した地図)の作成	その他	特になし	不明・無回答
身体障がいのある人	339	16.2	24.5	15.9	28.3	6.5	29.5	10.0
視覚障がい	17	5.9	17.6	11.8	11.8	17.6	29.4	11.8
聴覚・平衡機能障がい	21	28.6	23.8	14.3	23.8	9.5	19.0	-
音声・言語・そしゃく機能障がい	14	-	14.3	21.4	28.6	14.3	21.4	14.3
肢体不自由	149	15.4	25.5	15.4	35.6	5.4	23.5	10.1
心臓機能障がい	65	15.4	15.4	9.2	13.8	4.6	36.9	12.3
腎臓機能障がい	58	15.5	24.1	17.2	27.6	3.4	43.1	8.6
その他内部障がい	39	23.1	43.6	30.8	43.6	7.7	20.5	5.1
知的障がいのある人	208	18.3	20.7	19.7	18.8	10.6	24.0	11.1
精神障がいのある人	191	12.0	19.9	14.7	17.8	9.9	32.5	17.3
障がいのある児童等	222	41.0	46.4	37.4	39.2	8.1	14.0	2.3
難病患者	150	19.3	31.3	27.3	32.0	4.7	21.3	7.3

10. 災害など緊急事態の対応について

(78) 地震などの災害が起こった場合、主に情報を得る手段は何だと思いますか。

身体問 56、知的問 53、精神問 55、児童問 53、難病問 49

障がい等のある人すべてで、「携帯電話・スマートフォン」「テレビ」「家族」がそれぞれ上位となっています。

(単位：%)

区分	n=	家族	近所の人	友人・知人	テレビ	ラジオ	ファックス	パソコン	携帯電話・スマートフォン	その他	自ら情報を得ることはできない	不明・無回答
身体障がいのある人	339	11.2	0.3	0.3	25.1	6.5	-	0.3	32.2	0.3	2.4	21.5
視覚障がい	17	17.6	-	-	23.5	17.6	-	-	-	5.9	17.6	17.6
聴覚・平衡機能障がい	21	19.0	-	4.8	14.3	9.5	-	-	47.6	-	-	4.8
音声・言語・そしゃく機能障がい	14	21.4	-	-	21.4	28.6	-	-	-	-	-	28.6
肢体不自由	149	12.8	-	-	22.8	6.0	-	-	32.2	0.7	3.4	22.1
心臓機能障がい	65	10.8	1.5	-	26.2	6.2	-	-	29.2	-	-	26.2
腎臓機能障がい	58	1.7	-	-	25.9	6.9	-	1.7	39.7	-	-	24.1
その他内部障がい	39	10.3	-	-	38.5	-	-	-	33.3	-	-	17.9
知的障がいのある人	208	35.1	0.5	-	19.2	1.9	-	0.5	14.9	1.0	8.2	18.8
精神障がいのある人	191	14.1	1.0	-	29.8	5.2	-	1.0	17.8	3.1	6.8	20.9
障がいのある児童等	222	21.2	-	0.5	10.8	2.7	-	-	42.3	-	1.4	21.2
難病患者	150	7.3	-	0.7	18.0	2.7	-	0.7	44.0	-	0.7	26.0

※複数回答した人もいます。

参考：令和元年度調査結果

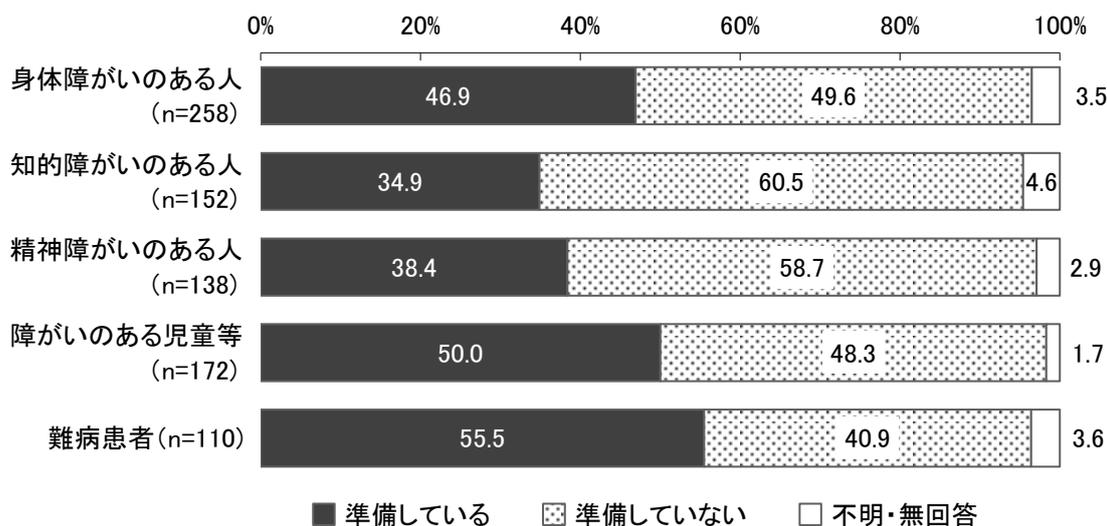
区分	n=	家族、近所の人、友人・知人	テレビ	ラジオ	ファックス	パソコン	携帯電話・スマートフォン	その他	自ら情報を得ることはできない	不明・無回答
身体障がいのある人	373	29.2	50.7	9.9	-	1.3	15.8	2.7	3.8	3.5
視覚障がい	16	31.3	31.3	31.3	-	6.3	6.3	6.3	6.3	-
聴覚・平衡機能障がい	36	41.7	36.1	-	-	-	11.1	5.6	5.6	5.6
音声・言語・そしゃく機能障がい	16	43.8	43.8	12.5	-	-	-	-	12.5	-
肢体不自由	163	29.4	51.5	12.9	-	1.8	17.8	2.5	4.3	3.1
心臓機能障がい	69	27.5	46.4	11.6	-	-	20.3	-	1.4	1.4
腎臓機能障がい	36	23.7	55.3	10.5	-	2.6	7.9	-	7.9	2.6
その他内部障がい	54	25.9	61.1	5.6	-	-	16.7	5.6	1.9	7.4
知的障がいのある人	216	42.1	31.5	6.5	0.5	1.4	14.8	3.2	17.1	1.9
精神障がいのある人	206	19.9	40.3	13.6	-	4.9	32.5	1.5	2.9	3.4
障がいのある児童等	202	25.7	25.2	3.0	0.5	1.0	59.4	0.5	1.5	0.5
難病患者	162	15.4	45.1	13.0	-	1.2	38.3	-	0.6	-

(79) (78)で回答した情報を得る手段について、地震などの災害が起こった場合に利用できるよう準備していますか。

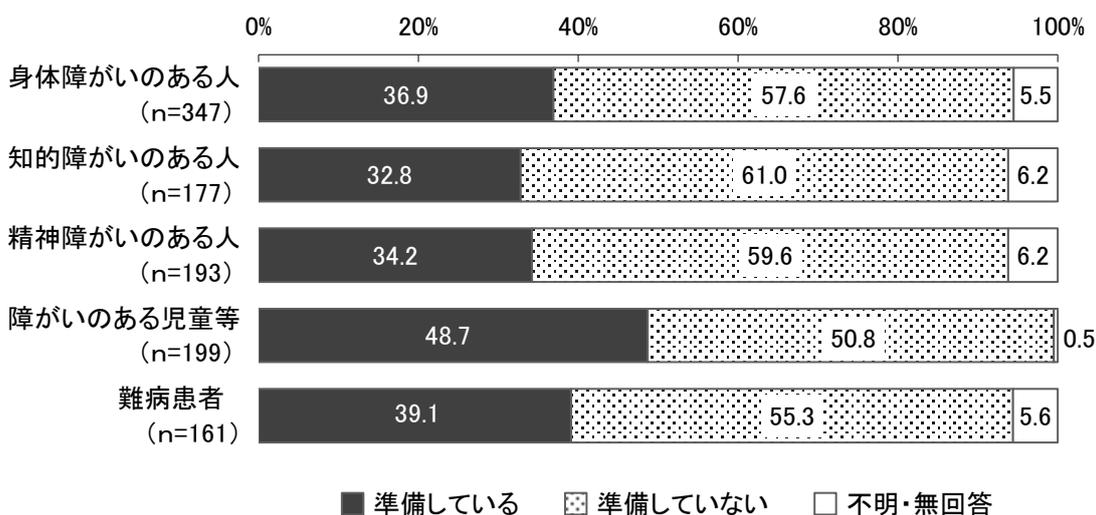
※ (78) で「自ら情報を得ることはできない」と答えた方以外に聞きました

身体問 57、知的問 54、精神問 56、児童問 54、難病問 50

「準備している」は、難病患者で5割強となっているものの、その他の障がいのある人では5割以下となっています。



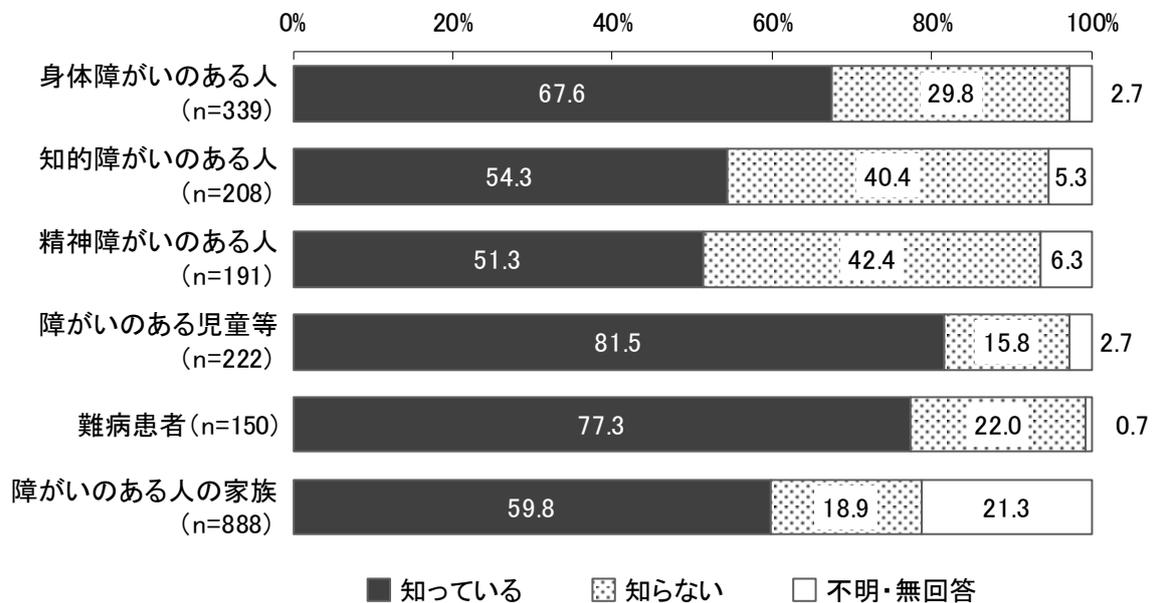
参考：令和元年度調査結果



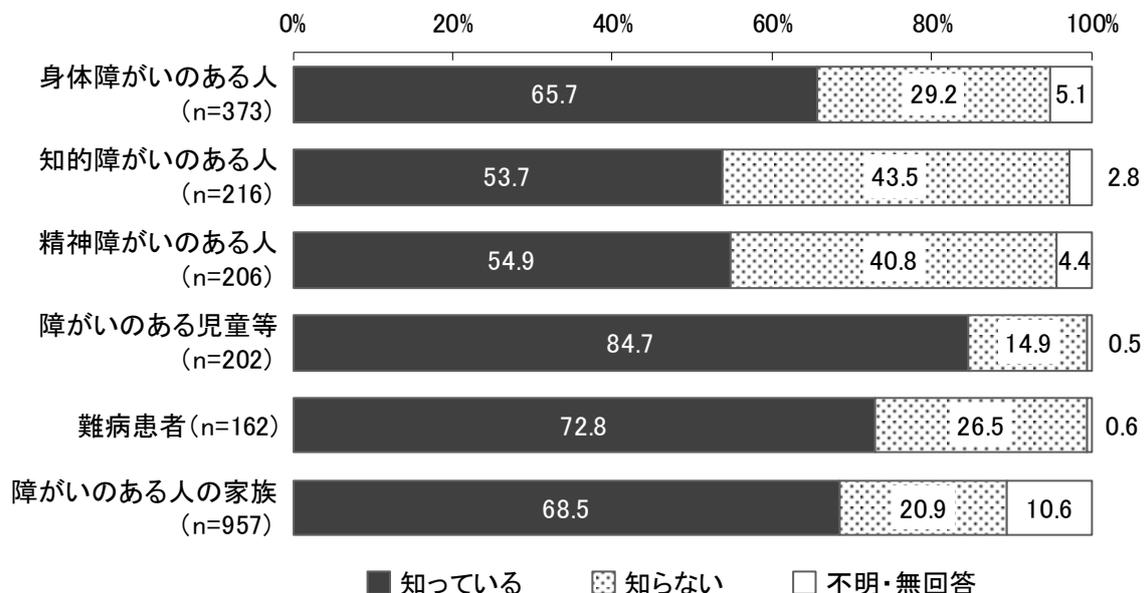
(80) 地震などの災害が起こった場合の避難場所を知っていますか。

身体問 58、知的問 55、精神問 57、児童問 55、難病問 51、家族問 19

「知っている」が、知的障がいのある人及び精神障がいのある人はそれぞれ約5割と、その他の障がい等のある人や障がいのある人の家族と比べて低くなっています。



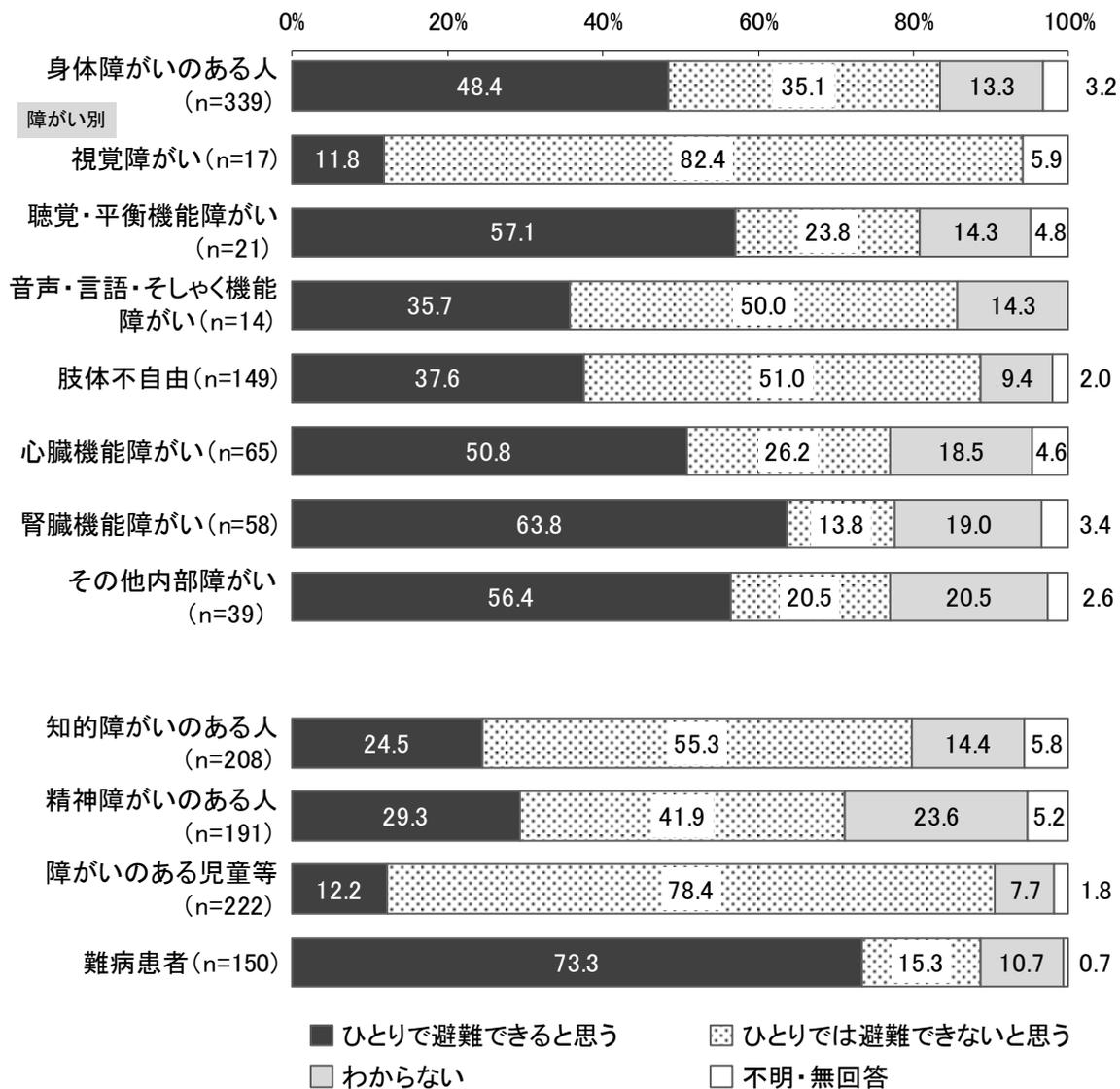
参考：令和元年度調査結果

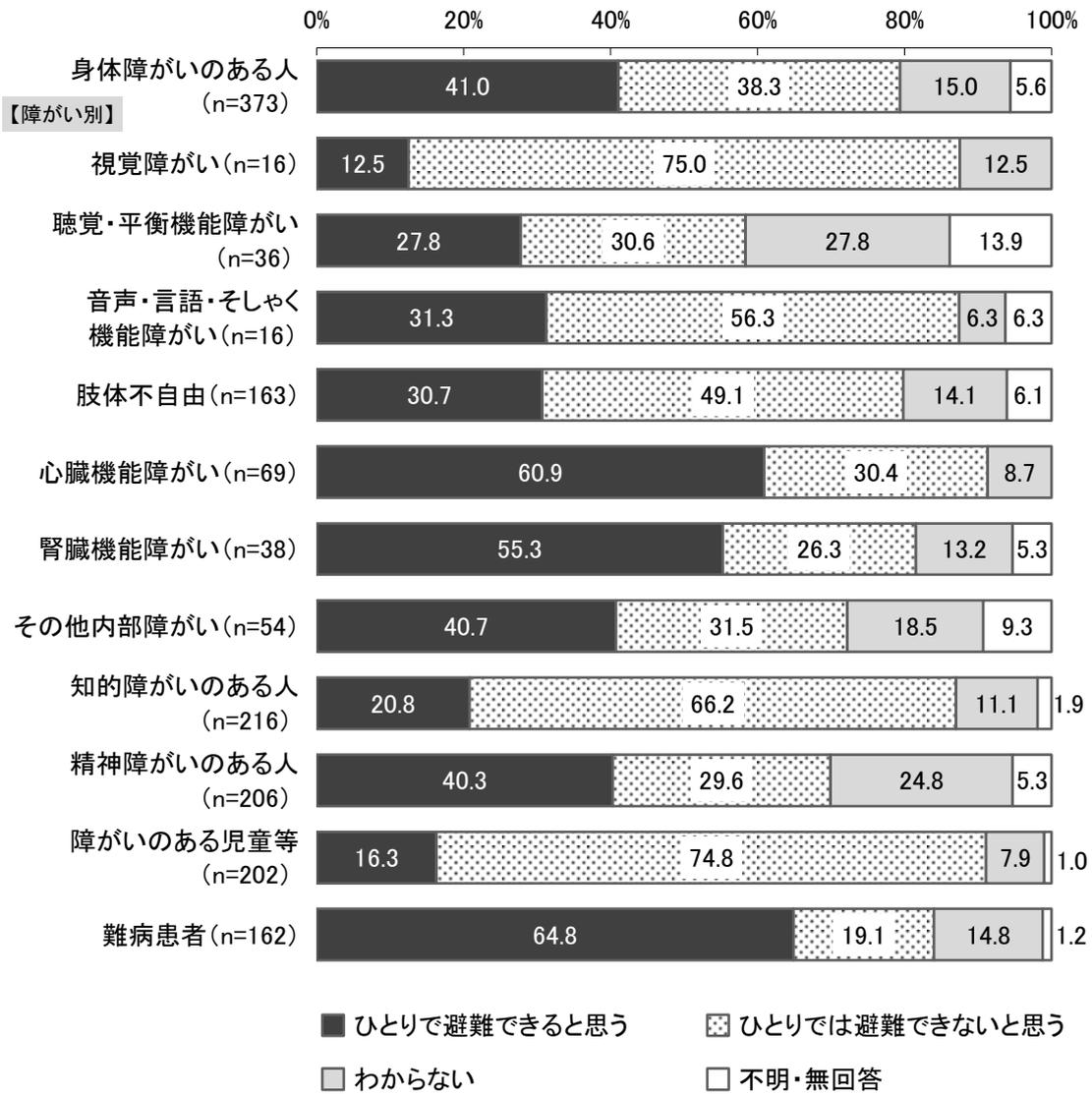


(81) 自宅にいるときに地震などの災害が起こった場合、ひとりで避難場所まで避難できると思いますか。

身体問 59、知的問 56、精神問 58、児童問 56、難病問 52

「ひとりでは避難できないと思う」「わからない」が、障がいのある児童等で約9割、知的障がいのある人で約7割、精神障がいのある人で約6割、身体障がいのある人で約5割となっています。なお、身体障がいのある人のうち視覚障がいのある人、音声・言語・そしゃく機能障がいのある人及び肢体不自由のある人で「ひとりでは避難できないと思う」が、他の障がい等に比べて高くなっています。





(82) 一緒に避難場所まで避難してもらう人はだれですか。(複数回答)

※ (81) で「ひとりでは避難できないと思う」と答えた方に聞きました

身体問 60、知的問 57、精神問 59、児童問 57、難病問 53

障がい等のある人すべてで、「同居の家族や親族」がそれぞれ最も高くなっています。なお、知的障がいのある人で「福祉サービスの事業所」が約3割と、他の障がい等に比べて高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	同居の家族や親族	別居の家族や親族	近所の人	友人・知人	民生委員	区・町内会・自治会の役員	福祉サービスの事業所	その他	一緒に避難してくれる人がいない	不明・無回答
身体障がいのある人	119	73.1	12.6	10.1	3.4	0.8	5.9	9.2	2.5	7.6	1.7
知的障がいのある人	115	84.3	8.7	9.6	3.5	0.9	0.9	27.0	1.7	-	-
精神障がいのある人	80	71.3	12.5	5.0	3.8	2.5	3.8	11.3	6.3	7.5	-
障がいのある児童等	174	96.6	13.8	12.6	7.5	0.6	1.7	12.1	-	1.7	-
難病患者	23	78.3	21.7	4.3	4.3	-	-	4.3	-	-	-

参考：令和元年度調査結果

(単位：%)

区分	n=	同居の家族や親族	別居の家族や親族	近所の人	友人・知人	民生委員	区・町内会・自治会の役員	福祉サービスの事業所	その他	一緒に避難してくれる人がいない	不明・無回答
身体障がいのある人	143	74.1	10.5	20.3	2.8	6.3	8.4	10.5	2.8	2.8	0.7
知的障がいのある人	143	86.0	9.8	12.6	1.4	2.8	5.6	23.8	2.1	0.7	1.4
精神障がいのある人	61	68.9	14.8	8.2	4.9	3.3	1.6	3.3	11.5	6.6	1.6
障がいのある児童等	151	94.7	9.9	7.3	2.0	-	-	9.9	-	2.0	1.3
難病患者	31	74.2	16.1	16.1	6.5	-	3.2	3.2	3.2	6.5	-

(83) 地震などの災害が起こったときに困ると思うことは何ですか。(複数回答)

身体問 61、知的問 58、精神問 60、児童問 58、難病問 54

知的障がいのある人、精神障がいのある人及び障がいのある児童等で「どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい」が、身体障がいのある人及び難病患者で「一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい」が、それぞれ最も高くなっています。

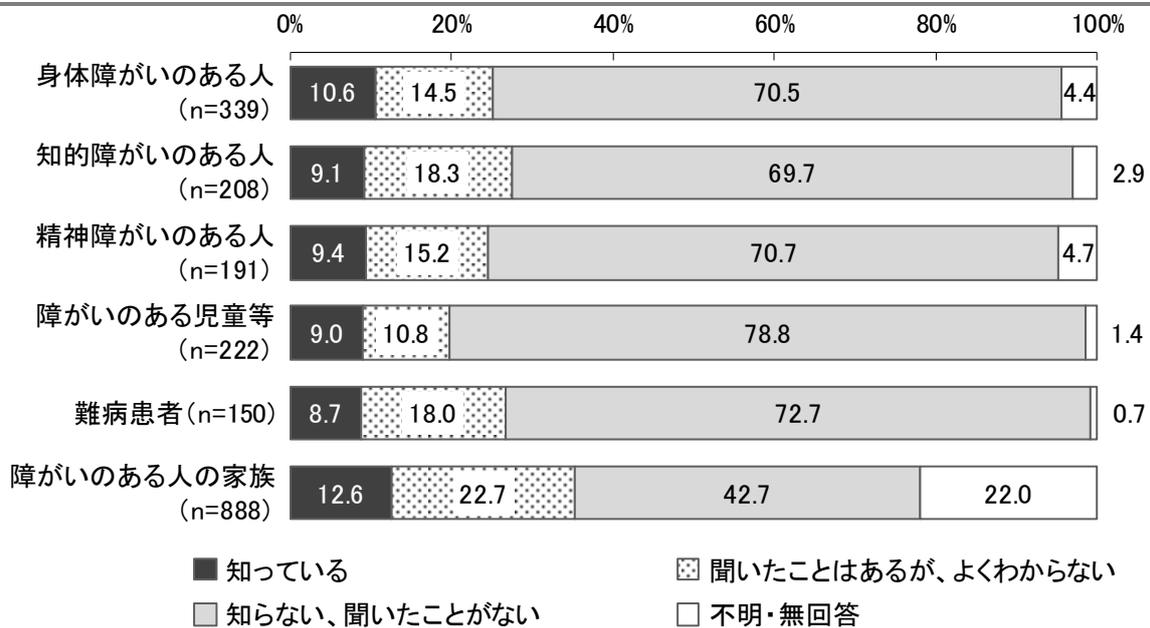
(単位：%)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者
n=	339	208	191	222	150
1位	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (36.6)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (75.0)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (47.6)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (84.7)	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (35.3)
2位	自力歩行が困難で、安全なところまですばやく避難できない (28.6)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (51.9)	一般の避難場所では、投薬や治療を受けることが難しい (38.7)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求められない (67.1)	特に困ることはない (28.7)
3位	避難場所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (26.0)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求められない (49.5)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (33.5)	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない (58.6)	避難場所に多目的トイレなど生活できる環境が整っていない (16.7)
4位	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (23.0)	避難場所で、被害状況や支援物資などの情報が入手できない (42.8)	障がいへの理解が得られず、避難場所で生活できない (27.2)	避難場所で、周りの人とコミュニケーションが取れない (57.7)	どのように対応すべきか自分で判断し、行動することが難しい (16.0)
5位	特に困ることはない (18.0)	障がいへの理解が得られず、避難場所で生活できない (37.0)	自分の状態を伝えることが難しく、周りの人に援助を求められない (23.0)	障がいへの理解が得られず、避難場所で生活できない (36.5)	その他 (11.3)

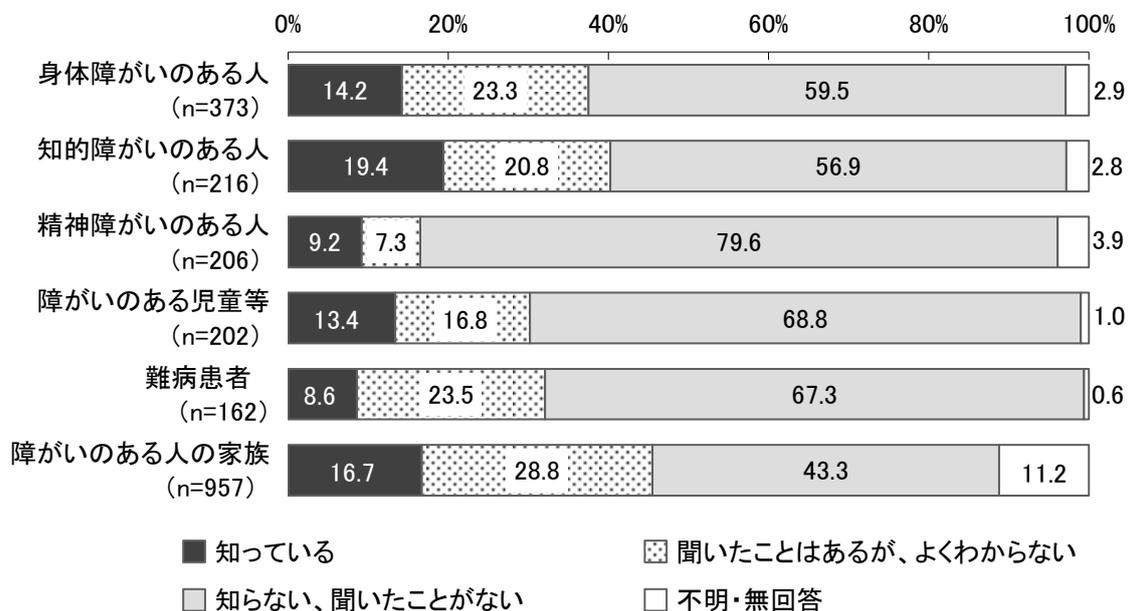
(84) 春日井市の災害時要援護者避難支援制度を知っていますか。

身体問 62、知的問 59、精神問 61、児童問 59、難病問 55、家族問 20

「知っている」は、いずれの障がい等のある人及び障がいのある人の家族でそれぞれ1割前後にとどまっています。



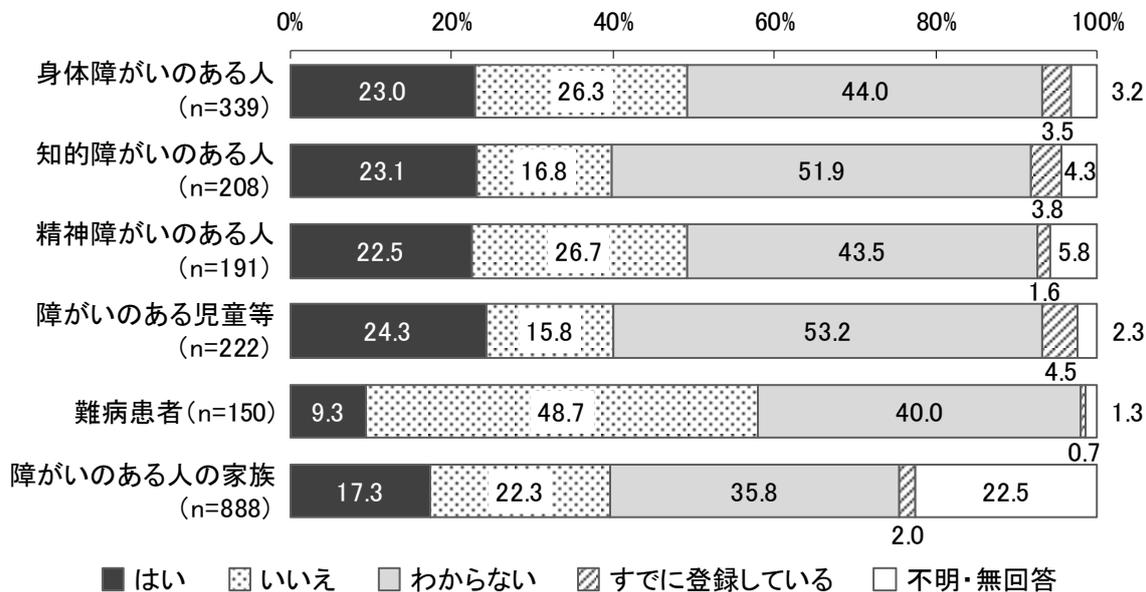
参考：令和元年度調査結果



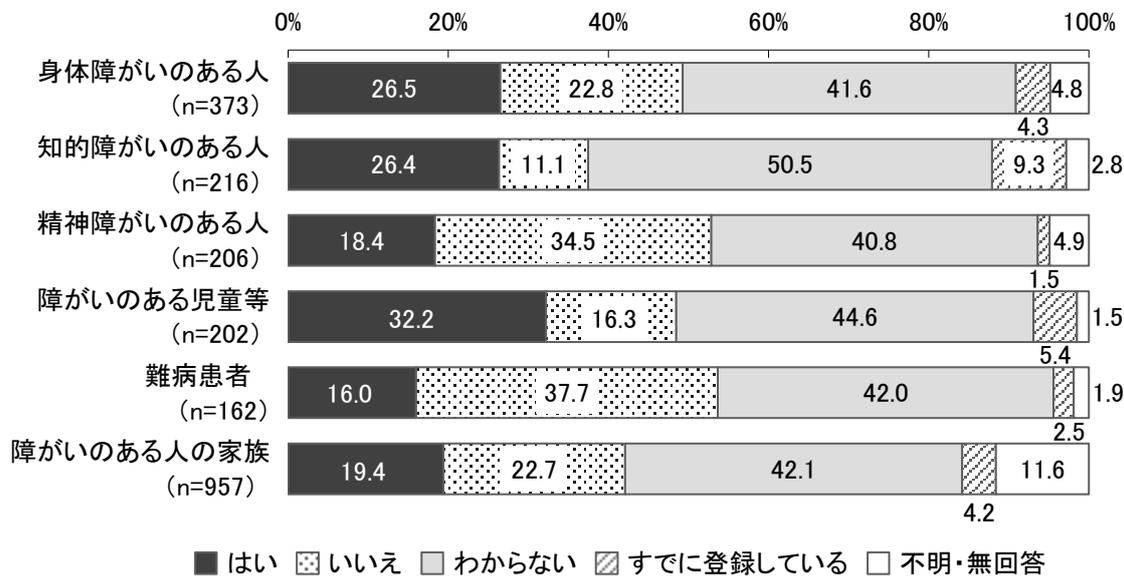
(85) 災害時要援護者名簿に登録したいと思いますか。

身体問 63、知的問 60、精神問 62、児童問 60、難病問 56、家族問 21

「すでに登録している」は、いずれの障がい等のある人及び障がいのある人の家族でそれぞれ5%未満にとどまっています。また、「はい」は難病患者を除いて2割前後となっています。



参考：令和元年度調査結果



(86) 登録したくないと思う理由は何ですか。(複数回答)

※ (85) で「いいえ」と答えた方に聞きました

身体問 64、知的問 61、精神問 63、児童問 61、難病問 57、家族問 22

障がいのある人等及びその家族すべてで、「必要だと思わないから」が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	個人情報が保護 されるか心配だ から	他人の世話にな りたくないから	必要だと思わな いから	自身(家族)の状 況を知られたく ないから	その他	不明・無回答
身体障がいのある人	89	16.9	11.2	58.4	11.2	7.9	5.6
知的障がいのある人	35	17.1	14.3	60.0	11.4	11.4	-
精神障がいのある人	51	25.5	7.8	41.2	15.7	17.6	5.9
障がいのある児童等	35	20.0	5.7	48.6	11.4	31.4	2.9
難病患者	73	15.1	6.8	61.6	8.2	13.7	6.8
障がいのある人の家族	198	16.7	6.1	65.7	7.6	11.1	2.5

■主な「その他」の内容

「その他」回答	
■身体障がいのある人	
今は自分でできる。	同居の家族がいるから。
自分以外に困っている人がいると思う。	町内に知られたくないから。
■知的障がいのある人	
今は家族と一緒にだから。	知らないし、聞いたことがない。
よく知っている人以外と行動することができないから。	
■精神障がいのある人	
今のところ、自分で避難できる。	家族と一緒に行動する。
施設に入所しているから。	
■障がいのある児童等	
同じ子どもに知られたら可哀想。本人が知られたくないと言っている。	
現状、親が支援するから。	専門的知識が無い人達だから。
必要な人のためにして欲しい。	
他人だとなかなか慣れず、余計にパニック癇癪が起こりそうなので、助けてもらっても迷惑をかける事になると思うから。	
知的障がいがあり、知らない人の指示は通じないため、ついて行かないと思うから。	
■難病患者	
今は、まだ自身で行動できるから。	家族が今のところいるから。
町内会等のしごらみが面倒。	ほかにもっと必要な方がいるから。
■障がいのある人の家族	
家族で対応可能だから。	施設入所のため、そちらの対応に任せている。
本人が拒否しているから。	避難先で生活できないので、避難はしないと考えている。
よく知っている人以外と行動することができないから。	
人見知りが強い子どもなので家族で支援したいから。	

(87) 地震や台風などの災害時に備え、障がいのある人や高齢者などの避難について、地域でどのようなことに取り組むべきだと思いますか。(複数回答)

身体問 65、知的問 62、精神問 64、児童問 62、難病問 58、一般問 17

身体障がいのある人と難病患者で「災害時の医療体制の確立」が、知的障がいのある人と障がいのない人で「災害時の情報伝達方法の確立」が、精神障がいのある人で「災害時の生活を支援する体制の確立」が、障がいのある児童等で「障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保」が、それぞれ最も高くなっています。

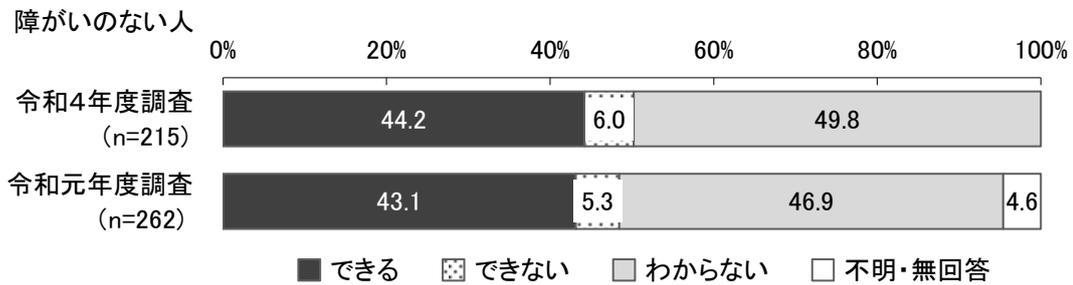
(単位：%)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
n=	339	208	191	222	150	215
1位	災害時の医療体制の確立 (34.8)	災害時の情報伝達方法の確立 (34.6)	災害時の生活を支援する体制の確立 (31.9)	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (43.7)	災害時の医療体制の確立 (46.0)	災害時の情報伝達方法の確立 (48.8)
2位	配慮が必要な人のためのトイレ設備やごみ処理の確保 (31.0)	福祉避難所の拡充 (28.8)	災害時の情報伝達方法の確立 (29.8)	福祉避難所の拡充 (41.9)	災害時の情報伝達方法の確立 (39.3)	近所での日頃からの協力体制づくり (46.0)
3位	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (28.6)	災害時の生活を支援する体制の確立 (25.5)	災害時の医療体制の確立 (28.3)	近所での日頃からの協力体制づくり (32.0)	近所での日頃からの協力体制づくり (30.7)	災害時の生活を支援する体制の確立 (35.8)
4位	災害時の生活を支援する体制の確立 (28.3)	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (24.5)	近所での日頃からの協力体制づくり 福祉避難所の拡充 (各 25.7)	災害時の生活を支援する体制の確立 (30.2)	災害時の生活を支援する体制の確立 配慮が必要な人のためのトイレ設備やごみ処理の確保 (各 27.3)	災害時の医療体制の確立 (29.8)
5位	災害時の情報伝達方法の確立 (26.5)	災害時の円滑な避難方法の確立 (23.6)	障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (24.6)	災害時の情報伝達方法の確立 (29.3)	福祉避難所の拡充 障がいなど配慮が必要な人のための支援物資の確保 (各 20.0)	災害時の円滑な避難方法の確立 (27.4)

(88) あなたは、災害時に障がいのある人を見かけたら、支援を行うことができますか。

一般問 15

障がいのない人全体で、「できる」が約4割となっています。

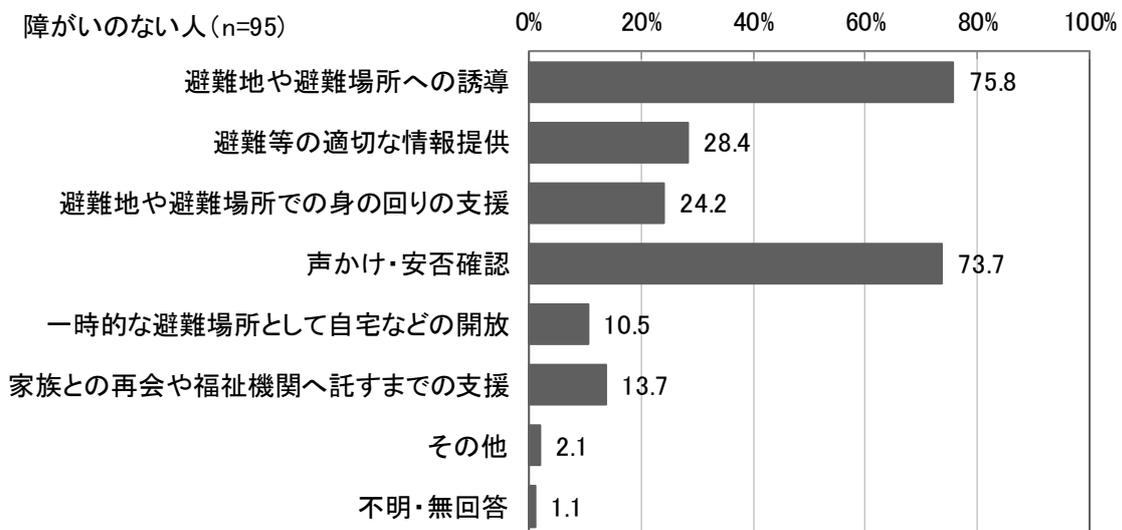


(89) あなたは、どんな支援ができると思いますか。(複数回答)

※ (88) で「できる」と答えた方に聞きました

一般問 16

障がいのない人全体で、「避難地や避難場所への誘導」が約8割と最も高く、次いで「声かけ・安否確認」となっています。

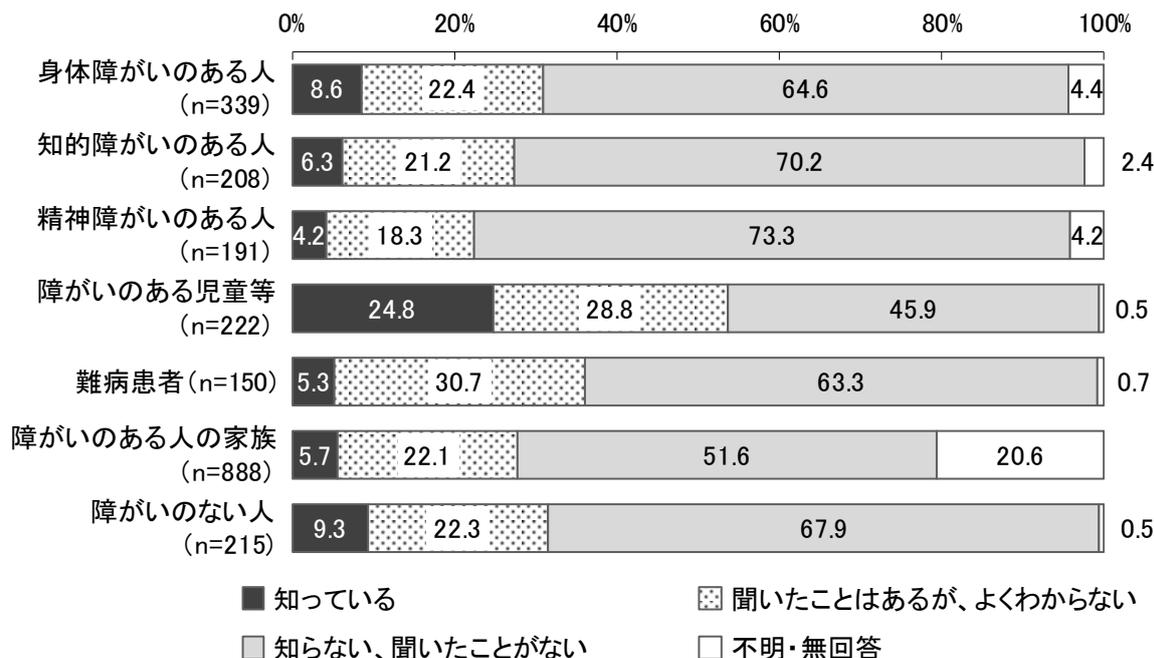


11. 障がい者の人権について

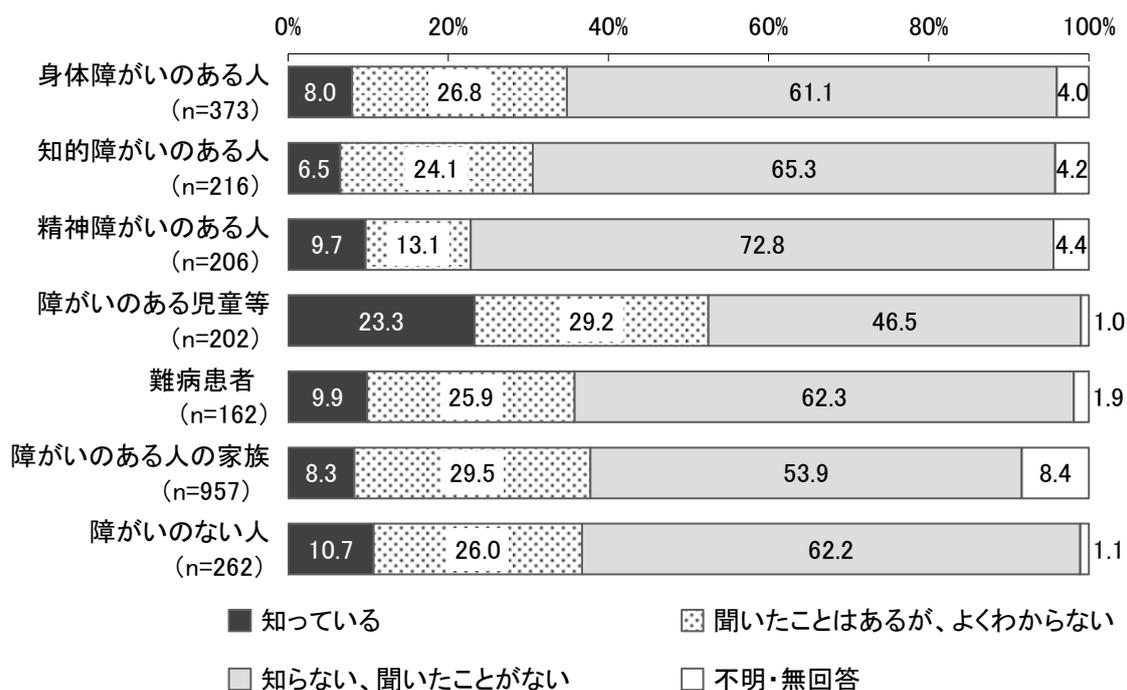
(90) 障害者差別解消法では、国や地方公共団体、民間事業所で「合理的配慮」を提供することが求められています。あなたは、「合理的配慮」について知っていますか。

身体問 66、知的問 63、精神問 65、児童問 63、難病問 59、家族問 13、一般問 18

「知っている」が、障がいのある児童等で2割強と高くなっているものの、その他の障がい等のある人、障がいのある人の家族及び障がいのない人はそれぞれ1割未満となっています。



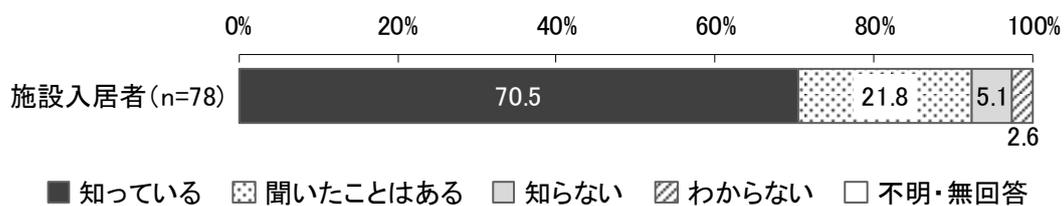
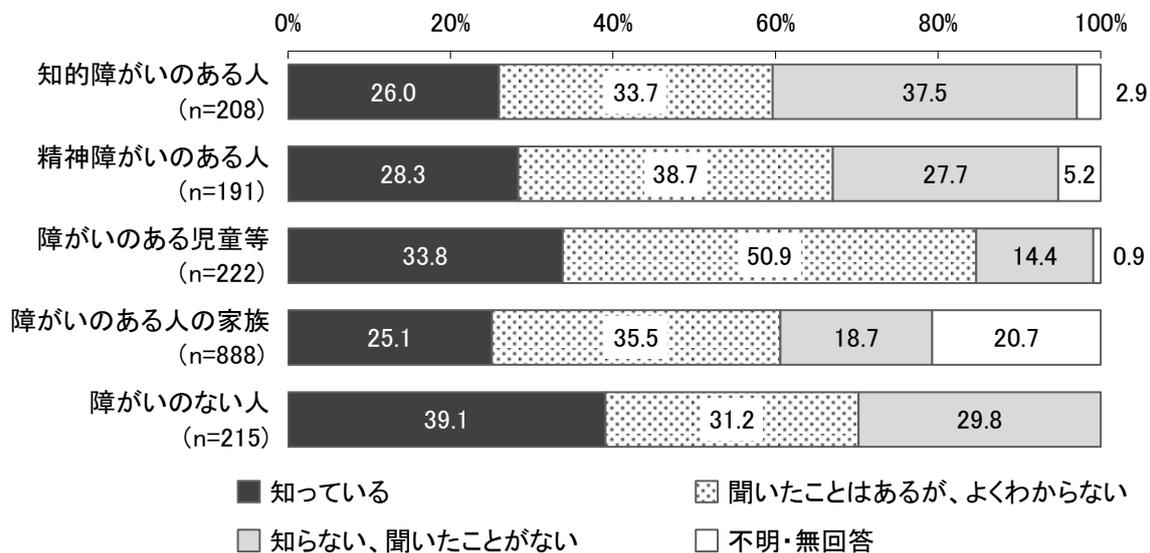
参考：令和元年度調査結果



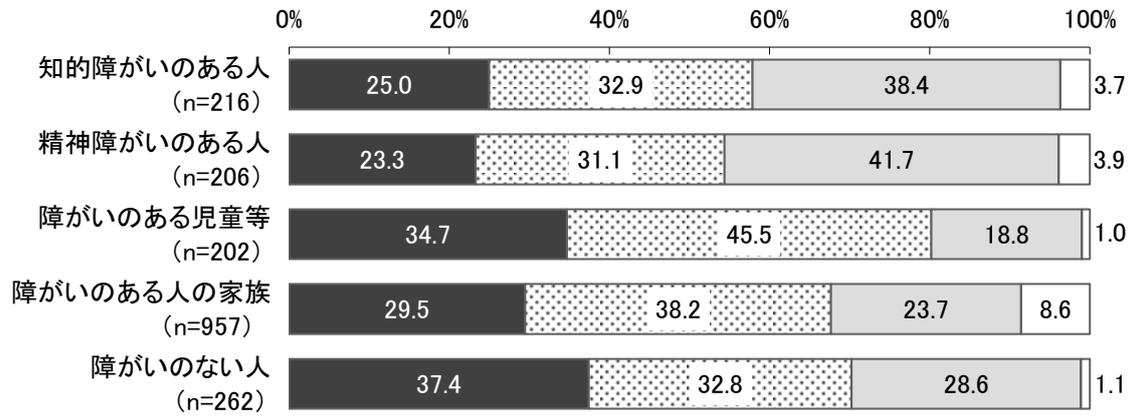
(91) 成年後見制度について、知っていますか。

知的問 64、精神問 66、児童問 64、家族問 15、一般問 22、施設問 3

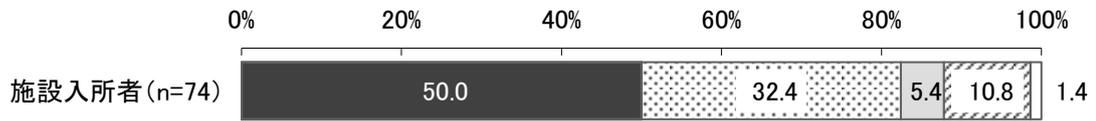
「知っている」が、いずれの障がい等のある人及び障がいのある人の家族では3割前後、障がいのない人で約4割となっています。また、施設入所者では「知っている」が約7割と高くなっています。



参考：令和元年度調査結果



知っている
 聞いたことはあるが、よくわからない
 知らない、聞いたことがない
 不明・無回答

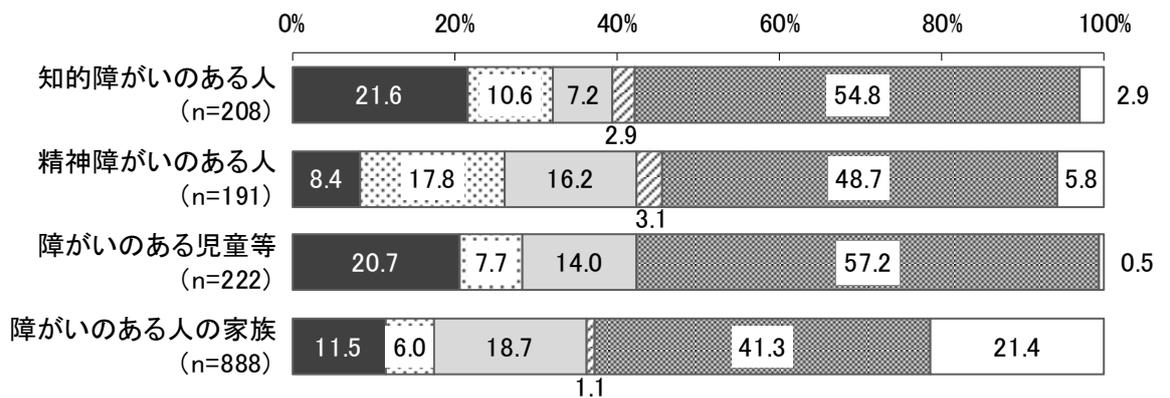


知っている
 聞いたことはある
 知らない
 わからない
 不明・無回答

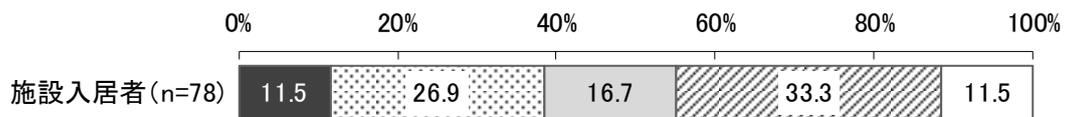
(92) 成年後見制度について、将来的に利用したい(させたい)と思いますか。

知的問 65、精神問 67、児童問 65、家族問 16、施設問 4

「利用したい(させたい)」が、知的障がいのある人及び障がいのある児童等でそれぞれ約2割となっています。なお、「すでに利用して(させて)いる」は、障がいのある児童等を除きそれぞれ数パーセントにとどまっています。また、施設入所者では「利用したい」「将来的には利用したい」を合わせて約4割となっています。

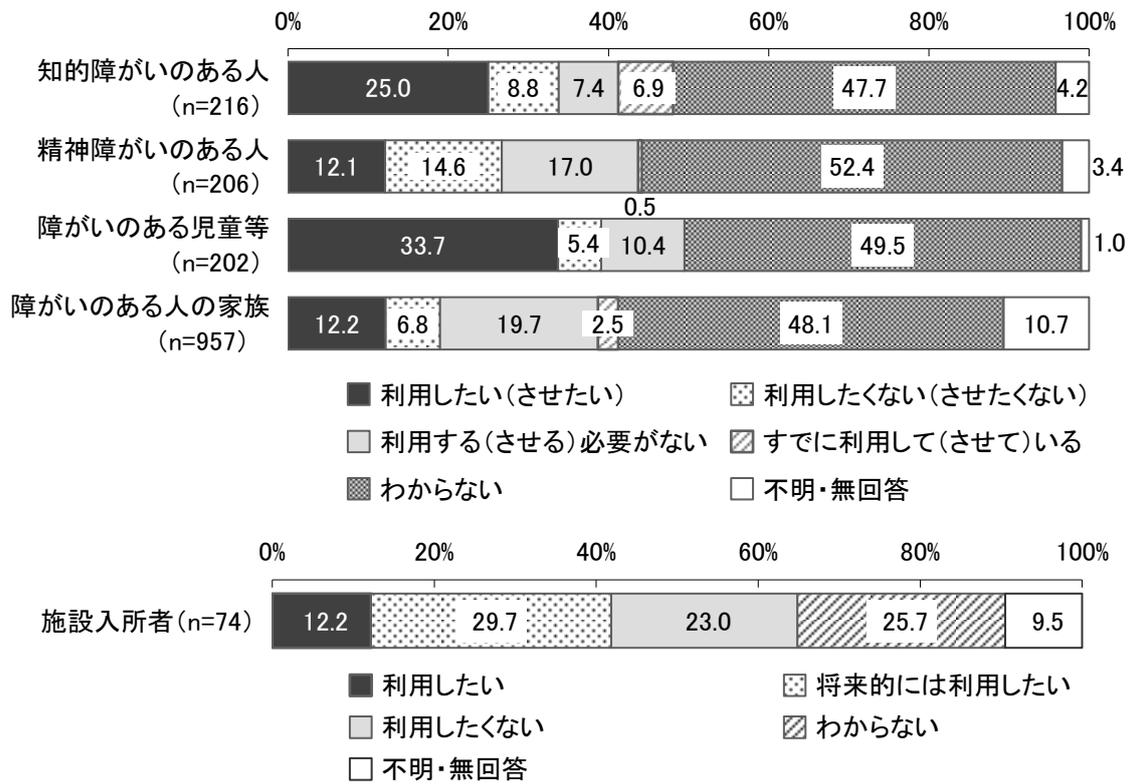


■ 利用したい(させたい) ▨ 利用したくない(させたくない) □ 利用する(させる)必要がない
 ▩ すでに利用して(させて)いる ▤ わからない □ 不明・無回答



■ 利用したい ▨ 将来的には利用したい □ 利用したくない ▩ わからない □ 不明・無回答

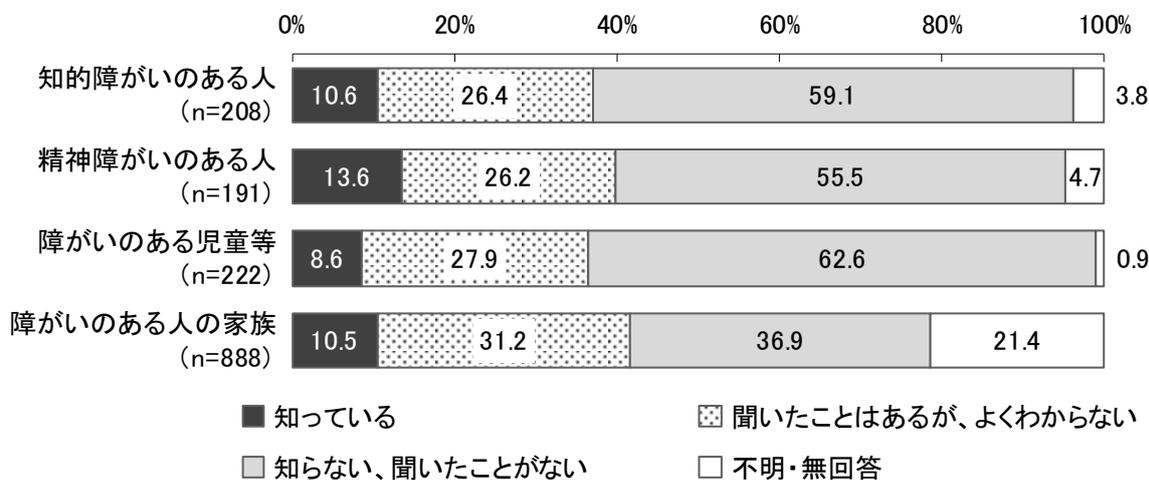
参考：令和元年度調査結果



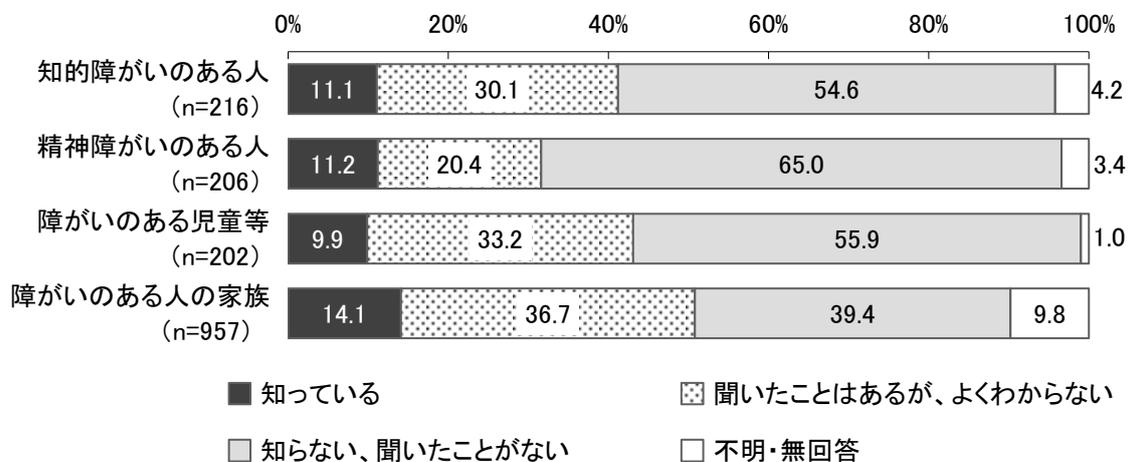
(93) 日常生活自立支援事業について、知っていますか。

知的問 66、精神問 68、児童問 66、家族問 17

「知っている」が、いずれの障がい等のある人及び障がいのある人の家族でそれぞれ1割前後となっています。



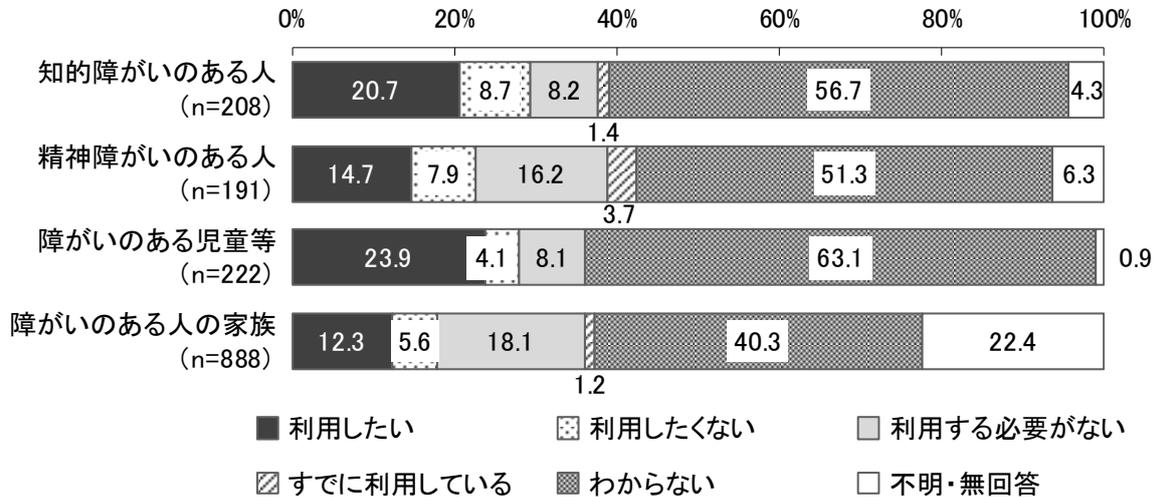
参考：令和元年度調査結果



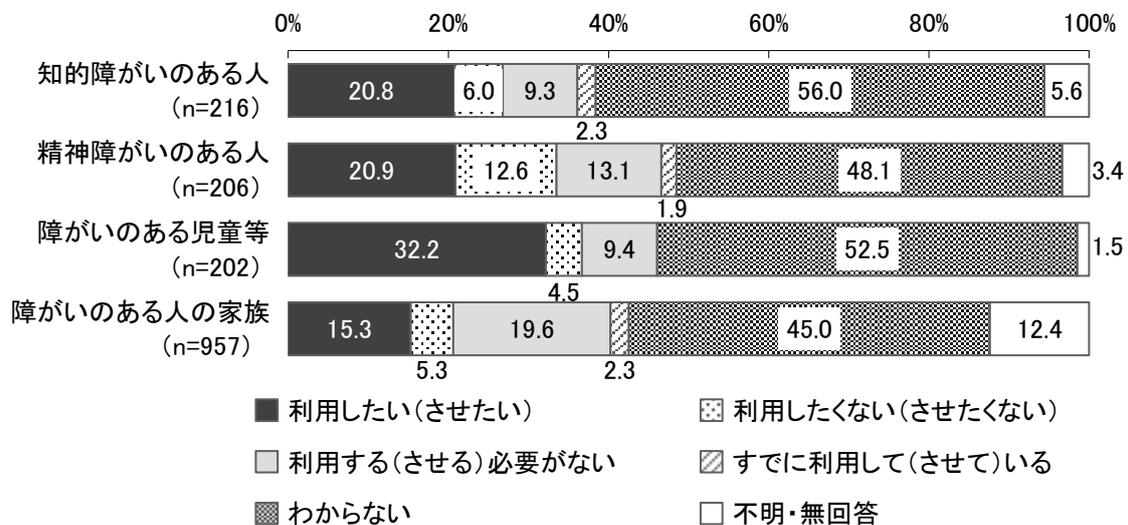
(94) 日常生活自立支援事業について、将来的に利用したい(させたい)と思いますか。

知的問 67、精神問 69、児童問 67、家族問 18

「利用したい」が、知的障がいのある人及び障がいのある児童等でそれぞれ2割強となっています。なお、「すでに利用している」は、障がいのある児童等を除きそれぞれ数パーセントにとどまっています。



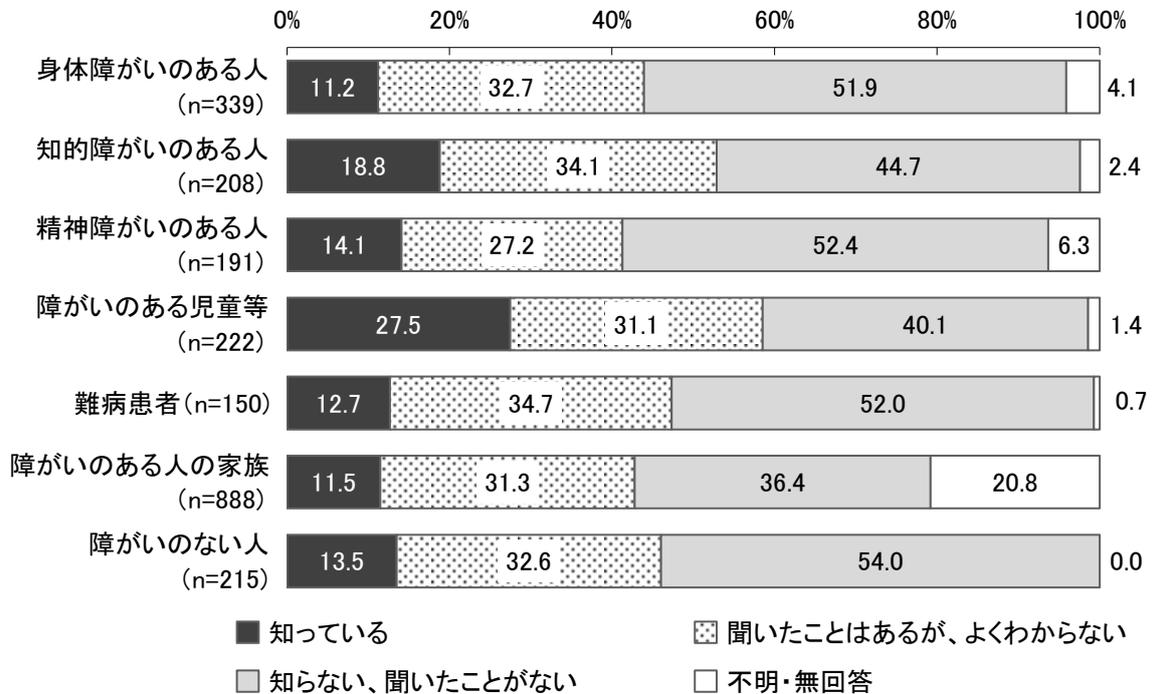
参考：令和元年度調査結果



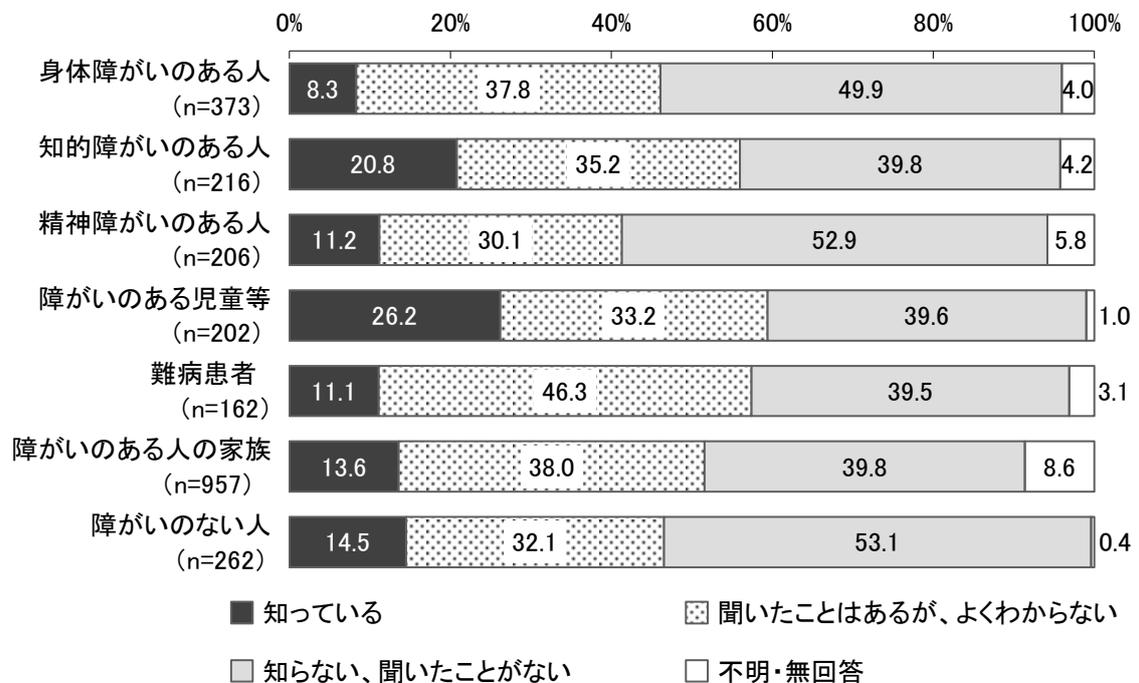
(95) 障害者虐待防止法(障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)について知っていますか。

身体問 67、知的問 68、精神問 70、児童問 68、難病問 60、家族問 14、一般問 19

「知っている」が、障がいのある児童等で約3割と高くなっています。



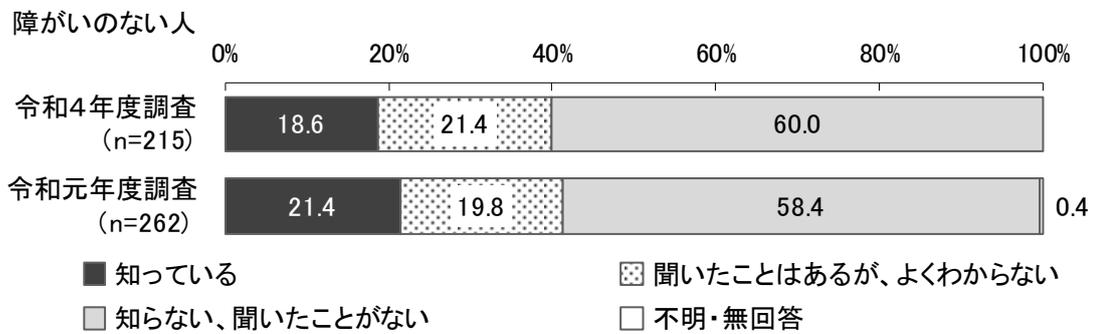
参考：令和元年度調査結果



(96) あなたは、障害者虐待防止法について、虐待を受けたと思われる障がいのある人を発見した場合に通報する義務があることを知っていますか。

一般問 20

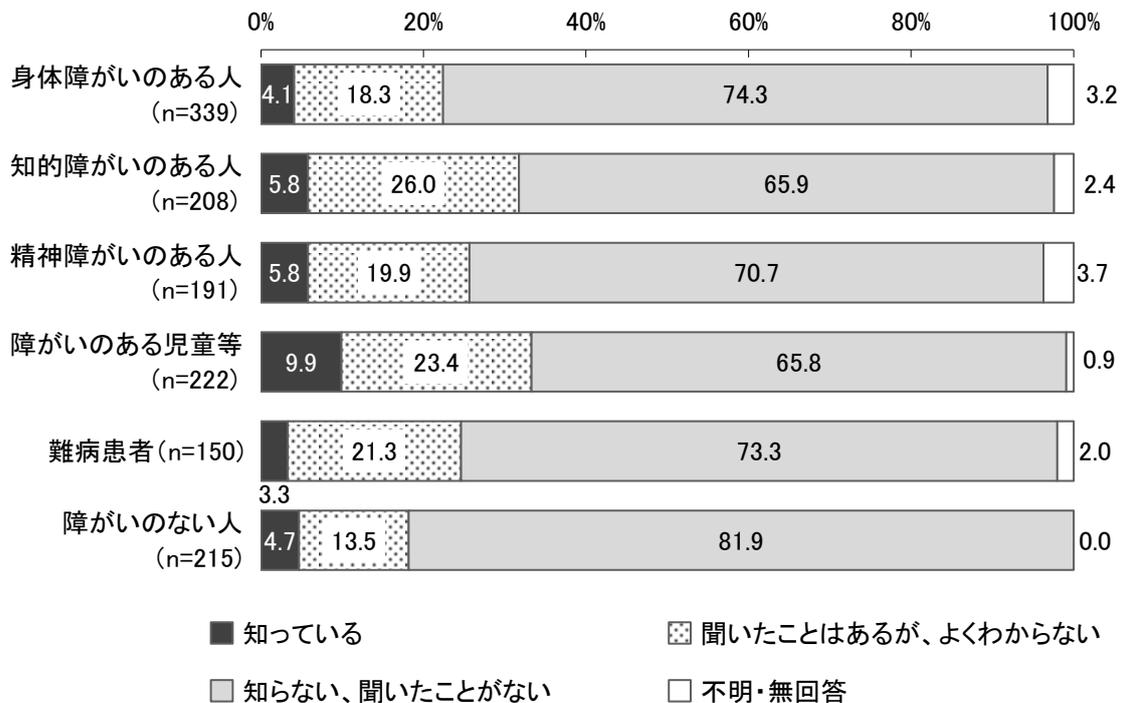
障がいのない人全体で、「知っている」は約2割、「知らない、聞いたことがない」が6割となっています。



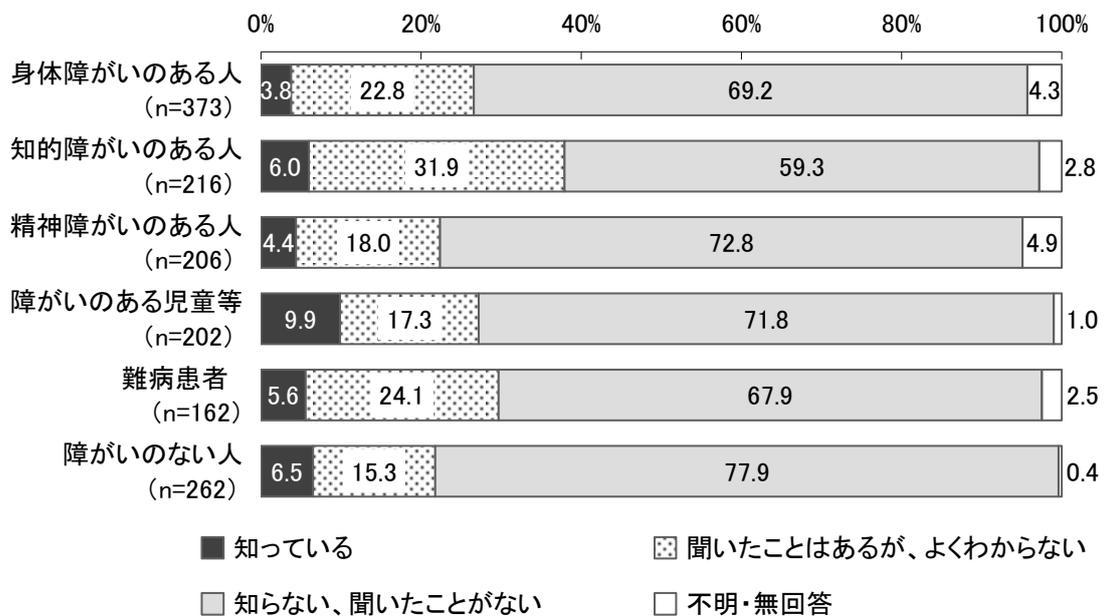
(97) 障がい者虐待に関する通報を受けつける電話窓口の障がい者虐待防止ホットラインを知っていますか。

身体問 68、知的問 69、精神問 71、児童問 69、難病問 61、一般問 21

「知っている」が、障がいのある児童等で約1割であり、その他の障がい等のある人及び障がいのない人はいずれも1割未満となっています。障がいのない人の約8割は「知らない、聞いたことがない」となっています。



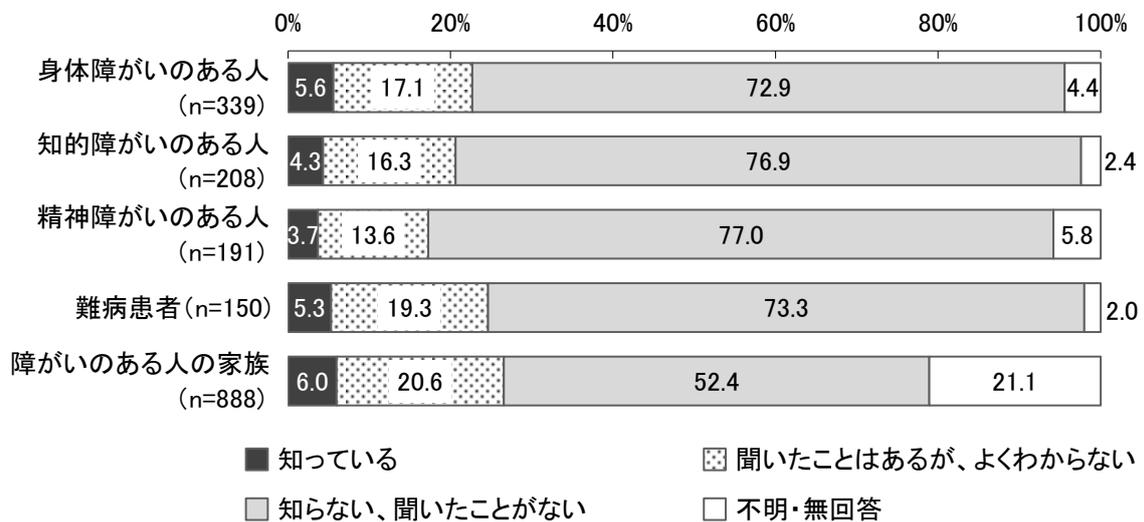
参考：令和元年度調査結果



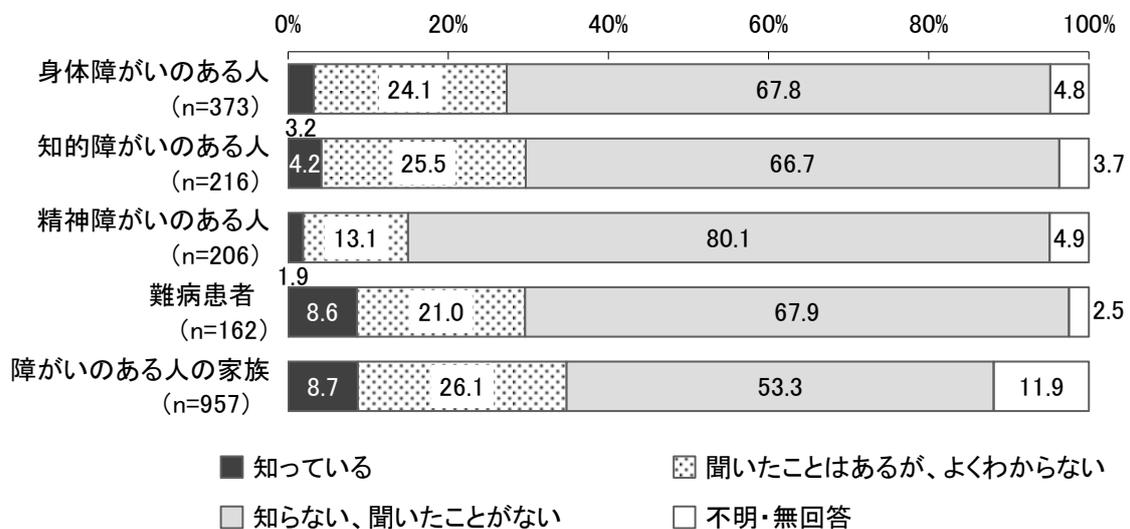
(98) 意思決定支援について知っていますか。

身体問 69、知的問 70、精神問 72、難病問 62、家族問 23

「知っている」が、いずれも1割未満となっています。障がいのある人のそれぞれ8割近くは「知らない、聞いたことがない」となっています。



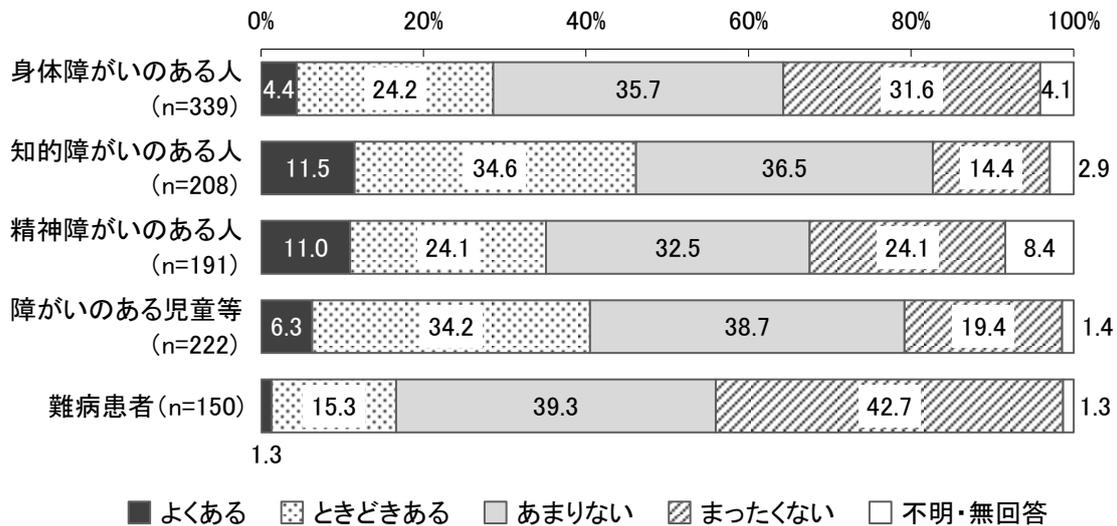
参考：令和元年度調査結果



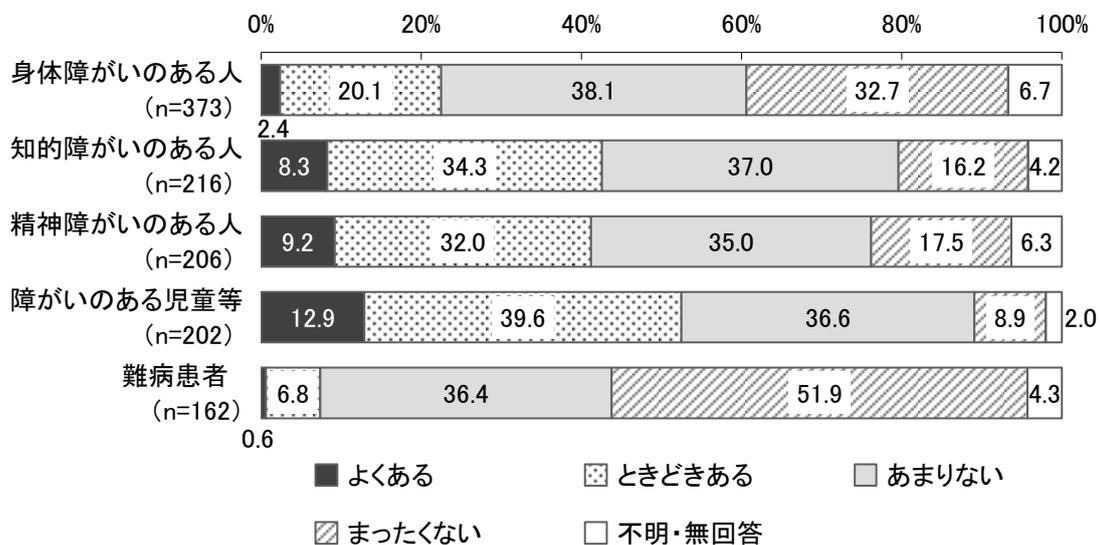
(99) 障がい(疾病)があることで、(児童お子さんが)普段の生活で不適切な対応をされたり、いやな思いをしたりしたことがありますか。

身体問 70、知的問 71、精神問 73、児童問 70、難病問 63

『ある』(「よくある」「ときどきある」の合計) が知的障がいのある人及び障がいのある児童等でそれぞれ4割超となっています。



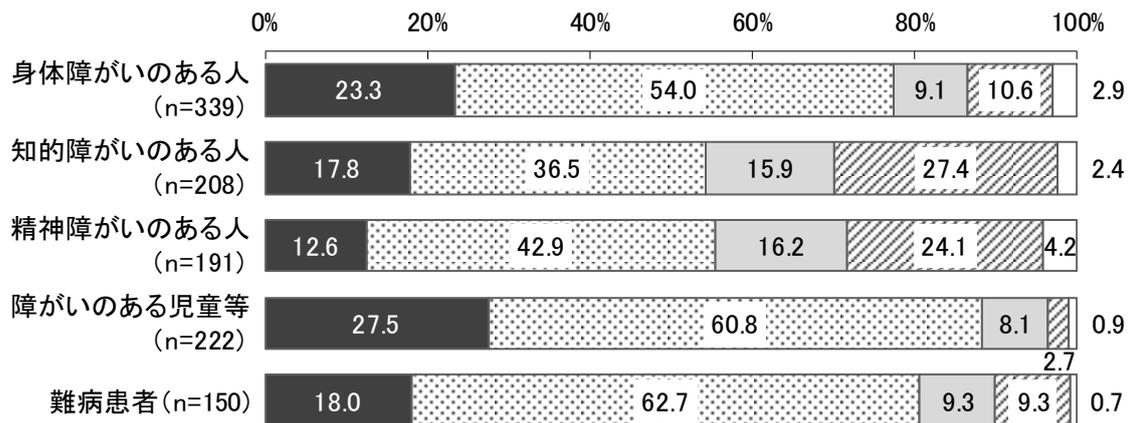
参考：令和元年度調査結果



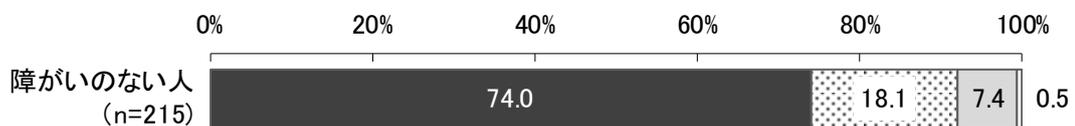
(100) ヘルプマークについて、知っていますか。

身体問 71、知的問 72、精神問 74、児童問 71、難病問 64、一般問 23

『知っている』（「知っている、持っている」「知っているが、持っていない」の合計）が、障がいのある児童等及び難病患者でそれぞれ8割超となっています。一方、「知らない、聞いたことがない」が、知的障がいのある人及び精神障がいのある人でそれぞれ3割近くになっています。また、「知っている」障がいのない人は7割強となっています。



■ 知っている、持っている ▨ 知っているが、持っていない
 □ 聞いたことはあるが、よくわからない ▩ 知らない、聞いたことがない
 □ 不明・無回答

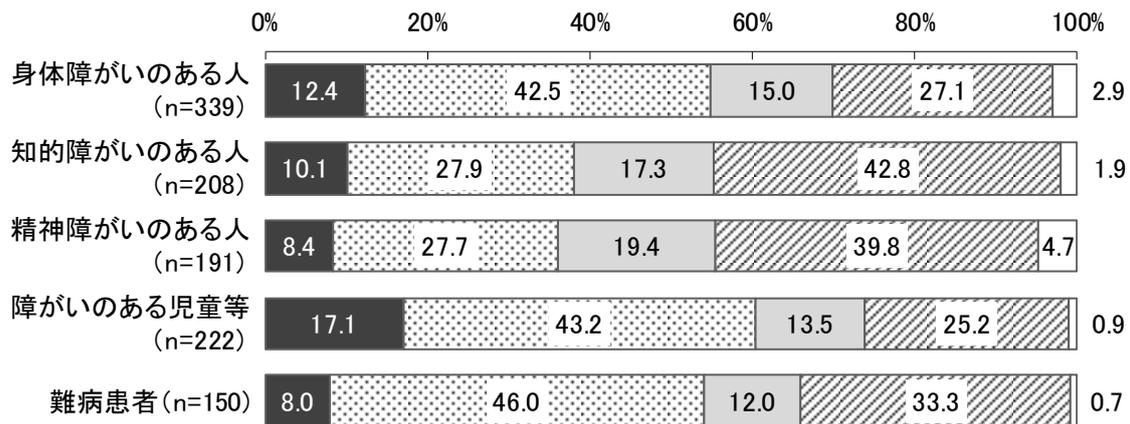


■ 知っている ▨ 聞いたことはあるが、よくわからない
 □ 知らない、聞いたことがない □ 不明・無回答

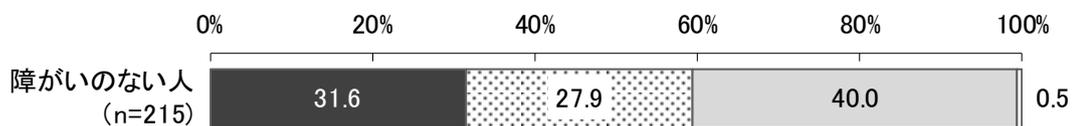
(101) ヘルプカードについて、知っていますか。

身体問 72、知的問 73、精神問 75、児童問 72、難病問 65、一般問 24

『知っている』（「知っている、持っている」「知っているが、持っていない」の合計）が、障がいのある児童等、身体障がいのある人及び難病患者でそれぞれ5割超となっています。一方、「知らない、聞いたことがない」が、知的障がいのある人及び精神障がいのある人でそれぞれ4割前後となっています。また、「知っている」障がいのない人は約3割、「知らない、聞いたことがない」障がいのない人は4割となっています。



■ 知っている、持っている ▨ 知っているが、持っていない
 □ 聞いたことはあるが、よくわからない ▩ 知らない、聞いたことがない
 □ 不明・無回答



■ 知っている ▨ 聞いたことはあるが、よくわからない
 □ 知らない、聞いたことがない □ 不明・無回答

(102) (難病患者を含む)障がいのある人への理解を深めるために、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

身体問 73、知的問 74、精神問 76、児童問 73、難病問 66、家族問 24、一般問 25

障がいのある人等、その家族及び障がいのない人すべてで、「学校における児童、生徒の障がいへの理解を促す教育」「障がい理解のための広報・啓発活動」がいずれも上位となっています。なお、障がいのある児童等、障がいのない人で「学校における児童、生徒の障がいへの理解を促す教育」がそれぞれ8割を超え、他の障がい等に比べて高くなっています。

(単位：%)

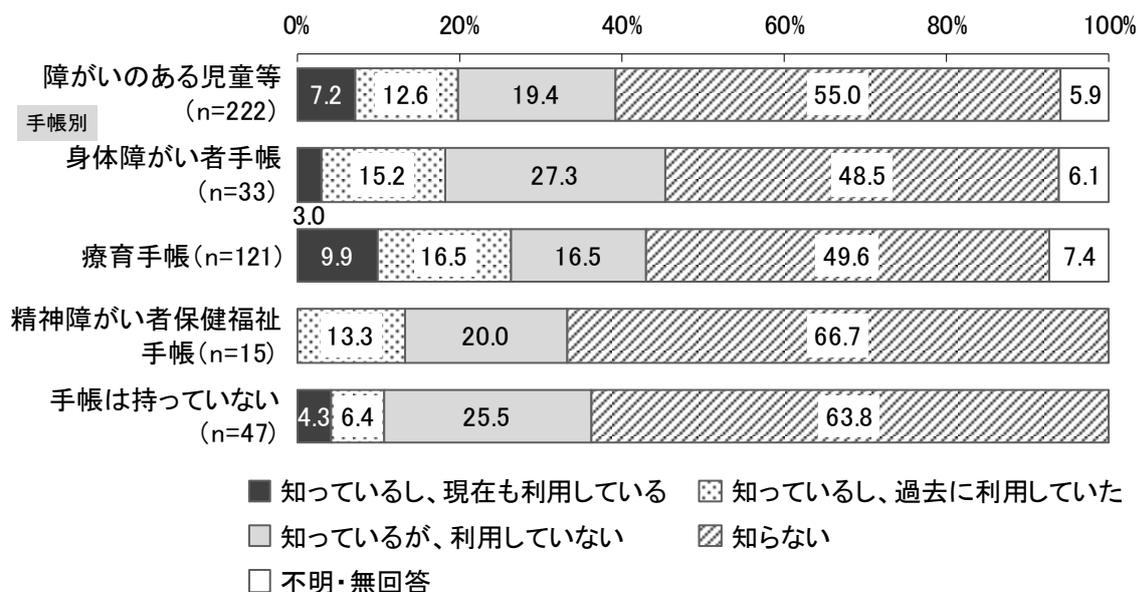
区分	n=	学校における児童、生徒の障がいへの理解を促す教育	障がいの有無に関わらず参加できる行事・イベントの開催	ボランティア活動の促進	障がい理解のための広報・啓発活動	障がいのある人の施設入所から在宅生活への移行	その他	特になし	不明・無回答
身体障がいのある人	339	45.4	25.4	15.3	41.9	10.3	2.9	17.4	7.4
65歳未満	286	49.3	27.3	15.4	44.4	10.1	3.5	16.1	4.9
65歳以上	50	26.0	16.0	16.0	30.0	12.0	-	22.0	20.0
知的障がいのある人	208	47.1	30.8	25.0	35.1	11.5	5.8	18.3	5.8
精神障がいのある人	191	32.5	20.9	15.2	35.1	20.4	5.2	19.4	10.5
障がいのある児童等	222	85.1	34.7	13.1	49.1	9.0	5.4	4.1	1.4
難病患者	150	50.7	17.3	16.7	46.0	9.3	2.7	13.3	5.3
障がいのある人の家族	888	36.6	20.0	17.0	41.7	12.3	1.2	13.2	23.0
障がいのない人	215	86.5	39.5	22.8	54.9	4.7	2.3	1.9	-

12. サポートブックの利用状況について

(103) サポートブックについてご存知ですか。また、実際に利用されていますか。

児童問 74

障がいのある児童等全体で、「知っているし、現在も利用している」が約1割、「知らない」が約6割となっています。手帳別では、「知っているし、現在も利用している」が療育手帳所持者で約1割と、他の障がい等に比べて高くなっています。

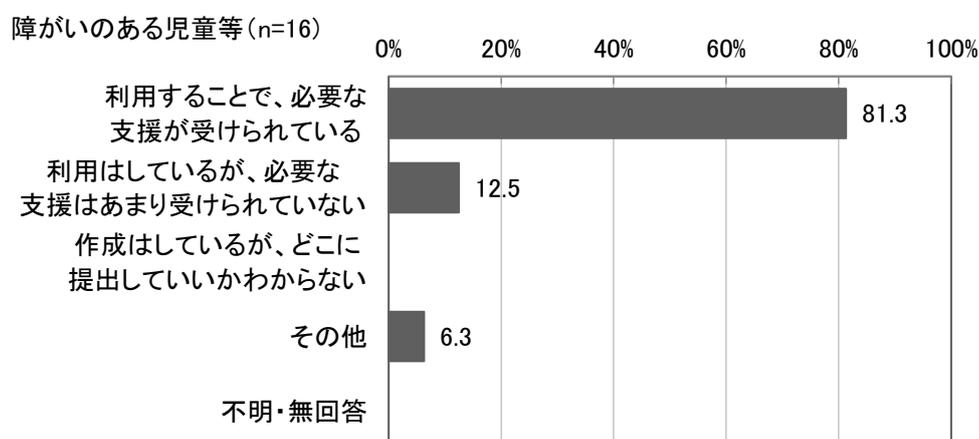


(104) サポートブックを利用した感想を教えてください。(複数回答)

※ (103) で「知っているし、現在も利用している」と答えた方に聞きました

児童問 75

障がいのある児童等全体で、「利用することで、必要な支援が受けられている」が約8割と高くなっています。

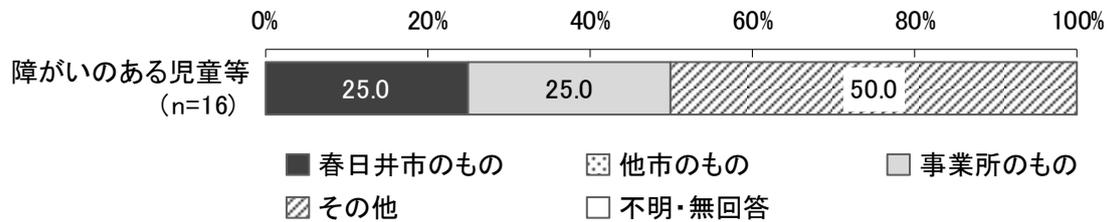


(105) 利用しているサポートブックはどこのものですか。春日井市以外の場合は、発行元を教えてください。

※ (103) で「知っているし、現在も利用している」と答えた方に聞きました

児童問 76

障がいのある児童等全体で、「春日井市のもの」が約3割となっています。

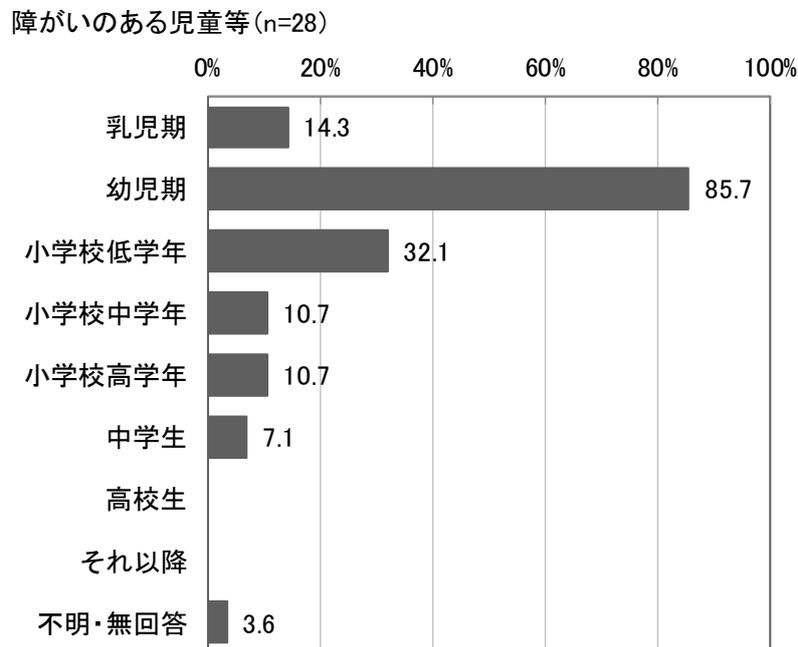


(106) 利用されていたのはお子さんが何歳ぐらいのときでしたか。(複数回答)

※ (103) で「知っているし、過去に利用していた」と答えた方に聞きました

児童問 77

障がいのある児童等全体で、「幼児期」が約9割と高くなっています。

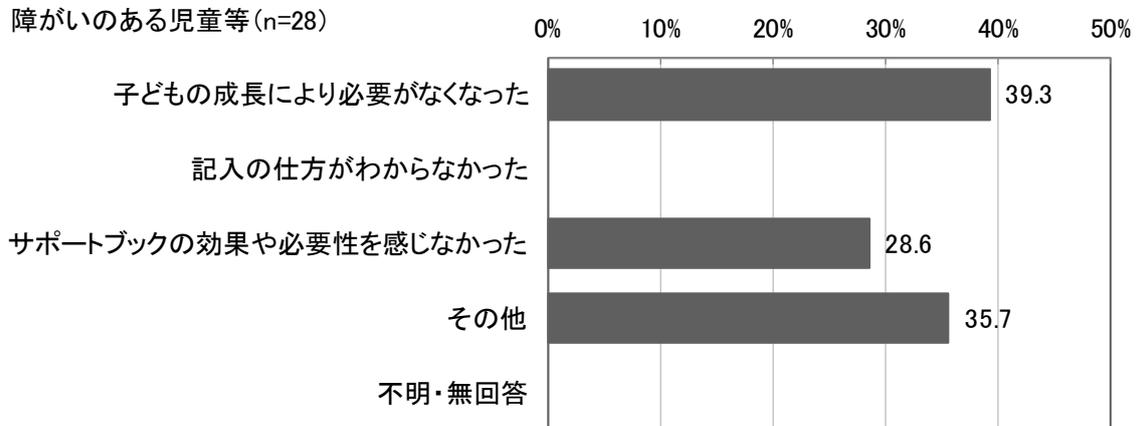


(107) 利用しなくなった理由は何ですか。(複数回答)

※(103)で「知っているし、過去に利用していた」と答えた方に聞きました

児童問 78

障がいのある児童等全体で、「子どもの成長により必要がなくなった」が約4割となっています。

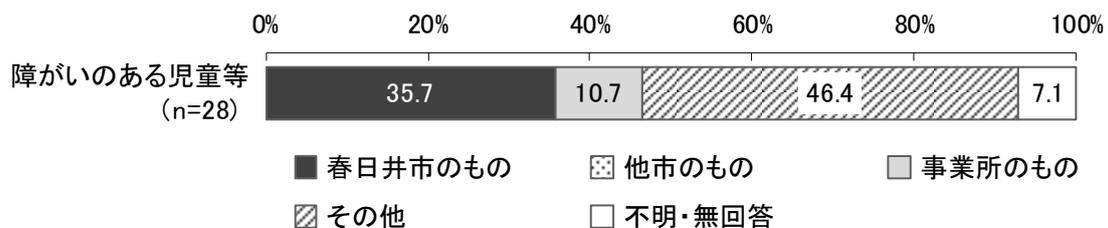


(108) 利用していたサポートブックはどのものですか。春日井市以外の場合は、発行元を教えてください。(複数回答)

※(103)で「知っているし、過去に利用していた」と答えた方に聞きました

児童問 79

障がいのある児童等全体で、「春日井市のもの」が約4割となっています。



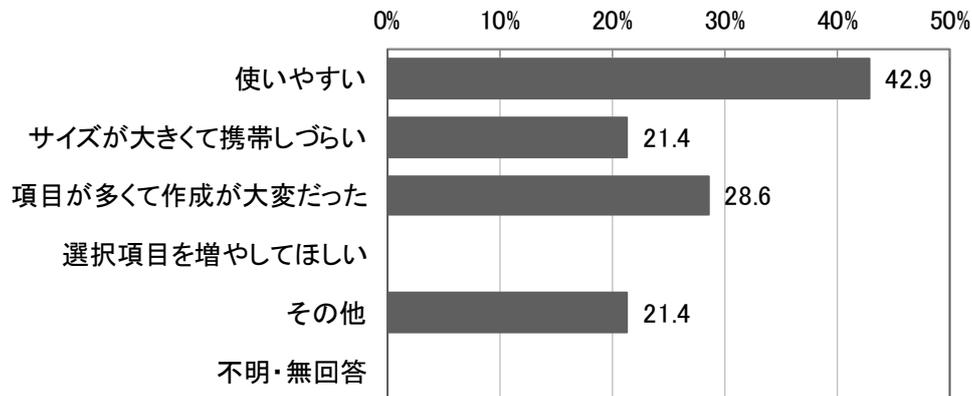
(109) サポートブックの使い勝手はいかがですか。(複数回答)

※ (105) または (108) で「春日井市のもの」と答えた方に聞きました

児童問 80

障がいのある児童等全体で、「使いやすい」が約4割と最も高く、次いで「項目が多くて作成が大変だった」となっています。

障がいのある児童等 (n=14)



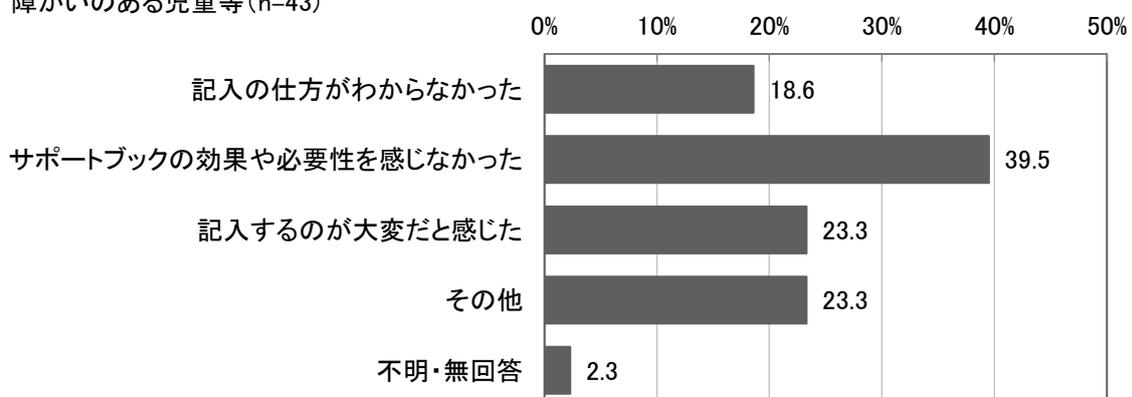
(110) 利用しない理由は何ですか。(複数回答)

※ (103) で「知っているが、利用していない」と答えた方に聞きました

児童問 81

障がいのある児童等全体で、「サポートブックの効果や必要性を感じなかった」が約4割となっています。

障がいのある児童等 (n=43)

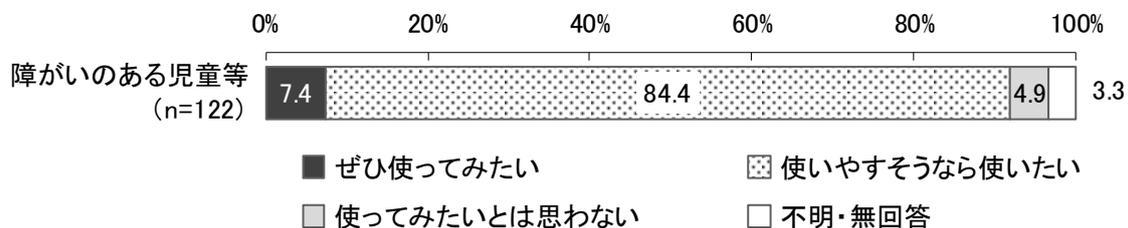


(111) 今後、使ってみたいと思いますか。

※ (103) で「知らない」と答えた方に聞きました

児童問 82

障がいのある児童等全体で、「使いやすいそうなら使いたい」が8割強となっています。

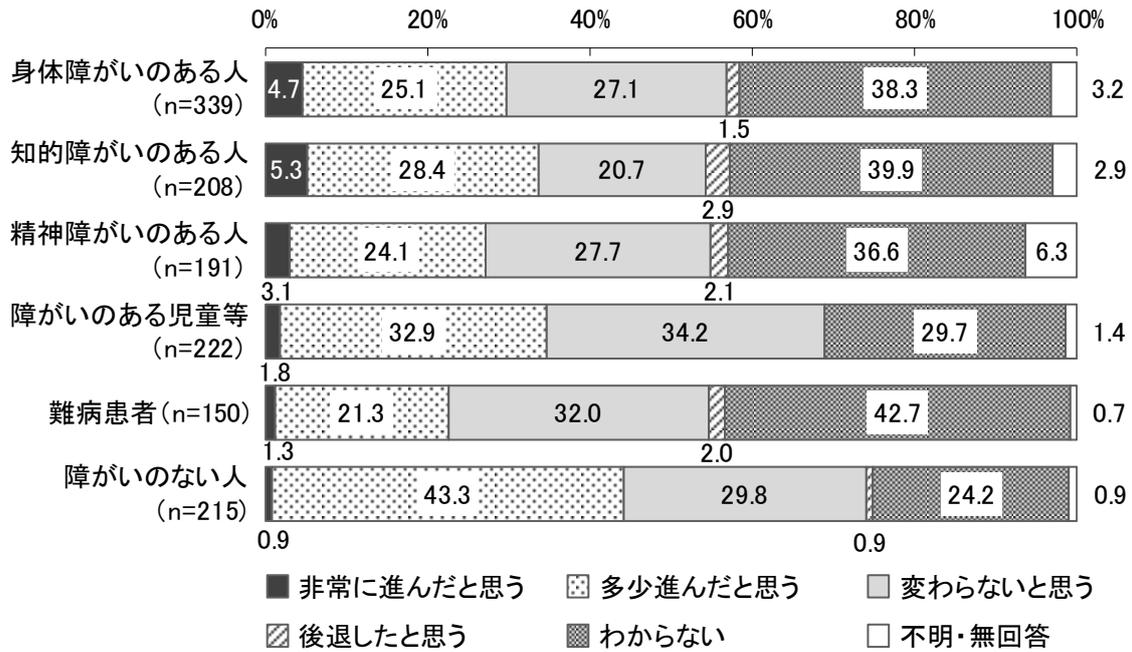


13. 障がい者施策について

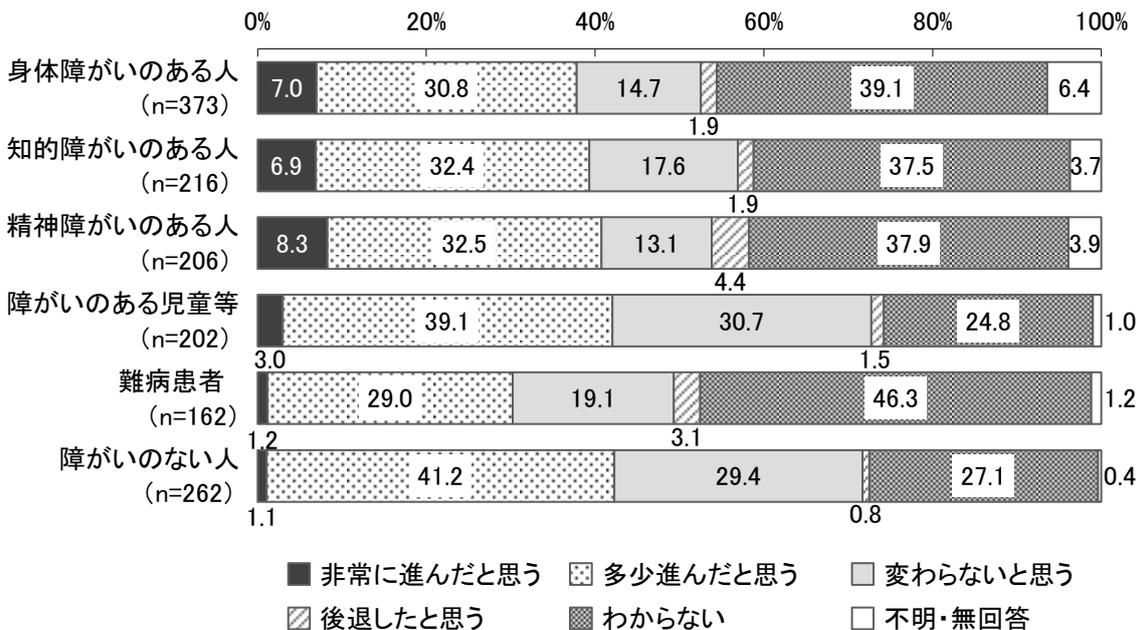
(112) 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの(難病患者を含む)障がい者施策は進んだと思いますか。

身体問 74、知的問 75、精神問 77、児童問 83、難病問 67、一般問 26

『進んだと思う』(「非常に進んだと思う」「多少進んだと思う」の合計)が、障がいのない人で約4割であるのに対し、障がいのある人等では約3割と、その差は約10ポイントとなっています。



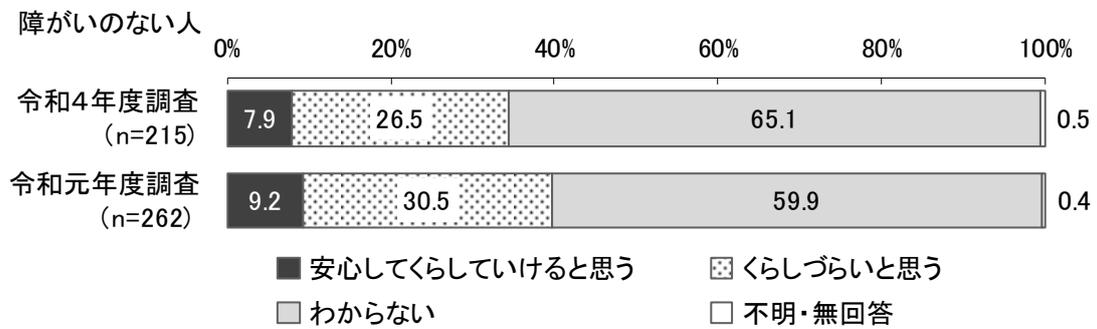
参考：令和元年度調査結果



(113) あなたが、もし障がいのある状態になったら、春日井市で安心して過ごしていけると思いますか。

一般問 27

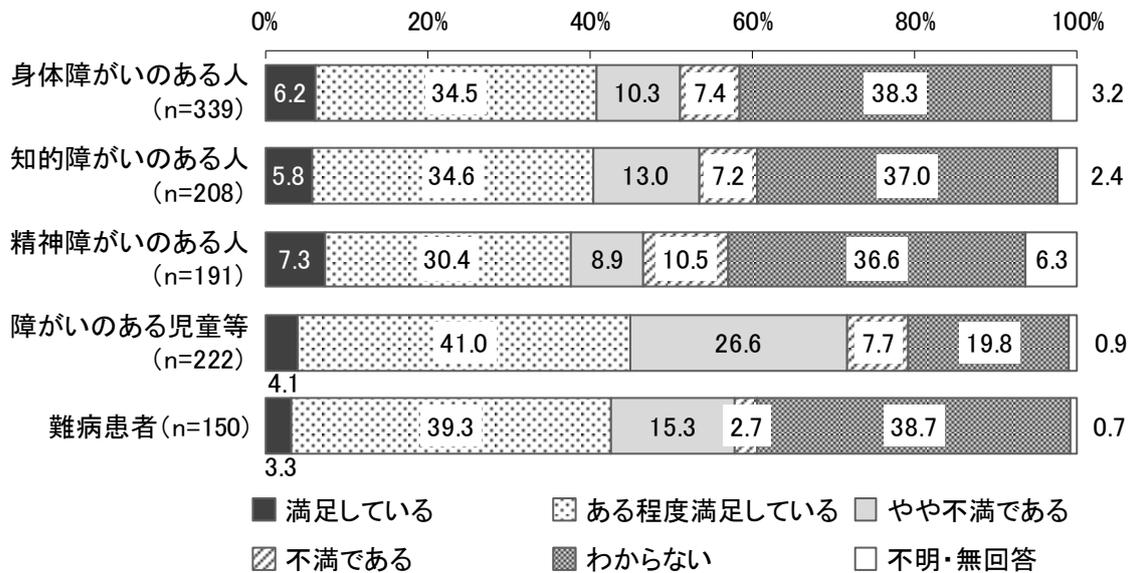
障がいのない人全体で、「安心して過ごしていけると思う」は1割弱、「くらしづらいと思う」が約3割となっています。



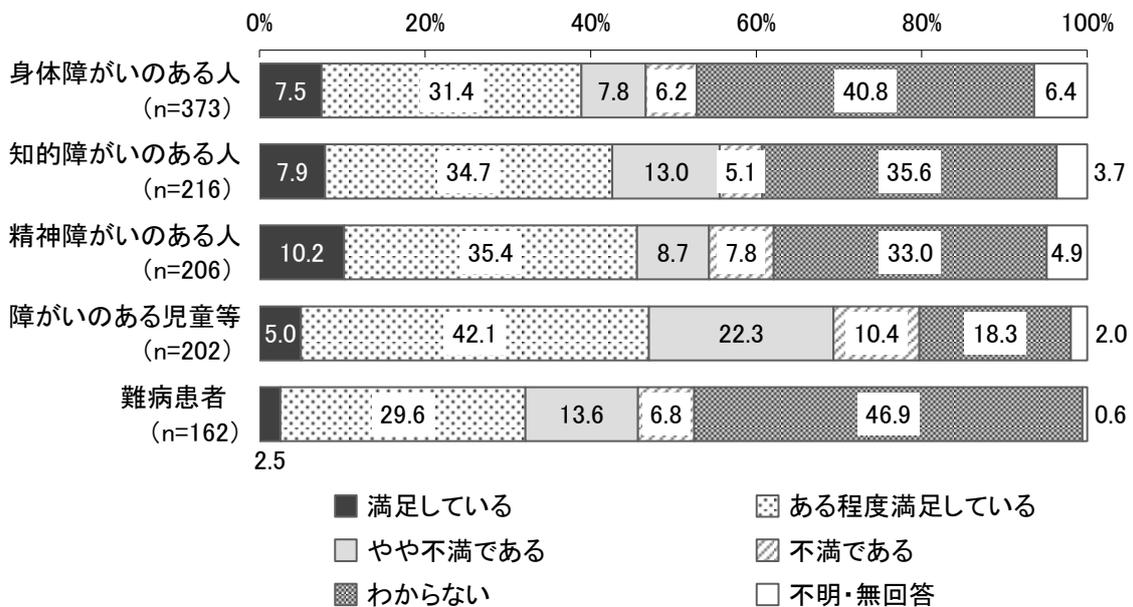
(114) 春日井市における福祉・教育・雇用・まちづくりなどの(難病患者を含む)障がい者施策について満足していますか。

身体問 75、知的問 76、精神問 78、児童問 84、難病問 68

『満足している』(「満足している」「ある程度満足している」の合計)が、精神障がいのある人を除いてそれぞれ4割を超えています。一方で、障がいのある児童等では、『不満である』(「やや不満である」「不満である」の合計)が約3割と、他の障がい等に比べて高くなっています。



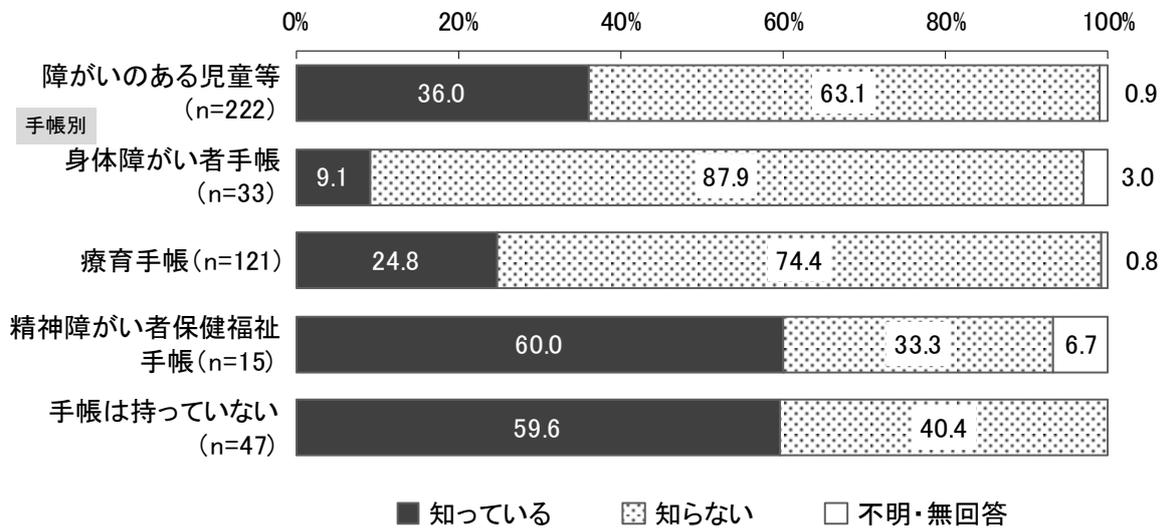
参考：令和元年度調査結果



(115) あなたは、「ペアレントプログラム」や「ペアレントトレーニング」を知っていますか。

児童問 85

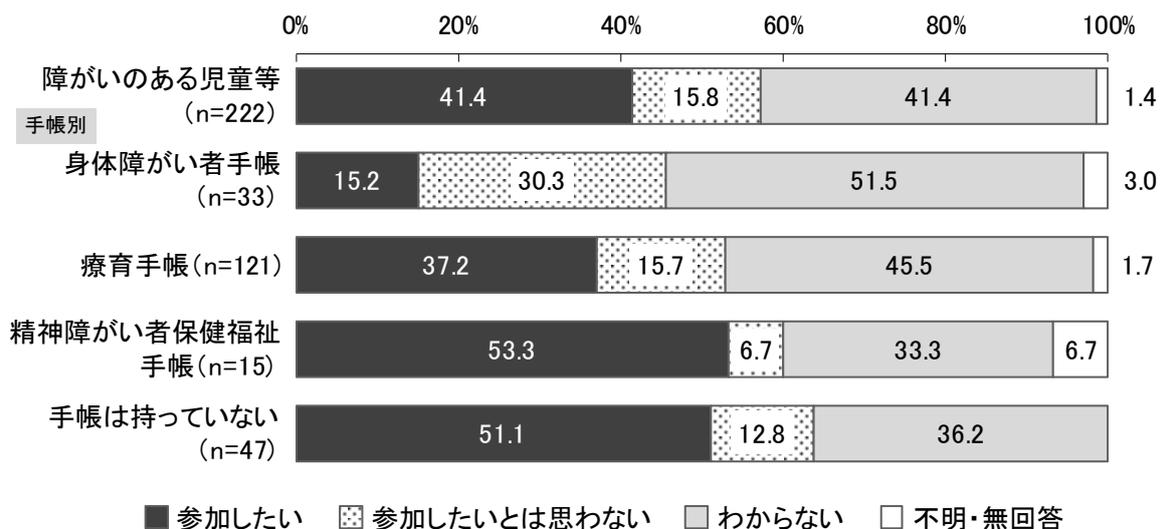
障がいのある児童等全体で、「知っている」が約4割となっており、手帳別では精神障がい者保健福祉手帳所持者及び手帳は持っていない人でそれぞれ6割程度と高くなっています。



(116) ペアレントプログラムやペアレントトレーニングに参加したいと思いますか。

児童問 86

障がいのある児童等全体で、「参加したい」が約4割となっており、手帳別では精神障がい者保健福祉手帳所持者及び手帳は持っていない人でそれぞれ約5割と高くなっています。



(117) 今後、特に充実すべきだと考える(難病患者を含む)障がい者施策について(複数回答)

身体問 76、知的問 77、精神問 79、児童問 87、難病問 69、一般問 29

全体的には、災害時の避難体制に関する事、日常生活を支援する人や施設に関する事が上位となっています。なお、難病患者で医療費の負担軽減に関する事の割合が最も高くなっています。

(単位：%)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
n=	339	208	191	222	150	215
1位	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (33.9)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (41.3)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (32.5)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (60.4)	障がいのある人が負担する医療費を減らすこと (56.7)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (56.7)
2位	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (30.4)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (38.0)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (31.4)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (57.7)	障がいのある人が身近な病院や診療所で検診や検査を受けることができるようにすること (32.0)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう、就労を支援すること (49.8)
3位	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう、就労を支援すること (29.8)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (36.5)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (28.8)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう、就労を支援すること (54.1)	障がいのある人が災害時の避難で困らないような体制をつくること (28.7)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (41.4)
4位	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (29.2)	障がいのある人に対する差別をなくすこと (35.6)	障がいのある人が負担する医療費を減らすこと (28.3)	可能な限り障がいのある児童・生徒が障がいのない児童・生徒と共に学ぶことができるようにすること (44.6)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人や施設の数を増やすこと (26.7)	公共施設、駅、デパートなどをバリアフリー化すること (38.1)

区分	身体障がいのある人	知的障がいのある人	精神障がいのある人	障がいのある児童等	難病患者	障がいのない人
n=	339	208	191	222	150	215
5位	障がいのある人が負担する医療費を減らすこと (27.7)	障がいのある人がその適性に応じて能力を十分に発揮することができるよう、就労を支援すること (30.8)	障がいのある人が身近な病院や診療所で検診や検査を受けることができるようにすること (26.7)	障がいのある人が身近な病院や診療所で検診や検査を受けることができるようにすること (34.7)	相談支援の相談員やヘルパー、施設の支援員など、障がいのある人の日常生活を支援する人の支援や施設の設備の質を高めること (26.0)	可能な限り障がいのある児童・生徒が障がいのない児童・生徒と共に学ぶことができるようにすること (35.8)

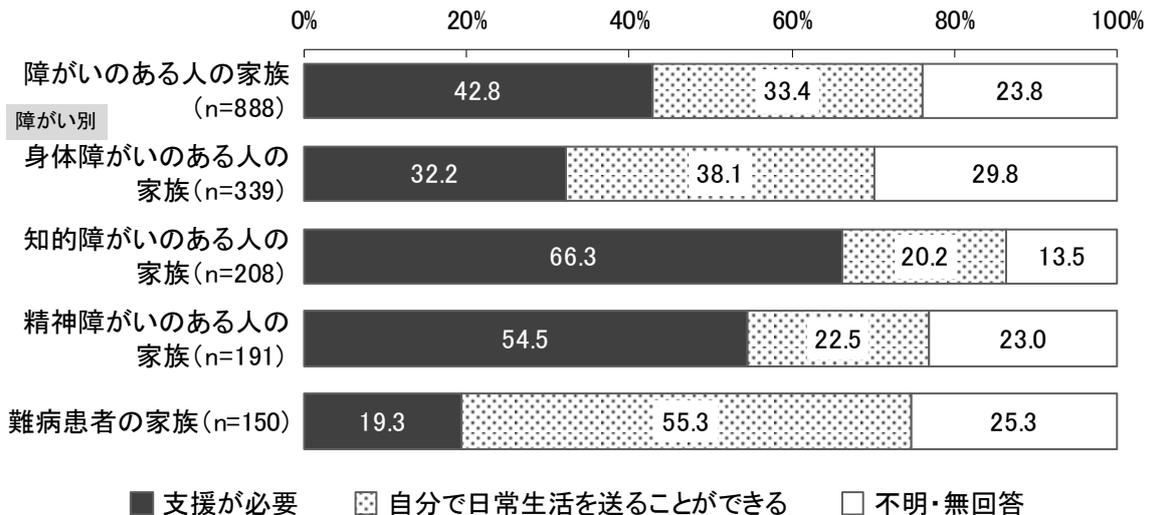
14. 障がいのある人の家族について

(118) 宛名の方は、日常生活において家族の方などの支援(見守りなどの配慮を含む。)を必要としていますか。

家族問 1

障がいのある人の家族全体で、「支援が必要」が約4割となっています。

障がい別では、「支援が必要」が知的障がいのある人の家族で約7割と高くなっています。



(119) 宛名の方から見てあなた(支援者)は次のどれにあたりますか。

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 2

障がいのある人の家族全体で、「夫・妻」が約4割と最も高く、次いで、「親」となっています。なお、知的障がいのある人は「親」が約8割と他の障がい等に比べて高くなっています。

(単位：%)

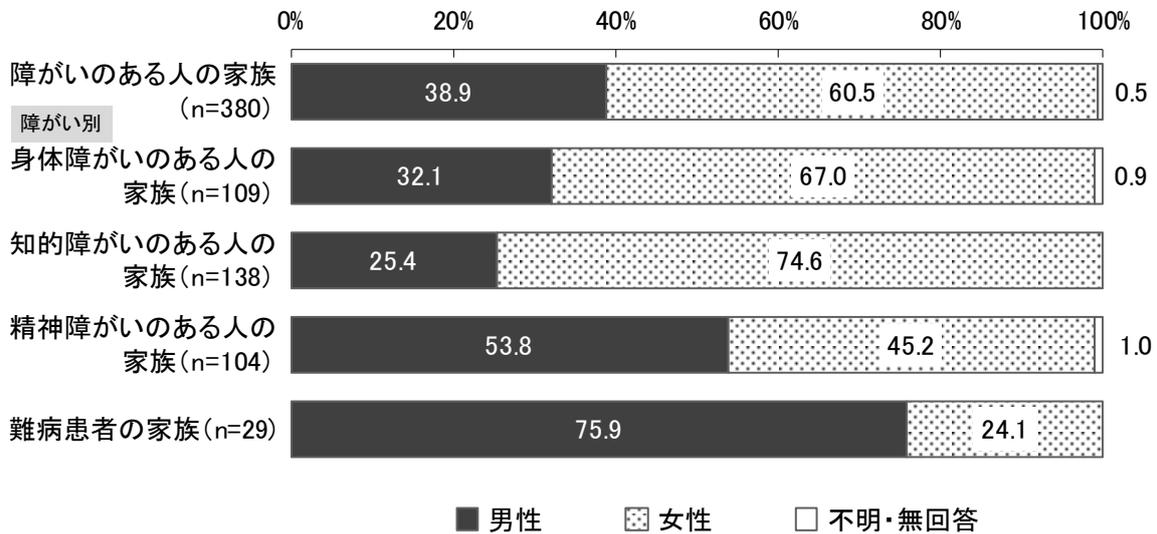
区分	n=	夫・妻	親	子ども	子どもの夫・妻	兄弟姉妹	祖父・祖母	孫	その他の親族	その他	不明・無回答
障がいのある人の家族	380	37.9	37.1	13.9	1.8	6.1	-	0.3	0.8	1.1	1.1
身体障がいのある人の家族	109	58.7	16.5	14.7	2.8	5.5	-	-	0.9	-	0.9
知的障がいのある人の家族	138	4.3	79.0	6.5	2.2	5.8	-	-	1.4	0.7	-
精神障がいのある人の家族	104	51.0	9.6	24.0	1.0	7.7	-	1.0	-	2.9	2.9
難病者の家族	29	72.4	13.8	10.3	-	3.4	-	-	-	-	-

(120) あなた(支援者)の性別について

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 3

障がいのある人の家族全体で、「女性」が約6割となっています。



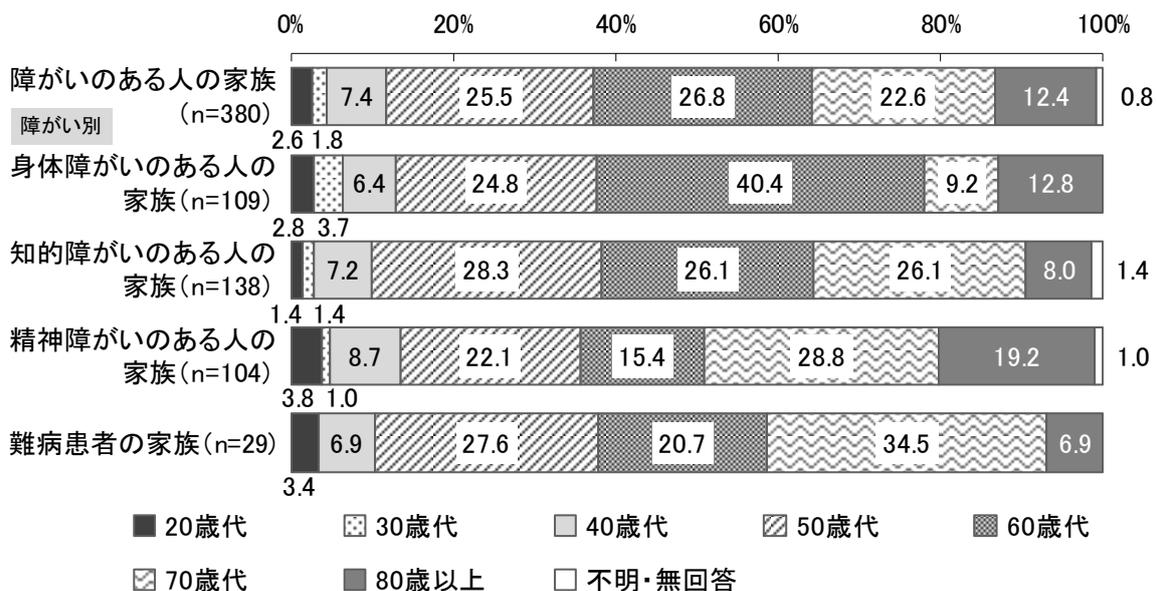
(121) あなた(支援者)の年齢について(令和4年10月1日現在)

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 4

障がいのある人の家族全体で「60歳代」が約3割と最も高く、次いで「50歳代」となっています。

障がい別では、身体障がいのある人の家族で「60歳代」が、知的障がいのある人の家族で「50歳代」が、精神障がいのある人の家族及び難病患者の家族で「70歳代」が、それぞれ最も高くなっています。

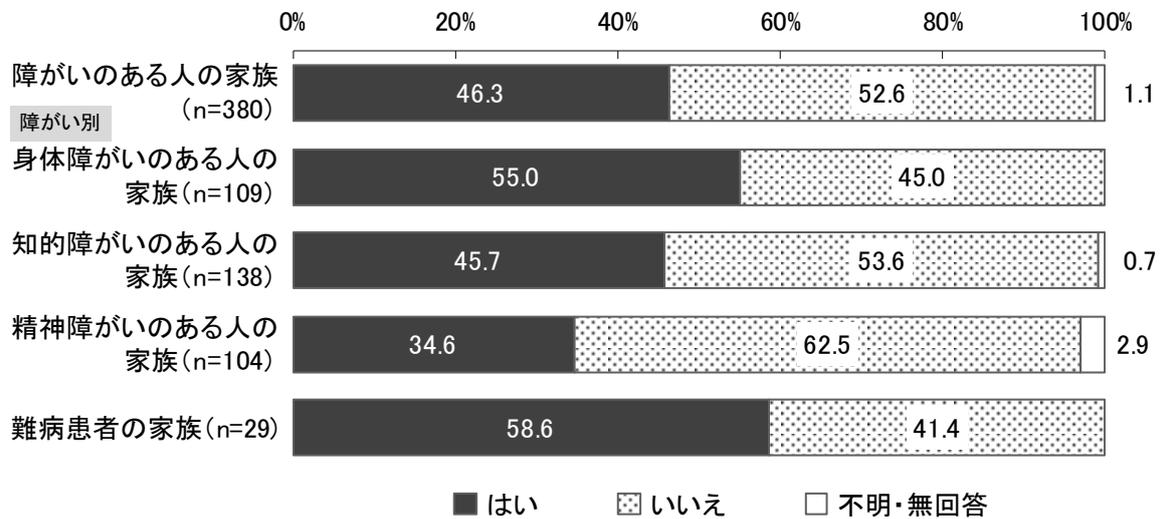


(122) あなた(支援者)は仕事をしていますか。

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 5

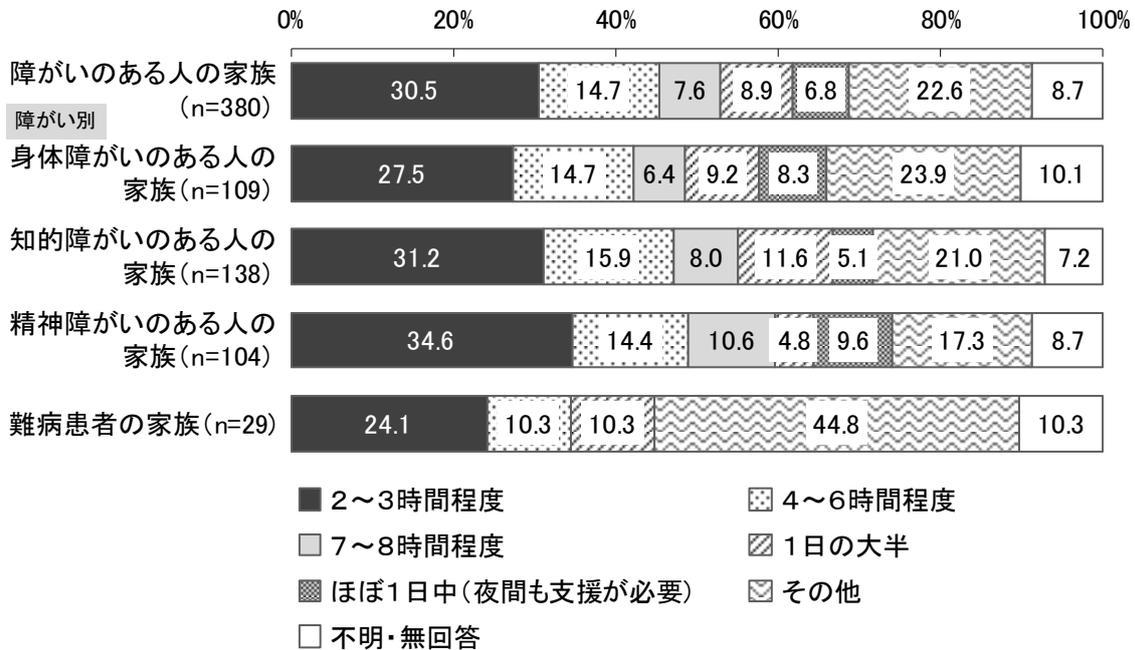
障がいのある人の家族全体で「はい (仕事をしている)」が約 5 割となっています。



(123) あなた(支援者)が1日あたりの支援にかけている時間はどれくらいですか。

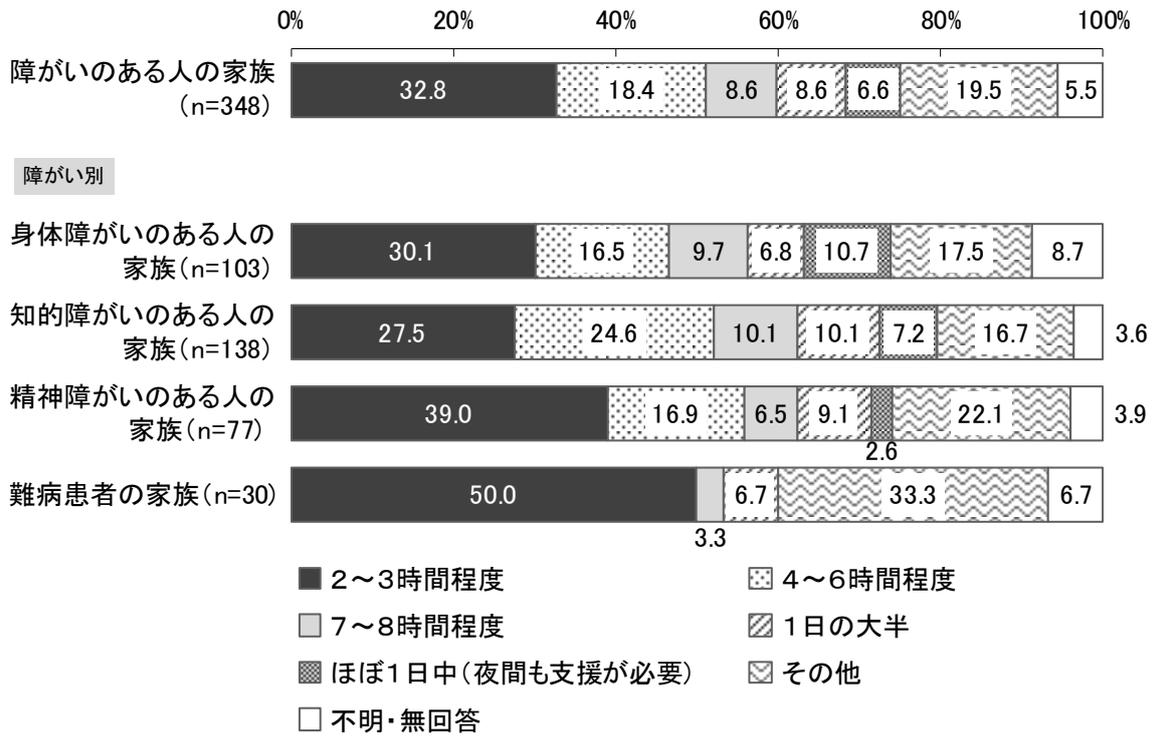
※(118)で「支援が必要」と答えた方に聞きました

障がいのある人の家族全体で「2～3時間程度」が最も高くなっています。



■主な「その他」の内容

「その他」回答	
■身体障がいのある人	
1～2時間程度。	歩いて移動する時、車いすを押す等。
一緒に居られる時間のみ。	週1日程度。
体調が悪い時。	時によって時間の差はある。
■知的障がいのある人	
1～2時間程度。	グループホームに入居しているため週末のみ。
医者など必要で大切な時。	外出する時。
事業所への送迎と毎日の食事の時。	夜中も発作があると介助・見守りが必要。
■精神障がいのある人	
始終心配りと、身の回りの世話が必要。	寝たきりのため、夜間も下の世話が必要。
用事のある時だけ。	金銭面での援助が必要な時。
週3回デイサービスに通所しており、その日以外はほとんど1日中支援が必要。	
■難病患者	
1～2時間程度。	外出時の運転、通院時の送迎。



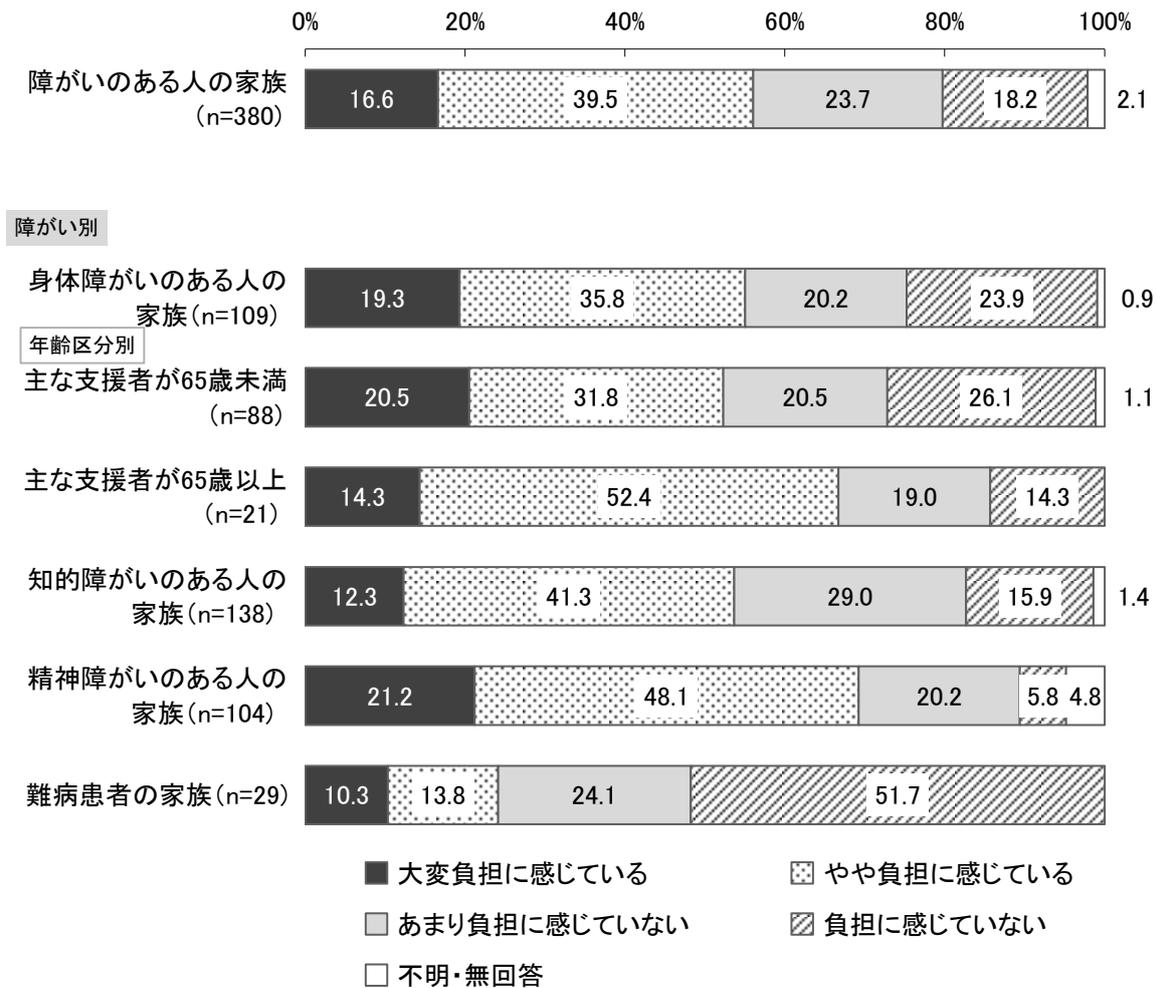
(124) あなた(支援者)が宛名の方ご本人の支援について、負担に感じることはありますか。

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

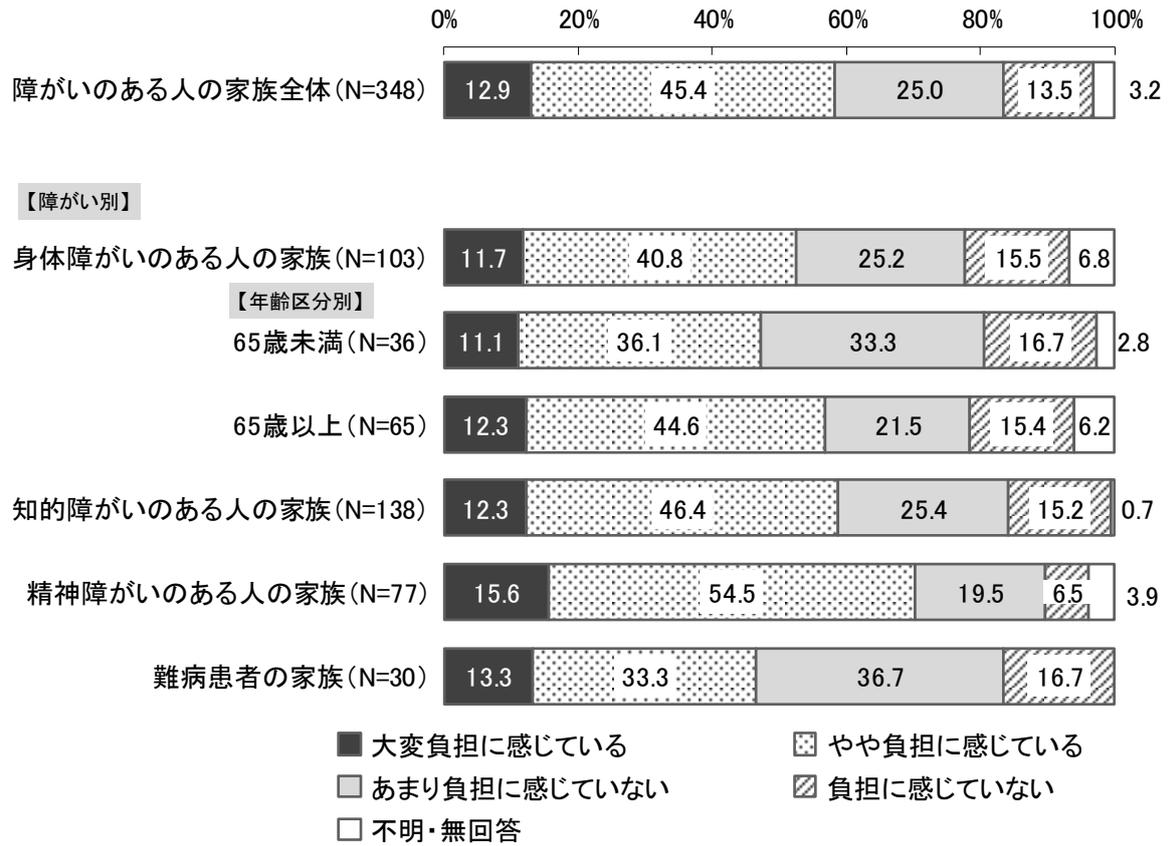
家族問 7

障がいのある人の家族全体で、『負担に感じている』(「大変負担に感じている」「やや負担に感じている」の合計) が約 6 割となっています。

障がい別では、精神障がいのある人の家族で『負担に感じている』が約 7 割と、他の障がい等に比べて高くなっています。

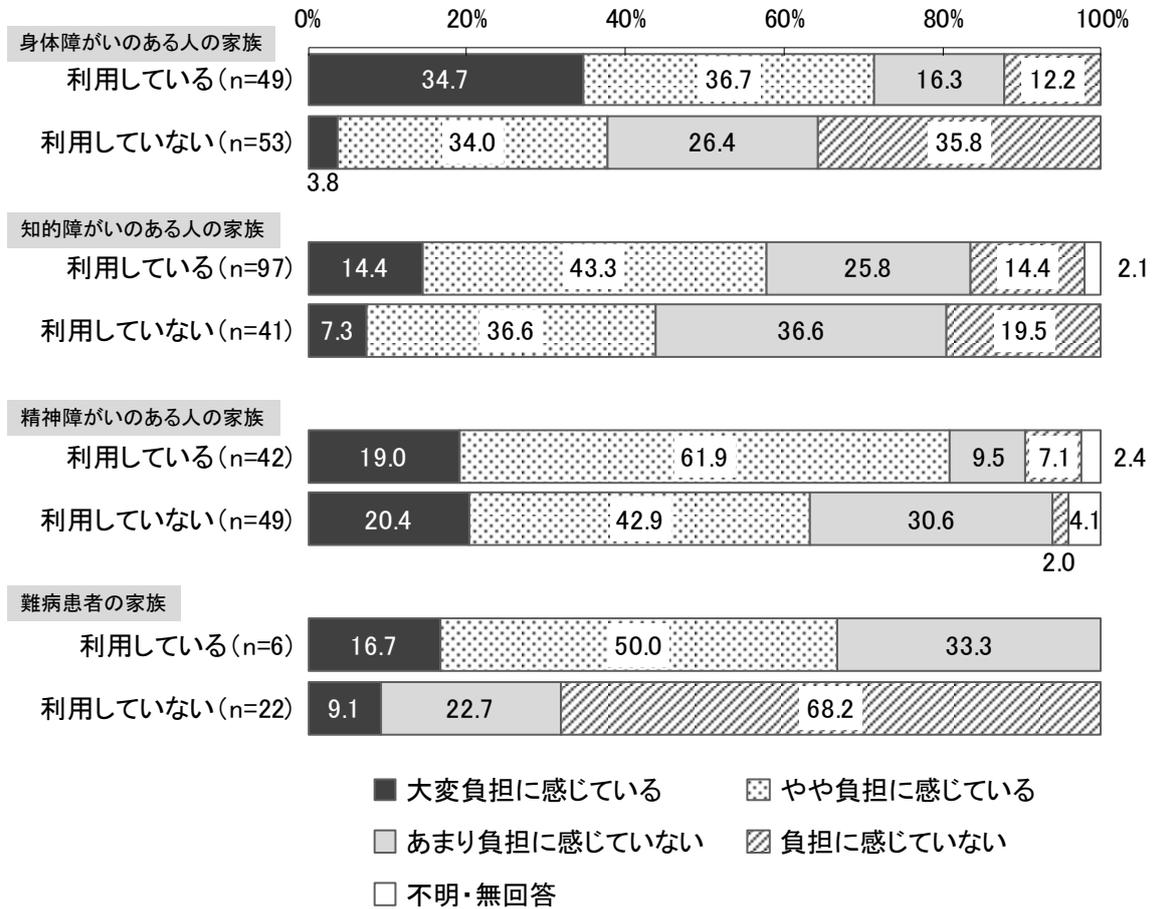


参考：令和元年度調査結果



■ 障がい福祉サービスの利用の有無別

障がい福祉サービスの利用の有無別では、障がい福祉サービスを「利用している」家族においても『負担に感じている』（「大変負担に感じている」「やや負担に感じている」の合計）はいずれの障がい等においても高くなっています。



(125) あなた(支援者)が支援する上で困っていることは何ですか。(複数回答)

※(118)で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 8

障がいのある人の家族全体で「心身が疲れる」が約4割と最も高く、次いで「必要な時に他の人に支援を頼めない」となっています。

(単位：%)

区分	障がいのある人の家族全体						
		身体障がいのある人の家族		知的障がいのある人の家族	精神障がいのある人の家族	難病患者の家族	
		主な支援者が65歳未満	主な支援者が65歳以上				
n=	380	109	88	21	138	104	29
1位	心身が疲れる (43.7)	心身が疲れる (41.3)	心身が疲れる (40.9)	心身が疲れる (42.9)	心身が疲れる (44.2)	心身が疲れる (49.0)	特にな (58.6)
2位	必要な時に他の人に支援を頼めない (35.8)	特にな (33.9)	必要な時に他の人に支援を頼めない 特にな (各34.1)	特にな (33.3)	必要な時に他の人に支援を頼めない (41.3)	必要な時に他の人に支援を頼めない (39.4)	心身が疲れる (31.0)
3位	特にな (26.8)	必要な時に他の人に支援を頼めない (32.1)	外出できない (20.5)	外出できない (28.6)	特にな (22.5)	相談相手がない (19.2)	外出できない (17.2)
4位	外出できない (17.1)	外出できない (22.0)	相談相手がない (9.1)	必要な時に他の人に支援を頼めない (23.8)	相談相手がない 外出できない (各13.0)	外出できない (17.3)	必要な時に他の人に支援を頼めない (10.3)
5位	相談相手がない (12.1)	相談相手がない その他 (各7.3)	その他 (6.8)	その他 (9.5)	その他 (7.2)	特にな (16.3)	

■障がい福祉サービスの利用の有無別

障がい福祉サービスの利用の有無別では、障がい福祉サービスの利用の有無にかかわらず「心身が疲れる」が上位となっています。また、身体障がいのある人の家族、知的障がいのある人の家族及び精神障がいのある人の家族において「利用している」家族は、「必要な時に他の人に支援を頼めない」がそれぞれ約5割と高くなっています。

(単位：%)

区分	n=	外出できない	心身が疲れる	相談相手がいない	必要な時に他の人に支援を頼めない	その他	特にない	不明・無回答
身体障がいのある人の家族								
利用している	49	32.7	59.2	8.2	44.9	8.2	22.4	2.0
利用していない	53	13.2	22.6	7.5	18.9	5.7	49.1	1.9
知的障がいのある人の家族								
利用している	97	15.5	45.4	11.3	45.4	8.2	19.6	4.1
利用していない	41	7.3	41.5	17.1	31.7	4.9	29.3	2.4
精神障がいのある人の家族								
利用している	42	28.6	54.8	23.8	54.8	9.5	9.5	2.4
利用していない	49	10.2	51.0	14.3	32.7	10.2	22.4	8.2
難病患者の家族								
利用している	6	33.3	83.3	-	16.7	-	16.7	-
利用していない	22	9.1	18.2	-	9.1	-	72.7	-

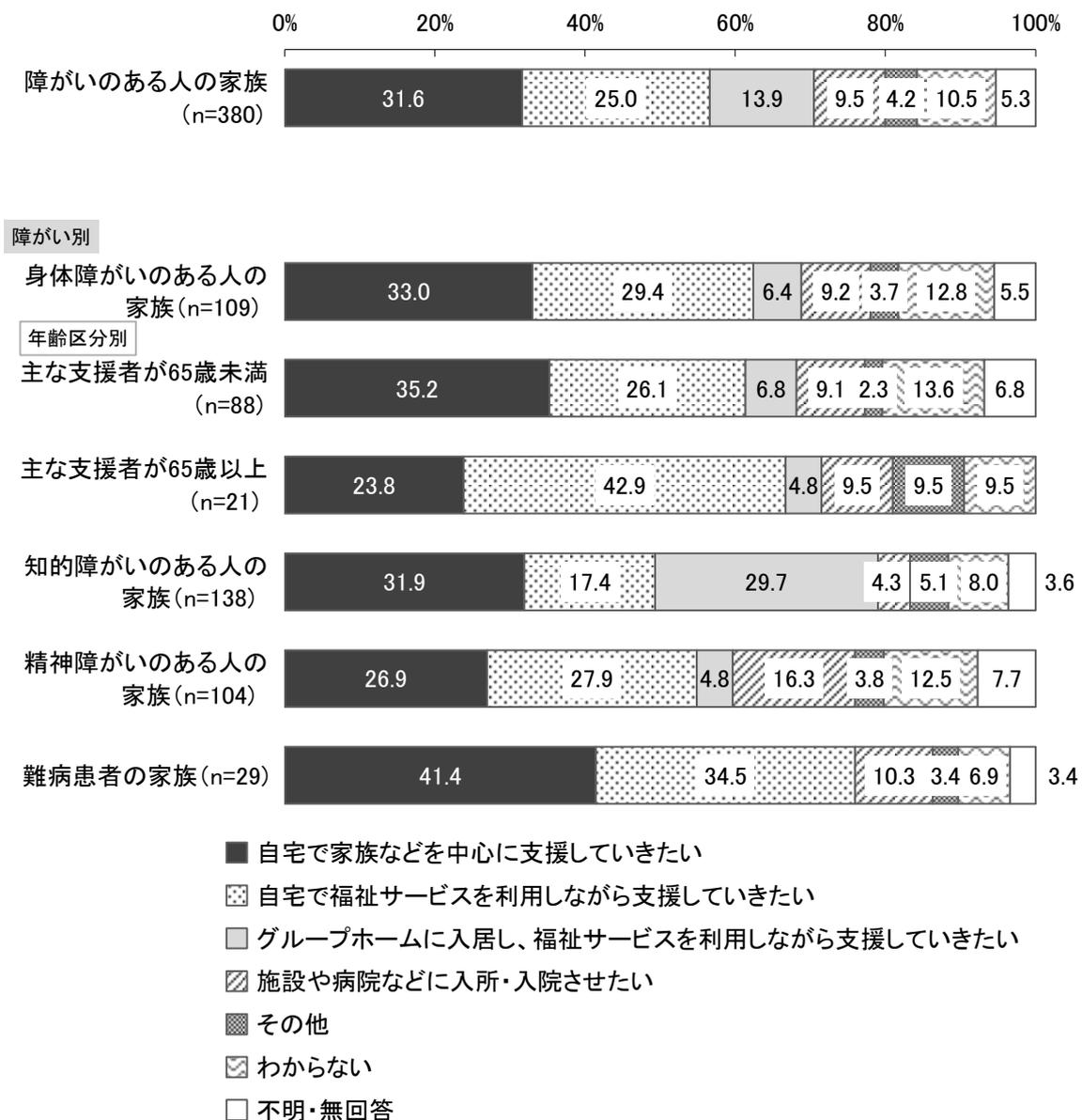
(126) 今後、あなた(支援者)は、どのように支援していきたいと思いますか。

※ (118) で「支援が必要」と答えた方に聞きました

家族問 10

障がいのある人の家族全体で、『自宅での支援』(「自宅で家族などを中心に支援していきたい」「自宅で福祉サービスを利用しながら支援していきたい」の合計) が約6割となっています。

障がい別では、知的障がいのある人の家族で「グループホームに入居し、福祉サービスを利用しながら支援していきたい」が約3割、精神障がいのある人の家族で「施設や病院などに入所・入院させたい」が約2割と、それぞれ高くなっています。

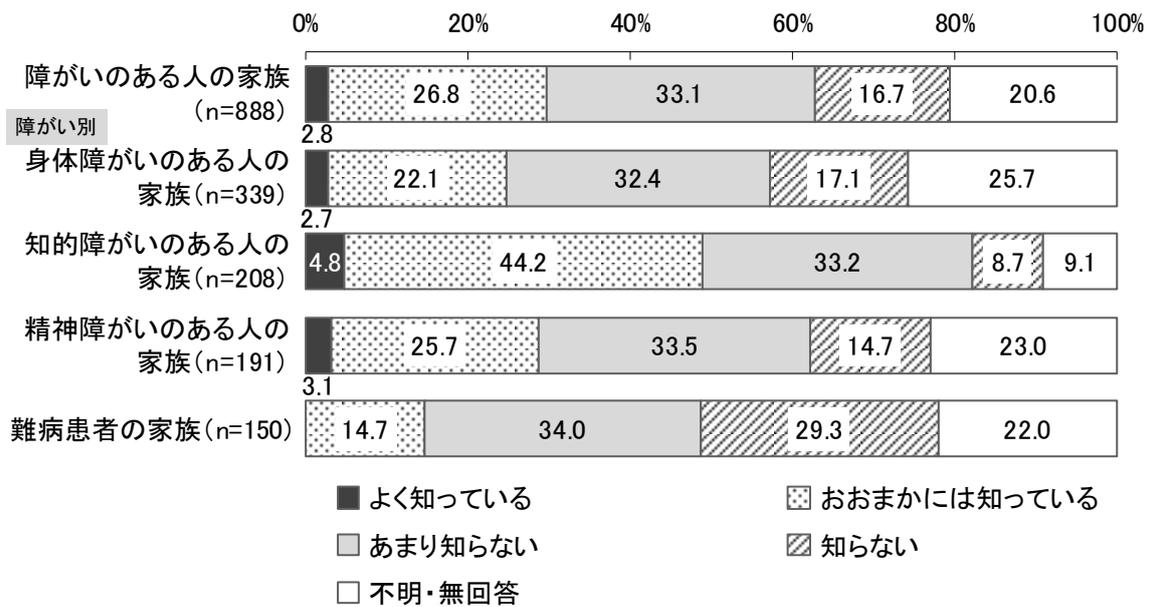


(127) あなたは、福祉サービスを利用するための方法やサービスの内容について、知っていますか。

家族問 12

障がいのある人の家族全体で『知っている』（「よく知っている」「おおまかには知っている」の合計）が約3割となっています。

障がい別では、知的障がいのある人の家族で『知っている』が約5割と高い一方で、難病患者の家族は『知らない』（「知らない」「あまり知らない」の合計）が約6割と、他の障がいに比べて高くなっています。

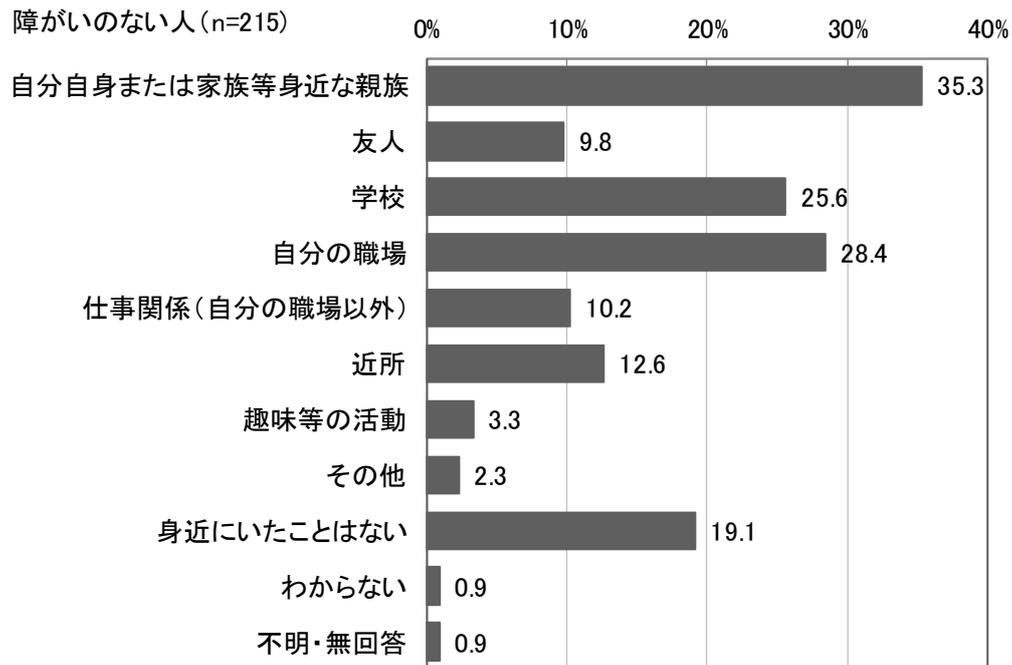


15. 共生社会について

(128) これまで、あなたの身近に障がいのある人がいたことはありましたか。また、それはどのような場面でしたか。(複数回答)

一般問 4

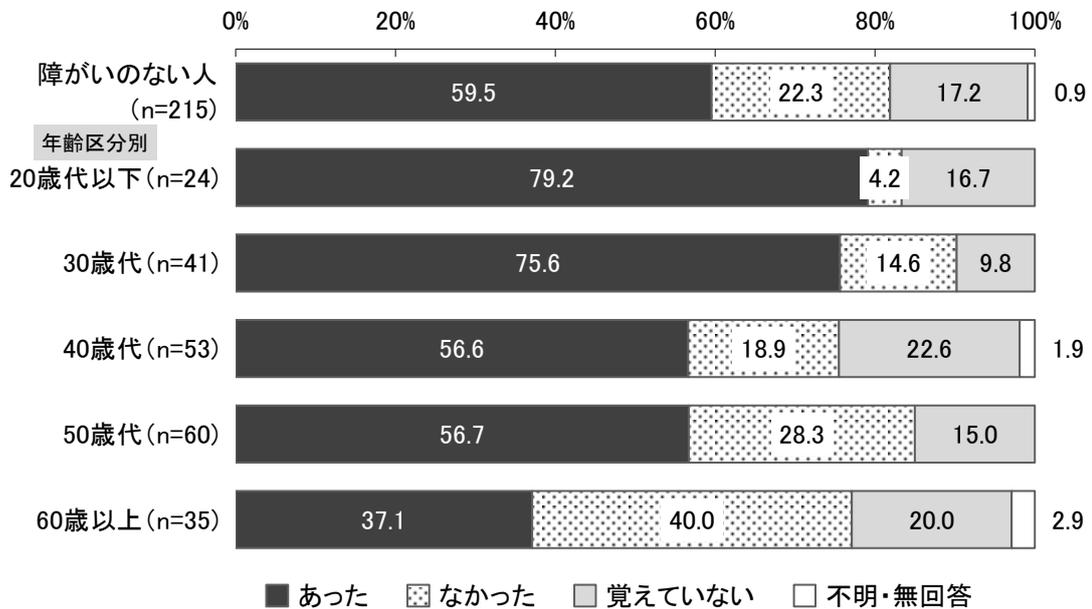
障がいのない人全体で、「自分自身または家族等身近な親族」が約4割と最も高く、次いで「自分の職場」となっています。



(129) あなたは、これまでに学校の授業などで障がいについて学んだり障がいのある人に接する機会がありましたか。

一般問 5

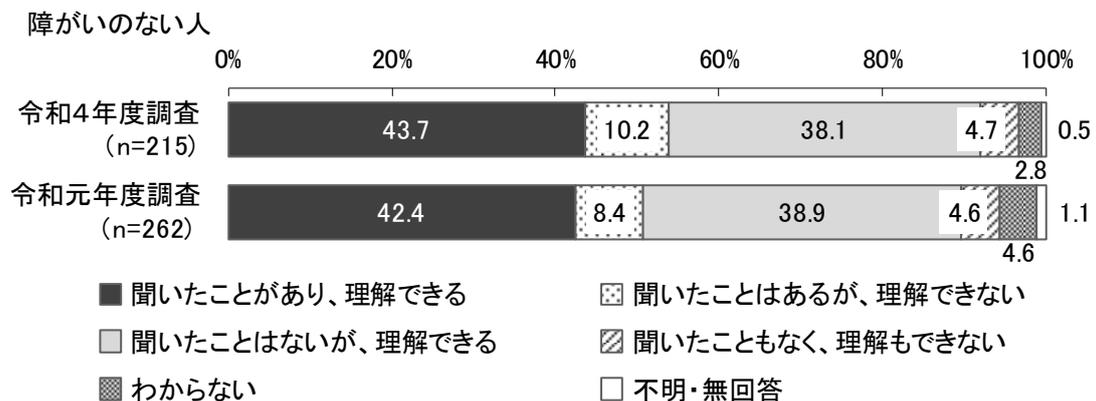
障がいのない人全体で、「あった」が約6割となっています。



(131) 「共生社会」とは、障がいの有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う社会のことです。あなたは、この「共生社会」という言葉を聞いたことがありますか。また、このような社会のあり方についてどのように考えますか。

一般問 7

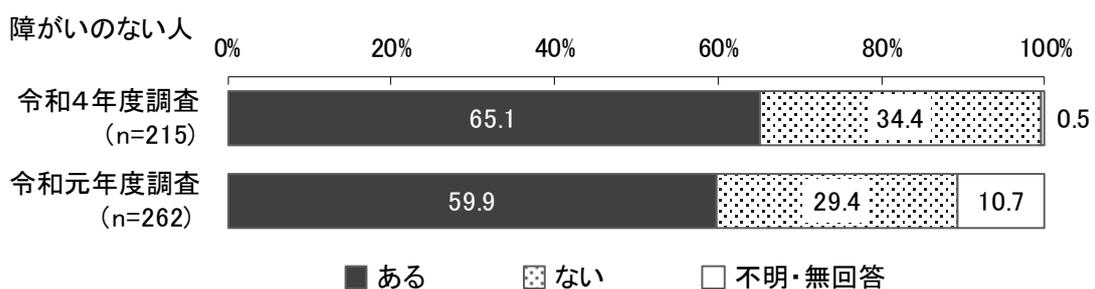
障がいのない人全体で、「聞いたことがあります、理解できる」が約4割と最も高く、次いで「聞いたことはないが、理解できる」となっています。



(132) あなたは、障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがありますか。

一般問 8

障がいのない人全体で、「ある」が7割弱となっています。

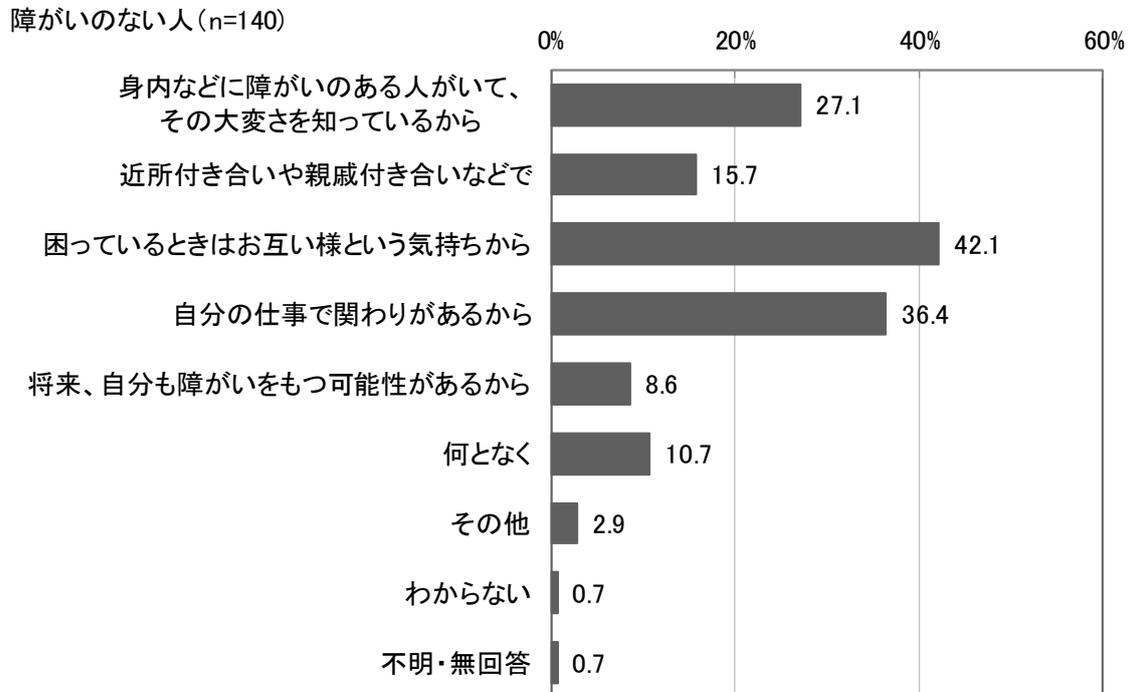


(133) それはどのような気持ちからですか。(複数回答)

※ (132) で「ある」と答えた方に聞きました

一般問 9

障がいのない人全体で、「困っているときはお互い様という気持ちから」が約4割と最も高く、次いで「自分の仕事で関わりがあるから」となっています。

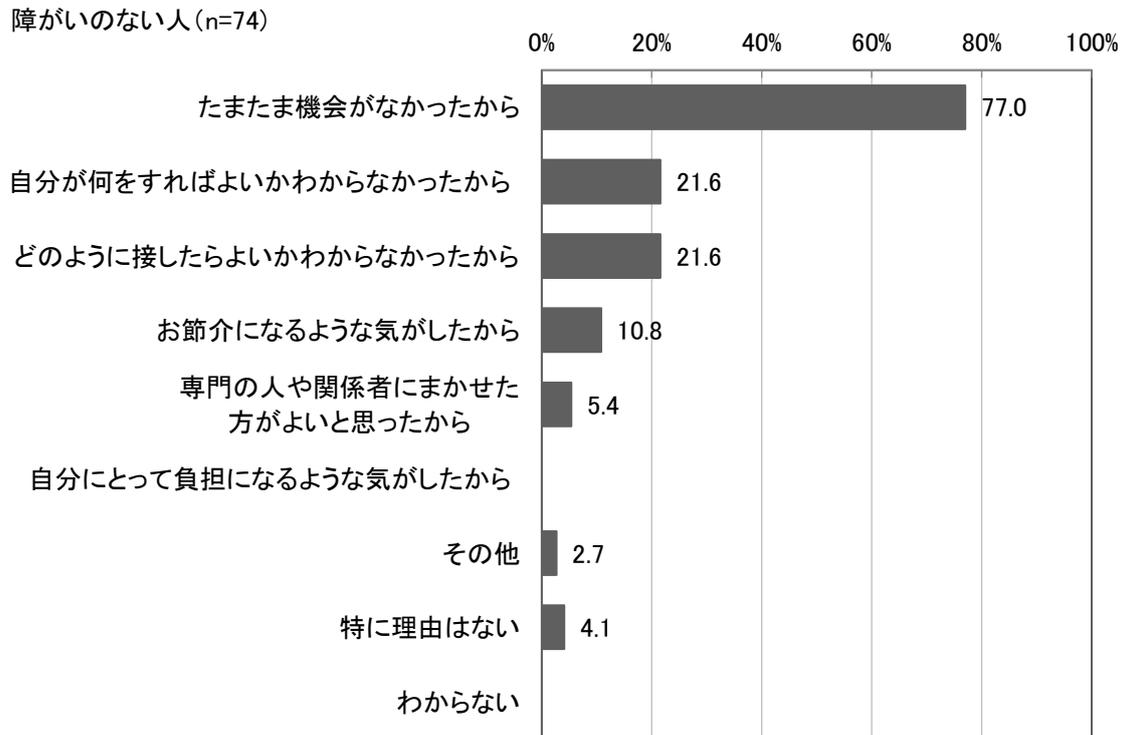


(134) 障がいのある人と気軽に話したり、障がいのある人の手助けをしたことがない理由は何ですか。(複数回答)

※(132)で「ない」と答えた方に聞きました

一般問 10

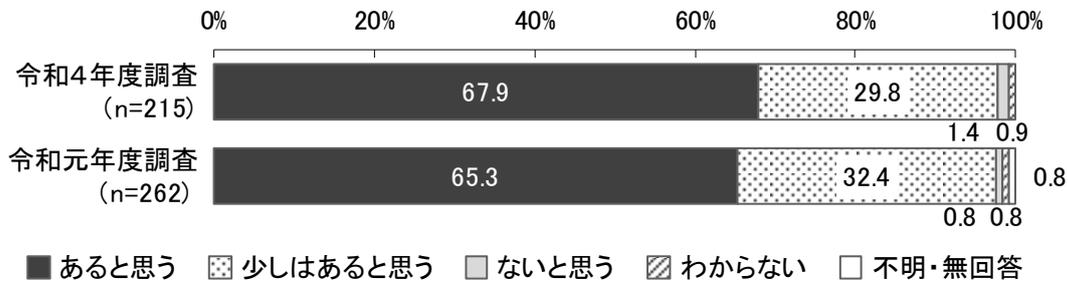
障がいのない人全体で、「たまたま機会がなかったから」が約8割と最も高く、次いで「自分が何をすればよいかわからなかったから」「どのように接したらよいかわからなかったから」となっています。



(135) あなたは、世の中には障がいのある人に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。

一般問 11

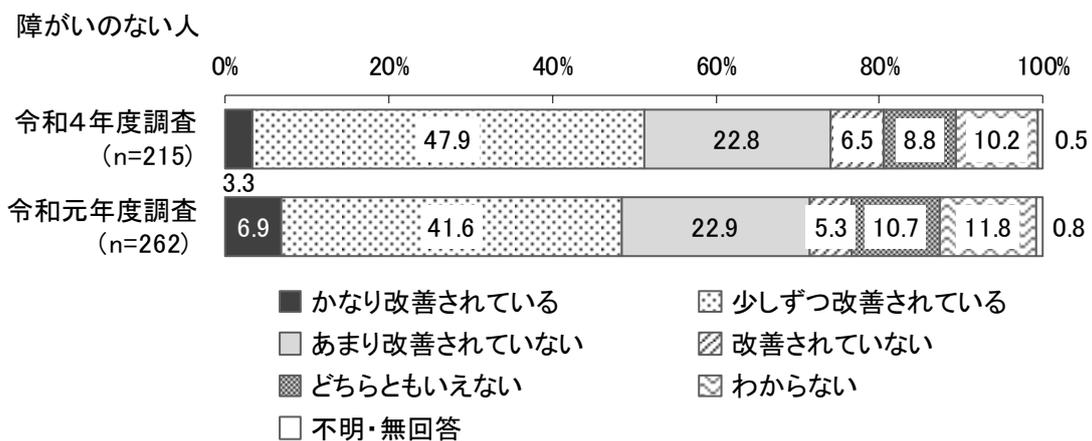
障がいのない人全体で、『あると思う』（「あると思う」「少しはあると思う」の合計）が9割を超えています。



(136) あなたは、5年前と比べて障がいのある人に対する差別や偏見は改善されたと思いますか。

一般問 12

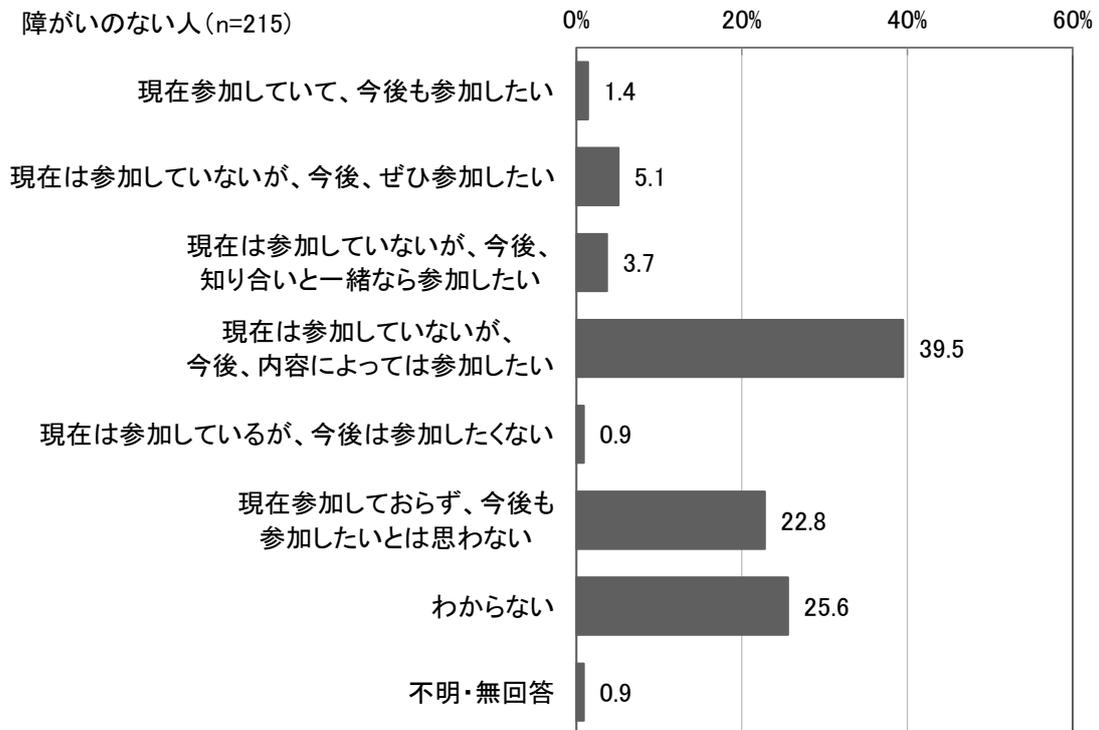
障がいのない人全体で、『改善されている』（「かなり改善されている」「少しずつ改善されている」の合計）が5割を超えている一方で、『改善されていない』（「あまり改善されていない」「改善されていない」の合計）が約3割となっています。



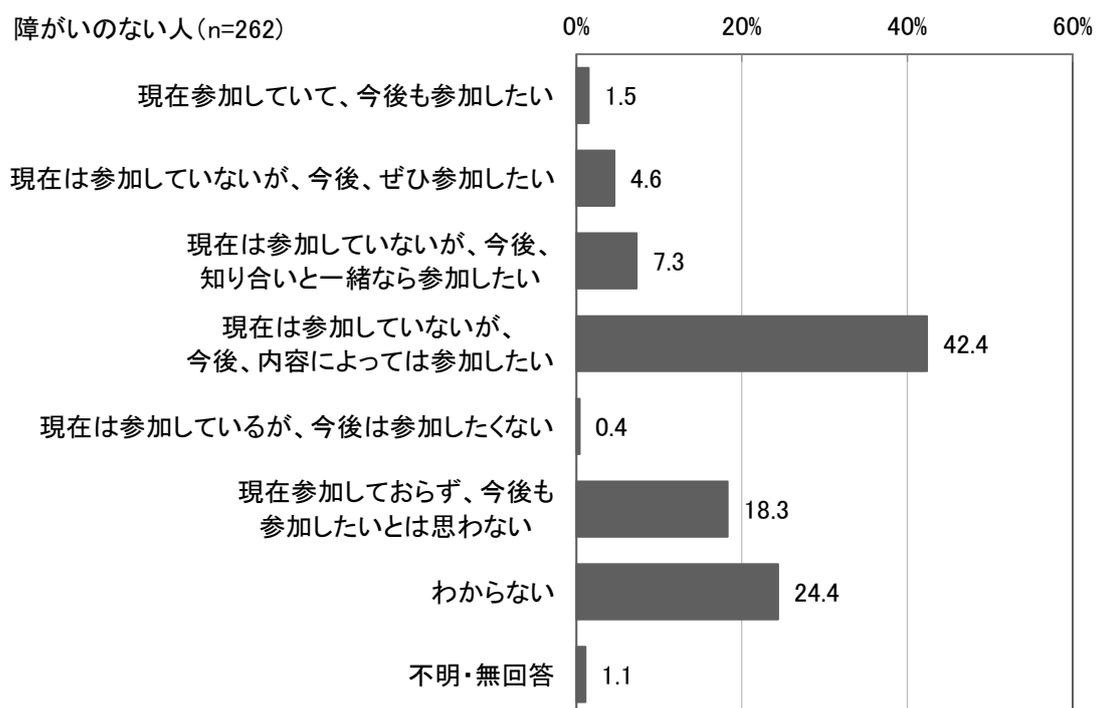
(137) あなたは、障がいのある人に関わるボランティア活動(近所のボランティア、市のボランティア問わず)に参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。

一般問 13

障がいのない人全体で、「現在は参加していないが、今後、内容によっては参加したい」が約4割と最も高く、次いで「わからない」となっています。



参考：令和元年度調査結果

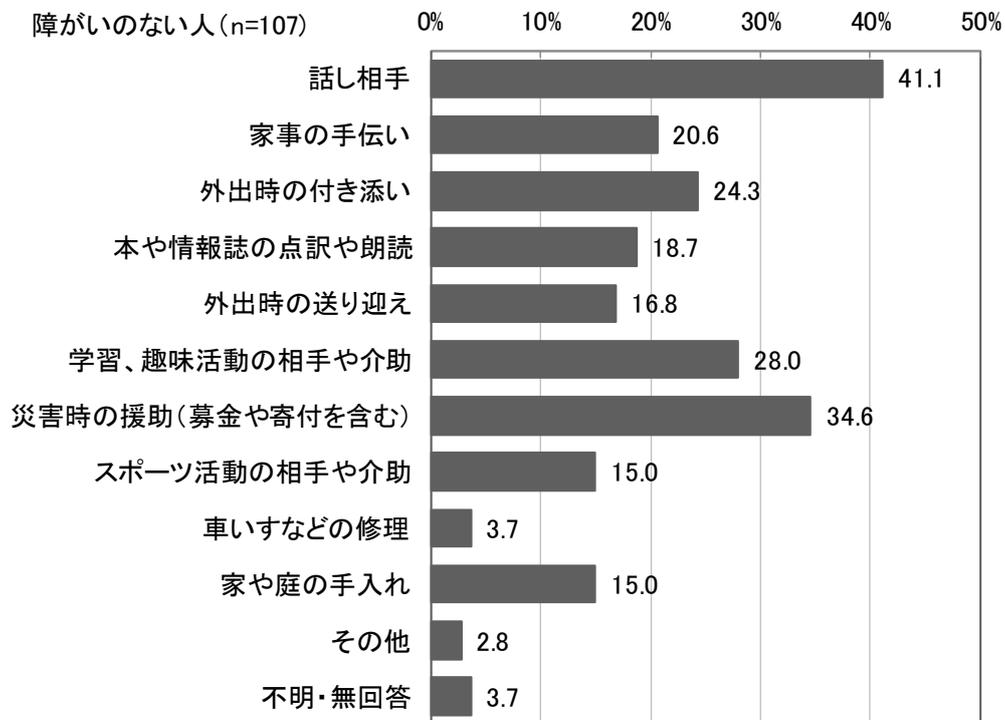


(138) どのようなボランティアに参加したいですか。(複数回答)

※ (137) で「ボランティア活動に参加したい」と答えた方に聞きました

一般問 14

障がいのない人全体で、「話し相手」が約4割と最も高く、次いで「災害時の援助(募金や寄付を含む)」となっています。



III 自由意見

1. 障がいのある人等及びその家族

市の障がい者福祉について、多くのご意見やご要望等をいただきました。

(1) 身体障がいのある人及びその家族

1. 日常生活について	7件
<p>○自分がやれることは、できるだけ頑張りますが、どうしてもできないと判断した時、手を貸してくれる施設や人をあらかじめ知っておきたいです。できれば見学も希望します。悪くなることを念頭において、転倒は気をつけていますが、思わぬ時に災難にあう年齢です。</p> <p>○私は見た目にはまったくわからない障がい者です。短時間のパートをしていますが、毎日健康に不安を感じて生活しているような気がします。弱さを見せないように、強気で生きてきました。これからも明るく精一杯生きて行こうと思います。このようなアンケート用紙をいただき、普段家族には言えない自分の弱さも再認識でき、何だか見守られている気になり、有難く思います。ありがとうございます。</p> <p>○障がい者施設の充実も大切かも知れませんが、障がい者が日常生活をどのように自立して送ることができるのか？これも大きな課題だと思います。ずっと家の中だけの生活は、孤独です。ただただ命を長らえているだけの日々です。自分の力で買い物や銀行へ行きたくてもすべがありません。介護タクシー・乗り合いタクシー（高齢者も利用可能）、駅・病院・役所へ行くだけのバスではなく、もっと生活に密着したバスなどが充実したらと思います。介護食を食べなくても自分で台所に立って料理ができたりするようになるとよいと思います。</p>	
2. 経済的な不安について	9件
<p>○今は仕事をしていますが、動けなくなったりして、仕事ができなくなった時の生活が不安です。</p> <p>○家庭を持っている者としては、現在の仕事だけでかなり体調面できついです。これから働けなくなったら、収入面に不安があります。そのためにも、市町村及び国が、保障してくれると良いと思います。</p> <p>○親が活着ているうちは良いですが、いなくなったら収入はありません。どうして食べて行くのか心配しています。</p>	
3. 将来への不安について	26件
<p>○今は特に困っていることはありませんが、高齢になったり、事故などで体がさらに不自由になったら、一人で生活できるかわからないので、将来が不安です。</p> <p>○現在は家族の助けもあり暮らしていけますが、高齢で一人になった時に暮らしていけるか不安があります。</p> <p>○今後の生活がとても不安です。金銭面・この物価高・ウクライナ問題・政治の不安定・年金ももらえるのかどうか、障がい年金も難しいのではと思います。体が不自由という事で仕事もできません。心臓だけではなく、交通事故にあい、手も不自由です。しかし、障がい者認定は満足できるものではなく、毎日不安です。正直、死についていつも考えています。家族に迷惑ばかりかけて、日々の生活をして生きていても生産性がない人間だと自分で思います。今後の生活が不安でないようにしてほしいです。</p> <p>○自分の視覚が不自由になってから、いつも楽しみにしていたことが一切できなくなりました。娘に介護してもらっていることに負い目を感じながら生きている自分がつらいです。年を重ねているので新しいことが覚えられず、まわりに迷惑をかけてしまっていることを心苦しく思っています。何か私にもできる楽しさと、視覚障がいについての理解をしてほしいです。生きがいを感ぜられる方法が知りたいです。</p> <p>○いつまで在宅で看る事ができるのか、看られなくなった時に入所できる施設が、面会に行ける距離の場所にあるのか知りたいです。</p> <p>○長年医療的ケアの子どもを育ててきて、身体への負担が大きく、夫婦ともに腰痛や関節痛などの症状があります。子どもの体重管理もしていますが、移乗や入浴、夜間の吸引、呼吸器管理の負担が大きいです。夫婦この先、年齢が上がって行った時、このまま、ちゃんとケアをしてあげられるのか心配です。入所では無く、今の生活とあまり変わらず、通所も可能なグループホームを将来希望します。市内に医療的ケア対応可能なグループホームが無いので不安です。また、今のままでは、私達の親の介護ができる状態ではないです。</p>	

4. 就労について	3件
<p>○60歳以降の就労が心配です。現在ソフトウェア開発の仕事に従事していますが、60歳以降に働き口があるか心配しています。60歳以降となると、体を使う仕事が多いと思われませんが、現状の体力、健康状態を考えると、体を使った仕事はできそうになく、とても心配しています。</p> <p>○私の兄も障がいがあり事業所で働いていますが、時給・工賃が安すぎると思います。自立を支援するならば、もう少し時給を上げないと、一人では生活するのは難しく、生活保護受給者となってしまいます。障がい者であっても、ごく普通の暮らしができるようになると、すばらしい社会かな、と思います。</p>	
5. 移動・外出について	10件
<p>○春日井シティバスの本数を増やしてほしいです。</p> <p>○市民病院の駐車場で困っています。身体障がい者専用（身体障がい手帳のある人）に、車に置き、外から見えるような許可証を発行してほしいです。</p> <p>○もう少し交通機関を充実してほしいです。すべての交通機関を無料にしてほしいです。</p>	
6. 相談・情報提供について	4件
<p>○視力聴力も衰え、スマートフォンも持たないので、情報入手ができません。さらに昨今、横文字やデジタルとかでますます世間から取り残されていく思いがします。老人にもわかりやすい方法、言語で情報を伝えてほしいです。</p> <p>○春日井市の障がい者福祉の活動内容・方針など、より広く市民に知らせる広報が、充実すると思います。</p> <p>○自立できていますから今のところは問題ありませんが、年齢を重ねてくると様々な障がいと考えられます。そんな時の相談できる体制・定期的にチェックしてもらえるような仕組みづくりを希望します。</p>	
7. 医療について	1件
<p>○医療費負担の無償化は大変助かっています。</p>	
8. 災害時等緊急時への不安について	2件
<p>○災害の時の避難方法がわかりません。</p> <p>○避難場所で、ストーマ装具の交換ができるか心配です。ストーマ装具の購入が薬局などでもできるようにしてもらいたいです。</p>	
9. 差別や権利擁護、障がい者理解について	11件
<p>○障がいがあることを、家族はもちろん知っていますが、他の人にあまり知られたくないと思っています。</p> <p>○中途聴覚障がい者として生活のいろいろな場面で、障がいの程度、状況がなかなかわかりづらい面があると思います。特にコロナ禍では会話をさえぎるものが多く、その分神経も使うこととなっています。日常生活の中で各々の障がいの程度や情報をわかりやすくする方法や、対応がさらに前進していくことを希望します。</p> <p>○いくら差別をなくそう、平等にしようとしても、子どもたちが差別的発言をしているのを聞いたことがあり、教育がとどいてないのかなと思います。体や心に障がいがある人への認識が変わらない限り、差別的な言葉や、目を向けられ続けるのかなと思います。</p>	

10. 介助・介護者や家族について	8件
<p>○家族にあまり迷惑をかけたくありません。</p> <p>○在宅での支援が望ましいのですが、どうしてもある特定の人に負担がかかってしまうのではないのでしょうか。育児（孫も）と介護のダブルケアとなる人が、今後増えてくるのではないのでしょうか。身体とともに家族が認知症になるのが心配です。</p> <p>○障がい者本人の支援はありますが、障がい者本人を支える家族の支援をしてほしいです。支える家族の負担が大きいと思います。</p>	
11. 福祉施策について	6件
<p>○障がい者自身の学びの場がほしいです。</p> <p>○春日井市から支給される「春日井市福祉応援券」が大変助かっています。これからも続けてください。</p>	
12. 行政への要望	32件
<p>○コロニー（愛知県医療療育総合センター）のレスパイトが、制限があって以前のように使えません。医療的ケアがある人が通える事業所や、グループホームを作ってほしいです。医療的ケアに特化している事業所に対する支援や、ヘルパーさんの賃金を充実させてほしいです。</p> <p>○障がいのある者が（高齢者）、優先的に入所できる施設を増やしてほしいです。</p> <p>○相談員やヘルパーの方々の賃金をもっと上げて、働き甲斐が感じられる対価をあげてほしいです。</p>	
13. その他	11件
<p>○「障がい福祉課」という封筒の名前にドキッとします。近所の人に知られたくないので、封筒の名前を少しわからないように名称を変更してもらえたら良いと思います。</p> <p>○自分は携帯・スマートフォン・パソコンなど持ってはいません。また、広報春日井など手に取り読む事もあります。今回のアンケート結果その他の行政のこと等、誰にでもわかるように示してほしいと思います。</p> <p>○認定を受けて、まだ日が浅いので今のところは問題ありません。今後日が経ち、障がいが増進した時に困る事があるかと思いますが、その時は宜しくお願いします。</p>	

(2) 知的障がいのある人及びその家族

1. 日常生活について	6件
<p>○話し合える仲間、友達がいません。</p> <p>○保護者がボランティアコーチを探して自主的に水泳教室をやっていますが、コーチを見つけるのが大変です（コーチの転勤、結婚、高齢化などで、現在コロナもあり休止中。）。水泳は全身運動で、同じ動作の繰り返しなので、障がい者には適しています。記録会や大会もあります。</p> <p>○保育園の面接時に、児童相談センターの先生からのアドバイスで、「成人してから他の手をできるだけ借りなくて過ごせるように、何か1個集中できる事があると良いね…折り紙でもゲームでも…何でもいから1個好きな事があると、成人してから豊かになるよ」と言われました。その時は実感できませんでしたが、今はすごく理解できます。本人が集中している間に、母は他のことができます。見守る方も気持ち的に楽です。学習が無理でも、おぎなう業があれば何とか生活して行ける現状です。農園で働き賃金を貰う事で、自信にも繋がっているように思います。障がいのある人から、「市民」になれるように、そんな社会になれば幸いです。親としても努力しています。</p> <p>○現在困る事はありません。将来の事が不安と言えば不安ですが、先の事はわかりませんので、毎日元気に暮らすことができるように、心身ともに健康に気をつけたいと思っています。福祉サービスが増えていることを知りました。本人の気持ちを大切に、必要な時には利用も考えてみたいと思います。</p> <p>○本人は入所により施設での生活をしています。コロナでも面会はできますが、入居する部屋を見ることができず、生活の様子を知ることができません。コミュニケーションがまったくとれず、想いを聞くこともできず、私は何をすればよいのかと考えてしまうことがあります。家族も皆高齢で本人との生活が困難であり、入所できたことは感謝しています。</p>	
2. 経済的な不安について	4件
<p>○経済的にとても不安です。今後どうなっていくか考えられません。</p> <p>○自分の使うお金が足りません。</p> <p>○もし自分が一人になった時、年金だけでやっていけるか不安です。</p> <p>○老人ばかりに力が入っていますが、障がいのある人もたくさんいます。賃金もかなり低く、その金額だけの価値しかないのでしょうか。世の中、賃金が上がっていきませんが、一度も上がりません。生活できない方が多くいます。親も働きたくても働けないなど大変なので、もう少し障がいのある方にも目を向けてほしいと思います。</p>	
3. 将来への不安について	18件
<p>○家族がいるうちは安心ですが、将来一人になった時の生活が不安です。</p> <p>○公共交通機関の駅、またはバス停までの足がありません(送迎が必要。)。はあとふるライナーは本数が少なすぎて使えません。オンデマンドバスは予約が取れません。パートでは収入が少なく、障がい年金もないので、親がいなくなった後の生活が不安です。病気もあり一人暮らしは不可能なため、安く入居できるグループホーム等がもっとあってほしいです。</p> <p>○高齢な親が、障がい者の介護等の支援をいざれできなくなった時に、安心して任せられる体制が見えません。また、現在グループホームも人手不足から土日サポートされないことが心配です。</p> <p>○自分の子に関して親ができることは限界があり、どうしても社会的制度仕組みの助けを必要としています。特に高齢になり、ますますその必要を感じています。</p> <p>○障がい重いので、仕事で収入を得ることはできなさそうに思います。一人で生きていけるのか心配です。料理と整理整頓が難しそうです。母親の私が出かけると、いつ帰ってくるのかラインが入るので、待っているのだと思います。被害妄想が出たり、嫌だったことが出てきたり、1日中怒っていたりします。他人を信用していない所があるので支援してもらおうにも難しいです。</p>	
4. 就労について	5件
<p>○このまま今の仕事を続けるのが難しいので、転職したいです。</p> <p>○働きやすく、給料もいっぱいもらえるようになったら嬉しいです。</p> <p>○障がい者雇用で働いていますが、賃金を上げてほしいです。他の障がい者の友達にも、給料の事を聞いたら、少ないので上げてほしいです。</p> <p>○働いている会社の時給が少なく困っています。今の仕事が難しく、このまま続ける事が難しいです。</p>	

5. 移動・外出について	4件
<p>○移動手段が少ないです。バスの渋滞などをもう少し調整してほしいです。また、出発地点や終点をもう少しわかりやすくしてほしいです。</p> <p>○東南部線は、17時以降バスが無いので、移動するのが大変です。</p> <p>○入所生活をしています。コロナにより3年ほどは外出ができておらず、特に外食をしたいなと思います。</p> <p>○私の妹は軽度の知的障がいがあります。彼女の楽しみは、休みの日に買い物に行ったり、カフェでランチやスイーツを食べたりすることです。しかし、彼女の移動手段は徒歩か自転車しかありません。昨年できたイーアス春日井に行くのも好きでした。けれども、2か月前よりシャトルバスが廃止され、はあとふるライナーもイーアスやイオンといった娯楽施設へは行きません。障がいがある人も高齢者も、ショッピングセンターやレストランに行きます。はあとふるライナーは1日の本数も少な過ぎる上、日々を楽しめる所への利用に不便過ぎます。</p>	
6. 相談・情報提供について	5件
<p>○兄弟がなく、自分が亡くなった後のことを考えるととても心配です。後見制度も手続きが大変なようです。制度を使うのも、今判断しかねています。自分自身も含め、事前に社会福祉協議会などでもう少し楽に相談できるといいなと思います。この年齢になりますと、また新たに人に説明したり、信頼関係を築くことも少々疲れます。市のバックアップと施設の方たちの目線のもとで、本人のことも含め相談できることを望みます。</p> <p>○高齢者のように、ワンストップで相談できる場所、緊急時すぐに対応していただける場所がほしいです。春日井市だけとは思いませんし、もちろん障がい者だけでもありませんが、住みにくく感じます。短期・中期・長期の未来が見えません。当事者としたら、40年前と変わらないように感じます。</p>	
7. 災害時等緊急時への不安について	1件
<p>○自分自身が病気になって急に入院することになった時や、急な葬儀の出席のときに、本人の対応をどうするか不安です。</p>	
8. 差別や権利擁護、障がい者理解について	6件
<p>○ヘルプマークをつけて個人情報を書くと、知られたくないことまで知られることになり、使い方がわかりません。障がいがない人がファッションでつけていたり、フリーマーケット(ネット)などで売られていたり、ヘルプマークの意味がよくわかりません。障がいがあるだけで白い目で見られたり、何かとすみません、ごめんなさい、と謝り続けなければなりません。ものすごく肩身の狭い思いをして出かけることもままなりません。何が楽しいのか本人が言えるわけではないので、健常者の方たちが考え方を変えない限り世の中は変わらないのではと思います。特に日本は昔のままで、障がいのある人は家の中でひっそり過ごして、外に出ることができないというのが、いまだに続いていると思います。理解、理解というだけで何も変わってないと思います。市役所でも、対応が不親切なことがあります。障がいのある人に寄り添う事が、まず第一だと思います。障がいのある子どもを持った親、身内に障がいがある方でなければ気持ちはわからないと思います。よく考えて物事を進めていただきたいと思っています。</p> <p>○子どもたちが理解し合って行けるような、そんな世の中にもっとなって、障がいの有無に関わらず、差別なく暮らしやすくなってほしいです。子どもたちが大人になっても、その差別やイジメのようなことがなく、みんなが普通に、障がいのある人達と向き合っていけるようになるのが願いです。</p>	
9. 介助・介護者や家族について	3件
<p>○通院介助の方がいきなり辞めてしまい、同性介助希望なのでなかなか次の方が見つかりません。</p> <p>○障がい者同士や親の会は存在していますが、障がい者家族(配偶者)への支援、相談する組織がありません。ある親の会に相談しましたが、配偶者は対象外だと相談を聞いてもらえませんでした。健常者と障がい者の夫婦には支援が届かないのが現状です。孤立してしまい、一人で悩みが解決しません。</p>	

10. 親亡き後の不安について	24 件
<p>○親亡き後の対応方策を充実していただき、情報を知りたいです。</p> <p>○障がい者の結婚は難しいですが、同じ障がいのレベルであれば可能だと思います。ただ出会いの場がありません。障がい者向けの結婚相談所へ登録しましたが、かなり高額でした。しかし、紹介はほとんどありませんでした。お金だけ払っているような感じです。市で積極的に支援してほしいと思います。そういう相談の場があってもよいと思います。</p> <p>○障がい者が重くて、働くことが難しいです。障がい年金をもらっています。将来親が亡き後、年金で生活できるか不安です。被害妄想が出るので、一人だと不安に思うこともあります。将来孤独死するのではないかと不安に思っています。過去にあった嫌なことが出てきて困っています。</p> <p>○今は親と一緒に生活しているので、困ることはありませんし、一人では不十分なことも手伝ってあげられます。しかし、将来子どもが一人になり、成年後見制度を利用しなくてはいけなくなった時、ニュースでは成年後見人のお金を着服するというをよく聞くので、成年後見人はどんな人になるのか、安心して信頼できるのか不安です。他人に大事なことを任せられるのかとても心配です。</p> <p>○親がいつまでも面倒を見られるわけではないので、同じレベルの障がい者と結婚して、普通の人と同じような生活を送ってもらいたいです。そのためには結婚の支援・結婚後の支援が必要だと思います。</p> <p>○親が健在の間はよいですが、将来的に一人になっても生活していけるのか不安です。収入も少ないし、持病もあります。できればグループホーム等で暮らせればと思いますが、すぐに入居できるのか、費用面も不安があります。障がいのある人が年をとっても安心して暮らせるようなまちづくりをしてほしいです。</p> <p>○親亡き後の暮らし、生活全般に不安があります。何を準備していったらよいかよくわかりません。</p>	
11. 福祉施策について	6 件
<p>○親が突然病気になったりしたときに、預かってくれる施設が増えたらよいなと思います。</p> <p>○知的障がいがあり、ショートステイを利用したいのですが、日数が足りないのと、連続で利用できません。</p> <p>○高齢者向けの施設や重度障がい者向けの施設・サービスは多いですが、私たちのような外見ではわかりづらい軽度の人（ボーダーラインや精神にハンディを持っている人）に対する理解や居場所が乏しい気がします。相談員に関しても、見た目で困っているとわかる人には親身に思えますが、私が相談してもあまり力になってもらえず、後まわしにされたり、最終的には「あなたは一人で何でもできるでしょう？」と見放される経験が多くあります。助ける側の人がある態度でいいのかと思うような嫌なこともたくさん経験して、今ではあまり頼れなくなってしまいました。もっと心から信頼できて、ボーダーラインの人にも寄り添ってくれるスタッフが増えてほしいなと思います。そして私のような心が弱い人やボーダーラインの人とも交われるような、コミュニティ（居場所となる施設）が今後もっと高蔵寺付近にも増えて行ってほしいと思います。障がいと言っても、それぞれ度合いや症状も違うため、ひとくくりにして偏見の目で見るとは良くないと思います。それぞれの程度に合ったサービス・施設がもっと増えてほしいです。今のままだと何かあった時、どこに頼ればいいのかちょっと不安です。</p> <p>○指定相談支援事業所とは1年に1回しか会わないので、事業所とモニタリングは何のためにあるのかよくわかりません。</p>	
12. 行政への要望	18 件
<p>○特別支援学級を市内のすべての小学校に設置してほしいです。春日井市の成人式に、障がい者手帳所有者に対し案内状を郵送で送って、出席率 100%を目指したいです。福祉特別乗車券(名古屋市営バスや地下鉄等が利用できる乗車券)を春日井市内に導入してほしいです。サンフロッグ春日井のトレーニング室の利用の減免制を導入してほしいです。下水道料金も減免制を導入してほしいです。、公立高等学校に、特別支援学級の児童や生徒たちのために、自立支援のための障がい者特別枠を設けたり、特別支援学級を設置してほしいです。</p> <p>○両親が高齢になっており、近い将来グループホームに入ることになるので、グループホームを増やしてほしいです。親と一緒に住めるグループホームがあるとよいので、春日井市で考えてもらいたいです。家族の収入に応じて賃料を決めて、入れるようになるとういと思います。世話人がいて、食事や困ったときに助けてほしいです。</p>	

12. 行政への要望

- 親が高齢になり、今後グループホームでの生活を希望しています。本人が長年通い慣れた作業所にずっと通い続けられるようにと思いますが、そのためのグループホームの場所を考えた時、制約されてしまうことになると思っております。通所に、移動支援が使えないという現状を見直していただきたいです。まったく違う環境への変化ではなく、自分が安定して過ごせる場所を確保しつつ、自由に生活の場を探すことができるようお願いしたいです。また、生活面、金銭管理の問題などを一貫して安定して継続していける支援のシステムを作ってほしいです。成年後見制度の見直しや法人が運用するシステムなどお願いします。
- 親として、自分が死んだ後の事がとても気がかりです。成年後見制度を利用したくても、今までいろいろなニュース（成年後見人が財産を着服したとか、後見制度で家族と自由に会えなくなったり、逆に不自由な状態になった等）を見聞きしていて、安心して利用できません。施設でも職員による虐待等のニュースを聞くと利用したいという気持ちになれません。自分が生きている間に、子どもが安心して生活できるように準備をしていくにあたって、気軽に相談できる窓口を教えていただけると助かります。また、障がい者支援サービスについての勉強会等があるとありがたいです。

(3) 精神障がいのある人及びその家族

1. 日常生活について	15 件
<p>○不眠のため、生活のリズムが乱れがちです。</p> <p>○ストレス耐性が低く、工作中的のストレスで体調を崩してしまい、欠勤してしまいます。集中力が低く、仕事に集中できず作業に時間がかかってしまいます。また時間の感覚があまりなく、物事が後回しになりがちです。薬を飲んでいるため、車の運転ができません。物事を整理して考えたり、順序を考えたりが苦手で、買い物が一人でできません。仕事を始めたが、いつまで続けられるか自信がなく、収入を維持しなければならぬ事が、とてもストレスになっています。</p> <p>○自分が上手く言葉に表せず、意思疎通が上手くできません。そんな不安や、きつく怒鳴られるかが心配で言葉に困って他の人とうまく話せず、楽しく暮らすことができません。</p> <p>○障がい者をケアし、一緒に生活して行く事は大変難しく、金銭的にも支援が必要だと思います。お金のある家庭は良いが、そんな家庭ばかりではありません。精神障がい者の場合は、人との会話がなり立たない、被害妄想が酷いなど、家族にも、近所の方にも迷惑をかけることがあり、大変です。</p>	
2. 経済的な不安について	13 件
<p>○老後の生活、退職後の生活、年金だけでは生活できません。</p> <p>○ケアマネジャーに、施設に入れる事も考えてと言われますが、どれくらいのお金が必要なのかわかりません。今のままでは考える事ができません。</p> <p>○仕事上のストレスで仕事を減らし、収入が1/10ほどになってしまいました。生活費を夫が稼がなくてはならなくなってしまい、経済的な不安が大きいです。</p>	
3. 将来への不安について	18 件
<p>○今の所は一人でできているのでよいですが、10年先20年先、年を取った時、誰かの手を借りる事に不安があります。</p> <p>○障がい者手帳などの更新の度に、医者書類や市の書類を提出するのがしんどいです。住んでいる場所が不便な所なので、将来家族の手伝いが頼めなくなった時、通院や買い物、銀行など生活全般が、一人でできないのでとても不安を感じています。</p> <p>○知らない事が多すぎました。私はうつで、病院へ行くだけで1時間かかります。今は娘に連れて行ってもらっていますが、いつまでこの状態が続くか不安です。</p> <p>○どこまで障がいが進むのか不安です。年齢とともに家族が相手にしてくれず、どこまで一人で生活できるか心配です。できるだけ自分で生活したいと思っています。</p> <p>○将来、福祉サービスを利用したいと思っていますが、本人が利用したくないと言っていますので、難しいと思います。家族だけでの支援は難しいと思います。</p>	
4. 就労について	2 件
<p>○介護や看護を理由に休みづらいため、介護を理由とする離職を防止する社会にしてほしいです。障がいのある人を長く預かってもらえる施設が充実する事で、家族は就労で賃金を得られ、金銭面だけでなく心身ともに安定することができます。自ら望んで障がい者になる人はいないので、本人とその家族を理解・支援してほしいです。理解のない職場もあるので、事業者にも対応してほしいです。</p>	
5. 移動・外出について	3 件
<p>○高蔵寺ニュータウンに店があまりなく、生活に困るまちだと感じます。坂も多く、高齢者や足腰の悪い方々には特に不安があると感じます。自分も年をとってきたので、今後の生活が不安です。</p>	
6. 相談・情報提供について	5 件
<p>○役所の手続きなど良くわからず、後から知る事もあり、親切で無いと感じます。年々歳を重ね、頼る人も無く、不安しか無いです。</p> <p>○手帳は取得していますが、介護保険利用を主軸としているため、障がい福祉の制度等については、ほとんど知らない状態です。介護保険の利用者は介護保険でカバーされているので、それで良いと言う事かとは思いますが、ケアマネジャーも障がい福祉制度への知識が無く、あまり情報が入って来ません。</p>	

7. 医療について	5件
<p>○自立支援（精神通院）など、手続きや更新は少々大変ですが、医療費等の補助は大変、助かっています。ありがとうございます。</p> <p>○病院にかからなくてもいいような方針を考えてほしいです。病院一色にする考えを捨ててほしいです。</p>	
8. 災害時等緊急時への不安について	1件
<p>○もし災害が起きても避難場所へ行く事ができないので、自宅にいても支援など受ける事が出来たらと思います。私たちが生きている間は、災害が起きない事を望んでいます。</p>	
9. 差別や権利擁護、障がい者理解について	1件
<p>○まだまだ周囲の人から理解されにくく、偏見の目で見られたり、普通の人ではできないのか、など言われる事が多くあります。今は自営業の手伝いをしていますが、他で働こうとしても障がい者枠での募集は少ないので、就労支援に通うしか選択肢がありません。就労支援で働くともA型・B型に分かれています。障がいの程度に幅があり、とても苦痛を感じて上手く働けずに体調を壊してしまいます。もう少しA型・B型の分け方を考えてもらえたらと思います。2人子どもがいます（2人とも精神障がい者）が、親がいなくなったら、ちゃんと生活していけるのか不安です。グループホームも、入居となるとかなりお金が掛かるので心配しています。</p>	
10. 親亡き後の不安について	11件
<p>○親が死んだらどうなるだろうと不安です。仕事をしておらず、障がい基礎年金を受けていますが、親が死んだらそれだけでは暮らしていけないと思います。</p> <p>○将来、高齢により見守りができなくなった時の、施設に入居する費用や入居条件等が心配です。</p> <p>○現在通っている就労継続支援B型事業所に、できるだけ長く勤めてもらいたいです。私たちの死後、本人が上手く生活できるか、生活費や日常の生活等不安があります。</p>	
11. 行政への要望	19件
<p>○書類の手続き、管理が複雑なので、今後心配です。</p> <p>○市役所に行く時に1人では行けず困っています。サポートを頼みましたが、自分には合いませんでした。福祉応援券、医療費無料を続けてほしいです。助かっています。中央台から昔あった市役所行の直通バスが出てほしいです。</p> <p>○障がい者が、一般の者と同じ生活をする事は、現状では不可能だと諦めています。しかし、今以上に資金を投入して、障がい者優先の社会に作りかえて行けば、同じような生活はしやすくなるのではないかと思います。母の介護を通して、せめて障がい者になってしまった人に対しては、金銭的な支援、緩和ケア、心理サポートを、一般の人に比べ厚くしてあげられないかと思いました。特にお金も乏しく、孤独な人は苦勞していると思います。行政の方しかできない事が沢山あると思いますので、宜しく願い致します。応援しております。母の介護も大変お金が掛かります。福祉の充実をお願いします。</p> <p>○去年、春日井市に転入した際、介護保険や障がい者手帳の手続き等、親の手続きをするのに4～5か所の窓口を変わらなければならず、丸々一日かかりました。手続きを1か所でできるようになったらと思います。</p>	
12. その他	4件
<p>○アンケートのグレー背景に黒文字は読みにくいです。</p> <p>○新型コロナの流行の度に、家族との面会が禁止されてとても困っています。</p>	

(4) 障がいのある児童等の家族

1. 日常生活について	2件
○子ども2人とも発達障がいがあります。母子家庭のため、療育や放課後等デイサービスの送迎が難しく、十分に支援を受けさせられません。	
2. 将来への不安について	6件
○将来一人暮らしをしたいと本人は言っていますが、契約やお金の管理等が心配です。安心して一人暮らしをして、社会で生きて行ってくれるのが、母としての願いです。	
○言語療法を受けたくても、病名や、そもそも言語聴覚士が少ないため枠が無い等で、受けられません。将来の子どもの進学先や、兄弟や本人がいじめられないかも不安です。親が死んだ後も、兄弟に負担をかけずに生活して行けるような、十分なサポートが整ってほしいです。市も支援してくれると思いますが、不安です。	
3. 就学・就労について	6件
○中学校2年生で今後進路や将来の事で悩むことが多いと思うので、そういう時に学校や放課後等デイサービス、社会福祉協議会などで気軽に相談できる環境が整ってほしいと思います。	
○放課後等デイサービスは、中学生から高校生くらいの年齢になると、どのような雰囲気なのか気になります。見学に行くと、小学生くらいの子が楽しそうにおもちゃなどで遊んでいたります。まだ先の事です。知る機会があると嬉しいです。就職や住宅など、大人になるほど不安は大きくなると思うので、15歳位から先の事をイメージできるものがあれば知りたいです。	
4. 相談・情報提供について	11件
○支援員さんの不足で予約がとれず、いつも計画がセルフプランになってしまいます。	
○放課後等デイサービスで、軽度の障がい児のみ受け付ける事業所があります。サービスを、手帳を持っている子の方に限定してほしいです。定員になっていて、行きたい事業所へ行けない時がありました。	
○軽度の発達障がいやグレーゾーンなどの場合、親の相談場所が少なく、中学生以上だと、どこに相談したらよいかわかりません。通常学級に、各クラス1人か、学年に1人支援員さんがいると助かります。	
○子どもの学習障がい等を教えてくれた先生の伝え方が厳しくて、涙が止まりませんでした。また、どのような支援を受けられるのか、どのようにサポートを受けたらよいかと相談したところ、たらい回しにされて、今受けているサービスを受けるまでに半年以上かかった過去があります。今、スマホ検索でかなり探しやすくなっていますが、できれば、私達家族のように相談に時間のかかる人達が減ってほしいです。グレーゾーンの方が受けられるサービス、自立に向けての支援を増やしていただけるとありがたいです。また、グレーゾーンの子を持つ親が、子をサポートできるような資格取得の援助や、資格一覧等を提供してほしいです。普通に見える障がい者が、暮らしやすい春日井市になってほしいです。	
○相談できたり、いろいろな情報を得る場所や機会がもっとあればよいのと思います。本人のメンタルもですが、親のメンタルがボロボロになってしまう時もあるので、親のフォローもあるとよいと思います。	
5. 差別や権利擁護、障がい者理解について	6件
○今中学生ですが、小学校、中学校の先生の理解が、先生によってかなり違います。障がいと言っても1人1人違うことをもう少し勉強してもらいたいです。声掛け1つでもまったく違うので、まずは知識を学んでほしいです。	
○しゃきょうに登録していますが、計画相談について進まないまま1年が過ぎようとしています。子どもへの支援が遅れていて心配です。加配付きの保育園が少なかったです。障がいがある人への理解が深まるよう、親世代から考えが変わるように配慮してほしいと思います。	
○ヘルプマークの周知度がもう少し上がってくると嬉しいです。カバンなどに付けられるタイプのヘルプマークと合わせて、自分で荷物を持たない(持てない)年齢の子ども達用に、服などに付けられるバッジタイプもあれば嬉しいと思いました。	
○本人希望で、友達に知られたくないと言ってます。子どもから見ても、障がい者に対して見る目が違うと言うことなんだなと感じています。それは大人でも同じなので、そういった偏見が無くなるとうよいと思っています。	

6. 親亡き後の不安について	3件
<p>○親が高齢や死亡した後に、障がいのある子が、就労や生活して行けるか、病気などの時に自分で通院できるか、詐欺などの犯罪に遭わないか心配です。</p> <p>○グループホームなどへの入居など、親が子どもの面倒を見きれなくなった後の、子どもの生活が不安です。</p>	
7. 行政への要望	22件
<p>○これだけ情報が溢れているのに、本当に必要な情報はなかなか得られていないと感じます。療育についての情報も、本当に必要な人に届いていないと感じます。</p> <p>○受給証や手帳など、手続きがすべて紙なのが大変です。電子化を進めてほしいです。</p> <p>○今、小学校の支援級でお世話になっています。先生達にもすごく良くしてもらっていますが、やはり先生の数が足りない気がします。</p> <p>○支援学校に通学しています。また、医療的ケアが必要で、保護者の付き添いの日があり、朝登校時から帰宅時まで、学校から一歩も出られず、弁当も用意して行かなくてはならない日があります。本当に一日数回の吸引も看護師不足なのではないでしょうか。安易に親の負担を増やさない努力をしてほしいと思います。</p> <p>○療育の空きが少なく、利用したい日時に利用できず困る事があります。幼稚園で加配の先生が付けられないのは不満です。枠が狭く、発達外来の予約が取りづら過ぎます。就学前に普通級の見学ができないと聞きました。支援級と普通級と見比べたいので、是非見学可にしてほしいです。</p>	

(5) 難病患者及びその家族

1. 日常生活について	4件
<p>○難病にかかって10年以上になりますが、今は病状も安定していて働く事ができ、普通に生活できているので安心です。これからも再発しなければいいと思っています。気長につきあいます。</p> <p>○障がいのある人が高齢化と共に増えていく中で、その方達の日常生活を支援する、介護士や社会福祉士が少ないと感じます。支援する人をもっと増やしていくことで、障がいのある方も、そのご家族の負担も減ると考えました。</p>	
2. 将来への不安について	13件
<p>○今現在、生活に支障をきたす程症状が重いという事は無いですが、病気が進行して仕事に就けなくなったり、生活に支障をきたした時にスムーズに支援が受けられるのか不安です。事前に準備すべきなのは承知していますが、後ろ向きな気持ちの事を考えてしまうと、体調がそちらに引っ張られていく気がして、目を背けてしまっています。</p> <p>○近い将来、家族が亡くなり、一人になった時に、日常生活が普通にできそうにないので不安です。</p> <p>○自分がいなくなった際のことが不安です。本人は外出ができず、スマホ等も操作できないので、諸手続きで本人が立会うことが必要な場合、対応が困難です。</p> <p>○介護者が倒れた時、一人で何もできません。介護がいつまで続くかわからないので、体力、気力が続くか心配です。理解してもらっても負い目を感じて働きにくいです。仕事をやめなければならなくなるかもしれません。</p>	
3. 就労について	1件
<p>○難病をかかえての仕事は難しいです。病気になってから仕事につけず、生活が大変です。理解ある会社を教えてください。</p>	
4. 移動・外出について	4件
<p>○自分で車の運転をしないので、バスの本数が増えると助かります。本数が少ないので、病院等で無駄なバス待ち時間があります。</p> <p>○身体の病状が今後進行した際、家族の病気等で通院への送迎が困難となった時、通院が不安です。</p>	
5. 相談・情報提供について	5件
<p>○同じ病気の人との交流や専門医との相談の場が必要だと感じます。特に、異年齢交流や子どもが成人した同じ病気の人と話ができると、将来への不安解消につながると思います。子どもが産めるか(病気によってさまたげられないか)、就労に問題がないか等、将来の展望できるとよいと思います。専門医との相談の場があると、一度病院から離れてもまた受診につながったり、他の専門医と相談できるメリットがあります。他の市町村にはそういう場があり、利用したおかげで助かりました。</p> <p>○難病患者ですが、医療費負担が大きいです。他の県、市町村のように金銭的な補助があると助かります。難病になって数年してから、福祉応援券の存在を知りました。もっと情報発信をしてほしいです。</p> <p>○使える福祉制度があっても、自己申告制のため、その制度を知らなければ、使うことができません。アナウンス不足だと思います。</p>	
6. 医療について	5件
<p>○治療費の上限が高いです。我が家は大学生がおり、お金が足りません。病院に行って検査したいが我慢している状況です。</p> <p>○最近障がい者、難病患者が少しずつ多くなってきたと感じます。薬等(注射、ワクチン)のレベルがよくなって、完治するとよいと思います。</p>	
7. 災害時等緊急時への不安について	1件
<p>○災害時の薬の確保が心配です。春日井市の通院支援制度、福祉応援券に少なからず助けられています。ありがとうございます。</p>	

8. 差別や権利擁護、障がい者理解について	7件
<p>○子どもの頃から福祉という授業で、実際に車いすを動かしたり、立ち上がれない方をどうしたら起こせるか（介助）、また手話などの勉強を当たり前にするべきだと思います。重度の障がい者を見て、子どもは正直に怖いとかお化けとか言います。当然かと思っています。日本はふれあいではなく、障がいのある人を隠しているのもっともっと、障がいのある人がいることが当たり前の世界にしていくべきだと思います。いつ、自分がその立場になるかわかりません。突然その日がきたら、本人だけでなく家族も大変です。動じることなく安心して生活できる社会でありたいです。意見を言う機会を与えていただきありがとうございます。</p> <p>○目の難病のため外見ではわからないので、外出時、人混みの多い所では、視野狭窄で人とぶつかる事が多くあります。ヘルプマークをつけていても、嫌な顔をされるので、外出する事が怖くなり困っています。現段階では、障がい者手帳を持つまでには進行していないので、白杖を持つ事も無く、どうすれば理解してもらえるのかわかりません。将来、光を失った時どのような支援が受けられるのか不安です。</p> <p>○私は、普通に学校へ行ったりアルバイトをしたりと、このアンケートに答える人の中では軽度だと思っています。しかし、体調の関係で学校やアルバイトを休むことが多くあります。休んだ次の日などは、どうしても周りの目などが気になってしまいます。健康な人からすれば簡単な事も、私たちにとっては少し難しかったりするという事を、もっと皆に認識してもらいたいです。</p> <p>○難病を、障がいのある人、とまとめられるのが嫌です。役所にも行きづらいです。</p>	
9. 介助・介護者や家族について	3件
<p>○介護者が高齢で、健康状態に対する不安があります。</p> <p>○状態が悪化した時の、家族の生活が不安です。</p> <p>○身近に頼れる人がいないため、子どもができて、私が病気のために入院をすることになった際、頼りになるのは主人しかおりません。主人も仕事があり、夜勤もあるため、気軽に頼れるサービスや、主人が仕事を早上がりしたり休んだときに、収入の支援があるとよいと思います。</p>	
10. 福祉施策について	1件
<p>○障がい者福祉に「難病患者を含む」という表記は、今回初めて聞きました。いつも、障がい者支援はあるのに、難病患者の支援は薄いなと感じていました。体調が良くない時の辛さを考えると、今後様々な支援を受けられるようになるとありがたいです。</p>	
11. 行政への要望	20件
<p>○ただ1年に一回、申請手続きをしなくてはいけないので大変です。難病となるとそうそう治るわけでもなく、家族に仕事を休んでまで手続きに行ってもらうのも心苦しいです。もう少し手続きが楽になると助かります。</p> <p>○特定医療費受給者証の更新申請用の書類は、更新時期が近づいた時に届くようにしてほしいです。受給者証と一緒に送られてくると、時間が空いて忘れてしまう事があります。</p> <p>○特定医療費受給者証の更新を現状の1年ごとではなく、もう少し伸ばしていただけると助かります。私の病気は一生治る事がないのに、1年ごとに診断書と住民票を取り寄せ、更新をしに保健所に行き、3か月審査を待つようやく受給できます。特に近年はコロナ禍もあり、保健所に行くのが怖かったです。</p> <p>○障がい者手帳ではサービスを受けられて、特定医療費受給者証では受けられないといった場合があります。春日井市以外も含めて、対象を一律にしてほしいです。親が高齢で、難病患者である私が身の回りのことをする日がきます。スムーズに生活ができるようになってほしいです。</p> <p>○駅など公共施設のトイレの数を増やしてほしいです。JRの駅の駐車場や、駐輪場の料金の減免、春日井市バスの料金の減免があるとよいと思います。障がい者割引はあると思いますが、難病のみの場合は減免がないので、難病患者も減免が受けられるとよいと思います。</p>	
12. その他	3件
<p>○このアンケートもデジタル化するとういと思っています。高齢者の方にも簡単に使えるiPadのようなものを障がい者宅に置いてもらい、簡単に必要な連絡が取れたり、要望を連絡できたり、アンケートや申請ができたり、相談できたり、そんなシステムができたら素晴らしいと思います。パンフレットや、案内があってもなかなか一歩が踏み出せないし、日本人の気質でしょうか、甘えることができません。助けてほしいと言にくいです。もっと気軽さがほしいです。</p>	

12. その他

- このような取り組みから、障がい者に対して、より良い春日井市に向かってもらえる事がうかがえて大変嬉しいです。無記名ではありますが、性別・年齢・疾病が具体的なので、個人が容易に特定されると思われます。難病は誰でもかかる病では無く、発症者が僅かです。そのため治療法（サンプルが少ないので）が見つからないので「難病」という扱いなのです。病名+年齢+性別で簡単に特定されます。大変有難いアンケートですが、それにより、回答者は躊躇してしまうかと思ひます。実際私も、お力になりたいと随分悩ましました。せつかく春日井市が今後、障がい者のために、より良くなるのならと思ひ、一応回答はしておきました。できましたら次回からは、問3～5のご配慮をお願いします。
- 難病患者も重い人・軽い人と色々あります。寝たきりの人、歩けない人、等を分けてアンケートをとった方がよいと思ひます。このアンケートは重症の人が必要で、自分で行動できる人は別のアンケートの方がよいように思ひました。

2. 障がいのない人

1. 差別や権利擁護、障がい者理解について	13件
<p>○今まで障がいについて知らなさすぎました。いつ自分も障がい者になるかもしれないと思うと他人事とは思えません。今後障がい者の方々についてどうするべきか考えさせられました。</p> <p>○障がいのある人でも健常者と同じように楽しく幸せな日々を過ごせたらいいなと思います。問6の障がいの種類がこんなにたくさんあることも知りませんでした。特性やどのような支援が必要なのかはもっとわかりません。どういう特性を持った障がい者が、どんな場面で困っているのかがわからないので、もし講座があれば話を聞いてみたいと思います。話を聞いておけば、いざという時に手助けができるかもしれません。</p> <p>○初めてアンケートをいただきましたが、障がいのことについて改めて考えるよい機会になりました。すべての人が安心して暮らせるまちになる事を願っています。</p> <p>○今、どれだけ健康で、不自由を感じていなくても、いつか自分もその立場になるかもしれないといつも考えるように、理解したり支援できることはしたいと思っています。誰もが過ごしやすくすることが、結果として多くの人を不便さを解消できるものと、より多くの人を支持が得られるとよいと思います。</p> <p>○家族でも理解、または協力不可の人があり悲しいです。他の人に話せば楽になることもありそうですが、理解してもらえない人も少ないと思います。一度、障がいをもってしまうと悲しいです。</p>	
2. 行政への要望	6件
<p>○市役所内の車いすの場所がわかりづらい。また、エレベーターの案内が見づらいです。障がいのある人や外国人などにもっとわかりやすい庁舎にしてほしいと思います。</p> <p>○申請等の事務手続きが簡易になるとよいと思います。</p> <p>○前例が無いことにも挑戦して行ってほしいです。若い世帯がどんどん増えていくと思います。失敗してもやり直して、いろんな人が住みやすい春日井市にしていってほしいです。</p> <p>○たまたまですが私は精神保健福祉士で、以前知的障がい者の施設で働いていました。春日井市は高蔵寺ニュータウンなど高齢者が多い地域があるので地域別に対策があるといいと思います。障がい者が働ける仕事を作る工夫が必要だと思います。</p> <p>○ハンディキャップがある人が、そうでない人と同等の生活ができるようにしようという試みはお題目としては素晴らしいと思います。一方で、障がいのある人たち自身がどのような助けを行政に求めているかを、直接ヒアリングした上で政策を実行すべきですのでよろしくお願いします。また、逆に過度に障がい者保護が行き過ぎて、逆差別のようなことがないように注意願います。</p>	
3. その他	2件
<p>○障がい児を持つ親は、子どもの未来をととても不安に思っています。子育ては春日井と謳っているからには、心配なく子育てをしていけるようなまちづくりをよろしくお願いします。</p> <p>○認知症の方のサポートは、デイサービス、ショートステイ等がありますが、家族や施設スタッフのケアは、できているのでしょうか。施設スタッフも、疾患や対応の理解はできていても、職業であったとしても、どれだけ学習を積んでも人間です。そういった方に対するサポート体制があるとよいと思います。生活保護を受けている家庭は、行政の目が入りやすいのですが、ギリギリ自分で頑張っている方で、目が届かない方にも手厚い援助があるとありがたいと思います。逆に、働かずして生活費を得るため、障がい者手帳を取りたいがために、糖尿病の患者が、足疾患が悪化するのを待って、好んで下肢で切断になっているケースも見ているので、障がい者への対応を一律一緒にしてしまうのも、個人的心情としては許せません。</p>	

春日井市障がい者総合福祉計画改定に係るアンケート調査
結果報告書

発行 : 春日井市
編集 : 春日井市 健康福祉部 障がい福祉課
住所 : 〒486-8686 愛知県春日井市烏居松町5-4-4
TEL : (0568) 85-6186
発行年月 : 令和5年3月
